

博士学位論文

行為の過程から見る日本語の失敗を表す複合動詞の研究  
—中国語との対照から—

名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
日本語文化専攻

南 明世

2022年3月



## 目次

本研究における表記法 .....	IX
第1章 序論 .....	1
1.1 本研究の目的 .....	1
1.2 研究課題 .....	2
1.3 本研究の構成 .....	5
第2章 複合動詞に関する先行研究 .....	7
2.1 日本語の複合動詞 V1 と V2 の関係に関する先行研究 .....	7
2.1.1 寺村 (1969, 1984) .....	7
2.1.2 長嶋 (1976) .....	10
2.1.3 山本 (1983, 1984) .....	11
2.1.4 森田 (1990) .....	14
2.1.5 斎藤 (1992) .....	15
2.1.6 影山 (1993, 1999, 2013) .....	18
2.1.7 松本 (1998) .....	24
2.1.8 城田 (1998) .....	25
2.1.9 石井 (2007) .....	27
2.1.10 陳奕延・松本 (2018) .....	28
2.2 中国語の補語に関する先行研究 .....	31
2.2.1 湯廷池 (1989) .....	31
2.2.2 刘月华他 (1996) .....	33
2.2.3 申亜敏 (2007)、望月・申亜敏 (2016) .....	35
2.3 本研究の分析の立場 .....	37

第3章 行為の過程における失敗 .....	41
3.1 失敗に関する先行研究 .....	41
3.2 日本語の行為の過程における失敗 .....	46
3.3 中国語の行為の過程における失敗 .....	50
3.4 3章のまとめ .....	54
第4章 「V1-忘れる」 .....	55
4.1 はじめに .....	55
4.2 先行研究 .....	57
4.2.1 杉村 (2005, 2006, 2016) .....	57
4.2.2 薛婧宇 (2019) .....	59
4.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-忘れる」の意味分類 .....	62
4.3 本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」の対応 .....	62
4.4 共起するV1の特徴 .....	67
4.5 行為の過程における「V1-忘れる」の位置づけ .....	73
4.5.1 「～することを失念する」の意味の場合 .....	74
4.5.2 「～して、それを失念する」の意味の場合 .....	76
4.5.3 「～したのを覚えていない」の意味の場合 .....	80
4.5.4 「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」の意味の 場合 .....	81
4.5.5 「～していることに気づかない」の意味の場合 .....	84
4.5.6 「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」の違い .....	85
4.6 日本語「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と中国語“忘了-V”の対応 .....	86
4.6.1 共起するV1の特徴 .....	87
4.6.2 行為の過程における「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」の位置づけ .....	90
4.6.2.1 「～することを失念する」の意味の場合 .....	90
4.6.2.2 「～して、それを失念する」の意味の場合 .....	91
4.6.2.3 「～したのを覚えていない」の意味の場合 .....	93

4.6.2.4 「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」の意味の場合 .....	94
4.6.2.5 「～していることに気づかない」の意味の場合 .....	96
4.6.3 「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と“忘- <i>V</i> ”の違い .....	97
4.7 本章のまとめ .....	98
第5章 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」 .....	101
5.1 はじめに .....	101
5.2 先行研究 .....	103
5.2.1 城田 (1998) .....	104
5.2.2 薛婧宇 (2019) .....	105
5.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味分類 .....	110
5.3 本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」と複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の対応 .....	111
5.4 共起する V1 の特徴 .....	115
5.5 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ .....	120
5.5.1 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味の場合 .....	120
5.5.2 「危うく～するところだった」の意味の場合 .....	122
5.5.3 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」の意味の場合 .....	123
5.5.4 「相手への評価が想定より低い」の意味の場合 .....	126
5.5.5 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の違い .....	126
5.6 日本語「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語“没- <i>V</i> -「結果補語」{成/到/掉}”“没能- <i>V</i> ”の対応 .....	127
5.6.1 共起する V1 の特徴 .....	128
5.6.2 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没- <i>V</i> -「結果補語」{成/到/掉}”“没能- <i>V</i> ”の位置づけ .....	132

5.6.2.1 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味の場合	132
5.6.2.2 「危うく～するところだった」の意味の場合	133
5.6.2.3 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」の意味の場合	134
5.6.2.4 「相手への評価が想定より低い」の意味の場合	136
5.6.3 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の違い	136
5.7 本章のまとめ	137
第6章 「V1-逃す」「V1-そびれる」	141
6.1 はじめに	141
6.2 先行研究	143
6.2.1 陳奕延 (2013)	144
6.2.2 黄其正 (2013)	144
6.2.3 薛婧宇 (2019)	145
6.2.4 先行研究のまとめと本研究の「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味	147
6.3 本動詞「逃す」「そびれる」と複合動詞「V1-逃す」「V1-そびれる」の対応	148
6.4 共起するV1の特徴	150
6.5 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の位置づけ	153
6.5.1 「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合	154
6.5.2 「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合	159
6.5.3 「気づいていながら見ないふりをする」の意味の場合	161
6.5.4 「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-損なう」「V1-忘れる」の違い	161
6.6 日本語「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語“没能-V”“V-漏”の対応	163
6.6.1 共起するV1の特徴	164

6.6.2 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」 {成/到/掉}” “没能-V” “V-漏” の位置づけ.....	167
6.6.2.1 「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」 の意味の場合.....	167
6.6.2.2 「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したため できなかった」の意味の場合.....	170
6.6.2.3 「気づいていながら見ないふりをする」の意味の場合.....	171
6.6.3 「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}” “没能- V” “V-漏” .....	172
6.7 本章のまとめ.....	173
第7章 「V1-落とす」「V1-漏らす」.....	177
7.1 はじめに.....	177
7.2 先行研究.....	178
7.2.1 「V1-落とす」と「V1-漏らす」が使用される場面について.....	179
7.2.2 「V1-落とす」と「V1-漏らす」が使用される対象について.....	180
7.2.3 中国語との対照について.....	182
7.2.4 先行研究のまとめと本研究の「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味.....	184
7.3 本動詞「落とす」「漏らす」と複合動詞「V1-落とす」「V1-漏らす」の対応.....	185
7.4 共起するV1の特徴.....	189
7.5 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の位置づけ.....	192
7.5.1 「必要な事柄の一部を～することができなかった」の意味の場合.....	192
7.5.2 「あと少しで～することができなかった」の意味の場合.....	195
7.5.3 「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-逃す」の違い.....	195
7.6 日本語「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語“V-落/漏” “漏/落-V” の対応.....	196
7.6.1 共起するV1の特徴.....	196
7.6.2 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏” “漏-V” の位 置づけ.....	199

7.6.2.1 「必要な事柄の一部を～することができなかった」の意味の場合.....	199
7.6.2.2 「あと少しで～することができなかった」の意味の場合.....	202
7.6.3 「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏”“漏-V”.....	203
7.7 本章のまとめ.....	204
第8章 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」.....	207
8.1 はじめに.....	207
8.2 先行研究.....	209
8.2.1 森田（1989）.....	209
8.2.2 薛婧宇（2019）.....	210
8.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」 「V1-違う」「V1-誤る」の意味.....	214
8.3 本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」と複合動詞「V1-間違え る」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の対応.....	215
8.4 共起するV1の特徴.....	221
8.5 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1- 誤る」の位置づけ.....	225
8.5.1 「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」の意味の場合.....	225
8.5.2 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまっ た」の意味の場合.....	229
8.5.3 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の違い...243	
8.6 日本語「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国 語“V-错”と“错-V”の対応.....	244
8.6.1 共起するV1の特徴.....	245
8.6.2 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」 「V1-誤る」と“V-错”“错-V”の位置づけ.....	248
8.6.2.1 「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」の意味の場合.....	248
8.6.2.2 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてし	



まった」の意味の場合.....	250
8.6.3 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と“V- 错”“错-V” .....	253
8.7 本章のまとめ .....	254
第9章 結論 .....	257
9.1 失敗を表す日本語の複合動詞 .....	257
9.1.1 本動詞との対応 .....	257
9.1.2 共起する動詞の特徴.....	262
9.1.3 行為の過程における位置づけ .....	263
9.2 日本語と中国語の対照について.....	270
9.3 残された課題.....	275
参考文献 .....	279



## 本研究における表記法

- (1) 引用例の出典は例文の後の（ ）内に示す。インターネットの検索エンジンで得た実例の場合はその URL 及び検索年月日を記す。例文の後に出典が示されていないものは、筆者による作例である。
- (2) 例文内の（ / ）内及び下線部は筆者によって付け足したものである。
- (3) 例文が非文であるものには「\*」で示し、不自然であるものには「?」「??」で示す。「?」は少し不自然な場合、「??」はかなり不自然な場合を示す。
- (4) 例文番号、図表番号は各章ごとの通し番号を付す。
- (5) 注は各ページ末に記し、注番号は各章ごとの通し番号を付す。



## 第1章 序論

### 1.1 本研究の目的

本研究は、日本語の失敗を表す複合動詞について「V1-忘れる」「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の13語を取り上げ、意味の違いについて論じるものである。

人は日常生活の中で様々な失敗をしている。例えば、手紙を出すのを忘れて、時間を間違えたり、電車に乗れなかったりするなど様々な失敗がある。このような失敗を表す場合に、日本語では様々な複合動詞を使って表現する。本研究ではこのような、行為の失敗を表す複合動詞の表現についてその意味の違いを考察することを目的とする。

複合動詞とは、「言い忘れる」や「書き間違える」のように前項動詞(V1)の「言う」や「書く」と後項動詞(V2)の「忘れる」や「間違える」が結びつき、一つの動詞として使用されるものである。しかし、V1とV2の結びつきにも様々な関係がある。例えば、同じ「V1-忘れる」でも「書き忘れる」は「書くことを忘れる」という意味になるが、「置き忘れる」は「置いたまま、持っていくのを忘れる」という意味になる<sup>1</sup>。このように同じ複合動詞でもV1との組み合わせによって様々な意味をもつため、V1との組み合わせによっていかなる意味を表すのかを明らかにする必要がある。

行為の失敗といっても、行為の過程において様々な段階で生じうる。例えば、複合動詞にも様々な種類がある。それらは、行為のうちどの段階の失敗を表すかが異なっている。「書く」の場合、字を書こうと思っていたが、字を書く前に書くことを忘れた場合は「書き忘れ

---

<sup>1</sup> 「置くことを忘れる」という解釈も可能であると思われる。しかし、現代日本語書き言葉均衡コーパスを調査したところ、「置き忘れる」は107件出現したが、すべて例文(i)のように「置いたまま、持っていくのを忘れる」の意味で使われていた。

(i) 傘を電車に置き忘れた。

## 2 第1章 序論

る」といい、字を書きはじめた後に、特定の字を抜かして書く場合は「書き漏らす」あるいは「書き落とす」というように、どの段階の失敗かによって、使われる複合動詞に違いがある。しかし、このような行為の過程のうちどの段階における失敗を表すかということについて、先行研究では詳しく論じられてこなかった。心理学の分野では事故のようなヒューマンエラーに対して、プロセスの観点からの失敗分析に関する研究は進められているが、それぞれの行為の段階別の失敗に対して、どのような表現をするかまでは考察されていない。そのため、本研究では失敗を表す複合動詞について、行為の過程から体系的にその違いについて考察することにする。

### 1.2 研究課題

本研究では、失敗を表す複合動詞を考察するにあたり、①本動詞との対応、②共起するV1の違い、③行為の過程における位置づけ、④中国語との対照の4つの観点からそれぞれの複合動詞の意味の違いを見る。

#### ①本動詞との対応について

複合動詞は本動詞の意味を引き継ぐ場合と引き継がない場合とがある。例えば、「V1-漏らす」には本動詞「漏らす」がもつ「名簿から新入会員の名を漏らす」という必要な事柄を抜かすという意味が引き継がれている。しかし、「大将を討ち漏らす」のように「あと少しで討つことができなかった」という意味を表す場合は、本動詞「漏らす」の意味にはない新たな意味が生じている。そのため、複合動詞について分析する際には、本動詞の意味を踏まえつつ、複合動詞としてどのような意味を持つのかを考察する必要がある。

#### ②共起するV1の違い

それぞれの複合動詞はV1に来る動詞に違いがある。また、同じV2をとる動詞でも、用法によってV1に来る動詞に違いが見られる。例えば、上で見た「書き忘れる」のように「～することを失念する」という意味を表す場合は、「を」格に作用の向けられる対象が来る動作用動詞と共起し「書くことを忘れる」という意味になる。一方、「置き忘れる」のように「置

いたまま、持っていくのを忘れる」という意味を表す場合は「～したことを失念する」という意味になる。このように同じ複合動詞でも V1 との組み合わせによって様々な意味をもつため、V1 との組み合わせによってどのような意味を表すのかを明らかにする必要がある。

### ③行為の過程における位置づけ

行為の過程には、大きく分けて意図の段階と、行動の段階の大きく2つに分かれる。更にこれを細かく分けると、図 1-1 に示すように、ある行為をしようとして頭の中で意図してから決定するまでの段階 (①)、その意図を頭の中で保持する段階 (②)、実際にその行動を開始してから終了するまでの段階 (③)、その行動をし終えた後の段階 (④) の4つの段階がある。本研究では失敗を表す複合動詞がこのうちのどの段階での失敗であるかについて考察する。

### ④中国語との対照

更に、本研究では日本語の失敗を表す複合動詞に対応する中国語の表現と対照して考察する。日本語と中国語は動作の過程において、異なる捉え方をする部分がある。例えば、例 (1-1) の下線部の中国語は「3年買ったけど買えなかった」という意味を表す。しかし、日本語ではそのような言い方はできず、「3年たっても買えなかった」と言わなければいけない。このことから、中国語の“买”は買おうと考えている意図段階でも使えるのに対し、日本語の「買う」は行動段階に至らないと使えないという違いがある。

(1-1) 古代，有个国王想用千金买一匹千里马。可是，买了三年没有买到。

(訳「昔，国王が千両で千里の馬を一頭買おうと考えていました。しかし，3年たっても買えませんでした。」)

(宮島 1989:179)

例 (1-1) は「買おう」と思ってから3年の間に、馬を探したり、お金を準備するなどの行為が行われていると思われる。このような、買おうと思ってから実際に買うまでの行為を本研究では準備段階と呼ぶことにする。これは図 1-1 の②と③の段階にまたがっている。こ

4 第1章 序論

の準備段階は更に準意図段階と準行動段階に分けることができる。詳しいことはで6.5.1で論じる。

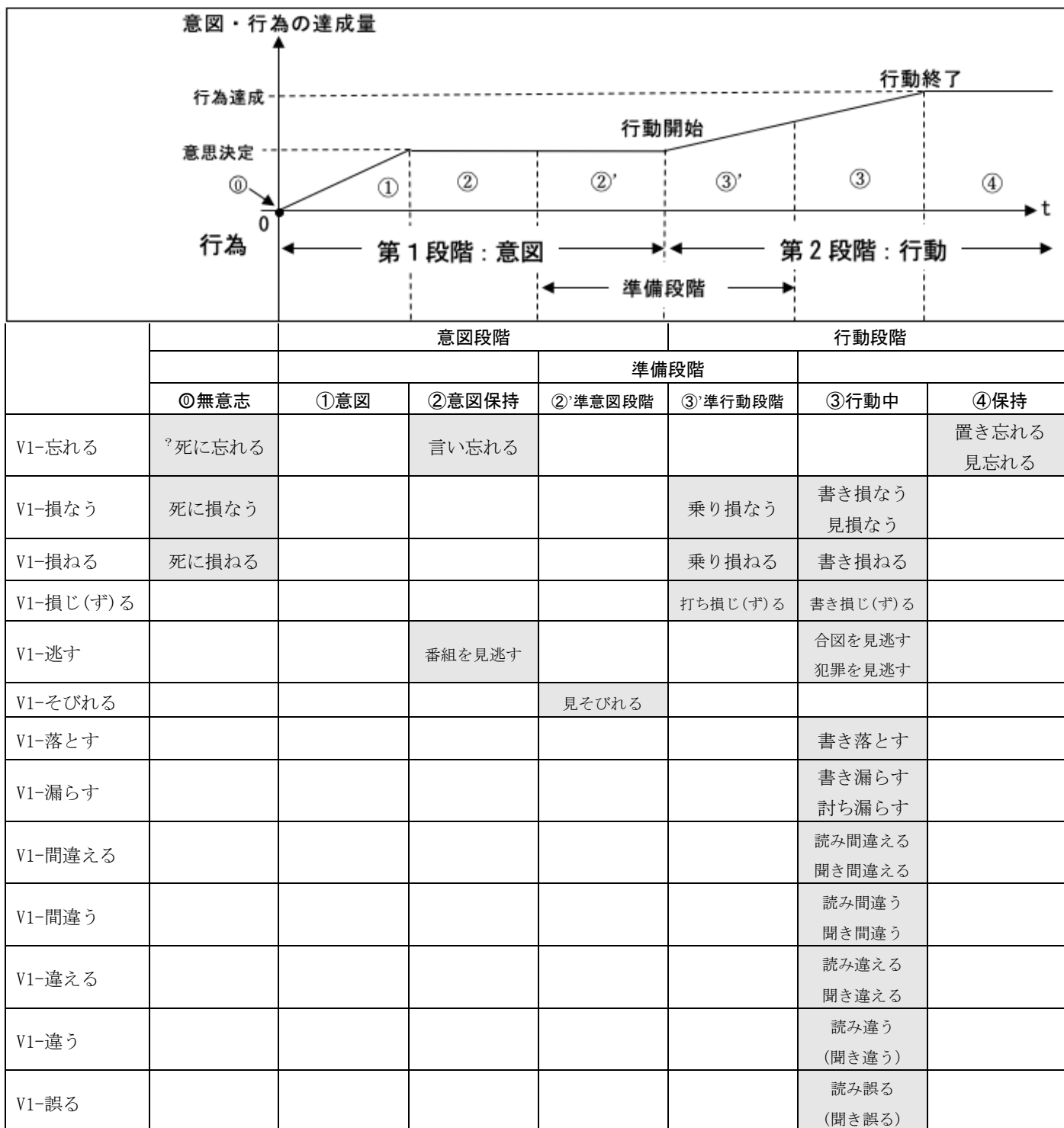


図 1-1. 行為の過程から見る日本語の失敗を表す複合動詞



以上で述べたように、本研究では次の4つを研究課題として立てる。

- ① 本動詞との対応
- ② 共起するV1の違い
- ③ 行為の過程における位置づけ
- ④ 中国語との対照

本研究はこの4つの観点から失敗を表す複合動詞「V1-忘れる」「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の13語の意味の違いについて考察する。

### 1.3 本研究の構成

以上第1章では、本研究の目的を提示した上で、本研究の課題を提示した。

以下、本研究の構成は次の通りである。

第2章では、複合動詞に関する先行研究を概観し、本研究における分析の立場を示す。

第3章では、失敗を表す複合動詞の考察の前提として、本研究で考える行為の過程について論じる。

第4章では、日本語の「V1-忘れる」の意味について考察する。

第5章では、日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」について考察する。

第6章では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」について考察する。

第7章では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」について考察する。

第8章では日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」について考察する。

最後に第9章で本研究の成果についてまとめ、残された課題について述べる。



## 第2章 複合動詞に関する先行研究

本章では、複合動詞の V1+V2 結合に関する先行研究を概観し、本研究における失敗を表す複合動詞の研究課題を示すこととする。まず 2.1 節で日本語の複合動詞の V1 と V2 に関する研究を概観した上で、失敗を表す複合動詞がどのように扱われているかを見る。次に、2.2 節で日本語の複合動詞と対応する中国語の表現との日中対照研究を概観する。最後に 2.3 節で本研究の立場および研究課題を述べる。なお、失敗を表す個別の表現に関する先行研究については、各形式について論じる 4 章～8 章で取り上げることとする。

### 2.1 日本語の複合動詞 V1 と V2 の関係に関する先行研究

本節では日本語の複合動詞の代表的な研究として、寺村 (1969, 1984)、長嶋 (1976)、山本 (1983, 1984)、森田 (1990)、斉藤 (1992)、影山 (1993, 1999, 2013)、松本 (1998)、城田 (1998)、石井 (2007)、陳奕廷・松本 (2018) を取り上げ、複合動詞の研究の流れを概観する。その上で、失敗を表す複合動詞がどのように扱われているかを見る。

#### 2.1.1 寺村 (1969, 1984)

寺村 (1969, 1984) は複合動詞を前項動詞 V1 と後項動詞 V2 の独立性の違いという観点から論じている。まず、寺村 (1969) は複合動詞を大きく以下の (a) ～ (d) の 4 つに分類している。ここでの「自立(的)」は「自立語として独立に使われる時の意味がそのまま保持されている」(寺村 1969 : 43) もの、「付属(的)」はそうでないものを指している。

##### (a) 自立 V+自立 V

例えば「走り去る」「持ちアゲル」などのように、単に二つの動作が連結して

## 8 第2章 複合動詞に関する先行研究

表現されているもの。その各部分は自立語として使われる場合の意味を保持しており、「走ッテ去ル」「持ッテ上ゲル」というのと大差はない。

### (b) 自立 V+付属 V

例えば「走り込ム」「見上ゲル」のように、第2の要素はふつう独立して使われない形であるか、もしくは独立して使われる時の意味を失ってしまい、単に前のVのあり方を限定しているに過ぎない場合である。

### (c) 付属 V+自立 V

例えば「トリ押サエル」「打ち眺メル」のような場合で、「トリ」は「取ル」の、「打ち」は「打ツ」の連用形であるとはいえ、それらは本来の実質的な意味を失い、接頭辞化して、広汎の実質的な意味を担うVに何らかのいわばニュアンスを加える役目をしているといえる。

### (d) 付属 V+付属 V

例えば「トリナス」「ノリ出ス」のような場合、それぞれ「トル」と「ナス」、「ノル」と「出ス」のどちらが重要な意味を担うとも言い難く、むしろ一語として不可分離なものであるという点で上の3種と区別されるべきだろう。

寺村 (1969 : 43-44)

また寺村 (1984) では、寺村 (1969) と同じ分類基準ではあるが、「自立 V」を大文字の「V」に、「付属 V」を小文字の「v」に置き換え、次の(イ)~(ニ)のように表記している。これについて寺村 (1984 : 167) は「それぞれが単独で使われるときの意味、文法的特徴が、複合体の中でも保持されているものをV、単独の場合とは全く、あるいはかなり違っているものをvで表すことにする」と述べている。

(イ) V-V : 呼び入レル、握リツブス、殴リ殺ス、ネジ伏セル、出迎エル、…

(ロ) V-v : 降り始メル、呼びカケル、思イ切ル、泣キ出ス、…

(ハ) v-V : サシ出ス、振り向ク、打ち樹テル、引き返ス、…

(ニ) v-v : 払イ下ゲル、(話ヲ)切り上ゲル、(仲ヲ)取りモツ、(芸ヲ)仕込ム

トリナス、…

寺村 (1984 : 167)

ただし、(イ)と(ロ)における自立語と付属語の分類基準は不明確で、寺村(1984)では以下のように述べるに留まっている。

残るのは(イ)と(ロ)であるが、この二つのタイプの間にはっきり線を引くことは、簡単のように見えてむつかしい。両項(V<sub>1</sub>, V<sub>2</sub>)のうちで、どちらが主でどちらが従、ないし補助形式的であるかの判定が、かなり直観にたよるところがあるからである。

寺村(1984: 167-168)

この点に関して、本研究で取り上げる失敗の複合動詞で考えると、同じ「見逃す」でも「好球を見逃す」の「見逃す」は「好球を見て、(しかしそれを打ち)逃す」という2つの動作の連結を表しているため(イ) V-Vであると思われる。しかし、「テレビ番組を見逃す」の「見逃す」は「テレビ番組を見て、それを逃した」という意味を表すのではなく、「テレビを見ることを逃す」という補文構造の意味を表す。この場合、単に二つの動作が連結しているわけではないため(イ)とは異なる。しかし、「見る」も「逃す」も自立語としての意味を保持しているため、(ロ)～(ニ)とも異なっている。このことから、寺村(1984)のV1とV2の独立性の違いという観点だけでは、複合動詞の分類として不十分であることが分かる。

また、寺村(1984)は(ロ) V-vの例として「降り始める」を挙げている。しかし、「降り始める」は「降る」が自動詞であるため、補文構造で言い換えると「降ることを始める」ではなく「降ることが始まる」となるが、「食べ始める」は「食べる」が他動詞であるため、「食べることを始める」と言い換えられる。そのため、「降り始める」の「始める」はv(付属V)で、「食べ始める」の「始める」はV(自立V)であるということになる。しかし、同じ開始のアスペクトを表す「V1-始める」でも「降り始める」は(ロ)のV-vで、「食べ始める」は(イ)のV-Vとすると分類が煩雑になる。そのため、「降り始める」も「食べ始める」も同じ分類に入るような分類基準を設ける必要がある。

ただし、前項と後項のうちどちらが主となるかといった観点は複合動詞の意味の違いを考察する上で有益である。そこで本研究では寺村(1984)のV1とV2の独立性の違いという

観点に加え、V<sub>1</sub>とV<sub>2</sub>の関係が「V<sub>1</sub>をしてV<sub>2</sub>する」という継起関係になるのか、「V<sub>1</sub>することをV<sub>2</sub>する」という補文関係になるのかという観点からも見ていくことにする。

### 2.1.2 長嶋 (1976)

長嶋 (1976) は複合動詞「V<sub>1</sub>+V<sub>2</sub>」を以下の2つに分類している。I類はV<sub>1</sub>を省略しV<sub>2</sub>だけで成り立つものであり、II類はV<sub>2</sub>だけでは成り立たないものである。

I類 「Nが(を・に)V<sub>2</sub>」と言えるもの。

たとえば、「(木を)切り倒す」、「(町内を)見廻る」、「(木に)よじのぼる」等。

II類 「Nが(を・に)V<sub>1</sub>」とは言えるが、「Nが(を・に)V<sub>2</sub>」とは言えないもの。

たとえば、「(本を)読み通す」、「(犬が子供に)噛みつく」、「(インクが紙に)しみこむ」等。

長嶋 (1976 : 73)

また、長嶋 (1976) は、I類は「打ち殺す」であれば「打って殺す」のように「V<sub>1</sub>して殺す」と言うことができ、V<sub>1</sub>がV<sub>2</sub>を修飾しているのに対し、II類は「言い尽くす」であれば「言って尽くす」とは言えず、意味上「全部残らず言う」のようにV<sub>2</sub>がV<sub>1</sub>を修飾していると述べ、それぞれ以下のように表している。

I類 V<sub>1</sub>+V<sub>2</sub> (修飾要素+被修飾要素)

II類 V<sub>1</sub>+V<sub>2</sub> (被修飾要素+修飾要素)

長嶋 (1976 : 77)

I類は「打ち殺す」のようにV<sub>1</sub>がV<sub>2</sub>の手段・方法を表しており、II類は「言い尽くす」のようにV<sub>2</sub>がV<sub>1</sub>の意味を修飾・限定している。しかし、II類に該当する動詞はV<sub>2</sub>がV<sub>1</sub>を修

飾しているのではなく、「言うことを尽くす」のように  $V_1$  が  $V_2$  の補文になっていると捉えた方がよいと思われる<sup>1</sup>。

### 2.1.3 山本 (1983, 1984)

山本 (1984) は寺村 (1969) の分類を受け、複合動詞を格支配の面から、次の I 類から IV 類の 4 つに分類している。山本 (1984) の記述をまとめると次のようになる。

I 類：複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のそれぞれと対応する。

(例) 子供ガ泣キ叫ブ { 子供ガ泣ク 雪ガ降り積モル } { 雪ガ降ル  
子供ガ叫ブ } { 雪ガ積モル }

II 類：複合動詞の格成分が前項動詞とは対応するが、後項動詞とは対応しない。

(例) 部屋ガ静マリ返ル { 部屋ガ静マル 雨ガ降り出ス } { 雨ガ降ル  
\*部屋ガ返ル } { \*雨ガ出ス }

III 類：複合動詞の格成分が後項動詞とは対応するが、前項動詞とは対応しない。

(例) 不幸ガ打チ重ナル { \*不幸ガ打ツ 期限ガ差シ迫ル } { \*期限ガ差ス  
不幸ガ重ナル } { 期限ガ迫ル }

IV 類：複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のいずれとも対応しない。

(例) 良夫ガ取り乱ス { \*良夫ガ取ル 味ガ引キ立ツ } { \*味ガ引ク  
\*良夫ガ乱ス } { \*味ガ立ツ }

これにより山本 (1984 : 47) は、「寺村のいう「付属」語化あるいは従来からよくいわれてきた動詞の接頭・接辞化という現象は、実は格支配能力の欠落であることも指摘した」と

<sup>1</sup> なお、長嶋 (1976) の分類は I 類が寺村 (1984) の (ハ) 「 $V+V$ 」に相当し、II 類が寺村 (1984) の (ロ) 「 $V+v$ 」に相当しているが、寺村 (1984) の (イ) 「 $V_1+V_2$ 」や (ニ) 「 $v_1+v_2$ 」は含まれていない。この点については、長嶋 (1976 : 78) も「「飛び跳ねる」や「泣き叫ぶ」は、「飛び跳ねる→飛んだり跳ねたりする」「泣き叫ぶ→泣いたり叫んだりする」のように言い換えることが可能である。このような複合動詞の場合には、 $V_1$  と  $V_2$  の間に修飾・被修飾の関係が認められない。この他にも「繰り返す」、「引越す」等のいわば「熟語動詞」があるが、以下、本稿は I 類と II 類の複合動詞についてのみ考えることにしたい」と述べている。





《完遂》 飲みキル、走りヌク、歩きトオス

《習慣》 食ベツケル

2) 方向性を示す要素

《上方》 禿げアガル、撫でアゲル

《下方》 掘りサゲル、撫でオロス

《外部》 突きデル、浮きダス

《内部》 逃げコム、駆けイル

《周回》 歩きマワル、連れマワス

3) 様態を示す要素

《程度》 食ベスギル、投げマクル、泳ぎコム、呆れカエル、沸きアガル、沸きタ  
ツ、呆れハテル、書きフルス、履きツブス

《態度》 書きテラス、読みナガス、読みステル

《複数主体》 殴リアウ、送りカワス

4) 錯誤を示す要素

《失敗》 書きアヤマル、読みマチガウ、書きマチガエル、踏みチガエル、書きソ  
ン  
ジル

《修正》 読みナオス、向きナオル

《躊躇》 食ベカネル

《残存》 売れノコル、売れノコス、討ちモラス、見オトス

山本 (1983:342-343)

このうち本研究の考察の対象である失敗の複合動詞は、Ⅱ類の中の「4) 錯誤を示す要素」のうち、《失敗》と《残存》に分類されている。しかし、「踏み違える」と「書き損じる」は「梯子を踏む+\*梯子を違える」、「字を書く+\*字を違える」のように複合動詞の格成分が前項動詞としか対応しないためⅡ類で間違いないが、「書き誤まる」「読み間違う」「書き間違える」は「字を書く+字を誤る」「字を読む+字を間違う」「字を書く+字を間違える」のように複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のそれぞれと対応するためⅠ類に分類できると思われる。特にこのような語は「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」のよ

## 14 第2章 複合動詞に関する先行研究

うに副詞的用法に言い換えられる場合がある。本研究では複合動詞だけではなく、副詞的用法についても考察することとする。

### 2.1.4 森田 (1990)

森田 (1990) では、日本語教育の視点から、複合動詞の造語性を意味構成のパターンによって以下の5段階に分けている。

#### 第1段階 並列関係

両動詞が対等の関係で並列する形式。

(例) 書き捨てる(書いて捨てる)、聞きおく(聞いておく)

#### 第2段階 主述、補足の関係

上下の動詞がそれぞれ独立した意味を持ち、「が」格、「に」格、「を」格の関係を構成する形式。

(例) 思い余る(思うことが余る)、吹き荒れる(吹くことが荒れる)  
見飽きる(見ることに飽きる)、し慣れる(することに飽きる)  
書き謝る(書くことを謝る)、売り急ぐ(売ることを急ぐ)

#### 第3段階 具体的意味から抽象的意味へ

主述関係や補足関係にある複合動詞の内、どちらか一方の動詞が本義から離れ、転義的に用いられる形式。

(例) 降り出す、走り抜く

#### 第4段階 造語成分への移行

独立しない動詞が複合動詞の中で生き残っている形式。実質的意味を持つものもある。

(例) 考えあぐねる、言いそびれる、言いならわす

#### 第5段階 実質的意味から形式的意味へ

一方の動詞が極端に抽象化されて動詞的意味を失い、単なる強意の添えことば(接辞)となっている形式。

(例) 叱りとばす、わめきたてる、恐れ入る

森田 (1990) の分類は、前項動詞と後項動詞それぞれの本動詞の意味がどのくらい保持されているかという観点からの分類である。これによると、本研究で対象となる失敗の複合動詞は「V1-忘れる」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」「V1-逃す」「V1-漏らす」「V1-落とす」は第2段階に、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は第3段階に、「V1-そびれる」は第4段階に該当する。なお、「V1-落とす」について、森田 (1990) は「突き落とす」のように「突いて落とす」と並列関係 (第1段階) となるものから、「言い落す」のように「言うことを落とす (「漏らす」の意味)」と主述関係 (第2段階) となるものがあるとし、複合動詞によっては段階的に意味が発展していることを指摘している<sup>2</sup>。また、「V1-忘れる」について「言い忘れる」は「言うことを忘れる」のようになるため主に第2段階に該当するが、「置き忘れる」は「置いて忘れる」のようになるため第1段階になる。前者はV1「言う」という行為を行う前に失念したという意味であるが、後者はV1「置く」という行為を行った後に失念する意味であるため、区別して意味を見ていく必要がある。そこで、本研究では同じ複合動詞でも具体的な意味から抽象的な意味に段階的に発展していることに留意しながらも、個別的に意味を考察する。

### 2.1.5 斎藤 (1992)

斎藤 (1992 : 180) は、「『動詞+動詞』形式の複合動詞において、その後項が、単独で使用される場合に比べて意味が抽象化し、接辞化することがよくある」と述べた上で、「V1-返す」を例に接辞化について考察している。特に、具体的に後項の意味がどのように変質するかという点について、単独用法における意味との関わりという観点から考察している。斎藤 (1992) は複合動詞を分ける前にまず単独用法の「返す」の意味を他動詞用法の〔一〕～〔三〕と自動詞用法の〔四〕の4つに分類している。

<sup>2</sup> 「V1-落とす」の森田 (1990) の主張は第7章で改めて取り上げることとする。

<他動詞>

〔一〕物体の表裏の向きを逆にする。

ex. 手のひらを返す。ラケットの面を返して打つ。

〔二〕対象を今までの方向とは反対の方向へ移動させる。

①物対象……物体を元の位置や所有者のもとへもどす。

ex. 借りた本を返す。落とし物を持ち主に返す。

②事柄対象…相手から受けた行為に対してこちらからも同じように働きかける。

ex. 挨拶を返す。恩を返す。

③人対象……元いたところへもどらせる。（「帰す」と表記。）

ex. 妻子を実家へ 帰す。遅くなったので車で帰す。

〔三〕対象を変化以前の状態へもどす。

ex. 問題を白紙に返す。自然を昔の状態へ返す。

<自動詞>

〔四〕移動してきた方向へもどる。ex. 寄せては返す波。

齋藤 (1992 : 182)

次に複合動詞「V1-返す」の用法を、他動詞的用法の〔1〕～〔3〕と自動詞的用法の〔4〕の4つにそれぞれ分類している。

<他動詞的>

〔1〕物体の表裏の向きを逆にする。ex. 鋤き返す（土を）掘り返す

〔2〕ある方向への移動、働きかけに対して、それとは反対方向への移動、働きかけを行なう。

(1)反射、反動作用を表す。ex. 照り返す（弾を）跳ね返す

(2)他者からの行為に対して、こちらからもそれに対応する行為を行う。

ex. どなり返す 笑い返す

(3)(こちらに向かってくる事物にある作用を加え)移動方向を逆にする。

ex. 追い返す 送り返す

- (4) 離れていく事物をこちら側へとひきもどす。ex. 奪い返す 呼び返す  
 [3] もう一度(何度も)同じ動作、行為を行う。ex. (答案を)見返す 読み返す  
 <自動詞的>  
 [4] 移動してきた方向へもどる。ex. 引返す (波が)巻き返す

齋藤 (1992 : 183)

このように齋藤 (1992) は、単独用法の「返す」にも複合動詞「V1-返す」にも自動詞と他動詞の用法があるとしている。その上で、複合動詞「V1-返す」は次の場合に接辞性が大きくなると述べている。1つ目は、統語的に後項動詞が前項動詞を包摂する場合に接辞性が大きくなるという点である。例えば、複合動詞「V1-返す」の [3] に分類される「読み返す」は[[本を読み]返す]と表すことができ、後項動詞が前項動詞を包摂するという関係が成立するため、この「返す」は接辞化しているとされている。2つ目は、「V1-返す」が本動詞「返す」より前項動詞の意味との重なりの方が多ほど接辞性が大きくなるという点である。例えば、[2] の(1)に分類される「照り返す」などは接辞性が大きいとされている。以上のことを踏まえ、齋藤 (1992) は「返す」の意味と「V1-返す」の意味の対応関係を図2-1のように整理している。

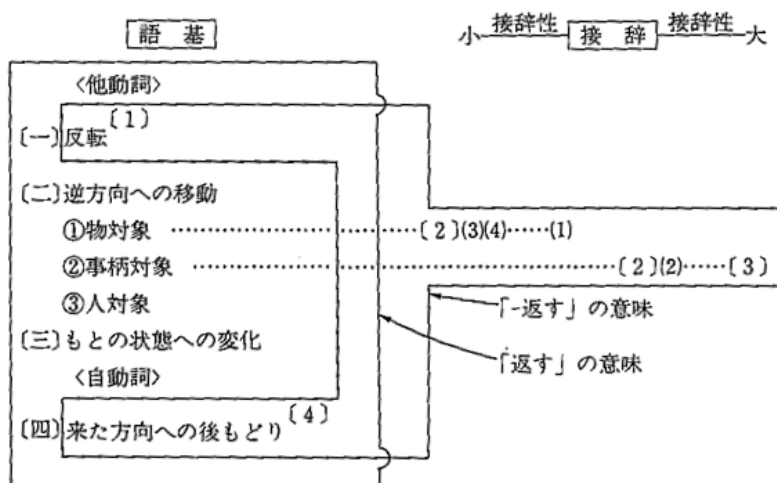


図2-1. 齋藤 (1992 : 196) における「返す」と「V1 - 返す」の対応関係と接辞性

このように斎藤（1992）は同じ複合動詞「V1-返す」の中にも接辞性の小さい〔1〕や〔4〕と、接辞性の大きい〔1〕や〔4〕とに分けられることを指摘している。

斎藤（1992）は、接辞性という観点から「V1-返す」について接辞性について論じた点で有益な研究である。本研究でも「忘れる」と「V1-忘れる」など、対応する本動詞と複合動詞の意味領域の違いを見ると共に、複合動詞の接辞性の観点からも見ていくことにする。

### 2.1.6 影山（1993, 1999, 2013）

影山（1993）は、複合動詞のV1とV2の結合の仕方の違いによって、次のように語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二つに分けている。

A類：語彙的複合動詞（飛びあがる、押し開く、泣き叫ぶ、…）

語彙部門で形成されるため、V1とV2の関係が動作の様態・手段（押し開ける）、付帯状況（飲み歩く）、並行動作（泣き叫ぶ）、アスペクト（泣きやむ＝泣くのが止む）など多彩な意味関係を持つ。また、「飲み歩く」だと対象が酒に限定されたり、V2「開く」に関係がない「叫ぶ」などはV1に来ることができなかつたりと語彙的な結合制約がある。

B類：統語的複合動詞（払い終わる、話し終わる、しゃべり続ける、…）

統語部門で形成されるため「雨が降り始める＝雨が降ることが始まる」といったV1とV2に補文構造（「V1することをV2」「V1することがV2」）を持つ。また、制限がゆるくどんな「V1-始める」ではV1にどんな動詞でも来ることができる。

影山（1993）はA類（語彙的複合動詞）とB類（統語的複合動詞）の分類基準として次の①～⑤の5つの点において違いがあることを指摘し、「これらの現象はそれぞれ独自の根拠によって統語部門に関与することが分かっているから、それを受け入れることができるB類複合動詞は統語部門に属すると結論付けることができる」（影山 1993：92）と述べている。

- ① 代入表現…B類はV1を「そうする」に代入しても成り立つ。
- A類：遊び暮らす→\*そうし暮らす、押し開ける→\*そうし開ける  
B類：食べ過ぎる→そうし過ぎる、調べ終わる→そうし終わる
- ② 主語尊敬語…B類は「お～なる」の形をとれる。
- A類：書き込む→\*お書きになり込む、受け取る→\*お受けになり取る  
B類：歌い始める→お歌いになり始める、乗り損ねる→お乗りになり損ねる
- ③ 受身形…B類は原則的にV1に受身形を許す。
- A類：書き込む→\*書かれ込む、押し開ける→\*押され開ける  
B類：呼び始める→呼ばれ始める、愛し続ける→愛され続ける
- ④ サ変動詞…B類はV1としてサ変動詞をとれる。
- A類：\*接着し付ける(貼り付ける)、\*ジャンプし越す(飛び越す)  
B類：見物し続ける(見続ける)、衰弱しきる(弱りきる)
- ⑤ 動詞重複…B類はV1に動詞重複を許すことができる。
- A類：探し歩いた→\*探しに探し歩いた、勝ち抜いた→\*勝ちに勝ち抜いた  
B類：隠し続けた→隠しに隠し続けた、走り込んだ→走りに走り込んだ

影山(1993)では以上の方法で分類した統語的複合動詞を便宜的に次のように分類している。

始動：墜落しかける、印刷しだす、到着し始める

継続：演説しまくる、演奏し続ける

完了：演奏し終わる、到着し終わる、調査し尽くす、困惑しきる、黙秘し通す、考察し抜く

未遂：見物しそこなう、印刷し損じる、見物しそびれる、受諾しかねる、返事し遅れる、投函し忘れる、印刷し残す、目測し誤る、返事しあぐねる

過剰行為：執着し過ぎる

再試行：演奏し直す

習慣：運転しつける、運転し慣れる、演奏し飽きる

相互行為：非難し合う

可能：発生し得る

影山（1993：96）

また、影山（1993, 1999）は語彙的複合動詞を V1 と V2 の意味関係から次の a～f の 6 つに分類している。以下の分類は影山（1993, 1999）をまとめ直した影山（2013：6-7）のものである。

a. 手段：V1 することによって、V2

突き落とす、切り倒す、踏みつぶす、押し開ける、折り曲げる、切り分ける

b. 様態：V1 しながら V2

流れ着く、転げ落ちる、忍び寄る、舞い降りる、語り明かす

c. 原因：V1 の結果 V2

歩き疲れる、抜け落ちる、焼け死ぬ

d. 並列：V1 かつ V2

忌み嫌う、恋い慕う、慣れ親しむ

e. 補文関係：V1 という行為/出来事を(が)V2

見逃す、編み上がる、死に急ぐ、聞き漏らす

f. 副詞的關係：V2 が副詞的に V1 の意味を補強

晴れ渡る(=すっかり晴れる)、使い果たす(=全部使う)、居合わせる(=たまたま同じ場所にいる)

影山（2013：6）

影山（2013）は、影山（1993）で提唱した複合動詞の二分類（語彙的複合動詞と統語的複合動詞）のうち、語彙的複合動詞を主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞の 2 つに分類している。影山（2013：11）では自身の従来分類と新しい分類を次の図 2-2 のように対比している。



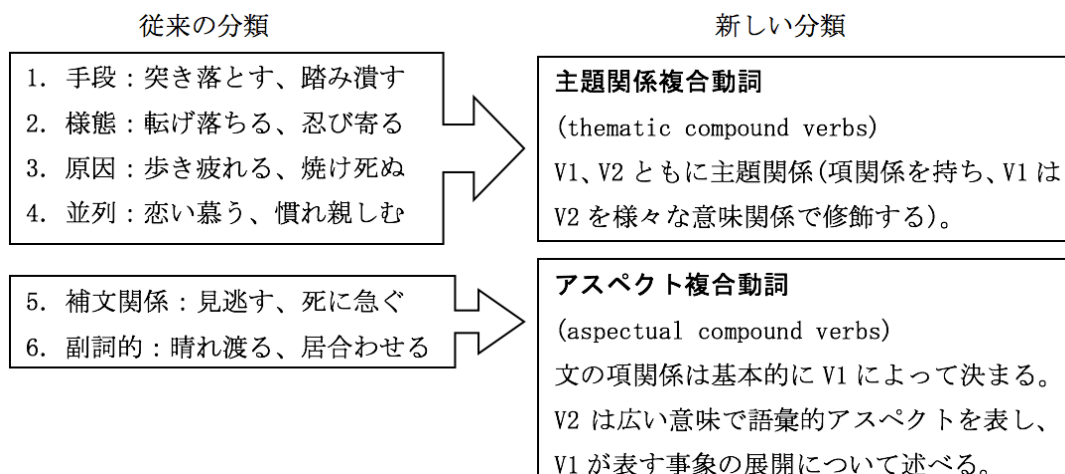


図 2-2. 影山 (2013 : 11) における語彙的複合動詞の従来の分類と新しい分類の比較

更に影山 (2013) は新たに分類した 2 つの語彙的複合動詞について、表 2-1 の 7 つの点において違いがあることを示している。

表 2-1. 影山 (2013 : 43) における 2 種類の語彙的複合動詞の特徴

	主題関係複合動詞	アスペクト複合動詞
V1 と V2 の意味関係	「V1 て、V2」 (V1 が V2 を修飾)	V2 が V1 を修飾・補足
項関係(格関係)の決定	V2 が主体	V1 が主体
主語・目的語の選択制限	V2 が主体	V1 が主体
内部構造の緊密さ	緊密	比較的緩やか
構造の階層性	アスペクト複合動詞より下に位置する	主題関係複合動詞より上に位置する
他動性調和の原則	かなり厳しく適用	適用しないことが多い
他動詞から自動詞への交替	意味的な類推による創造的な造語	規則的な生産性による体系的な交替

なお、アスペクト複合動詞について影山（2013：26）は「統語的な複合動詞の補文構造と類似の構造が、形態構造すなわち語彙の構造の中にも存在する」と主張している。この統語的複合動詞と語彙的複合動詞のうち同じ補文関係を持つアスペクト複合動詞の違いについては、影山（1993）で示されているように「語彙的なアスペクト複合動詞は統語的な複合動詞と異なり、受身形、使役形、サ変漢語動詞、尊敬語などの統語的要素をV1として取ることができないことで証明される（影山2013：26）」と述べている。

以上の分類のうち本研究で対象とする失敗を表す複合動詞は、主に統語的複合動詞のうち未遂と、語彙的複合動詞のうちアスペクト複合動詞（補文関係複合動詞）に該当すると思われる。

#### 統語的複合動詞

未遂：V1-忘れる<sup>3</sup>、V1-そこなう、V1-そこねる、V1-損じ(ず)る、V1-そびれる、V1-誤る

語彙的複合動詞（アスペクト複合動詞（補文関係））：

V1-間違える、V1-間違う、V1-違える、V1-違う、V1-逃す、V1-落とす、V1-漏らす

また、影山（1993, 1999）は、複合動詞を分析するにあたって動詞を他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞の3つに分類している。影山（1993:47）は「項構造に現れる動作主（Agent）や対象（Theme）といった項は対等の資格で並列されるのではなく、或る種の階層関係で示される。本書では項構造の内部を（ ）と〈 〉を用いて区別し、〈 〉の中に表示された項を内項（internal argument）、その外側に表示された項を外項（external argument）という」と述べ、3種類の動詞をそれぞれ以下のように表している。

- a. 他動詞            : (Agent <Theme>)
- b. 非能格自動詞 : (Agent <            >)
- c. 非対格自動詞 : (Agent <Theme>)            影山（1993：47）

<sup>3</sup> 「V1-忘れる」は「言い忘れる」「書き忘れる」など主に統語的複合動詞に該当するが、「(財布などを)置き忘れる」(置いたままにするの意)の場合は語彙的複合動詞に該当する。

こうした動詞の特徴を踏まえて、影山（1993）は「他動詞と非能格自動詞は外項を持つ点で共通し、従って、項構造の合成における外項の同定を受けることができる。他方、内項しか備えていない非対格自動詞は外項の同定を受けることができず、従って、他動詞および非能格自動詞との結合が許されない」（1993：122）ことから、外項を取る動詞（他動詞、非能格自動詞）同士、内項を取る動詞（非対格自動詞）同士によって作られるという「他動性調和の原則」を提唱した。その原則によると、複合動詞の組み合わせは以下の5つのパターンがあると主張している。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| ① 他動詞＋他動詞       | 買い取る、追い払う、射抜く |
| ② 非能格自動詞＋非能格自動詞 | 言い寄る、飛び降りる    |
| ③ 他動詞＋非能格自動詞    | 待ち構える         |
| ④ 非能格自動詞＋他動詞    | 泣き腫らす、微笑み返す   |
| ⑤ 非対格自動詞＋非対格自動詞 | 滑り落ちる、居並ぶ     |

つまり、次の⑥～⑨の4つのパターンは基本的に<sup>4</sup>存在しないということになる。

- ⑥ 他動詞＋非対格自動詞
- ⑦ 非能格自動詞＋非対格自動詞
- ⑧ 非対格自動詞＋他動詞
- ⑨ 非対格自動詞＋非能格自動詞

しかし、影山（1993：126）は、「一見、他動詞＋非対格自動詞の組み合わせであるかに思える例が若干存在する」として、「打ち上げる」（①他＋他）に対する「打ち上がる」（⑥他＋非対）や、「入れ替える」（①他＋他）に対する「入れ替わる」（⑥他＋非対）を挙げている。影山（1993：126）はこれらの例について、「対応する他動詞から自動詞に形成されたものと思われ（打ち上 - げる→打ち上 - がる）、逆に「落ち着ける」は「落ち着く」から

<sup>4</sup> 影山(1993)では「V1-込む」(押し込む、駆け込む、はまり込む)や「V1-去る」(葬り去る、走り去る、過ぎ去る)のような例外のあることも認めている。

## 24 第2章 複合動詞に関する先行研究

の他動詞化と見なされる」と説明している。影山（1993：125）は「他にも、「付く」の他に、「上がる、立つ、掛かる」なども単独の用法において非能格（意図的動作）にも非対格（非意図的活動）にも働くから、この両義性が複合動詞にも持ち越されると考えられる」と述べ、次の例（2-3）を挙げている。

(2-3) 非能格+上げる：這い上がる、舞い上がる、起き上がる、駆け上がる、飛び上がる、立ち上がる、躍り上がる

非対格+上げる：浮かび上がる、燃え上がる、浮き上がる、吹き上がる、切れ上がる、沸き上がる、跳ね上がる

以上のことを踏まえ、本研究では失敗を表す複合動詞の V1 と V2 の関係を見ることにより、それぞれの表現が語彙的複合動詞なのか統語的複合動詞なのか、他動性調和の原則に適合しているかどうかを考察することにする。

### 2.1.7 松本（1998）

松本（1998）は、影山（1993）の「他動性調和の原則」に対して「主語一致の原則」を提唱している。松本（1998）は独自に非対格自動詞と非能格自動詞の判定テストを行い、影山（1993）で非能格自動詞とされていた「離婚する」「降りる」「死ぬ」等は非対格自動詞であると認定するなど、非対格自動詞と非能格自動詞の再判定を行った。その上で、次の下線部の動詞のように他動詞または非能格動詞とも結合し(a)、非能格自動詞とも結合する(b)ものがあることを指摘している。

(2-4) a. 泣き明かす、泣き落とす、泣き暮らす、泣き叫ぶ、泣きすぎる、泣きはらす

b. 泣き崩れる、泣き沈む、泣きぬれる

(2-5) a. 寝過ごす、寝取る、寝違える

b. 寝静まる、寝乱れる

- (2-6) a. 踊り狂う、泣き狂う  
 b. 咲き狂う、荒れ狂う

松本 (1998 : 48-49)

このように語彙的複合動詞の中には必ずしも他動性調和の原則に従わないものもあることから、松本 (1998 : 77) は「他動性調和の原則」より制限の緩い「主語一致の原則」を提唱している。これについて松本 (1998 : 52) は、「主語一致の原則とは、通例、二つの動詞の主語として実現する項が同一物を指す、というもので、主語になるものであれば外交同士（あるいは内項動詞）である必要はない。この点で他動性調和の原則よりも緩い制約である」と説明している。ただし、依然として、「打ちあげる」のような他動詞から自動詞化したと考えられる「打ちあがる」のような反例が見られることも指摘している。

松本 (1998) の「主語一致の原則」は、複合動詞の V1 と V2 が結合する場合の説明としては有効なものであると思われる。しかし、「見落とす」とは言っても「\*見漏らす」とは言わないというようなことは「主語一致の原則」では説明できない。V1 と V2 が結合するとは限らないため、そのため、本研究では個々の複合動詞（後項）がいかなる性質の V1 を取るのかについて細かく見ていくこととする。

### 2.1.8 城田 (1998)

城田 (1998) は日本語の形態論について述べる中で、複合動詞を動作相動詞に分類している。城田 (1998) は動作相について「動作・状態の流れの姿を開示する」ものとし、次の (1) 段階相、(2) 状態相、(3) 過剰相の3つに分類している。

- (1) 段階相動詞：動作・状態がいかなる遂行段階（はじめ、おわり、その中間）にあるかを示す。
- (2) 状態相動詞：何らかの程度に主体に言及しつつ、コト（動作・状態）の流れの  
と様子を表す。
- (3) 過剰相動詞：コトが標準的姿を遥かに超えて行われることを示す。

更に城田（1998）はこれを後項動詞の意味の違いによって図 2-3 のように分類している。

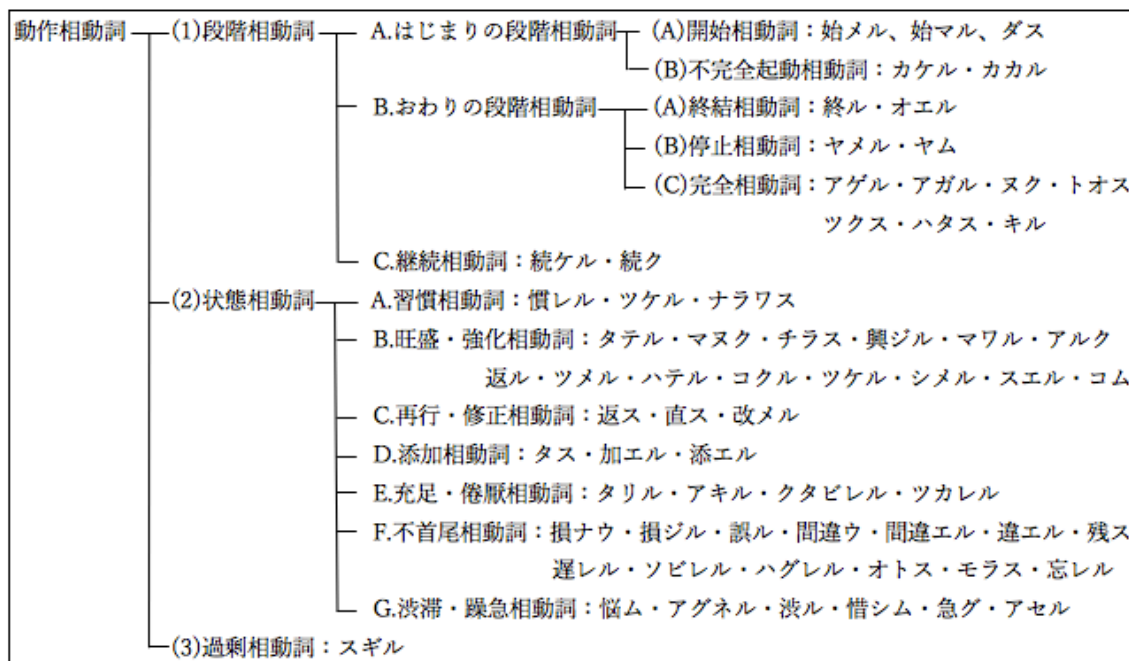


図 2-3. 城田（1998）複合動詞の後項の意味による動作相動詞の下位分類

城田（1998）は複合動詞を後項の意味をもとに分類している点で有益である。城田（1998）の分類のうち本研究の対象となるものは、「F. 不首尾相動詞」のうち、「V1-忘れる」「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」である。城田（1998：147）はこの不首尾相動詞について、「対象に現れる否定的結果に言及しながら、うごきを不完全なものとして描出する。否定的結果には、対象の不完全な実現とゼロとしての実現とが区別される」と述べているが、動きがどのように不完全なのかについては詳しく述べていない。本研究ではこの点について、失敗を表す複合動詞は動作の過程においていかなる段階におけるどのような失敗をしたのかという観点から、それぞれの語の違いを分析する。

## 2.1.9 石井 (2007)

石井 (2007 : 38) は複合動詞について、前項動詞と後項動詞の構成要素間の意味的な関係から、図 2-4 のように複合語的な関係 (複合構造)、派生語的な関係 (派生構造)、単純語的な関係 (熟合動詞) の 3 類に大別し、これを更に 12 種に分類している。

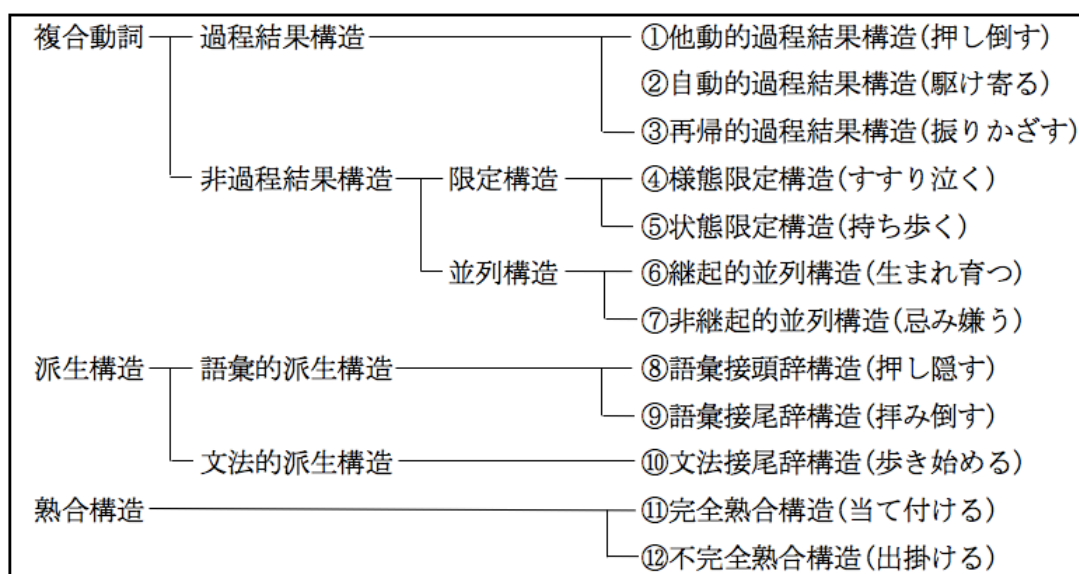


図 2-4. 石井 (2007 : 108) における複合動詞の語構造分類

このうち本研究の考察の対象である失敗の複合動詞は「⑩文法接尾辞構造」に分類される。文法接尾辞構造の特徴として、石井 (2007) は「歩き始める」＝「歩くことを始める」のように前項と後項との間にいわゆる補文関係を想定できること、「闘わせ合う」や「働かせ過ぎる」のように前項に使役、受身などの形が立ち得ること、「食べきる／泳ぎきる」のように前項に自動詞・他動詞の両方が立ち得ること、「点検し終わる」のように前項にサ変動詞が立ち得ることといった特徴を持つとしている。

また、石井 (2007) はこの「⑩文法接尾辞構造」は過程結果構造 (例えば「(燃料を) 使い切る」が客体 (燃料) を「使い」その結果、客体が「切れる (=なくなる)」のように、複合動詞の表すひとまとまりの運動を二つの局面に分割し、時間的に先行する〔過程〕の局面を前項が、それに後続する〔結果〕の局面を後項が表す構造) を持つと述べている。

本研究では、石井（2007）の過程結果構造を参考にし、V1の行為とV2（失敗）の行為の二つの局面に分け、前項の行為を行おうとする過程を「V1しようと思う」という意図の段階から行為が完了するまでの行為の過程として捉え、そのうちのどの段階でV1で表される行為が失敗したかという観点から、失敗を表す各複合動詞の意味の違いについて考察する。

### 2.1.10 陳奕延・松本（2018）

陳奕延・松本（2018）では、コンストラクション形態論とフレーム意味論の理論的枠組を用いて複合動詞が成立する条件について考察している。陳奕延・松本（2018：4）は「日本語の複合動詞のスキーマには、特定の複合事象スキーマが存在し、このテンプレートに特定の動詞が合致することで、複合動詞が成立する」として、コンストラクションの制約には次の13個のスキーマがあると述べている。

1. 原因型：V1が表している事象E1が原因となり、その結果としてV2の表すE2という事象が引き起こされる（溶け落ちる、焼け落ちる、立ち上がる…）
2. 手段型：V1がV2の表す目的を達成する手段を表す（打ち壊す、押し上げる…）
3. 前段階型：V1の成立を踏まえて、V2の事象が成立する（割り入れる、狙い撃つ…）
4. 背景型<sup>5</sup>：V2という事象が起こる背景としてV1が表す事象がある（聞き逃す、売れ残る…）
5. 様態型：V1はV2が表す事象が行われる際の様態を表している（舞い落ちる、歩き回る…）
6. 付帯事象型：V1はV2が表す付帯事象を表している「V1ながらV2」（探しまわる、笑い転げる…）
7. 比喩的様態型：一方の動詞がもう一方の比喩的な様態を表す（咲き狂う、盗み聞く…）

<sup>5</sup> 陳奕延・松本（2018）では背景とは動詞を理解するための前提知識とし、「「聞き逃す」は、「逃す」は、〈何らかの手段で得ようとしている〉ことを前提として、それを達成できずに〈自分の領域のそのに移動することを許す〉ことを表す。その手段を具体的に表しているのが前項動詞である。」（陳奕延・松本2018:82）と述べている。



8. 同一事象型：V1 と V2 が表す事象に全般的な類似性が見られる（飛び跳ねる、恐れおののく…）
9. 事象対象型：V2 が V1 の表す事象を事象参与者（対象）として取るもの（読みふける、泣き止む）
10. 派生型：主語一致型から派生した主語不一致型（打ち上がる、舞い上げる、酔い潰す…）
11. V1 希薄型：V1 の意味が希薄化したもの（打ち震える、押し黙る…）
12. V2 補助型：V2 が V1 の意味に特定の要素を付け加える、または補助的な機能を果たしている場合（見上げる、居合わせる）
13. 不透明型：V1、V2 共にどういう意味的な役割を担っているのか認識できないもの（取り締まる、支払う、見なす…）

このうち、本研究で対象とする失敗を表す複合動詞の語彙的複合動詞は次の 3 つに該当している。

3. 前段階型：置き忘れる
4. 背景型：V1-逃す、V1-落とす、V1-漏らす
12. V2 補助型：V1-違う、V1-違える、V1-誤る

次に、陳奕延・松本（2018：4）は「テンプレートに当てはめられた 2 つの動詞は、1 つの整合性を保った「語彙的意味フレーム」を構成する必要がある」という語彙的意味フレームの制約があると述べている。例えば、「蹴散らす」が成立し「\*握り散らす」が成立しないのは、「蹴る」結果の一つとして対象を散乱させることを含んでおり「散らす」と整合的な意味的一致が見られるのに対し、「握る」には対象を散乱させることは含まれておらず、「散らす」と整合的な意味的一致が見られないからであると述べている。

陳奕延・松本（2018）では V1 と V2 の関係についてそれぞれが持つ意味を細かく見ることで、特に複合動詞が成立しない理由について記述している点に特徴がある。しかし、同じ「1. 原因型」でも「溶け落ちる」は「V1 溶ける→V2 落ちる」というように V1 と V2 の間に時間

的継起があるのに対し、「立ち上がる」は「V 立つ=V2 上がる」というように V1 と V2 が同時に生じるため、両者を分けて考えることもできる。このようにスキーマは恣意的に何通りにも設定できるため、いかなるスキーマを設定するかが重要である。また、語彙的意味フレームという概念も重要であるが、後付けの説明になりがちなので注意が必要である。例えば、上で「蹴散らす」が言えて「\*握り散らす」が言えない理由として V1 に対象の散乱を表す意味があるかどうか指摘されているが、「蹴る」が使えるなら「はじく」も使えそうであるが、「はじき散らす」とはあまり言わない。一方で Google 検索をすると、次のような「握り散らす」の例が出現した。

(2-7) 花を握り散らす様な行為、それを自分が成した事に驚いた。

(<https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=4100754>)

2021年7月12日検索

(2-8) 強めパーマには柔らかいソフトワックスがおすすめ！くしゃつと握り散らすだけで簡単スタイリングのツイストスパイラルです！

(<https://beauty.hotpepper.jp/slnH000410869/style/L083092402.html>)

2021年7月12日検索

確かに「握り散らす」という言い方はあまりしないが、「握る」に対象の散乱を表す意味がないとは言えない。他方、「書き散らす」「踏み散らす」は普通に使われるが、「書く」や「踏む」に対象の散乱を表す意味があるとも言い難い。結局、「V1-散らす」の形で使われれば V1 に対象の散乱を引き起こす意味が付いて来るということであると思われる。本研究では陳奕延・松本（2018）の主張を参考にしつつ、V1 と V2 の意味的な関係についても見ていく。

以上、日本語の複合動詞の V1 と V2 の関係に関する先行研究を概観した。詳しくは 2.3 節でまとめる。次に中国語の補語に関する先行研究を概観し、最後に本研究の研究課題について述べる。

## 2.2 中国語の補語に関する先行研究

上の 2.1 節では日本語の複合動詞のうち特に V1 と V2 の関係に関する先行研究について概観した。次に 2.2 節では日本語の複合動詞に対応する中国語表現についての先行研究として、湯廷池 (1989)、刘月华他 (1996)<sup>6</sup>、申垂敏 (2007)、望月・申垂敏 (2016) を取り上げる。

### 2.2.1 湯廷池 (1989)

湯廷池 (1989) では中国語の動詞を次のように分類している。

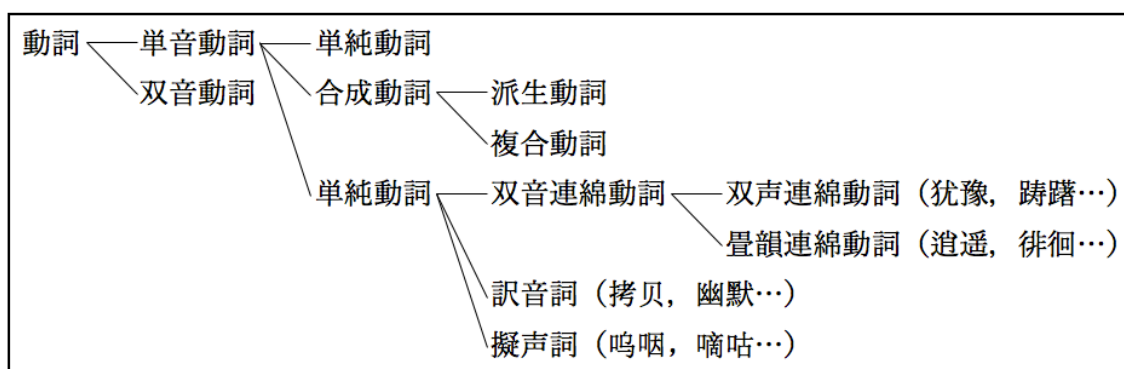


図 2-5. 湯廷池 (1989) による動詞の分類

このうち、「複合動詞」とは自由語<sup>7</sup>の語幹あるいは付属語の語幹で構成されているものであると述べ、次の 5 つに分類している。

- (1) 述賓式複合動詞 (動詞-目的語) : 動詞と名詞の合成 (説話, 走路)
- (2) 述補式複合動詞 (動詞-補語) : 動詞と動詞、形容詞の合成 (打到, 看見)

<sup>6</sup> 刘月华・潘文娛・故韡 (2019) 《实用现代汉语语法》[第 3 版] 商务印书馆と刘月华・潘文娛・故韡 (1996) 『現代中国語文法総覧』, 相原茂、片山博美、守屋宏規、平井和之 (訳) くろしお出版の両方を参考にした。

<sup>7</sup> 湯廷池 (1989: 151) では自由語 (free morph(eme)) を文中で独立して使用でき、単独で「語 word」になれるもの、付属語 (bound morph(eme)) を独立して使用できず、他の語素に付属することで語を構成するものとしている。

- (3) 偏正式複合動詞（副詞修飾語-述語）：形容詞、動詞、名詞、副詞と動詞の合成（遲到，痛苦）
- (4) 並列式複合動詞：動詞と動詞が並列して合成（脩改，解放）
- (5) 主謂式複合動詞（主語-述語）：名詞(主語)と動詞、形容詞（述語）の合成（夏至，心煩）

このうち日本語の複合動詞（ここでは、動詞と動詞が結合し、一つの動詞として機能するもの）に相当するものは(2) 述補式複合動詞と(4) 並列式複合動詞である。ただし、(2) 並列式複合動詞は「解き放つ」や「思い惑う」のようなものであり、本稿で扱う失敗を表す複合動詞は(4) 述補式複合動詞に相当する。湯廷池（1989）はこの述補式複合動詞について、前項と後項がそれぞれ独立して使用できるかという観点から、更に次の8つに分類している。(i)～(iv)は前項、後項共に動詞語素の組み合わせであり、(v)～(viii)は前項が動詞語素、後項が形容詞語素の組み合わせである。

- (i) 自由動詞語素＋自由動詞語素 = (a) 他動詞：打落，看懂，聽到，學會…  
(b) 自動詞：走開，散開，跑開…
- (ii) 付屬動詞語素＋自由動詞語素 = 擊破，擊落…
- (iii) 自由動詞語素＋付屬動詞語素 = (例は発見できていない<sup>8</sup>)
- (iv) 付屬動詞語素＋付屬動詞語素 = (a) 他動詞：拒絕…
- (v) 自由動詞語素＋自由形容詞語素 = (a) 他動詞：加強，提高，抓緊…  
(b) 自動詞：坐直，走紅，走軟，看好…
- (vi) 自由動詞語素＋付屬形容詞語素 = (a) 他動詞：説明，發明，改善，改良…  
(b) 自動詞：走疲，走俏，看俏…
- (vii) 付屬動詞語素＋自由形容詞語素 = (a) 他動詞：革新，增強…  
(b) 自動詞：(例は発見できていない)
- (viii) 付屬動詞語素＋付屬形容詞語素 = (a) 他動詞：集中，證明…

<sup>8</sup> 湯廷池（1989：156）は(iii)に該当する例について“尚未找到常用例子”と述べている。(vii)の(b)、(viii)の(b)も同様である。

(b)自動詞：(例は発見できていない)

(湯廷池 (1989:155-156) の記述を整理し翻訳した)

湯廷池 (1989) の分類は語素が動詞か形容詞かなど分類に検討の余地はあるものの、述語となれる要素が共起し複合動詞を形成する事を指摘した点で有益であり、日本語の複合動詞と似た語形成を持つことが確認できる。本研究で扱う失敗を表す複合動詞のうち、「V1-落とす」「V1-漏らす」は、中国語の“V1-落”“V1-漏”に、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」は“V1-错”に相当し、これらは湯廷池 (1989) の (2) 述補式複合動詞 (動詞-補語) のうち (v) 自由動詞語素+自由形容詞語素の (a) 他動詞に属している。そのため、本研究では日本語の複合動詞と湯廷池 (1989) の述補式複合動詞を対照して考察することにする。

### 2.2.2 刘月华他 (1996)

刘月华他 (1996) では湯廷池 (1989) の述補式複合動詞にあたる「補語」について考察している。刘月华他 (1996:447) は補語を「動詞または形容詞の後に置かれ、主に動詞または形容詞に対して補充説明を行う成分である」と述べ、意味上、構造上の特性に基づき、次の6つに分類している。次の下線部が補語である。

①結果補語：動作または変化によって生じた結果を表す (打死, 搬到, 学会, 听懂)

②方向補語：動作のあとに方向を示す動詞がきて方向を表す (走过, 上来, 下去, 起来)

③可能補語：主観的条件または客観的条件が実現を許すかどうかを表す

(听得懂, 吃不了, 去不得)

④様態補語<sup>9</sup>：動作や状態の結果または程度を表す (V 得很晚, V 得很好, V 得很清楚)

⑤数量補語：動作や変化に関わる数量を表す (等一下, 去过两次, 走了三天)

<sup>9</sup> 様態補語は状態補語と呼ぶこともある。

⑥介詞フレーズ補語：介詞“于”“向”“自”からなる介詞フレーズで時間、場所、来源、対象、目的、目標、原因、比較などを表す(于一八八一年, 向目的地)

この分類をもとに日本語の複合動詞との対応を考察したものに廖秋紅(2009)がある。廖秋紅(2009)は次の表2-2を挙げ、中国語に対応する日本語表現について考察している。

表2-2. 中国語の補語と対応する日本語(廖秋紅2009:31の表1)

中国語	日本語
①結果補語(睡着, 救活)	「既然体」→動作が完了したあとに結果が残
②方向補語(来, 去, 上来, 下去, 出…)	「～上がる、～下がる、～出す…」
③可能補語(得)	れる、られる、できる
④様態補語(很, 非常…)	とても、非常に…
⑤数量補語(V一下, V三天…)	一度、三日…
⑥介詞フレーズ補語(于)	×

表2-2のうち、②方向補語は日本語の「V1-上がる」などの複合動詞と対応していることが分かる。また、①結果補語は廖秋紅(2009)では詳しく述べられていないものの、“看错”(見間違える)のように日本語の複合動詞と対応しているものもあれば、“看懂”(見て分かる。\*見分かる)のように日本語の複合動詞と対応しないものもある。刘月华他(1996:448)では結果補語の後項には、すべての形容詞および動詞のうち、“见 jiàn, 成 chéng, 东 dōng, 走 zǒu, 跑 pǎo, 住 zhù, 掉 diào, 着 zhe, 翻 fān, 倒 dǎo, 作 zuò, 为 wéi, 死 sǐ, 透 tòu, 丢 diū, 到 dào, 在 zài, 给 gěi など”が該当するとし、表す意味によってA類とB類の2つに分類している。

A類結果補語：ある動作を通じて人または事物にある変化を生じさせること、あるいは別の動作を行わせることを表す

例) 解放军把卓玛救活了。(解放军はチュマオの命を救った。)

=解放军が「救う」という動作を通じてチュマオを「生かし」た。

B類結果補語：動作を説明する（動作が人または事物に対してどのような結果を生ぜしめたかという使役の意味はもたない）

例) 你看完这本杂志了吗? (この雑誌を読み終わりましたか。)

=動作が「完結した」かどうか、「目標に到達した」かどうか。

刘月华他(1996)は「補語」について、意味的な要素も踏まえて分類している点で有益である。日本語との対応を見た場合、結果補語でも“写错”のようなものは「書くという動作を通じて間違えた」というよりは、「書いた結果、その文字を間違えた」という構造になる。従って、本研究ではどのような構造と対応するのかについて、日本語と中国語の相違を見ていきたい。

### 2.2.3 申亜敏(2007)、望月・申亜敏(2016)

申亜敏(2007)は「動詞+結果補語」を結果複合動詞とし、以下のような「原因又は先行事象-結果事象」を表す構造を持つと述べている。例えば“哭湿”の場合は「泣いて{～を濡らす/～が濡れる}」という構造を持つ。

前項述語 (V1)	+	後項述語 (V2)
原因又は先行事象		結果事象
{非能格動詞/非対格動詞/他動詞}		{非対格動詞/形容詞}

図2-6. 結果複合動詞の事象構造及び述語 申亜敏(2007:196)

その上で申亜敏(2007)はこの結果複合動詞を項の関係から次の5つに分類している。

- ①目的語志向型：V2が複合動詞全体の目的語の結果状態を叙述する（推开、哭走）
- ②主語志向型：V2が複合動詞全体の主語の結果状態を叙述する（跳烦、吃腻）
- ③前項述語の項が具現化しない場合：V1から項が受け継がれない（写酸、看累）

④後項述語の項が具現化しない場合：V2 から項が受け継がれない (なし)<sup>10</sup>

⑤補文関係 : V1 と V2 が先行事象と結果事象という関係を保持しつつも、両者が補文関係にあるとみなせる (起晩、吃多)

このうち、望月・申亜敏 (2016) では補文関係の結果複合動詞を更に2つに分け、日本語との対応を見ている。

### ①主語補文型結果複合動詞

「完結性」 a. 「～終わる」 : 〈-完〉

b. 「～上げる／上がる」 〈-好〉

「評価」 a. 「～誤る」 : 〈-錯〉 (～誤る、～間違う) 〈-对〉 (～が正しい)

b. 「～過ぎる」 : 〈-多／少〉 (多すぎる、少なすぎる)

〈-早／晩〉 (早すぎる、遅すぎる)

〈-長／短〉 (長すぎる、短すぎる)

c. 「～足りる」 : 〈-够〉 (～足りる、～尽くす)

「程度の極限」 a. 「～渡る」 : 〈-遍〉

b. 「～尽くす」 : 〈-尽〉

### ②目的語補文型結果複合動詞

a. 「～始める」 ( [VP 开始<sub>[IP…V1…]] ) →目的語節をとる動詞句</sub>

b. 「～続ける」 ( [VP 继续<sub>[IP…V1…]] ) →目的語節をとる動詞句</sub>

c. 「～損なう／損ねる」 ( [IP<sub>[IP…V1…]] ) →助動詞文</sub>

d. 「～忘れる」 ( [VP 忘<sub>[IP…V1…]] ) →目的語節をとる動詞句</sub>

e. 「～直す」 ( [VP 重新<sub>[IP…V1…]] ) →目的語節をとる動詞句</sub>

<sup>10</sup> 申亜敏 (2007) は《汉语动词-结果补语搭配辞典》より抽出した結果複合動詞 1,866 例の中に④後項述語の項が具現化しない場合に該当する例は見つからなかったと述べている。この点について、申亜敏 (2007: 198) は「結果複合動詞全体の意味の中心が V2 にあり、結果状態が前景化されるという結果述語の意味的性質から、当然の帰結とも言える」と述べている。



以上のように、中国語の補文関係を表す結果複合動詞のうち、①主語補文型は日本語の複合動詞のうち、補文関係を持つもの（影山 2013 は補文関係を持つ複合動詞として統語的複合動詞と語彙的複合動詞のうちアスペクト複合動詞を挙げている）と対応するが、②目的語補文型は対応していない。本研究の失敗を表す複合動詞のうち「V1-逃す」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違う」「V1-違える」「V1-誤る」は①主語補文型に該当し、「V1-忘れる」「V1-そびれる」「V1-損なう」「V1-損じ(ず)る」は②目的語補文型に該当する。従って、前者は中国語の結果補語との対応関係について、後者は目的語節をとる動詞句や助動詞とどのように対応しているかについて考察する。

### 2.3 本研究の分析の立場

以上、まず 2.1 節では日本語の複合動詞における V1 と V2 の結合関係について論じた先行研究を概観した。これらを整理すると次のようになる。

#### ①本動詞と複合動詞の意味的な対応

森田 (1990) は本動詞の意味がどれだけ保持され、派生しているのかという観点から複合動詞について考察している。斎藤 (1992) も「V1-返す」を対象に本動詞と複合動詞の意味領域の違いについて、接辞性という観点から考察している。本研究でも、「忘れる」と「V1-忘れる」、「落とす」と「V1-落とす」など本動詞と複合動詞の対応関係について考察する。

#### ②V1 の特徴

影山 (1993, 1999, 2013) はどのような V1 と V2 が共起するのかについて、他動性調和の原則を提唱している。一方、松本 (1998) はその問題点を指摘した上で主語一致の原則を提示している。これらの研究を受け、本研究では国立国語研究所の書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) の事例から、失敗を表す各複合動詞がそれぞれどのような動詞と共起するかについて見る。

## ③V1 と V2 の格関係

寺村（1969, 1984）は独立性、長嶋（1976）は修飾関係、山本（1983, 1984）は格支配、森田（1990）は意味の派生の観点から、V1 と V2 のどちらが実質的な意味を持つかによって複合動詞を分類している。これをまとめると表 2-3 のようになる。

表 2-3. V1 と V2 の格関係に関する先行研究

寺村 (1969, 1984)	(イ)自立V+自立V 例)走り去る (V1 て V2)	(ロ)自立V+付属V 例)走り込む	(ハ)付属V+自立V 例)取り押さえる	(ニ)付属V+付属V 例)取り出す
長嶋 (1976)	—	Ⅱ類：V <sub>1</sub> +V <sub>2</sub> (被修飾+修飾) 例)言い尽くす	Ⅰ類：v <sub>1</sub> +V <sub>2</sub> (修飾+被修飾) 例)切り倒す	—
山本 (1983, 1984)	Ⅰ類：複合動詞の格成分が V1 と V2 のそれぞれと対応。 例)泣き叫ぶ	Ⅱ類：複合動詞の格成分が V1 とは対応するが、V2 とは対応しない。 例)静まり返る	Ⅲ類：複合動詞の格成分が V2 とは対応するが、V1 とは対応しない。 例)打ち重なる	Ⅳ類：複合動詞の格成分が V1 と V2 のいずれとも対応しない。 例)取り乱す
森田 (1990)	第 1 段階：並列関係 例)書き捨てる	第 2 段階：主述、補足の関係 例)思い余る	第 3 段階：具体的意味から抽象的意味へ 例)降り出す	第 4 段階：造語成分への移行 例)考えあぐねる 第 5 段階：実質的意味から形式的意味へ 例)叱りとばす

本研究ではこれらの先行研究を参考にして、失敗を表す複合動詞の V1 と V2 の格関係について、次のようになっていることを指摘する。

V1 するのを V2 : V1-忘れる<sup>11</sup>、V1-損なう、V1-損ねる、V1-損じ(ず)る、V1-逃す、

V1-そびれる、V1-落とす、V1-漏らす

V1 して V2 : V1-間違える、V1-間違う、V1-違える、V1-違う、V1-誤る

<sup>11</sup> ただし、「財布を家に置き忘れる」のような「置いたまま忘れる」という意味の「V1-忘れる」は「V1 て V2」になる。

更に、失敗を表す複合動詞のうち「V1-忘れる」は補文関係としての「Vすること(の)を忘れる」と言い換えられる場合が多い。また、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」は「間違えてVする」「間違ってVする」「誤ってVする」と副詞的用法にも言い換えられる。従って、本研究ではこのような表現と複合動詞を比較することで、複合動詞の特徴を明らかにする。

#### ④行為の過程における位置づけ

城田(1998)は失敗を表す複合動詞について、コトの流れの様子を表していると述べている。また、石井(2007)は失敗を表す複合動詞について、V1の行為が行われた結果、V2の行為が行われるという過程結果構造を持つとしている。しかし、先行研究ではこれについて体系的に論じられていない。そこで本研究では失敗を表すそれぞれの複合動詞が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかという観点から考察する。この点に関しては改めて次の3章で論じることとする。

以上のことから、本研究では失敗を表す複合動詞について次の観点から考察する<sup>12</sup>。

- ① 本動詞と複合動詞の意味的な対応について(第4～8章の3節)
- ② V1の特徴について(第4～8章の4節)
- ③ 行為の過程における位置づけについて(各章の6節)

次に、2.2節では日本語の複合動詞に対応する中国語表現として、主に結果補語に関する先行研究について概観した。このうち、本研究で対象とする失敗を表す複合動詞とそれに意味的に対応する中国語の表現をまとめると表2-4のようになる。表2-4に示されるように、日本語と中国語は「V1-忘れる」と“忘-”のようにおおよそ一対一に対応するものもあ

<sup>12</sup> V1とV2の格に関する「V1-忘れる」と補文関係としての「Vする{の/こと}を忘れる」の違いについては4.5節で、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」と副詞的用法としての「間違えてVする」「間違ってVする」「誤ってVする」の違いについては8.5節で取り上げる。

れば、「V1-逃す」「V1-漏らす」「V1-落とす」と“V1-漏”のように一対一に対応しないものもある。

表 2-4. 失敗を表す日本語の複合動詞とそれに対応する中国語表現

失敗を表す日本語の複合動詞	対応する中国語表現
V1-忘れる	目的節をとる動詞句 “忘了-V”
V1-損なう	助動詞文 “没能-V” 結果補語 “没-V-「結果補語」{成/到/掉}”
V1-損ねる	
V1-損じ(ず)る	
V1-そびれる	助動詞文 “没能-V” 結果補語 “没-V-「結果補語」{成/到/掉}” “V-漏”
V1-逃す	
V1-落とす	結果補語 “V-漏” “漏-V”
V1-漏らす	結果補語 “V-漏” “漏-V”
V1-間違える	結果補語 “V-错” (“错-V”)
V1-間違う	結果補語 “V-错” (“错-V”)
V1-違える	結果補語 “V-错” (“错-V”)
V1-違う	結果補語 “V-错” (“错-V”)
V1-誤る	結果補語 “V-错” (“错-V”)

以下、本研究では次の各章において、以下の日本語と中国語の表現の対応関係について考察する。

「V1-忘れる」と“忘了V”（第4章の6節）

「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”  
“没能-V”（第5章の6節）

「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}” “没能-V” “V-漏”  
（第6章の6節）

「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏” “漏-V”（第7章の6節）

「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と“V-错” “错-V”（第8章の6節）

## 第3章 行為の過程における失敗

本章では失敗を表す複合動詞の考察をする前提として、本研究で考える行為の過程について論じる。まず、3.1節で失敗に関する先行研究について見る。それを踏まえて、3.2節では日本語の行為の過程における失敗について論じ、3.3節では中国語の行為の過程について日本語との違いを論じた上で行為における失敗について論じる。最後に3.4節で本書のまとめをする。

### 3.1 失敗に関する先行研究

失敗に関する研究として、山田(2007)がある。山田(2007)は心理学の観点から、失敗について「適切な行為からずれること」「そのずれに気づくこと」と定義している。まず「適切な行為からずれること」について、山田(2007:4)は「人間が何らかの意図を持ち、その目的を達成するための手段を講じる時、その意図やそのための目的の設定が適切なものであり、それを適切に達成できれば、その行為はうまくいったと言えるだろう」とし、「意図や目的、手段の選択・実行のいずれかが適切ではなかった行為をひとまず失敗だと考えることができる」と述べている。例えば、「明日の朝は7時に起きないといけないので目覚まし時計をセットしよう」とした場合、「7時に起きる」が目的、「目覚まし時計」が事物、「目覚まし時計をセットすること」が行為となる。もし、目的に対する行為(目覚まし時計をセットする)が適切ではない場合、例えば8時にセットしたり、セットすることを忘れて、7時に起きるといった目的を達成することができなかつた場合、失敗となるのである。ただし、山田(2007)は意図を達成するための手段は、唯一最善の行為ではなく、その状況の許す範囲において代替可能で可変的なものだと指摘している。これは、確実に起きるためには、「家族に起こしてもらおう」といった手段も考えられるが、その手段が取れない場合での

最善の行為が、この場合の目覚ましをセットするという行為になるからである。従って、適切な行為とは状況によって左右されるものである。

次に、山田（2007：9）は「失敗が成立するためには、ある行為が適切なものからずれるだけでなく、そのずれに誰かがどこかの時点で気づくことが必要である」と述べている。例えば、ある言葉の意味をずっと間違えて思い込んでいた「勘違い」をしていた場合、誰かに指摘されたり、辞書で偶然その単語を見つけたりなどの気づきの瞬間がない限り、正しい語彙と区別することができず、自分の持っている意味と状況の持つ意味のずれに気づいてやっと、「勘違いだった」ことが分かると指摘している。

本研究では、山田（2007）の失敗の定義を受け、失敗を「適切な行為からのずれ」と定義したい。また、本研究で扱うのは、失敗を表す複合動詞つまり、人間の行為の中での失敗であるため、「適切な行為」を行為の過程という図で表し、実際にどの段階でずれていく（失敗する）のかを視覚的に考察する。詳しくは3.2節で述べることとする。

心理学の分野で失敗のプロセスおよびメカニズムについて述べたものに芳賀（2003）がある。芳賀（2003）は人間による失敗をヒューマンエラーとし、「ヒューマンエラーとは、人間の決定または行動のうち、本人の意志に反して人、動物、物、システム、環境の<sup>ママ</sup>機能、安全、効率、快適性、利益、意図、感情を傷つけたり壊したり妨げたもの」（芳賀2003:35）と定義している。このヒューマンエラーを「入力過程」「媒介過程」「出力過程」という人間の情報処理過程の違いによって、次の図3-1のように「入力エラー」「媒介エラー」「出力エラー」の3つに分類している。

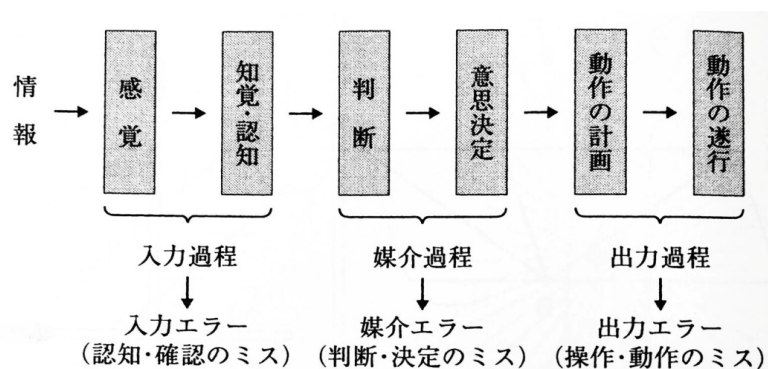


図3-1. 人間の情報処理過程とエラー分類（芳賀2003:38）

芳賀（2003）は「Aというボタンを押すべきところ、隣のBというボタンを押してしまった」という行為でも、BとAを見間違えたために取り違えた場合は「入力エラー」になり、Bを押すべきだと判断してBを押した場合は「媒介エラー」になり、Aを押そうとして手を伸ばしたのにBに触ってしまった場合は「出力エラー」になると説明している。このように、芳賀（2003）は人間の情報処理の過程の違いから失敗を分類している。

それでは、このような情報処理の過程の違いは日本語の表現とどのように関わっているのだろうか。まず、ヒューマンエラーとは人間の行為に対する失敗である。失敗を表す複合動詞も同様に、人間の行為（V1）がどのように失敗となったのか（V2）という表現であるため、ヒューマンエラーは失敗の複合動詞で表すことができると思われる。芳賀（2003）が挙げた3つの分類のうち、入力エラーは感覚・知覚動詞（見る・聞く）がV1となり、媒介エラーは判断・意思決定動詞（判断する・思う）がV1となり、出力エラーは動作動詞（書く・読む）がV1となり、それぞれどのような失敗であるかを表すと次のようになる。

入力エラー（認知・確認のミス）

BボタンをAボタンと見間違えた。

Aボタンを見落とした（見逃した／見そびれた）。

Aボタンを見忘れた。

媒介エラー（判断・決定のミス）

Bボタンだと判断し間違えた。

Bボタンだと思い違えた。

出力エラー（操作・動作のミス）

Aボタンを押し間違えた。

しかし、この分類では失敗を表す複合動詞をすべて分類できるわけではない。例えば、「押し間違える」は「押す」が操作・動作を表すため出力エラーとなるが、「押す」対象を間違えた場合の入力エラーでも、「AボタンをBボタンと（見間違えて）押し間違えた」と表現でき、AボタンをBボタンだと判断を間違えた場合も「AボタンをBボタンと（判断を

間違えて) 押し間違えた」といえる。これは、「V1-間違える」はAとBの取り違えたという結果を表す表現であり、どのような原因であるかについては表現できないからである。つまり、入力エラーを表す場合は「見る」を、媒介エラーを表す場合には「判断する」を使用する必要がある。従って、芳賀 (2003) の分類は、「Aのボタンを押す」という結果を得るためには、「Aのボタンを見る→Aのボタンが正しいと判断する→Aのボタンを押す」という連続した別々の動作の過程を指し、そのうち、どの動作での失敗であるかについて分類したものである。しかし、日本語の複合動詞の分類を考えたときは、「押す」という行為に注目し、「押そうと思っているのか」、「押すと決めたのか」、「押しているところなのか」といった過程の中で、どの段階での失敗なのかという観点から見る必要がある。そのように分類することで、押そうと思っても行動に移せなかった場合の失敗は「押しそびれる」となり、押すという行為中での失敗は「押し間違える」というように区別して説明することができる。

従って、本研究では失敗を表す複合動詞の違いを見るにあたって、V1 の行為の過程の中のどの段階での失敗なのかという観点から、失敗を表す複合動詞の意味の違いを考察する。

薛婧宇 (2019) は芳賀 (2003) の失敗における認知プロセスをもとに、行為のプロセスを次の図 3-2 のように表し、それぞれ日本語でどのように表現するのかについて考察している。

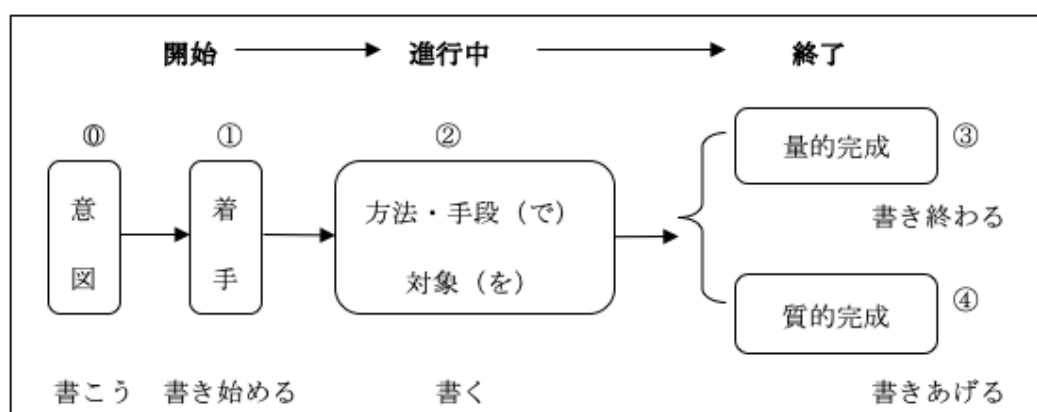


図 3-2. 「行為」のプロセス (薛婧宇 2019 : 34 の図)



図3-2について「書く」を例に見ると、手紙を書こうとする意図があり(①)、それに着手し(②)、実際に字を書き始める。その結果、動作主が「最後まで書く」のように量的なことを期待する場合は「量的完成」を表す「手紙を書き終わる」を使い(③)、「綺麗に書く」のように質的なこと期待する場合は「質的完了」を表す「手紙を書きあげる」を使う(④)と述べている。その上で、「行為」のプロセスのどの場面でどのような失敗の複合動詞を使用するかを図3-3のように示している。

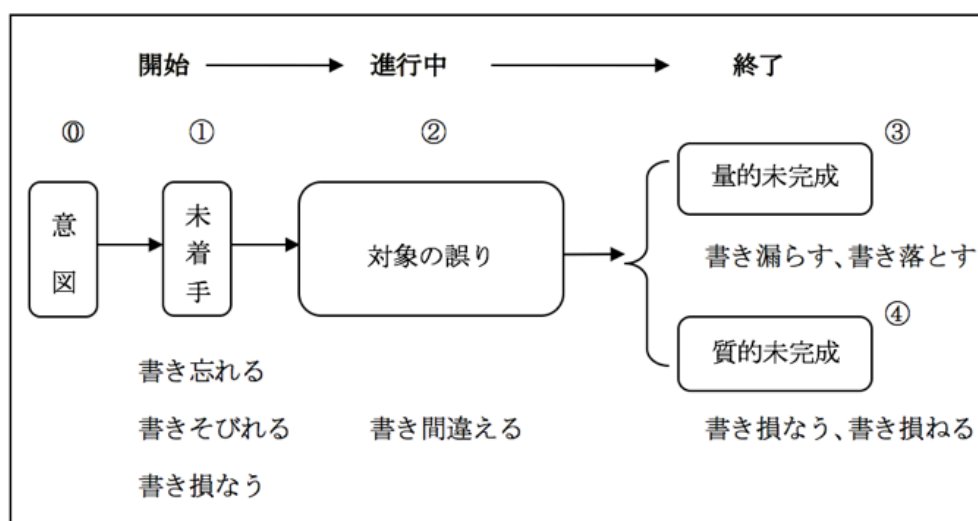


図3-3. 行為のプロセスとそれにおける失敗 (薛婧宇 2019:35 の図)

薛婧宇 (2019) では行為のプロセスのうち、どの場面でどのような表現を使用するかについて述べている点で、それまでの先行研究にはない貢献をしている。しかし、「未着手」に「V1-忘れる」「V1-そびれる」「V1-損なう」が分類されているが、これらには次のような違いがある。例えば、「書き忘れる」は「書く」という行為をしようと思っていたが、実際にその行為に着手する前にそれを失念した結果、未着手の意味になることを表す。これに対し、「書きそびれる」と「書き損なう」は書くつもりはあったが、その機会を逃した結果、未着手の意味になるということを表す。このように同じ未着手の事態でも、そのことを覚えていたのかどうかという点で、両者には大きな違いがある。

また、薛婧宇 (2019) において「書き漏らす」「書き落とす」および「書き損なう」「書き損ねる」は行為の終了に分類されている。しかし、これらは「書く」という行為の修了点

ではなく、行為中に失敗したことを表す表現であると考えられる。それだからこそ、量的あるいは質的に未完成となるのである。薛婧宇 (2019) でこれらの失敗を表す表現を「終了」としているのは、V1 の行為が一通り「終了」した後に、当該の行為が期待された量や質に達していないことに気付いて述べた表現だからであると思われる。しかし、V1 の行為が期待された水準に達していないということは、本稿の立場では行為が途中までしか行われておらず、「中途半端な終了」すなわち「V1 の行為中の失敗」であるということになる。なお、本稿で行為終了後の失敗を表すと考える複合動詞は、「(電車に傘を) 置き忘れる」といった表現である。これは V1 の「(電車に傘を) 置く」という行為が成立した後に、V2 の「(傘を持っていくのを) 忘れる」という事態が生じることを表している。この場合は V1 の行為が成立しているため、行為終了後の失敗を表すと言える。ただし、この表現は V1 自体の失敗を表す表現ではないため、他の失敗を表す複合動詞とは別に考える必要がある。

### 3.2 日本語の行為の過程における失敗<sup>1</sup>

先に論じたように、山田 (2007) は失敗について、「適切な行為からずれること」「そのずれに気づくこと」としている。これを受け、本研究でも失敗を「適切な行為<sup>2</sup>からずれること」<sup>3</sup>と考える。ここでいう「適切な行為」とは、こうあるべきだ、こうなるべきだと頭の中で期待した行為のことである。それが期待通りの結果になれば「成功」で、期待通りの結果にならなければ「失敗」となる。行為の過程には、大きく分けてその行為をしようと思った意図段階(無意志の場合はこの段階がない)と、実際にその行為を行う行動段階があり、以下に述べるようにそれぞれ更に細かい段階に分かれる。これらの各段階において問題なく事態が進めば「成功」となり、どこかの段階で問題が生じれば「失敗」となる。

本研究で考える行為の過程を図 3-4 に示す。以下、これについて説明する。

<sup>1</sup> 本節は南 (2021a, c) を元に加筆修正したものである。

<sup>2</sup> 本研究の「行為」は「意図」と「行動」を合わせた上位概念を表すものとする。

<sup>3</sup> 山田 (2007) が失敗の定義の 1 つとしている「そのずれに気づくこと」は、失敗表現を使用する上での大前提であり、本研究は気づいたあとにどのような失敗の表現をするかという点に注目するため、本研究では「そのずれに気づくこと」については考察しないこととする。

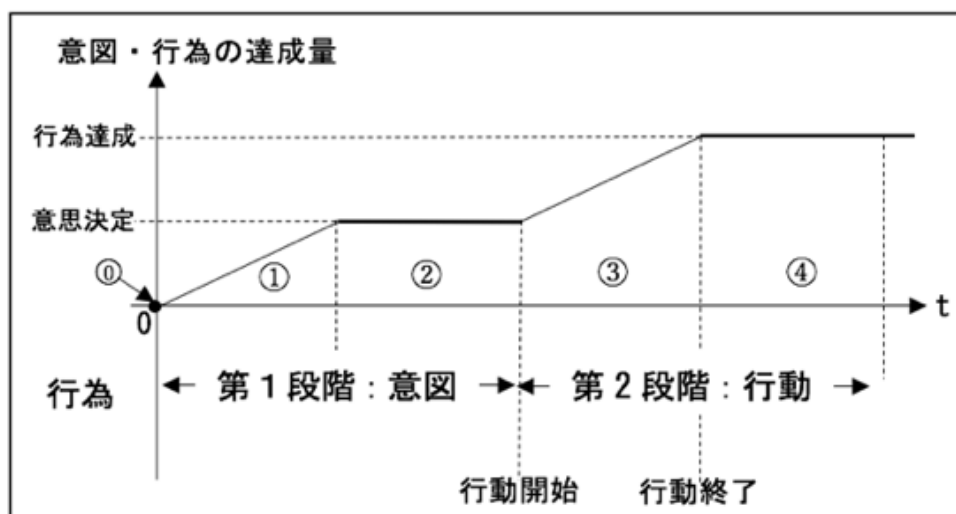


図3-4. 行為の過程

図3-4において横軸（x軸）は行為の経過時間を表し、縦軸（y軸）は意図・行為の達成量を表す。行為は第1段階として「～しよう」と意図することから始まり、第2段階として実際の行動が行われる。「言う」を例に考えると、まず何も意図していない時が①の段階である。次に「言おう」と思い始めてから決心するまでが①の段階で、その意思を頭に保ち続けるのが②の段階である。①の段階における右上がりの線は、「言おう」と思う気持ちがゼロの状態から、次第に膨らんでいき、100%に達するまでの変化を表している。一方、②の段階におけるx軸との平行線は、「言おう」と決心した気持ちを保持し続けていることを表している。

その後、「言おう」と思ったことを実際に行動に移すのが③の段階で、行動が終了した後にその記憶が保持されるのが④の段階である。③の段階における右上がりの線は、「言う」の発話量がゼロの状態から、次第に増えていき、全て言い切って100%に達するまでの変化を表している。一方、④の段階におけるx軸との平行線は、言い終わった後に発話量がそのまま変化していないことを表している。

本研究で扱う失敗を表す複合動詞は、行為の過程（意図および行動）における様々な段階において、様々な要因により適切な行為からずれることを表す。例えば、「V1-忘れる」は何かをしようと思っていたのに、それをせずに失念したことを表すため、②の段階における失敗を表す。これを図示すると図3-5のようになる。図3-5において点線は期待されたも

この実際には行われなかった行為を示し、実線は実際に行われた行為を表している。「言い忘れる」を例にすると、①で「言おう」という意思が高まり、②で「言う」と決心したにも関わらず、何らかの阻害要因（この場合は忘却）によって③の行動段階に移れず、「言おう」と思った意思の段階で止まっていることを表している。

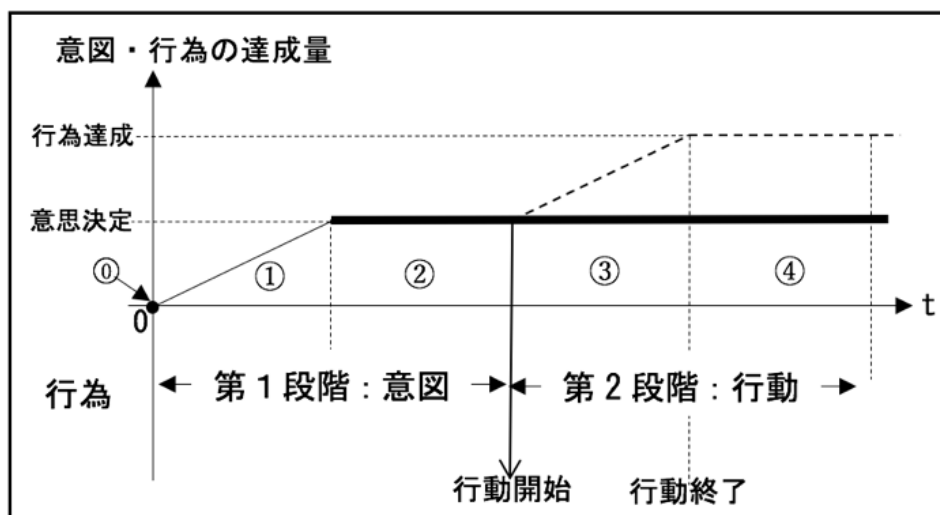


図 3-5. 行為の過程における意図段階での失敗「V1-忘れる」

また、行為の過程を更に詳しく見ると、②と③の間には準備段階が認められる場合がある。例えば、「電車に乗る」という行動をする場合、「電車に乗ろう」と考え、実際に「電車に乗る」という行動を起こす間に、家を出て駅に行き、改札を通り、ホームに向かい、駅の表示を見て、電車を待つといった行為がある。このように「電車に乗ろう」と思った後、駅に家を出てから電車を待つまでの段階を本研究では「準備段階」と呼ぶことにする。この準備段階は意図段階の一部（準意図段階）とみなすこともできるし、行動段階の一部（準行動段階）とみなすこともできる。詳しいことは第6章で論じるが、この違いを見ることによって「V1-損なう」と「V1-そびれる」の違いを説明することができる。この準備段階の違いも踏まえて失敗を表す複合動詞の位置づけを示すと次の図 3-6 のようになる。本研究では失敗を表す複合動詞について、このような行為の過程の違いを考察する。

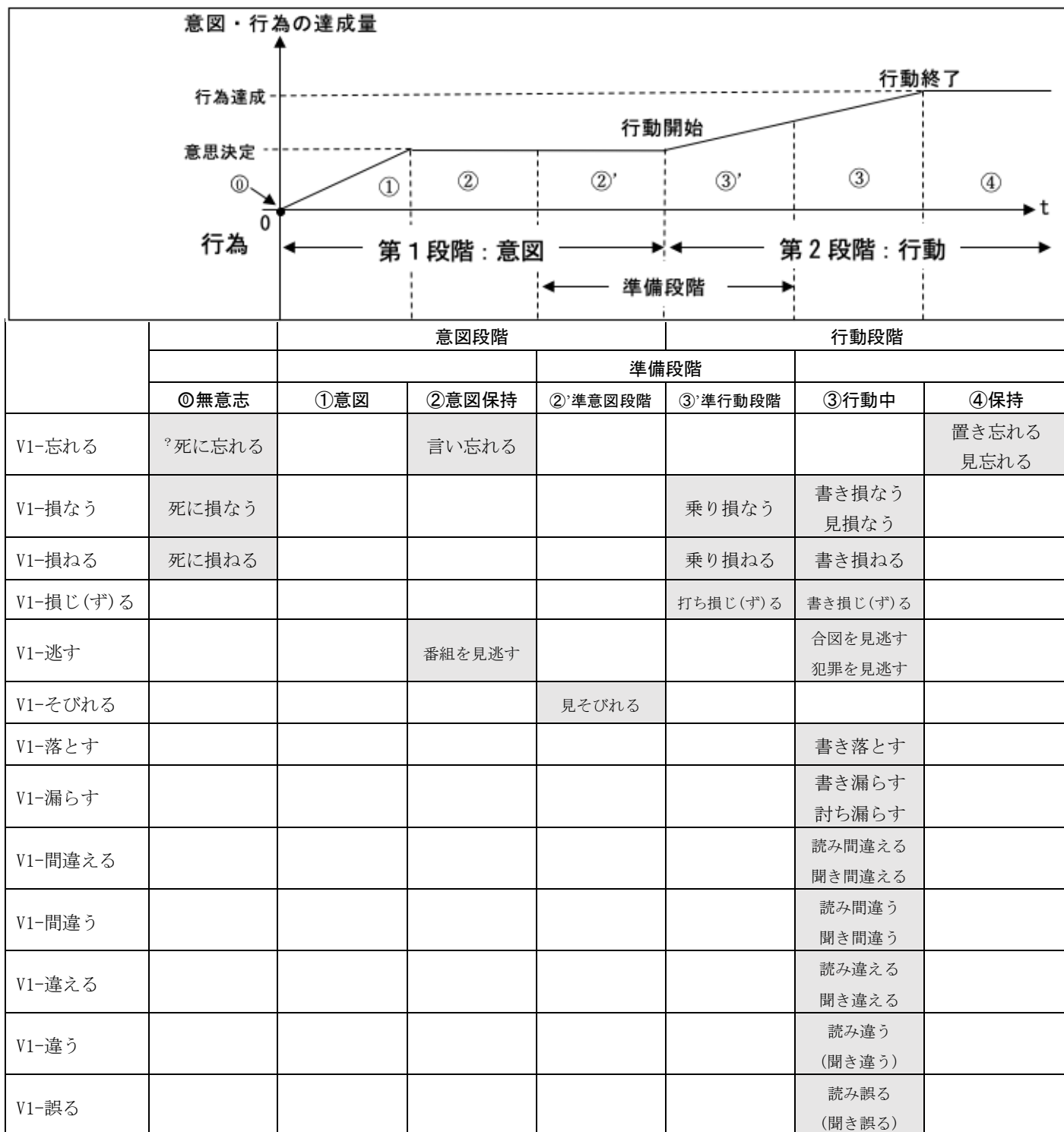


図3-6. 行為の過程から見る日本語の失敗を表す複合動詞 (図1-1の再掲)

### 3.3 中国語の行為の過程における失敗<sup>4</sup>

3.2 節では、日本語における行為の過程および失敗を表す複合動詞の位置づけについて見た。しかし、この行為の過程における失敗はそのまま中国語に当てはまるわけではない。それは日本語と中国語では意図段階と行動段階の範囲が異なっているためである。宮島 (1989) は日本語と中国語では動詞が表す動作の範囲が異なると指摘している。例えば日本語の「買う」とそれに対応する中国語の“买”について例 (3-1) の中国語は“买了三年没有买到”と言えるが、日本語は「3年買う」という表現は使えず、「3年経っても」と別の動詞を使用しなければならないことを指摘している。

(3-1) 古代，有个国王想用千金买一匹千里马。可是，买了三年没有买到。

(訳「昔，ある国王が千両で千里の馬を一頭買おうと考えていました。しかし，3年たっても買えませんでした。」)

(宮島 1989:179)

(例文 1-1 の再掲)

ここで宮島 (1989) は「千里馬を買う」における動作の段階として表 3-1 の左列を示し、このうち日本語の「買う」は 4~7 の段階のみを表し、中国語の“买”は 1~7 の段階を表すと述べている。

---

<sup>4</sup> 本節は南 (2021c) を元に加筆・修正したものである。

表 3-1. 「千里馬を買う」における動作の段階

宮島 (1989) 「買う」の段階	本研究の図 3-7 との対応	
	日本語	中国語
意図の段階	①②意図	①②意図
1. 千里馬のいる場所を探す	(買いそびれる・買いそこなう・買い逃す・買い忘れる)	③行動 (不能买・没买成)
2. 持ち主がわかる		
3. 持ち主のところへいく		
4. 値段その他の条件を交渉する	③行動 (買い間違える) <sup>5</sup>	(买错)
5. 条件について合意が成立する		
6. 金をはらう		
7. 馬の所有権が変わる		
8. 馬をつれてかえる	別の行為	別の行為

この宮島 (1989) の動作の段階を先の図 3-4 の行為の過程に当てはめたものを図 3-7 に示す。上が日本語の「買う」、下が中国語の“买”の行為の過程である。日本語の場合は、宮島(1989)の動作の段階のうち意図の段階および1～3が図3-7の①②意図段階にあたり、4～7が図3-7の③行動段階にあたる。一方、中国語の場合は宮島(1989)の意図の段階が①②の意図段階にあたり、2～7が③行動段階にあたる。図3-7で重要なのは第2段階と第3段階の間のグレーの部分である。すなわち、日本語の「買う」は意図段階に属すが、中国語の“买”の場合は行動段階に属するという違いがある。

<sup>5</sup> 日本語の行動段階の失敗を表す「V1-間違える」「V1-誤る」などは中国語でも行動段階にあてはまり、“V1-错”のように対応する形式が見られる。

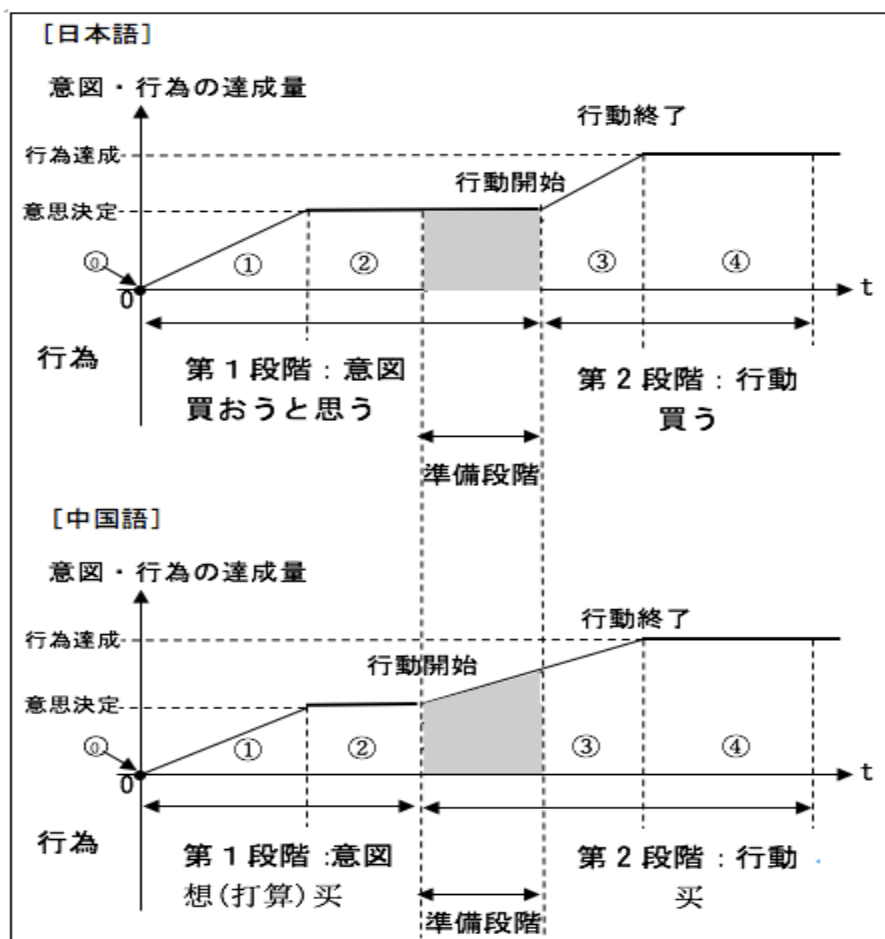


図3-7. 日本語の「買う」と中国語の“买”の表す範囲の違い

本研究では頭の中で「買おう」と思っているだけの意図の段階と図3-7のグレーの部分とを区別して、前者を意図段階、後者を準備段階（準意図段階および準行動段階<sup>6</sup>）と呼ぶことにする。ここで「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-忘れる」について見ると、「～しよう」と思っているがまだ実際の行為を行っていない②意図段階での失敗を表すが、中国語ではすでに③の行動段階での失敗とみなされる。日本語では意図段階の失敗を表すのに「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-忘れる」を使い、行動段階の失敗を表すのに「V1-間違える」「V1-誤る」「V1-落とす」などを使う。一方、中国語ではどちらも行動段階として捉えられ、“没能-V”や“没-V-成”などの失敗を表す表現を使用する。

<sup>6</sup> 準備段階を意図の段階の一部とみなす場合（準意図段階）と行動段階の一部とみなす場合（準行動段階）がある。



そのため、辞書では「V1-そびれる」などは“没能-V1”や“没-V1-成”と訳されている。しかし、例(3-2a)は表1の1~3の段階の失敗しか表せないが、例(3-2b)は1~3だけではなく4~7の段階での失敗も表せるため、意味にずれが生じている。

(3-2) a. 期間限定のアイスを買い {そびれ/損なっ/逃し/忘れ} た。

b. 我 {买没到/没能买} 限时特价的冰激淋。

私は期間限定のアイスを買えなかった。

このように「準備段階」は日本語では意図段階に入るのに対し、中国語では行動段階に入るとい違いがある。この違いを踏まえて、失敗を表す中国語の表現の位置づけを示すと次の図3-8のようになる。

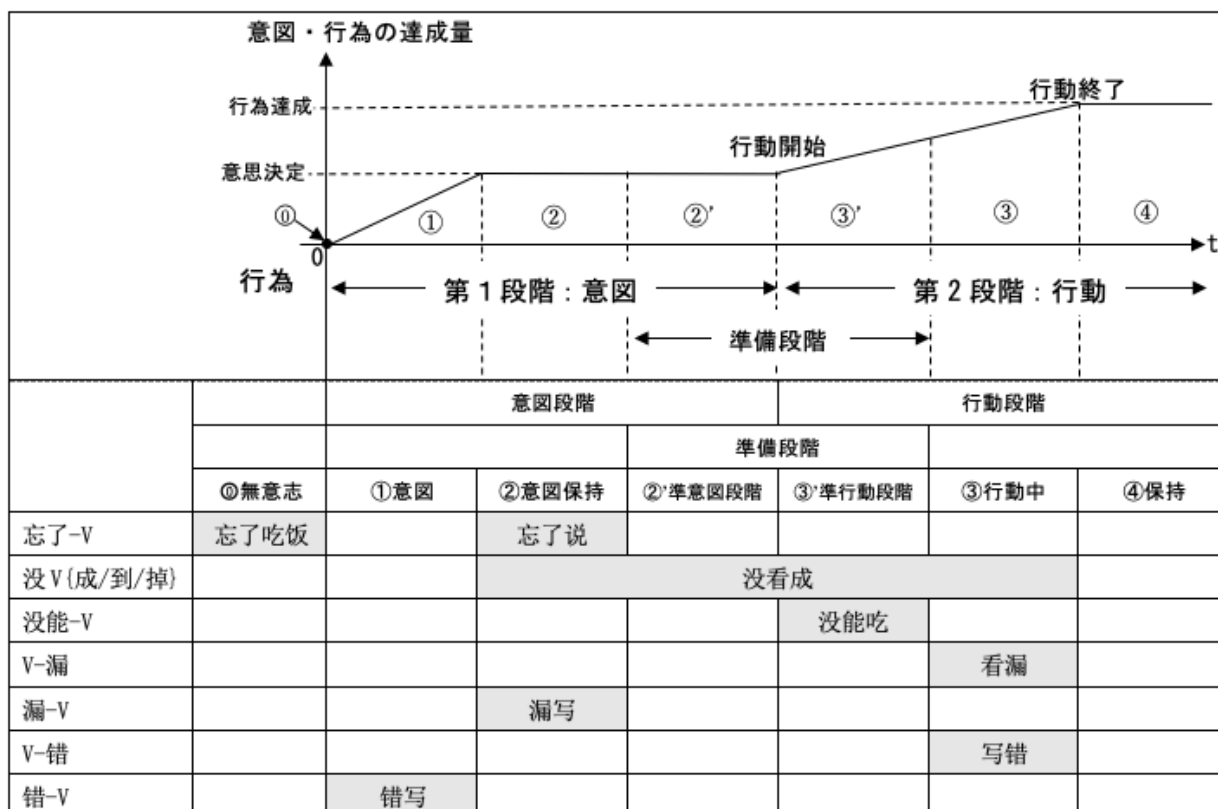


図3-8. 行為の過程から見る中国語の失敗を表す表現の位置づけ

本研究では日本語と中国語で動詞が示す動作の範囲が異なる点に留意しつつ、失敗を表す日本語の複合動詞と中国語の表現について考察していく。

### 3.4 3章のまとめ

本章では、失敗についての先行研究を概観したのち、本研究における行為の過程について考察した。本研究では失敗を「適切な行為からずれること」と捉え、行為の過程（意図段階と行動段階）の内どこかの段階で問題が生じた場合に生じると考える。本研究では行為の過程を「意図段階」と「行動段階」の2つに大別し、①更に意思決定するまでの段階、②その決定を保持する段階、③実際に行動開始し終了するまでの段階、④その結果を保持する段階の4つに下位分類した。更に意図段階と行為段階には準備段階が含まれる場合があることを指摘し、意図段階の一部とみなされる場合を「準意図段階」、行動段階の一部とみなされる場合は「準行動段階」と呼ぶことにした。

また、中国語にも日本語と同様に意図段階と行動段階があるものの、特に準備段階は中国語では行為段階に含まれ、主に意図段階に含まれる日本語とは違いがあることを指摘した。以下、4章から8章までそれぞれの複合動詞がこの行為の過程のうち、どの段階で生じる失敗かという観点から意味の違いを考察する。

## 第4章 「V1-忘れる」<sup>1</sup>

### 4.1 はじめに

本章では、日本語の「V1-忘れる」の意味について論じる。4.1 節では本章の構成と主張の要点について述べ、4.2 節では「V1-忘れる」の先行研究について概観する。

次いで4.3 節では本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」を比較して、両者の共通点と相違点について論じる。

続く4.4 節では国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の検索結果を基に、「V1-忘れる」「Vのを忘れる」「Vことを忘れる」と共起するV1の特徴を見る。

次に4.5 節では行為の過程における「V1-忘れる」の各用法の位置づけについて考察する。その結果、「V1-忘れる」は基本的に頭の中にあったことを思い出せないという「～することを失念する」という意味を表し、図4-1の②の部分(意図の保持段階)での失敗を表すことを指摘する。また、「V1-忘れる」には「(電車に傘を)置き忘れる」のような用法もある。これは「～して、それを失念する」という意味を表し、図4-2の④の部分(行動の保持段階)での失敗を表すことを指摘する。また、この場合の失敗には「彼の顔を見忘れた」のような「～したのを覚えていない」という用法もある。

なお、図4-1、図4-2のグレーの部分はV1の行為(意図および行動)が失敗せずに行われた範囲を示す。グレーの右端の上向きの矢印は、その時点でV1の行為が失敗したことを示す。(以下同様)

---

<sup>1</sup> 本章は南(2020a, 2021a)を元に加筆修正したものである。

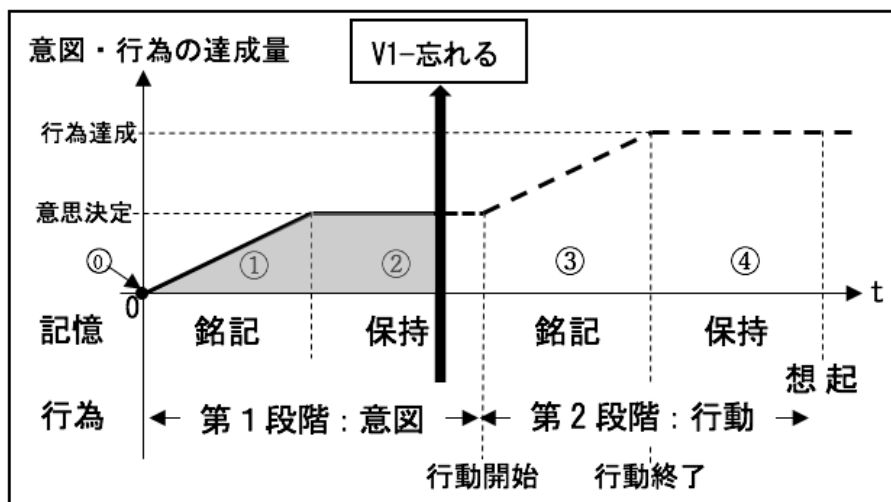


図 4-1. 行為の過程における「V1-忘れる」の位置づけ<sup>1</sup>

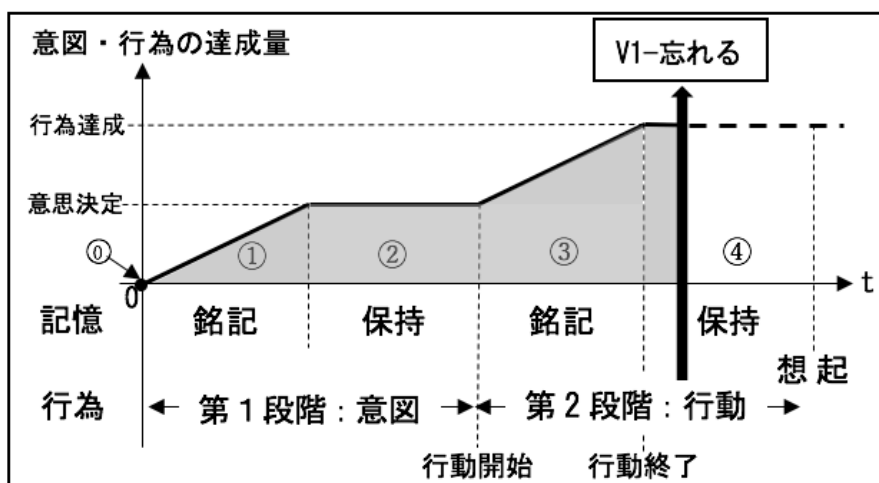


図 4-2. 行為の過程における「V1-忘れる」の位置づけ 2

更に補文の「V {の/こと} を忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」との違いについても分析する。その結果、「V {の/こと} を忘れる」には「時間が経つ {の/こと} を忘れる」のような図 4-1、図 4-2 の③段階での失敗を表すものや、「悲しむ {の/こと} を忘れる」のように「～すべきときにしなかった」という意味を表し、図 4-3 の①段階での失敗を表す場合があることを主張する。なお、少数ではあるが「死に忘れる」（「生き永らえてしまった」

<sup>2</sup> 図中の実践は期待通りに行為（意図と行動を含む）が進行した部分を示し、点線は期待通りに進行しなかった部分を示す。

という意味) のように「～すべきときにしなかった」という意味の「V1-忘れる」も図 4-3 の①段階での失敗を表すことを主張する。

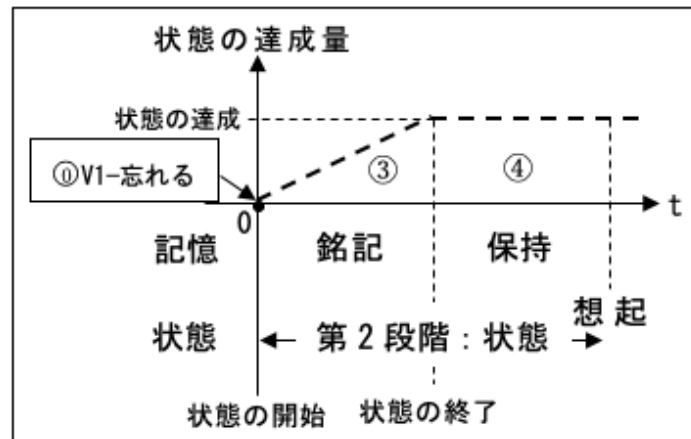


図 4-3. 行為の過程における「V1-忘れる」の位置づけ3

続いて 4.6 節では日本語の「V1-忘れる」と中国語の“忘了-V”を比較し、共起する動詞の違いによって対応関係があることを指摘する。

## 4.2 先行研究

本節では「V1-忘れる」について論じられている杉村 (2005, 2006, 2016)、薛婧宇 (2019) について概観し、本研究における「V1-忘れる」の意味分類を提示する。

### 4.2.1 杉村 (2005, 2006, 2016)

杉村 (2005, 2006) は「V1-忘れる」「V1-落とす」「V1-漏らす」<sup>3</sup>を対象に、検索エンジン goo を使用したインターネット検索および日本語話者へのアンケート<sup>4</sup>をもとに共起する

<sup>3</sup> 「V1-落とす」「V1-漏らす」については、第7章で取り上げる。

<sup>4</sup> 杉村 (2006) では日本語話者 50 人に対し、次のような 2 択の文法性判断テストを行っている。  
質問：次の日本語が正しいと思う場合は○を、不自然だと思う場合は×を括弧内に入れなさい。  
( ) 会い忘れる ( ) 締め忘れる… (その他合計 30 問)

V1の違いについて考察している。その結果、これらの複合動詞はいずれも「言う」「書く」のような他動詞と共起しやすいと述べている。更に、このうち「V1-忘れる」の意味について本動詞「忘れる」と比較し、次の①～③の3つがあることを指摘している。

表 4-1. 本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」の意味の対応（杉村 2016:53 の図 1）

本動詞「忘れる」	複合動詞「V1-忘れる」
①何かすることを失念する (例) 手紙を書くのを <u>忘れた</u> 。	①～することを失念する (例) 答案用紙に受験番号を <u>書き忘れた</u> 。
②うっかり放置したままにする (例) 電車で傘を <u>忘れた</u> 。	②～したことを失念し、うっかり放置したままにする (例) 電車で傘を <u>置き忘れた</u> 。
③記憶からなくなる (例) 親の顔を <u>忘れた</u> 。	③～したのを覚えていない (例) おいおい、俺の顔を <u>見忘れた</u> のか。
④何かに没頭して心そこに在らずの状態になる (例) 寝食を <u>忘れて</u> 働く。	(例) *借金を返すため、 <u>寝忘れて</u> ( <u>食べ忘れて</u> ) 働く。

このうち「置き忘れる」は②の意味だけでなく①の意味としても使われると述べている。しかし、本研究でBCCWJを検索した107例を見ると「置き忘れる」はすべて2の意味で使われており、①の「置いてくることを失念する」の意味で使われた例は出現しなかった。本研究では後者の場合、複合動詞ではなく「置く {の/こと} を忘れる」という補文の形で使われていることを指摘する。また、杉村(2005, 2006)では「V1-忘れる」と類義表現「V1のを忘れる」を比較して、両者とも他動詞と共起しやすく、自動詞とは共起しにくいと述べている。しかし、「Vのを忘れる」には「時間が経つのを忘れる」といった表現や、「悲しむのを忘れる」といった特殊な表現があり、その点については述べられていない。本研究ではこれらの「V1-忘れる」についても考察する。

更に、杉村(2016)では杉村(2006)と同様の文法性判断テストを用いて、日本語話者による「V1-忘れる」の許容度、中国人日本語学習者(N1合格レベル)による「V1-忘れる」の

許容度、中国語話者の“忘了 V1”の3つの許容度を比較している。その結果、次の4つの特徴があると述べている。

1. 中国語の“忘了 V1”よりも日本語の「V1-忘れる」のほうが V1 の制限が強い。
2. 日本語の「V1-忘れる」は他動詞の場合に許容度が高い。
3. 中国語の“忘了 V1”は他動詞全般で許容度が高く、意志自動詞でも日本語の「V1-忘れる」に比べて高めになる。
4. 中国人日本語学習者は日本語話者に近い許容度を示す。

杉村 (2016) は日本語の「V1-忘れる」の V1 について、日本語話者のアンケートだけでなく、中国人日本語学習者の結果と比較し、使用の傾向を見ている。しかし、中国語の“忘了 V1”がどのような意味を表すかについては、日本語と比較して考察しているわけではないため、本研究ではこの点について考察する。

#### 4.2.2 薛婧宇 (2019)

薛婧宇 (2019 : 41) は「動作主に何かの動作をする意図があるが、すべきことを忘却してしまい、着手できないまま失敗する意味で、「未着手」に分類される」とし、BCCWJ から「V1-忘れる」を、北京语言大学汉语语料库 (BCC) から“忘了-V”を抽出し、どのような動詞と共起するかについて考察している。その結果をまとめると表 4-2 のようになる。

表 4-2. 薛婧宇 (2019) の「V1-忘れる」と“忘了-V”

動詞分類		V1-忘れる	忘了-V	
意志動詞	動作動詞	1. 状態・位置変化動詞	食べ忘れる	忘了吃
		2. 授受・所有動詞	もらい忘れる	忘了拿
			*得忘れる	*忘得到
		3. 知覚・認識動詞	見忘れる	忘了看
		4. 言語伝達動詞	言い忘れる	忘了说
	5. 移動動詞	戻り忘れる	忘了回到	
		*来忘れる	忘了来	
	心理動詞	1. 感情動詞	*愛し忘れる	*忘了爱
			?楽しみ忘れる	— <sup>5</sup>
		2. 思考・判断動詞	考え忘れる <sup>6</sup>	忘了想
3. 意思・決定動詞	決め忘れる	忘了定		
無意志動詞	1. 変化動詞	寝忘れる	??忘了睡	
	2. 現象動詞	(雨が) *降り忘れる	*忘了下雨	

以上の調査から、薛婧宇 (2019) は日本語の「V1-忘れる」と中国語の“忘了-V”は両者共に動作動詞と共起しやすく、心理動詞および無意志動詞と共起しにくいことから、共起する動詞には同じ傾向があると述べている。しかし、薛婧宇 (2019) でも日本語では「来忘れる」が言えないのに対し、中国語では“忘了来”のように使用できるなどの違いも指摘されている。他にも、薛婧宇 (2019) では“\*忘了爱”が言えないと述べられているが、実施には使用できる例も見られる。従って、日本語では共起できないV1が中国語では共起できる例があるため、本研究では中国語の“忘了-V”の方が共起できる動詞の範囲が広いと考える。

<sup>5</sup> 「楽しみ忘れる」の中国語表現については示されていない。

<sup>6</sup> 薛婧宇 (2019) では、BCCWJからは出現しなかったが、インターネットからは出現したとして次の例を挙げている。

(i) もし、2つの課題の内、どちらも受け入れがたいのであれば彼の事を考え忘れる方向に持っていかなければならないと思います。(忘了考虑他事)

(<http://okwave.jp/qa/q6114693.html?by=helpful>) (薛婧宇 2019 の例 26)



このうち、「楽しみ忘れる」について、例(4-1)のような「映画」は誤用になるのに対し、例(4-2)のようなカジノであれば言えると述べている。

(4-1) 映画を\*楽しみ忘れた。(??忘了享受电影)

(薛婧宇 2019 : 45 の例 23)

(4-2) マカオ最後の夜は、ホテル内のレストランで夕食をとり、カジノを楽しみ忘れることのできない時間を彼女と過ごした。

(<http://meijus.blog96.fc2.com/category9-1.html>)

(薛婧宇 2019 : 45 の例 24)

しかし、薛婧宇(2019)が挙げている例(4-2)は「カジノを楽しみ、忘れることのできない時間を…」のような「楽しみ忘れる」という構造ではないと思われる。しかし、インターネット上では例(4-3)のような「楽しみ忘れる」が見られる。この場合、「楽しむべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味を表している。本研究ではこのような意味を持つ「V1-忘れる」についても論じることにする。

(4-3) 節分イベントを楽しみ忘れたので今更ながら豆を食べています。

(<https://www.pinterest.jp/pin/712765078522381351/>)

2021年8月4日閲覧

また、中国語に関して、薛婧宇(2019)では“??忘睡”はかなり不自然な用法であると述べているが、“忘睡”は「寝食を忘れる」という意味ではなく例(4-4)のような行為の失念を表す場合にも使用できる。

(4-4) 困了，别忘了睡会儿。(眠い。ちょっと寝るのを忘れないでね。)

(<http://m.yzhufu.com/pengyouzhufu/20151006/65735.html>)

2021年8月4日閲覧

この場合、日本語では「寝忘れる」ではなく、「寝る {の/こと} を忘れる」のように動詞句で表す。そのため、中国語の“忘了-V”と比較する場合は、「V1-忘れる」だけでなく、「V {の/こと} を忘れる」とも比較すべきである。

#### 4.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-忘れる」の意味分類

以上、先行研究では「V1-忘れる」に「～することを失念する」（例「受験番号を書き忘れる」）、「～したことを失念し、うっかり放置したままにする」（例「傘を置き忘れる」）、「～したのを覚えていない」（例「顔を見忘れる」）の3種類があることや、V1には他動詞が来やすいことが指摘されている。

これに対し、本研究では先に述べた行為の過程の観点から「V1-忘れる」には次の4つの用法があると考え<sup>7</sup>。

1. 「～することを失念する」（例「大根を買い忘れる」）
2. 「～して、それを失念する」（例「家に携帯を置き忘れる」）
3. 「～したのを覚えていない」（例「彼の顔を見忘れる」）
4. 「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」  
（例「死に忘れて今まで生きてしまった」）

以下、これらの用法について、本動詞との関係（4.3節）、共起するV1の特徴（4.4節）、行為の過程における「V1-忘れる」の各用法の位置づけ（4.5節）、中国語の“忘了-V”との比較（4.6節）を行い、それぞれの特徴を明らかにする。

#### 4.3 本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」の対応

<sup>7</sup> 本研究における1と2の「失念する」とは対象の物・出来事を思い出すことができない状態を意味する。

本節では本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」の共通点と相違点について論じる。まず、本動詞「忘れる」の持つ意味として、『基礎日本語辞典』および『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

『基礎日本語辞典』（森田 1989:261-262）

「忘れる」：記憶に留めたことが、記憶の中から消え去ること。

(1) “思い出せない” “覚えていない” “記憶から抜ける”

(例) 子供のころのことはすっかり忘れてしまった。

(2) うっかりして気が付かない。(=失念する)

(例) 時の経つのも忘れて話し込む。途中で手紙を出すのを忘れていた。

(3) うっかりしてそのまま置いてくる(=置き忘れる)

(例) 教室に傘を忘れた。

(4) 必要ないとして意識から除外する。(比喩的用法)

(例) 忘れたように痛みが取れる。

『明鏡国語辞典』（北原 2002:1774）

(1) 前に覚えていたことが思い出せなくなる。記憶がなくなる。

(例) 電話番号を忘れる。

(2) うっかりしてしなくてはならないことをしないでいる。し忘れる。

(例) 宿題を忘れる。／礼状を出し忘れる。

(3) うっかりして物を置いたままにする。

(例) 電車の中に傘を忘れる。

(4) しなくてはならないことをおろそかにする。

(例) 恩(感謝の心)を忘れる。

(5) 他のことに気をとられてしばらくそのことを意識しなくなる。

(例) 楽しさに時の経つのも忘れる。

(6) 意識して思い出さないようにする。

(例) 酒を飲んで憂さを忘れる。

以上の記述を「V1-忘れる」と比較すると、表4-3のようになる。

表4-3. 本動詞「忘れる」の意味と複合動詞「V1-忘れる」の意味

辞書における本動詞「忘れる」の意味		本研究における複合動詞「V1-忘れる」の意味
『基礎日本語辞典』	『明鏡国語辞典』	
① “思い出せない” “覚えていない” “記憶から抜ける” (例) 子供のころのことはすっかり <u>忘れて</u> しまった。	①前に覚えていたことが思い出せなくなる。記憶がなくなる。 (例) 電話番号を <u>忘れる</u> 。	①～したのを覚えていない (例) 彼の顔を見 <u>忘れる</u> 。
②うっかりして気が付かない。(=失念する) (例) 途中で手紙を出すのを <u>忘れて</u> いた。  時の経つのも <u>忘れて</u> 話し込む。	②うっかりしてしなくてはならないことをしないでいる。し忘れる。 (例) 宿題を <u>忘れる</u> 。 礼状を <u>出し忘れる</u> 。	②～することを失念する (例) 友達と写真を <u>撮り忘れる</u> 。
④うっかりしてそのまま置いてくる(=置き忘れる) (例) 教室に傘を <u>忘れた</u> 。	③他のことに気をとられてしばらくそのことを意識しなくなる。 (例) 楽しさに時の経つのも <u>忘れる</u> 。	—  (例) *時が <u>経ち忘れて</u> 話し込む。
④うっかりしてそのまま置いてくる(=置き忘れる) (例) 教室に傘を <u>忘れた</u> 。	④うっかりして物を置いたままにする。 (例) 電車の中に傘を <u>忘れる</u> 。	④～して、それを失念する (例) 家に携帯を <u>置き忘れる</u> 。
⑤必要ないとして意識から除外する。(比喩的用法) (例) <u>忘れた</u> ように痛みが取れる。	—	—
—	⑥意識して思い出さないようにする。 (例) 酒を飲んで憂さを <u>忘れる</u> 。	—
—	⑦しなくてはならないことをおろそかにする。 (例) 恩(感謝の心)を <u>忘れる</u> 。	—
—	—	⑧～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった (例) <u>死に忘れて</u> 今まで生きてしまった。

まず、①の「前に覚えていたことが思い出せなくなる」の意味に関して、本動詞「忘れる」には「子供の頃の記憶」や「電話番号」といった対象物に対して、記憶からなくなるという意味を持つ。一方、複合動詞「V1-忘れる」の場合は、「彼の顔を見忘れた」のような「見たことを覚えていない」という意味の「見忘れる」が対応している。なお、複合動詞の場合「見忘れる」以外にこの意味を表すものはない。

次に、②の「うっかりしてしなくてはならないことをしないている」と③の「他のことに気をとられてしばらくそのことを意識しなくなる」の意味に関しては、『基礎日本語辞典』では両者とも「うっかりして気が付かない」という意味としてまとめられている。しかし、「V1-忘れる」との対応を見た場合、②は「書き忘れる」や「出し忘れる」など対応した表現があるのに対し、③は「(時が) 経ち忘れる」とは言えず、対応した表現がないため、両者は分けて考えた方がよいと考えられる。

④の「うっかりして物を置いたままにする」の意味については、複合動詞では「置き忘れる」と対応している。

⑤⑥の「忘れる」は「前に覚えていたことを覚えていない」という意味を表し、⑦は「覚えておくべきことを覚えていない」という意味を表すため、いずれも①の派生的な用法であると考えられる。これらに対応する複合動詞「V1-忘れる」は見られない。

また、⑧の「V1-忘れる」は「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味を表す。この場合、V1に意図性はなく、行為の過程のうち「意図段階」がない点で特徴がある。例えば、例(4-5)の「死に忘れた」は「死のうと思っていて死ぬのを失念した」という意味ではなく、「気付かないうちに生きながらえてしまった」という意味で使われる。

(4-5) 80代ばあちゃんは「生きるの嫌になった」と言い、90代ばあちゃんは「確かに飽きてくる」と言うけど、かつて私が接した中でも最高齢の104歳のばあちゃんは「死に忘れた」と言って朝起こしに行くと「どうも、今日も生き残りました」と敬礼する人だった。

(<https://twitter.com/0rororeo/status/1300956309550821376>)

2020年11月5日閲覧

しかし、これを敢えて「V1-忘れる」という表現を取ることによって、「死ぬべきであった（のに死ななかった）」ということを皮肉っぽく述べた表現となっている。このような表現はさほど広く使われているわけではないが、インターネットからはいくつか例が出現する。一方、これに対応する本動詞「忘れる」には「悲しむことを忘れる」などの表現がある。例えば、例(4-6)の「悲しむことを忘れた」は「悲しむべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味を表す。

(4-6) ひょっとすると今の若者たちは悲しむことを忘れてしまったのではないかと  
思えることがあるのです。

(五木寛之『生きるヒント』)

このような「忘れる」は『基礎日本語辞典』や『明鏡国語辞典』には記述されていないが、インターネットからはいくつか例が出現する。これはすべきことの失念を表すという点では⑦の「恩を忘れる」に似ているが、「恩を忘れる」は主体が明確に意識していたかどうかは別にして、恩を覚えておこうという意図段階があるのに対し、この「忘れる」は「悲しむこと」のように無意志動詞に形式名詞「こと」が付いたものを対象に取り、意図段階がない点で違いがある。

また、②にもあるように、本動詞の「忘れる」には対象に動詞句をとる「V {の/こと} を忘れる」という表現がある。これは複合動詞の「V1-忘れる」に言い換えられる場合もあれば、言い換えられない場合もある。この点についてまとめると表4-4のようになる。本研究では「V1-忘れる」と「Vの忘れる」「Vことを忘れる」を比較して、それぞれどのようなV1と共起するのか(4.4節)、それぞれ行為の過程のどの段階の失敗か(4.5節)を考察する。

表4-4. 「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」の意味の対応

意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる
1. ～することを失念する	書き忘れる	書くのを忘れる
2. ～して、それを失念する	置き忘れる	—
(～したことを失念する)	—	書いたのを忘れる
3. ～したのを覚えていない	顔を見忘れる	—
4. ～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	死に忘れる	死ぬのを忘れる
5. ～していることに気づかない	—	(時間が) 経つのを忘れる

#### 4.4 共起するV1の特徴

本節では「V1-忘れる」「V のを忘れる」「V ことを忘れる」がどのようなV1と共起するかについて、BCCWJから中納言を使用して抽出する。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ
検索方法：短単位検索
検索条件：「V1-忘れる」キー：品詞-大分類-動詞
後方共起条件1：語彙素読み「ワスレル」
「V {の/こと} +格助詞+忘れる」キー：品詞-大分類-動詞 <sup>8</sup>
後方共起条件1：語彙素読み「コト/ノ」
後方共起条件2：語彙素読み「ヲ/モ/ハ/φ」
後方共起条件3：語彙素読み「ワスレル」

以上のようにして検索した結果、「V1-忘れる」の延べ語数は607語、V1の異なり語数は79語、「V のを忘れる」の延べ語数は652語、異なり語数は180語、「V ことを忘れる」の延べ語数は788語、異なり語数は196語であった。表4-5～表4-7はそれぞれ「V1 忘れる」

<sup>8</sup> 本研究では「V {の/こと} を忘れる」の形式のうちVがル形のみを検索した。

「Vのを忘れる」「Vことを忘れる」のV1の出現数上位20位までを示したものである。各表の割合(%)は延べ語数における出現率を表す。

表4-5. 「V1-忘れる」  
と共起するV1

延べ語数：607語  
異なり語数：79語

	V1	数	%
1	置く	10	17.6
2	言う	50	8.2
3	する	47	7.7
4	撮る	43	7.1
5	書く	42	6.9
6	買う	36	5.9
7	入れる	29	4.8
8	飲む	20	3.3
9	聞く	19	3.1
10	取る	18	3.0
	消す		
12	閉める	15	2.5
13	掛ける(施錠)	13	2.1
	仕舞う		
15	見る <sup>9</sup>	12	2.0
16	出す	8	1.3
17	見る <sup>10</sup>	7	1.2
18	貼る	5	0.8
19	歌う	4	0.7
	掛ける		
	打つ		
	納める		
	付ける		

表4-6. 「Vのを忘れる」  
と共起するV1

延べ語数：652語  
異なり語数：180語

	V1	数	%
1	する	95	14.6
2	経つ	60	9.2
3	撮る	23	3.5
	てくる		
5	ている	22	3.4
6	入れる	20	3.1
	聞く		
	言う		
9	行く	13	2.0
10	取る	10	1.5
	という		
12	出す	9	1.4
	買う		
	書く		
15	いる	8	1.2
	ておく		
	持っていく		
18	ていく	7	1.1
	更ける		
	見る		

表4-7. 「Vことを忘れる」  
と共起するV1

延べ語数：788語  
異なり語数：196語

	V1	数	%
1	という	144	18.3
2	である	132	16.8
3	ている	80	10.2
4	する	67	8.5
5	ある	56	7.1
6	いる	24	3.0
7	ておく	13	1.6
8	なる	10	1.3
9	付け加える	7	0.9
10	そういう	6	0.8
11	にする	5	0.6
12	褒める	4	0.5
	見る		
14	悲しむ	3	0.4
	書く		
	できる		
	飲む		
	入れる		
	居る		
	てくる		
	とる		
	言う		
	立てる		

<sup>9</sup> この「見る」は「見ることを忘れる」という意味で使われたものである。

<sup>10</sup> この「見る」は「俺の顔を見忘れたのか？」のように「見たことを覚えていない」という意味で使われたものであるため、注9の「見る」と分けて記載する。



表 4-5 の「V1-忘れる」の場合、「言う」「撮る」「入れる」「聞く」「見る」「取る」「出す」「付け加える」など他動詞と共起した場合は、「を」格に来る対象の存在を忘れるという意味で「1. ～することを失念する」という意味を表し、「置く」「入れる（一部）」「仕舞う」といった設置動詞と共起した場合は「2. ～して、それを失念する」という意味を表し、「見る②」と共起した場合は「3. ～したのを覚えていない」という意味を表す。一方、表 4-6 の「V のを忘れる」の場合は、「する」「撮る」「入れる」「言う」などの他動詞および「行く」などの自動詞と共起した場合は「1. ～することを失念する」という意味を表し、「経つ」「更ける」といった時間の経過を表す自動詞と共起した場合は「3. ～していることに気がつかない」という意味を表す。また、表 4-7 の「V ことを忘れる」の場合は、「する」「付け加える」「見る」「書く」「飲む」などの他動詞と共起した場合は「1. ～することを失念する」という意味を表し、「という」「ている」「である」などの補助動詞および「ある」「いる」など存在動詞と共起し「5. ～していることに気がつかない」という意味を表し、「褒める」といった他動詞だけでなく、「悲しむ」のような自動詞と共起した場合には「4. ～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味を表す。

次にそれぞれの形式別の特徴を見る。まず、「V1-忘れる」について、先行研究でも指摘されているように、「言う」「撮る」「書く」といった動作動詞、とりわけ「を」格に作用の向けられる対象が来る他動詞が上位に来ることが分かる。例えば、「歌い忘れる」の場合、「歌う」という行為そのものを忘れたのではなく、例 (4-7) のように「自分のパート」という一部分に対して失念した場合に「V1-忘れる」が使用されている。この場合、「V {の/こと} を忘れる」も使用できる。しかし、例 (4-8) のように、「歌う」という行為そのものを完全に忘れた場合、「歌い忘れた」は不自然になり、「V {の/こと} を忘れる」で表す。

(4-7) 4人で歌う時は自分のパートを歌い忘れる (/歌うのを忘れる) が多かった  
気が…

(Yahoo! ブログ)

(4-8) 利用者様にも一緒に歌をうたってもらおう予定で、午前中に練習をしましたが、そのきれいな音色に聞き惚れてしまい歌うのを忘れた (/ ? 歌い忘れた) 利用者さんでした…。

(<https://gururi-hanauta.com/>花うたは5周年を迎えました🌸/)

2021年12月20日検索

次に表4-6の「Vのを忘れる」と共起するV1について見る。「Vのを忘れる」は「V1-忘れる」と同様に「撮る」や「聞く」など動作動詞のうち「を」格に作用の向けられる対象が来る他動詞が多い。その他、「Vのを忘れる」には例(4-9)のようにV1に時間を表す「経つ」「更ける」をとるものがある。「経つ」はBCCWJの検索結果(表4-6)では2番目に多く出現している。

(4-9) 大人たちは時間の経つのも忘れて楽しめます。

(佐藤よし子『英国スタイルの家事整理術』)

今回出現した「経つ」60件の構造の内訳を表4-8に示す。全体の60%が「も」で出現しており、更に「経つのも忘れて」という構造を持つものは全体の33.3%も見られた。BCCWJで検索された母数が少ないが、他の構造はそれぞれ1~4件しか見られないことから、ある程度パターン化されていることが分かる。

表 4-8. 「経つ」が現れる構造

V1	助詞	V2	語尾	後続表現	数 (%)		
経つの	も	忘れ	て	、	19	20 (33.3)	
			れ	、	1		
			る	ほど	2	5 (8.3)	
				N (名詞)	2		
				。	1		
			た	ように	1	4 (6.7)	
				が	1		
				N (名詞)	1		
				。	1		
			ていた	。	1	3 (5.0)	
	終助詞			2			
	てしまう		。	2	2 (3.3)		
	てしまった		かのように	1	1 (1.7)		
	そう		。	1	1 (1.7)		
	を		忘れ	る	。	2	9 (15.0)
					ほど	2	
					など	1	
					N	1	
					終助詞	1	
					という	2	
				てしまう	。	3	6 (10.0)
					だろう	1	
					ほど	1	
かも		1					
た		。		4	4 (6.7)		
てしまった		。		2	2 (3.3)		
ていた		。		1	1 (1.7)		
て	れ	1	1 (1.7)				
てしまっていた	。	1	1 (1.7)				

これは4.3節でも述べたように、本動詞「忘れる」の「他の事に気をとられて意識しない」という意味を持つものであり、「～していることに気づかない」という意味を表す。

最後に表4-8の「Vことを忘れる」の特徴について見る。「Vことを忘れる」は「V1-忘れる」や「Vのを忘れる」と同様に、「書く」や「見る」など動作動詞に付く。

また、「悲しむ」のような無意志自動詞との共起が見られる。これは、例(4-10)のような使い方、「悲しむべき時に悲しむことをしなかった」というチャンスを逃したという意味を表している。

(4-10) ひょっとすると今の若者たちは悲しむことを忘れてしまったのではないか、  
と思えることがあるのです。

(五木寛之『生きるヒント』)

(例4-6の再掲)

このような表現は「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意図していない事柄の失念の意味を表す。他にも、「Vことを忘れる」には例(4-11) (4-12)のような「ある」「いる」といった状態動詞(存在動詞)が上位に見られる。

(4-11) 入手に時間がかかることがあるので、手配は早めにしておく必要があることも  
忘れてはならない。

(中森勇人『SEとして生き抜くワザ』)

(4-12) だけど、ここだけはまるで別世界のように、街中にいることを忘れさせてく  
れる。

(沖田雅『先輩とぼく』)

以上のように、「V1-忘れる」には4.3節の表4-4でも示した次の5つの用法が見られる。

1. ～することを失念する
2. ～して、それを失念する

- 3. ～したのを覚えていない
- 4. ～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった
- 5. ～していることに気づかない

次の 4.5 節では、上記の 5 つの意味がそれぞれどの段階における失敗を表すかについて考察する。

#### 4.5 行為の過程における「V1-忘れる」の位置づけ

本節では 3 章で述べた行為の過程のうち、「V1-忘れる」がどの段階における失敗を表すのかについて考察する。苧阪 (2014) では「忘れる」は「記憶する」が持つ「銘記 (符号化) ・保持 (貯蔵) ・想起 (検索)」の 3 つの段階のうちどこかの段階でうまくいかなければ忘れることになる」と説明している。これを受け、3 章で示した行為の過程のうち、どの部分が「銘記・保持・想起」に相当するのかを示すと図 4-4 のようになる。

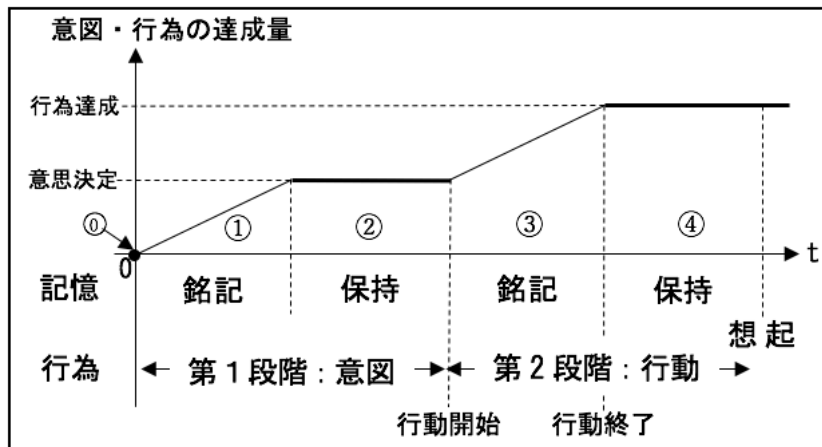


図 4-4. 行為の過程における記憶の段階

例えば「言う」の場合、「言おう」と頭の中で銘記し (①)、その記憶を保持し (②)、それを忘れずに行えば「言う」という行為が成立する。この行為が行われるのと同時に頭の中に行為を行った記憶が銘記されていく (③)。その後、「言う」という行為を行ったとい

う記憶が保持される(④)。この銘記された記憶を後で思い出すのが想起である。「忘れる」は銘記した記憶を保持できない場合に起こるものであり、主に意図の記憶の保持段階(②)と行動の記憶の保持段階(④)で生じる。

本研究では「V1-忘れる」を「～することを失念する」「～して、それを失念する」「～したのを覚えていない」「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」「～していることに気づかない」の5つの用法に分類し、それぞれの用法が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかについて考察する。

#### 4.5.1 「～することを失念する」の意味の場合

まず、「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」が「～することを失念する」という意味を表す場合について考察する。例えば、例(4-13)の「撮り忘れる」の場合、心の中で「写真を撮ろう」と決め(①)、その記憶を保持(②)していたが、実際に写真を撮る前に失念してしまい、行動まで至らなかったことを表している。意図の保持段階(②)での失敗となるため、図4-5のようになる。この場合、「V {の/こと} を忘れる<sup>11)</sup>」という表現と言い換えられる。

(4-13) ラーメンの外袋の写真撮り忘れ (/撮るのを/撮ることを) 忘れちゃいました  
た・・・・・・・・。でも、どこかの有名ラーメンシリーズです。

(Yahoo!ブログ)

---

<sup>11)</sup> 本研究では「の」と「こと」の違いについては考察の対象としないことにする。

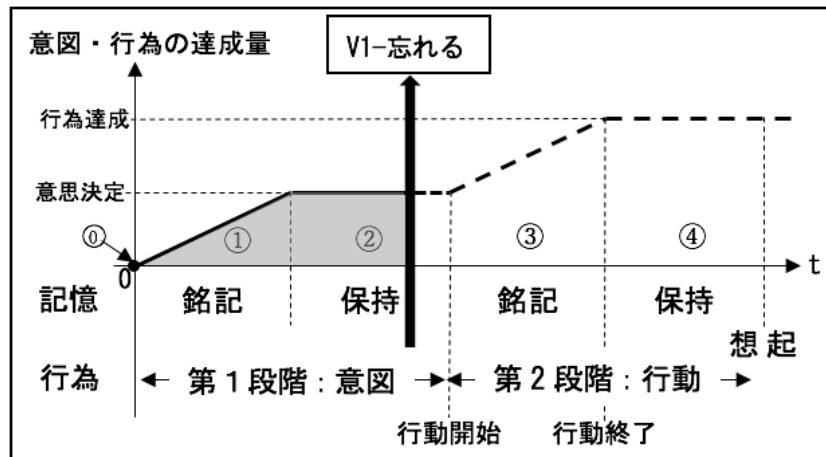


図 4-5. 行為の過程における意図の保持段階での失敗「V1-忘れる」（図 4-1 の再掲）

先のコーパス調査の結果からも分かるように、この用法の場合、V1 には例 (4-14) 「大事なことを言い忘れる」のように「を」格に作用の向けられる対象（対格名詞句）が来る他動詞と共起しやすい。また、例 (4-14) 「言い忘れる」は「言うのを忘れる」のように V1 と V2 が主述の関係を持つ。

(4-14) あっ、そうそう、大事なことを言い忘れるところでした。

（堀内伸浩『「書く」マーケティング』）

一方、「走る」や「寝る」のような自動詞の場合は、「走り忘れる」、「寝忘れる」と言うのは不自然で、「寝るのを忘れる」、「走るのを忘れる」と言う方が自然である<sup>12</sup>。

以上で見たように、「V1-忘れる」は意図の保持段階（②）で失敗した場合に「～することを失念する」という意味を表す。この場合、「V（ル形）のを忘れる」と言い換えられるが、「V（ル形）のを忘れる」は他動詞も自動詞も取るのに対し、「V1-忘れる」は V1 に他

<sup>12</sup> 影山（1993:155）では寝るのを忘れるほど仕事に熱中しても「\*寝忘れる」が言えないため補文の中に目的語が必要であり、「手紙を出し忘れる」は結局「手紙を忘れる」ことだと述べている。なぜ「忘れる」は自動詞を前項に取らないのかについては今後の課題とする。

動詞でも特に「を」格に作用の向けられる対象（対格名詞句）が来る動詞を取りやすく、自動詞は取りにくいという違いがある。

#### 4.5.2 「～して、それを失念する」の意味の場合

次に「V1-忘れる」が「～して、それを失念する」の意味を表す場合について見る。これは図4-6における行動の保持段階（④）での失敗を表す。実際に行われた行為を実線、こうあるべきであると期待される行為を点線で示す。

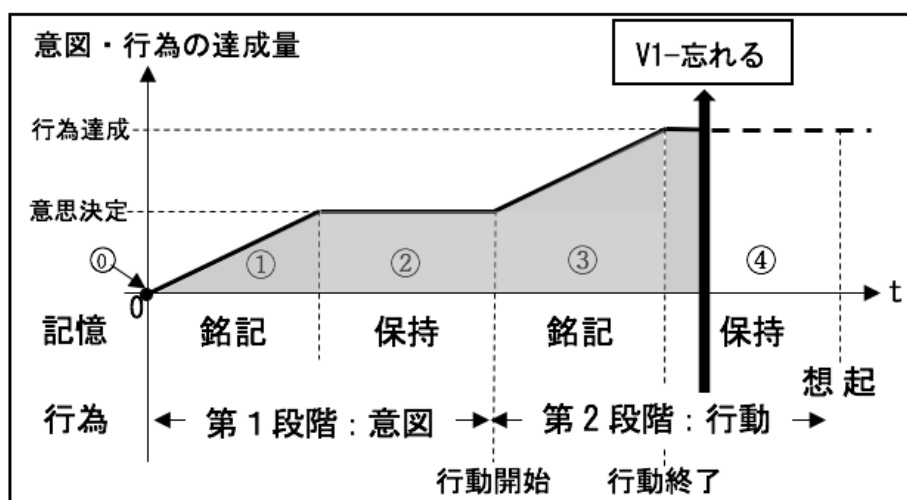


図4-6. 行為の過程における行動の保持段階での失敗「V1-忘れる」（図4-2の再掲）

例えば、例(4-15)の「入れ忘れる」の場合、ロースビーフをオープンの中に入れようと思い（①）、その記憶を保持し（②）、行動に移してその行為を達成した（③）までにはいいが、この「入れる」という行為の記憶を保持している段階（④）で、入れた対象であるロースビーフを失念してしまうという失敗を表す。また、「～して、それを失念する」の場合、「言い忘れる」が「言うのを忘れる」のように主述の関係になるのに対し、「～することを失念する」の意味の場合、「入れ忘れる」が「Aを入れて、Aを忘れる」のようにV1とV2が並列の関係になっている点で異なる。



(4-15) 一貫目のロースビーフをオープンの中へ入れ忘れたまま、真黒にするようなへまばかりを仕出かした。

(椎名麟三『作家の自伝』)

前節の「V1-忘れる」が V1 をすること自体の失念を表すのに対し、本節の「V1-忘れる」は V1 をした後に、V1 をしたことを失念し、対象を放置したままにするという失敗を表すという違いがある。この場合、例 (4-15) の「入れる」や「置く」「仕舞う」のような設置動詞が使われる。このうち、BCCWJ では「入れ忘れる」は 30 件中 1 件、「仕舞い忘れる」は 14 件中 1 件しか「～して、それを失念する」という意味で使用されていなかった。しかし「置き忘れる」は 107 件すべて「～して、それを失念する」の意味で使用されており、「～することを失念する」の意味の場合は「置くことを忘れた」や「置くのを忘れた」の形で使用されていた。杉村 (2005) では、「置き忘れる」には「～することを失念する」の意味と「～して、それを失念する」の意味の両方があるとしているが、実例ではほとんど「～して、それを失念する」の意味で使われていることが分かる。

表 4-9 は国立国語研究所の「日本歴史コーパス (CIJ)」から中納言を使用して、「キー：品詞-動詞、後方共起条件 1：語彙素読み-ワスレル」で検索した V1 を時代別にまとめたものである。全体の出現数は少ないものの、近世 (江戸) までは例 (4-16) ～(4-18) のように「思ふ (思う) ・取る・棄つ (棄てる)」などの接頭語がついたものや、例 (4-19)、(4-20) のように「見る・置く」について④段階の失敗である「～して、それを失念する」を表すものしか見られない。

(4-16) 年ごろすこし思ひ忘れたまへりつるを、あさましきまでおぼえたまへるかなと見たまふままに、

(紫式部『源氏物語、賢木』 (平安))

(4-17) 夜深く、外宮の宮人常良がもとより、「本宮へつくべき便り文を取り忘れたる、遣はす」とて、立ち帰る波路と聞けば

(後深草院二条『とばずがたり、卷四』 (鎌倉))

(4-18) この世のことは棄て忘れはべりぬるを、ものの切にいぶせきをりをりは搔き鳴らしはべりしを、

(紫式部『源氏物語, 明石』 (平安))

(4-19) 俊寛と言う人の行方を知ったかと、問うに：童は見忘れたれども、俊寛は何故に忘れうぞなれば、

(作者不明『天草版平家物語, 巻第一・第十二』 (室町))

(4-20) 酔て倒れし転寝のひぢ枕せしかたはらにしよんぼりとして見かへれば誰がおきわすれし一冊の小本をとりて繰かへし小声に読は女の癖

(為永春水『春色梅児与美, 三編巻の七』 (江戸))

しかし、近代(明治、大正、昭和)から例(4-21)のように②段階の失敗である「～することを失念する」の用法が見られるようになる。

(4-21) 電話の番號は上の三百十六番どすわ。前に言ひ忘れたが、私はお町と一緒に所帯を持つたとは云ふものの、全然自宅を離れて仕舞ふことは家の都合上如何しても許されなかつた。

(森田草平『太陽一反魂香』 (大正))

(4-22) すつかりすましてしまつて、彼女を寢床にやすらかにした時には、閉ざしわすれてあつた彼女の寢室の硝子窓には、カーテンを通して、月の光りばかりではなく幽にもう曉の白みそめた氣配がうごいてゐた。

(三上於菟吉『太陽一長篇小説 蛇人(第十二回)』 (大正))

つまり、現在「V1-忘れる」は②「～することを失敗する」の意味を持つものが多いが、近世(江戸)以前は④「～したことの失敗」の意味で使われていたと考えられる<sup>13</sup>。

<sup>13</sup> 同様のことは「V1-かける」でも指摘されている。菊田(2008:132)では「V1-かける」について「複合動詞も上代から観察されるが、上代の複合動詞は一般にまだ未発達だったとされ、全体の一体化は進んでいなかった。そのため、形態的には複合動詞であっても、意味は並列的(「V1して、V2する」)のようなものと考えられる」と述べている。

表 4-9. 「V1-忘れる」の歴史的変移（出現数）

	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	明治	大正	昭和
見④	1	1	1	3	7	3	0	1
思ひ	1	16	14	1	2	0	0	0
賜ひ	1	0	0	0	0	0	0	0
思し	0	17	1	0	0	0	0	0
思し召し	0	2	0	1	0	0	0	0
取り	0	2	1	1	0	0	0	0
すて	0	2	0	0	0	0	0	0
思ほし	0	1	0	0	0	0	0	0
ご覧じ	0	0	1	1	0	0	0	0
置き④	0	0	0	0	1	5	5	3
寝	0	0	0	0	1	0	0	0
打ち	0	0	0	0	0	18	2	0
言い①	0	0	0	0	0	1	2	0
返さ①	0	0	0	0	0	1	0	0
閉ざし①	0	0	0	0	0	0	1	0
就き①	0	0	0	0	0	0	1	0
紛れ①	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	3	41	18	7	12	29	13	4

「V {の/こと} を忘れる」の場合、Vをタ形にすることで「～したことを失念する」というすでに行った行為の記憶を覚えていないという意味を表すことができる。この場合、例(4-23)の「読む」のような他動詞とも、例(4-24)の「ある」のような自動詞とも共起することができる。なお、例(4-25)の「入れ忘れる」のような「～して、それを失念する」の放置の意味を表す場合も「入れた {の/こと} を忘れる」と言い換えができる。しかし、「入れ忘れる」のような複合動詞の場合、対象を覚えていない事を表しており、「～して、それを失念する」という対象の失念を表す。一方、「入れたのを忘れる」のような「V (タ形) {の/こと} を忘れる」の場合は、「入れた」という行為を覚えていない事を表しており、「～したことを失念する」という行為の失念を表す点で異なる。

(4-23) この小説を読んだ {の/こと} を忘れる。

(4-24) 宿題があった {の/こと} を忘れてた。

(4-25) 一貫目のロースビーフをオープンの中へ入れ忘れた (/入れた {の/こと} を忘れた) まま、真黒にするようなへまばかりを仕出かした。

(椎名麟三『作家の自伝』) (例 4-15 の再掲)

以上で見たように、「V1-忘れる」は行動の保持段階 (④) で失敗した場合に「～して、それを失念する」という意味を表す。この場合、「V (タ形) {の/こと} を忘れる」と言い換えられるが、「V (ル形) のを忘れる」は他動詞も自動詞も取り、「～したことを失念する」という行為の失念を表すのに対し、「V1-忘れる」はV1に他動詞のうち「置く」などの設置動詞と共起し、「～して、それを失念する」という対象の失念を表す点で異なる。

#### 4.5.3 「～したのを覚えていない」の意味の場合

次に「V1-忘れる」が「～したのを覚えていない」を表す場合について見る。「V1-忘れる」の場合「見忘れる」にのみ該当する。行為の過程のうち「～して、それを失念する」と同様に行動の保持段階 (④) での失敗を表す。「～して、それを失念する」と異なるのは、例えば例 (4-26) の場合、V1 の出来事自体が記憶からなくなり「～したのを覚えていない」という意味を持つ。これは「～して、それを失念する」の意味を持つ「Aを置き忘れる」が「Aを置いて、Aを忘れる」という並列の関係を持つと同様に、「Aを見忘れる」が「Aを見て、Aを忘れる」のように並列の関係を持つ。

(4-26) 病気がかなり悪化してから親父は人の顔をほとんど見忘れるほどだったが、  
(長門裕之『洋子へ』)

BCCWJで抽出したもののうち、「～することを失念する」という意味での「見ることを忘れる」は12件あるのに対し、「見たのを覚えていない」という意味は7件であったが、この7件は1960年以前に使用されていた。

また、この場合、「V {の/こと} を忘れる」と言い換えた場合、例 (4-27) のように「～することを失念する」という V1 が行われていない意図段階の失敗の意味であり、「～したことを覚えていない」という行動段階の失敗の意味にはならない。「覚えていない」ということを表す場合は、例 (4-28) のように「(名詞) を忘れた」と表現する。

(4-27) 病気がかなり悪化してから親父は人の顔をほとんど見忘れる (/ ? 見る {の/こと} を忘れる) ほどだったが、…

(4-28) 病気がかなり悪化してから親父は人の顔をほとんど忘れるほどだったが、…

以上のことから、「～したことを覚えていない」という意味を表す場合、「～して、それを失念する」と同様に行動の保持段階 (④) での失敗に該当する。この意味を持つものは「見忘れる」しか見られず、「V {の/こと} を忘れる」では表現できない。また、この用法は BCCWJ から、現代ではあまり使用されていない用法の可能性があることから、古い時代にあった意味が「見忘れる」だけに固定化し一語化した用法であることを示唆した。

#### 4.5.4 「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」の意味の場合

次に「V1-忘れる」が「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」の意味の場合について見る。「V1-忘れる」について見る前に、まず「V ことを忘れる」の形の場合について見る。BCCWJ からは「V ことを忘れる」のうち、例 (4-29) の「悲しむ」のような無意志自動詞と共起し、「悲しむべき時に悲しむことをしなかった」というチャンスを逃したという意味を表す表現が見られた。

(4-29) ひょっとすると今の若者たちは悲しむことを忘れてしまったのではないかと、  
 と思えることがあるのです。

(五木寛之『生きるヒント』)

(例 4-6, 4-10 の再掲)

この場合、共起する動詞には他にも例(4-30)、(4-31)の「泣く」「愛する」のように主体の状態を表す無意志動詞が来る。

(4-30) その都度少女であったユリエは、泣くことも忘れて、呆然としていたものである。

(阿久悠『恋歌ふたたび』)

(4-31) ラプンツェルはいままで王子に、かわいがられることばかり考えていました。  
王子を愛することを忘れていました。

(太宰治『走れメロス』)

図4-7は主体の状態の過程における記憶の段階を表したものである。これは無意志の状態を表すため4.5節の図4-4と違い、意図の段階(①②)がない。例(4-29)の「悲しむことを忘れる」の場合、「悲しむ」という状態の実現(③)が実現しなかったという意味を表すため、「状態の開始」の前の段階(④)における失念を表している。

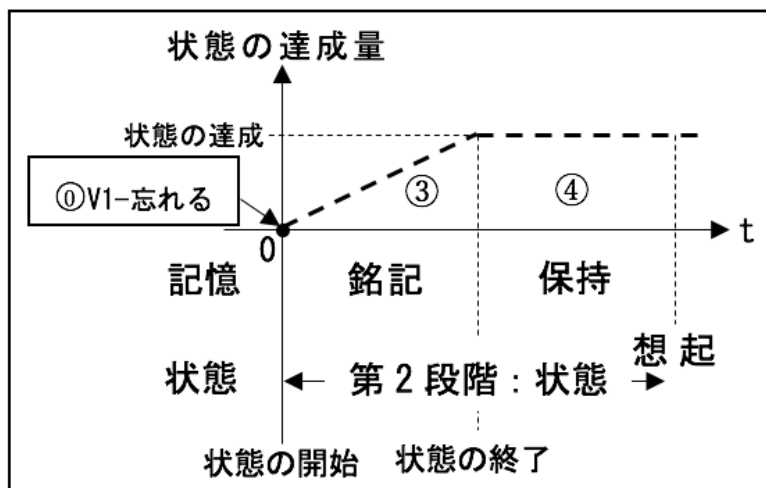


図4-7. 行為の過程における状態の④段階での失敗「V1-忘れる」

「Vのを忘れる」の形はBCCWJからは出現しなかったが、インターネットからは例(4-32)のような例が見られた。

(4-32) ドラマや映画にどっぷり浸ることで悲しむのを忘れてしまうという効果があるのです。

(<https://www.statusparty.jp/lightup/heartbreak-recovery-method/>)

2020年11月5日閲覧

また、複合動詞「V1-忘れる」がこの意味を表す例はBCCWJからは出現しなかったが、インターネットからは例(4-33)の「死に忘れる」のような例が見られた。これは「死のうと思っていて死ぬのを失念した」という意味ではなく、「気付かないうちに生きながらえてしまった」という意味を表す。実際にすべきことを忘れていたわけではないが、敢えて「V1-忘れる」という表現を取ることによって、「死ぬべきであった(のに死ななかった)」ということを皮肉っぽく述べた特殊な表現となっている。他にも例(4-34)のような「泣くべき時に泣けなかった」などがある。

(4-33) 80代ばあちゃんは「生きるの嫌になった」と言い、90代ばあちゃんは「確かに飽きてくる」と言うけど、かつて私が接した中でも最高齢の104歳のばあちゃんは「死に忘れた」と言って朝起こしに行くと「どうも、今日も生き残りました」と敬礼する人だった。

(<https://twitter.com/0rororeo/status/1300956309550821376>)

2020年11月5日閲覧(例4-5の再掲)

(4-34) そうするとヤマトは一度おれのを見て、また哀しげに柳眉を寄せて、ちいさなときに泣き忘れてしまった分を取り戻すかのように泣いてしまう。

(<https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=2586752>)

2021年11月22日閲覧

このような例は「～になるべきであったのに、チャンスを逃してできなかった」という意図していない事柄の失念の意味を表す。このような使用は現時点では未だ個人的で臨時的であり、社会的に共有された用法ではないが、いずれは人口に膾炙する表現になる可能性があると思われる。

4.5.5 「～していることに気づかない」の意味の場合

最後に「～していることに気づかない」の意味について考察する。先にも述べたように、「V1-忘れる」には該当する表現がなく、例(4-35)のように「V {の/こと} を忘れる」の形式で時間を表す「経つ」「更ける」と共起する。

(4-35) 大人たちは時間の経つのも忘れて楽しめます。

(佐藤よし子『英国スタイルの家事整理術』)

(例4-9の再掲)

これを行為の過程で表すと図4-8のようになる。図4-8は状態の過程における記憶の段階を表した図である。これも4.5節の図4-4と違い、意図の段階(①②)がないものである。例(4-35)の場合、ある特定の時間(ここでは「楽しい時間」)が始まった時点が①で、その時間経過を表すのが③、その時間が経過した後に、その記憶が頭に保持されている時間が④の段階である。ここで「時間が経つのも忘れる」は、特定の時間が経過している途中でそのことが頭から離れることを表すため、③の段階での失念を表していると考えられる。

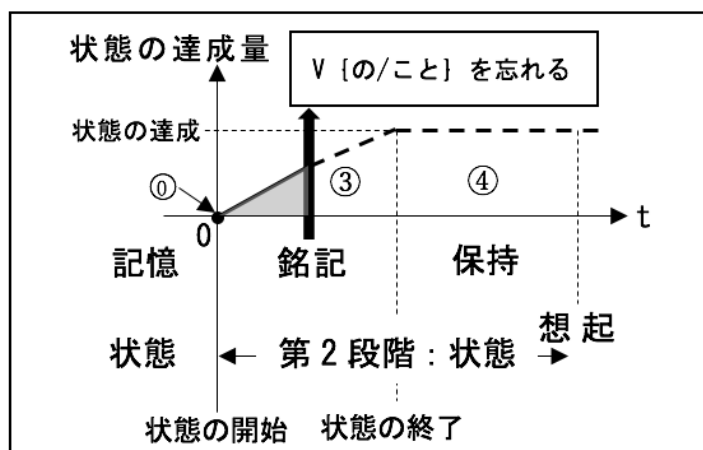


図4-8. 無意志動詞の状態の過程における記憶の段階



4.4節でも述べたように、この用法は「Vのを忘れる」の形で使われることが多く、特に「経つ」はBCCWJの検索結果では「Vのを忘れる」のうち2番目に多く出現している（先の表4-6参照）。「時間が経つことを忘れる」はBCCWJからは出現しなかったものの、インターネットからは例（4-36）のような例が見られた。

（4-36）懐かしい話に花が咲き時間が経つことも忘れてしまいました。

（<https://www.komei.or.jp/km/nagano-matsui-hideo/2015/08/27/30年ぶりの再会/>）

2020年11月5日閲覧

#### 4.5.6 「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」の違い

4.5節では「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」について考察した。その結果を、行為の過程の順に示すと表4-10のようになる。

表 4-10. 「V1-忘れる」「Vの忘れる」「Vことを忘れる」が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる
①	～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	無意志自動詞 : 死に忘れる (特殊な例)	無意志自動詞 : 悲しむ {の/こと} を忘れる
②	～することを失念する	他動詞 : 言い忘れる	他動詞/ル形 : 言う {の/こと} を忘れる
③	～していることに気づかない	—	自動詞 (主に時間) : 経つ {の/こと} を忘れる
④	～して、それを失念する	設置動詞 : 置き忘れる	—
	～したことを失念する	—	他動詞・自動詞/タ形 : 置いた {の/こと} を忘れる
	～したのを覚えていない	: 見忘れる (古い用法、一語化)	—

4.6 日本語「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と中国語“忘了-V”の対応<sup>14</sup>

4.6 節では日本語の「V1-忘れる」と中国語の“忘了-V”の対応について見る。中国語の“忘了-V”は、例(4-37)のように日本語の「V1-忘れる」と対応している。

(4-37) a. 彼女に伝え忘れた。

b. 我忘了告诉她。

一方で、例(4-38)のように「V1-忘れる」は不自然だが「V-のを忘れる」や「V-ことを忘れる」であれば自然になる場合や、例(4-39)のように日本語では不自然になる場合があ

<sup>14</sup> 本節は南(2020b)を元に加筆修正したものである。

る。例(4-39)は日本語では「帰りそびれた」と言うのが自然である。しかし、いずれの場合も中国語の“忘了-V”は自然に使える。

- (4-38) a. ここ数年、私達は自分を{\*愛し/<sup>?</sup>愛するのを/愛することを}忘れている。  
 b. 这些年，我们都忘了爱自己。
- (4-39) a. \*それで女性検査官は家に{帰り/帰るのを/帰ることを}忘れました。  
 b. 于是女检查官竟然忘了回家。

これは日本語の複合動詞「V1-忘れる」と違い、中国語の“忘了-V”はVが“忘”の目的語になっているという違いによると考えられる<sup>15</sup>。その点では中国語の“忘了-V”は日本語の「V {の/こと} を忘れる」に近い構造を持っており、動詞句用法である「V {の/こと} を忘れる」と対応していると思われる。従って、本節では「V1-忘れる」だけでなく「V {の/こと} を忘れる」を踏まえて中国語の“忘了-V”と比較することで、V1の違いから意味の違いについて考察する。

#### 4.6.1 共起するV1の特徴

4.6.1では中国語の“忘了-V”がどのような動詞と共起するのかコーパスから傾向を見る。中国語のコーパスはBCC 汉语语料库（以下、BCC）の“多領域”を選択し、検索欄に“忘了v”<sup>16</sup>および“忘v”と入力して検索した。このようにして検索して出現したもののうち、“忘到”（忘れるという状態に到る）や“忘得了”（忘れることができる）など「V」が助動詞のものを省いた。その結果、“忘了-V”の述べ語数は13,861語で、異なり語数は986語、“忘-V”の述べ語数は10,849語で、異なり語数は976語であった。両方の検索結果を合わせた「V」の出現数上位20位を表4-11に示す。各表の割合(%)は述べ語数における出現率を表す。

<sup>15</sup> 本章の第2節で取り挙げたように、望月・申亜敏(2016)でも、「V1-忘れる」と対応する中国語表現の“忘了-V”は目的語節をとる動詞句([VP 忘[IP…V1…]])であると指摘している。

<sup>16</sup> BCCの検索では動詞を小文字の「v」で入力する。

表 4-11. “忘了-V” と共起する V

順位	V	数	%	順位	V	数	%
1	带	2,861	11.6	11	买	369	1.5
2	说	1,083	4.4	12	发	365	1.5
3	告诉	880	3.6	13	叫	241	1.0
4	拿	711	2.9	14	提醒	238	1.0
5	穿	623	2.5	15	返	228	0.9
6	问	583	2.4	16	来	210	0.9
7	去	582	2.4	17	放	190	0.8
8	吃	514	2.1	18	写	189	0.8
9	有	446	1.8	19	挖	165	0.7
10	看	432	1.8	20	做	164	0.7

日本語の「V1-忘れる」と同様に中国語の“忘了-V”も“说(言う)”“告诉(伝える)”“问(尋ねる)”といった動作動詞、とりわけ「を」格に作用の向けられる対象が来る他動詞が上位に来る。これらはすべて例(4-40)のように「～することを失念する」の意味で使われている。

(4-40) 奔跑中的佳木斯只是电话告诉我妈要开会晚回家，却忘了说别等我吃饭。

走り回っていたジャムスは電話で私の母に会議で遅くなることを伝えただけで、食事をするのに待たなくていいと言い忘れた。

(微博)

また、“带(付帯する)”“拿<sup>17</sup>(持つ)”のような状態を表す動詞との共起も見られる。このような場合日本語では、「\*持ち忘れた」は使用できず、例(4-41)や例(4-42)のように単に本動詞「～を忘れる」を使うか、「～して、それを失念する」という意味を表す「置き忘れる」を使う。

<sup>17</sup> “拿”は「持ち上げる」という動作を表す場合もあるが、ここでは例(4-43)のように「持っている」という状態を表す意味で使われている。

(4-41) 今早出门太急忙！忘了带pad 的充电器！

今朝出かける時とても忙しかったの！pad の充電器を（置き）忘れちゃった！

（微博）

(4-42) 他忘了拿钥匙要回去一趟。

彼は鍵を（置き）忘れたので一度戻った。

（陈文龙『都市快讯』）

また、中国語“忘了-V”と共起するものに“提醒（気づかせる）”がある。例（4-43）の場合、直訳すると「私に気づかせることを忘れないでください」になるが、日本語では「気づかせる」とは共起しにくく、「言い忘れないでね」や「忘れる」を使わずに「言ってね／教えてね」のように言う。

(4-43) 别忘了提醒我带走灯泡……那都是我的，还有废纸篓也是属于我的。

私に電球を持っていくって言い忘れないで…すべて私のだし、ゴミ箱も私のなの。

（亨利・米勒『北回归线』）

以上のことから、中国語の“忘了-V”は日本語の「V1-忘れる」だけでなく、「V {の/こ と} を忘れる」とも対応することが分かる。従って、本節では4.5節で見た行為の過程における以下5つの意味別に、中国語の“忘了-V”との対応関係について見る。

1. ～することを失念する（4.6.2.1）
2. ～して、それを失念する（4.6.2.2）
3. ～したのを覚えていない（4.6.2.3）
4. ～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった（4.6.2.4）
5. ～していることに気づかない（4.6.2.5）

#### 4.6.2 行為の過程における「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」の位置づけ

##### 4.6.2.1 「～することを失念する」の意味の場合

4.5.1 節でも述べたように、日本語の「V1-忘れる」や「V (ル形) {の/こと} を忘れる」は、図 4-9 の②の意図の記憶の保持段階の失敗としての「～することを失念する」という意味を持つ。つまり、「～しよう」と思ってから実際に行動に移すまでの間に「～しよう」と思った記憶を失念することを表す。日本語の場合、V1 には「言う」「撮る」「書く」などの動作動詞が来る。

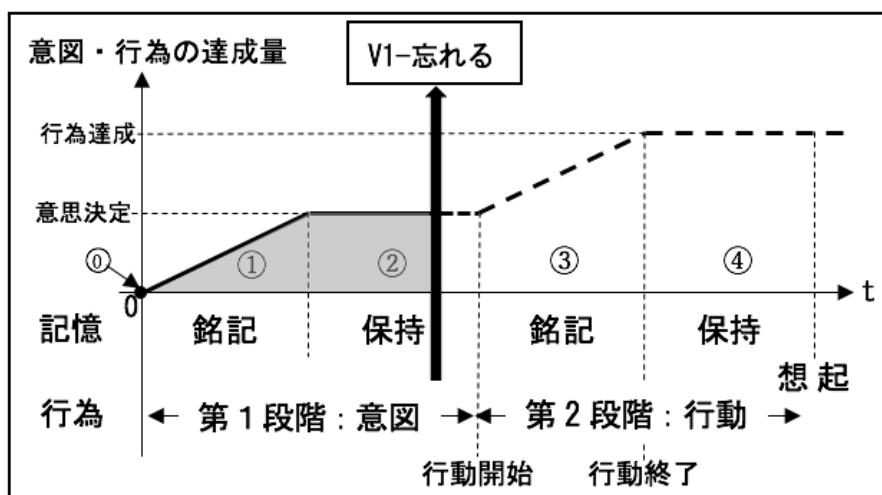


図 4-9. 行為の過程における意図の保持段階での失敗「V1-忘れる」(図 4-1, 4-5 の再掲)

一方、中国語の“忘了-V”も日本語の「V1-忘れる」や「V (ル形) {の/こと} を忘れる」と同様に、②の意図の記憶の保持段階の失敗としての「～することを失念する」という意味を持つ。その例を例 (4-44) に示す。

(4-44) 我忘了说“谢谢”。

私は「ありがとう」と {言い忘れた/言うの(こと)を忘れた}。

なお、中国語の“忘了-V”の場合、例(4-35)のような「～しようと思っていた内容を忘れる」という意味で使われる場合もある。この場合は日本語の「V1-忘れる」や「V(ル形)のを忘れる」とは対応せず、「V ことを忘れる」とのみ対応している。ただし、この場合の「こと」は形式名詞ではなく、「事柄」という意味の実質名詞となっている。

(4-45) 我几乎忘了要说什么。

私は危うく言うこと (=言うべき事柄、何を言うか) を忘れるところだった。

#### 4.6.2.2 「～して、それを失念する」の意味の場合

4.5.2 節でも述べたように、日本語の「V1-忘れる」や「V(タ形) {の/こと}を忘れる」は、図4-10の④の行動の保持段階の失敗として、「V1-忘れる」は「～して、それを失念する」という意味を持ち、「V(タ形) {の/こと}を忘れる」は「～したことを失念する」の意味を持つ。つまり、V1の行為が完了した後に、その行為を行ったことを失念して、対象をそのまま放置してしまうことを表す。

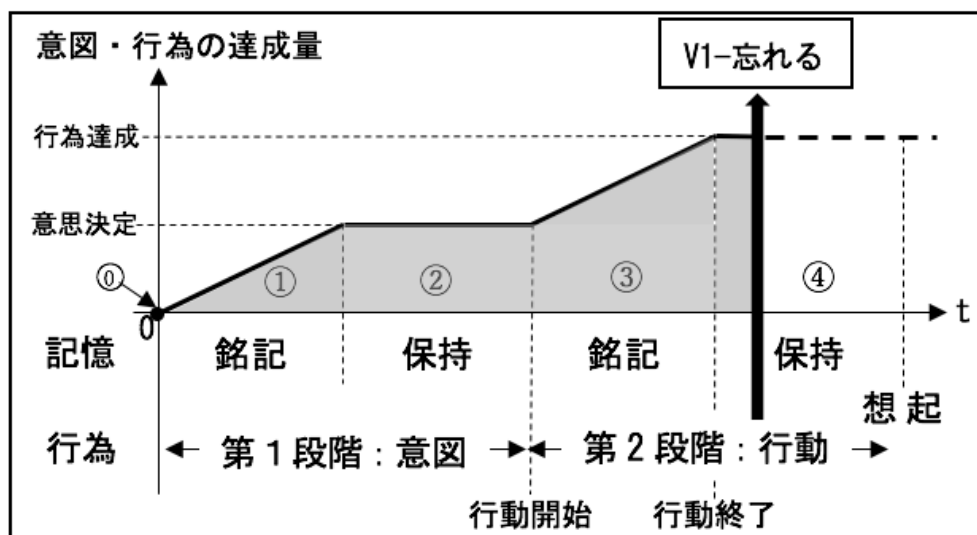


図4-10. 行為の過程における行動の保持段階での失敗「V1-忘れる」(図4-2, 4-6の再掲)

「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」の大きな違いは、「V {の/こと} を忘れる」は例(4-46)や例(4-47)のようにVに様々な動詞が来て、広くその行為をしたことを失念していることを表すのに対し、「V1-忘れる」は例(4-48)や例(4-49)のようにV1に「置く」や「入れる」などの設置動詞が来て、対象をその場に放置したまま取り入れるのを失念していることを表すという違いがある。

(4-46) 本を買った {の/こと} を忘れていた。

(4-47) 友達に会った {の/こと} を忘れていた。

(4-48) 電話機のそばに、おじさんの小さなアドレス帳が置き忘れてあった。

(伏本和代『ラクになる』)

(4-49) 一貫目のロースビーフをオーブンのなかへ入れ忘れたまま、真黒にする  
 ようなへまばかりを仕出かした。

(椎名麟三『作家の自伝』)

(例 4-15, 25 の再掲)

一方、中国語の“忘了-V”も日本語の「V1-忘れる」や「V (ル形) {の/こと} を忘れる」と同様に、②の意図の記憶の保持段階の失敗としての「～することを失念する」という意味を持つ。その例を例(4-50)に示す。

(4-50) 别忘了写信给我。

手紙を私に {書き/書くのを/書くことを} 忘れないてください。

しかし、中国語の“忘了-V”の場合は「～して、それを失念する」という意味を持たず、例(4-52)のように“忘了”の補文に“已经”や“过”などを使った文を入れて表現する必要がある。

(4-51) 我忘了我已经买过书了。

本をすでに買ったのを忘れた。



日本語の「(家に財布を)置き忘れる」は、中国語ではそのまま“忘了放钱包”とは言わず、「持っていくことを忘れる」という意味の“忘了带钱包”“忘了拿钱包”と言わなければならない。中国語の“忘了放”は「置くことを忘れる」「置いたのを忘れる」の意味であり、「置いて、そのものを忘れる」という意味の「置き忘れる」という意味では使われない。

#### 4.6.2.3 「～したのを覚えていない」の意味の場合

4.5.3節でも述べたように、日本語の「V1-忘れる」は先程の図4-10の④の行動の保持段階の失敗としての「～して、それを失念する」という意味以外に、「～したのを覚えていない」という意味を持つ。つまり、例(4-52)のようにV1の出来事自体が記憶からなくなっていることを表す。この用法は日本語では主に「見忘れる」の形でのみ使われる。

(4-52) 病気がかなり悪化してから親父は人の顔をほとんど見忘れるほどだったが、…

(長門裕之『洋子へ』)

(例4-26の再掲)

一方、中国語の“忘了-V”は「～したのを覚えていない」という意味を持たず、例(4-53)“忘了他的脸(彼の顔を忘れた)”のように“看(見る)”を使用せずに“忘(忘れる)”だけで表現する。

(4-53) 我爸病重后差点忘了他的脸，但是…

私の父は重病で彼の顔を忘れそうになりました。しかし…

以上、4.6.2.2と4.6.2.3で見た行動段階での失敗である「置き忘れる」のような「～して、それを失念する」や「見忘れる」のような「～したのを覚えていない」は中国語の“忘了-V”と対応していない。前者は別の動詞で表現され、後者はV1を使用せずに“忘”だけで表現される。一方、「V(タ形){の/こと}を忘れる」の場合は、“忘了-V”に“已经”や“过”を加えた表現と対応している。

## 4.6.2.4 「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」の意味の場合

4.5.4節でも述べたように、日本語の「V1-忘れる」や「V{の/こと}を忘れる」は、図4-11の①の意図段階がなく行為が始まる前の失敗としての「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という意味を持つ。つまり、意図していない事柄に対して失念してしまうことを表す。

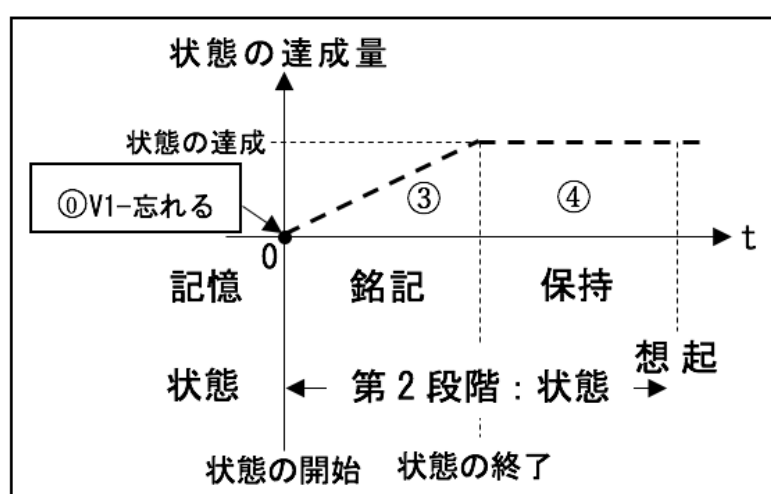


図4-11. 行為の過程における状態の①段階での失敗「V1-忘れる」（図4-7の再掲）

日本語の場合、主に心理状態を表す無意志自動詞（悲しむ）や他動詞（褒める）と共起し、例（4-54）のように「悲しむべきときに悲しむことをしなかった」という意味を表す。

（4-54）ひょっとすると今の若者たちは悲しむことを忘れてしまったのではないかと、  
 と思えることがあるのです。

（五木寛之『生きるヒント』）

（例4-6, 10, 29の再掲）

このような表現は補文構造の「Vの忘れる」という形式では少し見られるものの、複合動詞の「V1-忘れる」では言いづらい。

一方、中国語の“忘了-V”の場合は、「～になるべきであったのに、チャンスを逃してできなかった」という意味を持つものは見られなかった。例(4-55)の“忘了悲伤”は前述の日本語の例(4-54)と違い、“悲伤”は動詞ではなく形容詞で、「悲しむべきであった」ではなく「悲しさ(悲しみ)を忘れる」という意味を表している。

(4-55) 只有听着音乐，让我忘了悲伤。

音楽を聞いているだけで、悲しみを忘れてしまう。

しかし、中国語の場合、毎日行う当たり前の動作(食事を食べる・寝る・家に帰るなど)を表す場合(例4-56)に対して、“忘了-V”と共起し、「～すべきであったのに、チャンスを逃してできなかった」という意味を表す場合がある。これは、意図して行っている行為ではないため、⑩段階での失念であると考えられる。

(4-56) 特刊专刊的编辑反反复复推敲，忘了吃饭忘了回家。

特集の編集者は繰り返し(記事を)推敲していたため食事や帰宅をしそびれた。

日本語の場合、まだ一般的に使われているわけではないが、インターネット上では例(4-57)のように「寝食を忘れる」という意味で「食べるのを忘れる」という表現が使われている例が見られるが、同様に「家に帰るべきであった」という意味で「家に帰ることを忘れる」とは言うことができないと思われる。このような場合、日本語では例(4-58)のように「V1-そびれる」という表現が使用されやすい<sup>18</sup>。

(4-57) この2日間、過密スケジュールすぎてご飯を食べるのを忘れていた。

([https://www.pokepara.jp/fukuoka/m401/a401/shop10615/gal/272674/blog/diary\\_15272691.html](https://www.pokepara.jp/fukuoka/m401/a401/shop10615/gal/272674/blog/diary_15272691.html))

2021年8月26日閲覧

<sup>18</sup> この「V1-そびれる」は使えないという日本語話者もいる。

(4-58) クレーム対応で帰りそびれ、会社に泊まった美沙に「小山里佳子には気をつけろ」と誰かが囁いた…。

(<https://www.cdjapan.co.jp/ebooks/d/BTW1000000827832>)

2021年8月26日閲覧

以上のように、無意志の他動詞と共起した場合、日本語では主に「V{の/こと}を忘れる」の形で「～すべきであったのに、チャンスを逃してできなかった」という意味を表すが、中国語の“忘了-V”にはこの用法はない。一方、中国語では毎日行う当たり前の動作（食事を食べる・寝る・家に帰るなど）など意志動詞が“忘了-V”と共起し、「～すべきであったのに、チャンスを逃してできなかった」という意味を表す。しかしこの場合、日本語では「忘れる」という表現とは共起しにくい点で異なっている。

#### 4.6.2.5 「～していることに気づかない」の意味の場合

4.5.5 節でも述べたように、日本語の補文構造「V{の/こと}を忘れる」は、図4-12の③の行為が進行している段階での失敗としての「～していることに気づかない」という意味を持つ。主に、「時間が経つのを忘れる」のように、時間が経過している途中でそのことが頭から離れることを表す。しかし、複合動詞の「V1-忘れる」にはこの意味がない。

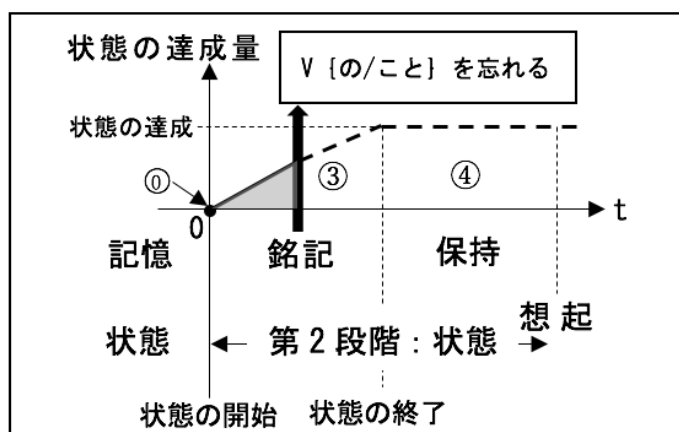


図4-12. 無意思動詞の状態の過程における記憶の段階（図4-8の再掲）

一方、中国語の“忘了-V”場合、「時間が経つのを忘れる」は例(4-59b)のように表現し、“忘了-V”ではなく、“忘了-N”のように“忘了”の対象として名詞句をとる。

- (4-59) a. 大人たちは時間の経つのも忘れて楽しめます。(例 4-9, 35 の再掲)
- b. 大人们忘了时间的流逝，正在享受乐趣。

#### 4.6.3 「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と“忘了-V”の違い

4.6 節では行為の過程における記憶の段階ごとに、行為の失念がどのように表現されるかについて、日本語と中国語を比較した。その結果を表 4-12 に示す。

表 4-12. 「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と“忘了-V”の持つ意味

行為の過程	意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる	忘了-V
①	～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	無意志自動詞 : 死に忘れる (特殊な例)	無意志自動詞 : 悲しむ {の/こと} を忘れる	意志動詞 : 忘了回家
②	～することを失念する	動作動詞 : 言い忘れる	動作動詞/ル形 : 言う {の/こと} を忘れる	動作動詞 : 忘了说
③	～していることに気づかない	—	自動詞 (主に時間) : 経つ {の/こと} を忘れる	忘了+N : 忘了时间的流逝
④	～して、それを失念する	設置動詞 : 置き忘れる	—	—
	～したのを失念する	—	他動詞自動詞/タ形 : 置いた {の/こと} を忘れる	複文構造 : 忘了我已经买过
	～したのを覚えていない	: 見忘れる (古い用法、一語化)	—	忘了+N : 忘了他

日本語の「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と中国語の“忘了-V”の共通点と相違点は次の通りである。

共通点：②～することを失念する

相違点：①～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった

：日本語は無意志自動詞、中国語は意志的な行為を無意志で行う場合

③～していることに気づかない

：日本語は「V {の/こと} を忘れる」、中国語は“忘了+N”

④～して、それを失念する

：「V1-忘れる」と“忘了-V”は対応しない

～したのを失念する

：「Vの(こと)を忘れる」と“忘了-V过”の複文構造で対応

～したのを覚えていない

：日本語の「見忘れる」のみ

#### 4.7 本章のまとめ

第4章では日本語の「V1-忘れる」について、まず4.3節で本動詞「忘れる」との関係について考察した。その結果、表4-13に示すように「V1-忘れる」には「～することを失念する」「～して、それを失念する」「～したのを覚えていない」「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という4つの意味があり、「V {の/こと} を忘れる」には「～して、それを失念する」の意味がないかわりに「～したことを失念する」という意味が、「～したのを覚えていない」の意味がないかわりに「～していることに気づかない」という意味があることを指摘した。

表 4-13. 「V1-忘れる」と「V {の/こと} を忘れる」の意味の対応 (表 4-4 の再掲)

意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる
1. ~することを失念する	書き忘れる	書くのを忘れる
2. ~して、それを失念する	置き忘れる	—
(~したことを失念する)	—	書いたのを忘れる
3. ~したのを覚えていない	顔を見忘れる	—
4. ~すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	死に忘れる	死ぬのを忘れる
5. ~していることに気づかない	—	(時間が) 経つのを忘れる

次に、「V1-忘れる」および「V {の/こと} を忘れる」と共起する V1 の特徴を BCCWJ の出現数から比較した。その結果、「V1-忘れる」は「置き忘れる」の出現数が多く、主に動作動詞の中でも「を」格に作用の向けられる対象が来る他動詞が多く見られることを指摘した。「V {の/こと} を忘れる」も動作動詞が多く見られたが、「V のを忘れる」には時間の経過を表す「過ぎる」や「(時間が) 更ける」との共起が見られ、「V ことを忘れる」には「悲しむ」といった無意志動詞との共起も見られた。更に、BCCWJ の結果をもとに、表 4-12 に示した 5 つの意味がそれぞれ行為の過程のうち、どの段階での失敗であるかについて考察した。その結果、図 4-13 に示すように、「1. ~することを失念する」は②に示す意図段階の保持での失敗、「2. ~して、それを失念する」および「3. ~したのを覚えていない」は④に示す行動段階の保持での失敗、「4. ~すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」は①に示す意図する前の意識していない段階での失敗、「5. ~していることに気づかない」は③に示す行動段階の行為中の失敗であることを指摘した。

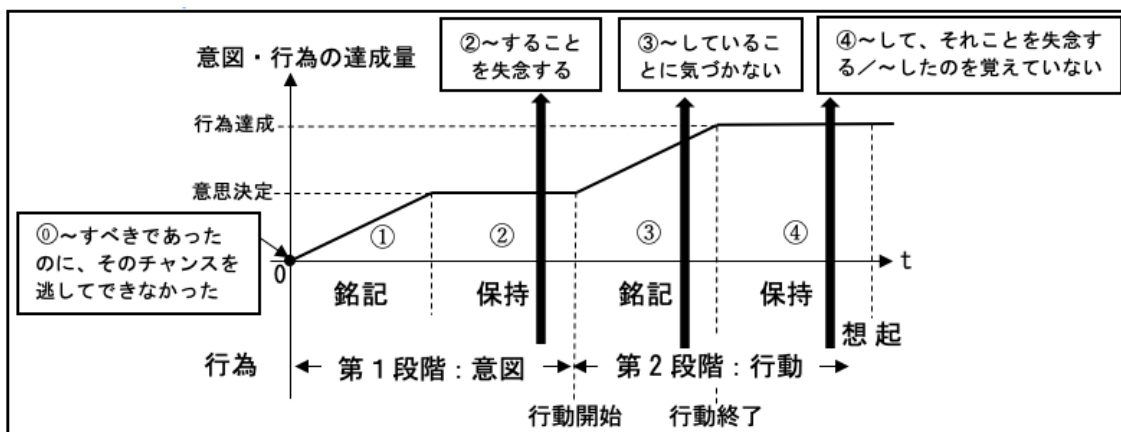


図 4-13. 行為の過程における「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」の位置づけ

最後に、図 4-14 に示す行為の過程における 5 つの意味別に、中国語の“忘了-V” とどのように対応するかを考察した。その結果を表 4-14 に示す。

表 4-14. 「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と“忘了-V”の持つ意味 (表 4-12 の再掲)

行為の過程	意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる	忘了-V
①	～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	無意志自動詞 : 死に忘れる (特殊な例)	無意志自動詞 : 悲しむ {の/こと} を忘れる	意志動詞 : 忘了回家
②	～することを失念する	動作動詞 : 言い忘れる	動作動詞/ル形 : 言う {の/こと} を忘れる	動作動詞 : 忘了说
③	～していることに気づかない	—	自動詞 (主に時間) : 経つ {の/こと} を忘れる	忘了+N : 忘了时间的流逝
④	～して、それを失念する	設置動詞 : 置き忘れる	—	—
	～したのを失念する	—	他動詞自動詞/タ形 : 置いた {の/こと} を忘れる	復文構造 : 忘了我已经买过
	～したのを覚えていない	: 見忘れる (古い用法、一語化)	—	忘了+N : 忘了他



## 第5章 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」<sup>1</sup>

### 5.1 はじめに

本章では、日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味について論じる。5.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、5.2節では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の先行研究について概観する。

次いで5.3節では本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」と複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」を比較して、両者の共通点と相違点について論じる。

続く5.4節ではBCCWJの検索結果を基に、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と共起するV1の特徴を見る。

次に5.5節では行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の各用法の位置づけについて考察する。その結果、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」には次のようないくつかの意味があることを論じる。まず、「電車に乗り損なう/損ねる/損じ(ず)る」のように「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表し、図5-1の③の部分(行動段階)のうち、準備としての準行動段階(③')での失敗を表すことを指摘する。

---

<sup>1</sup> 本章は南(2021c, d)を元に加筆修正したものである。

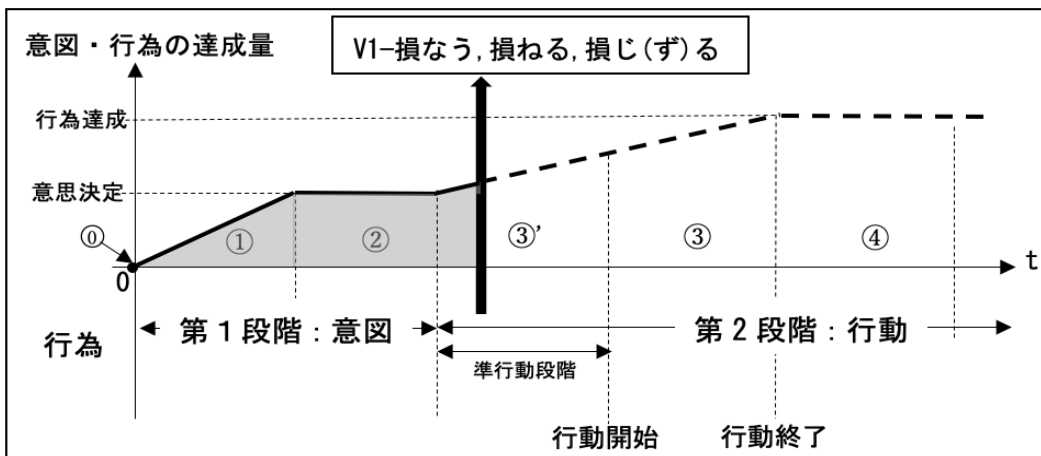


図 5-1. 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ 1

また、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」には「字を書き {損なう/損ねる/損じ(ず)る}」のような用法もある。これは「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表し、図 5-2 の③の部分（行動段階-行為中）での失敗を表すことを指摘する。

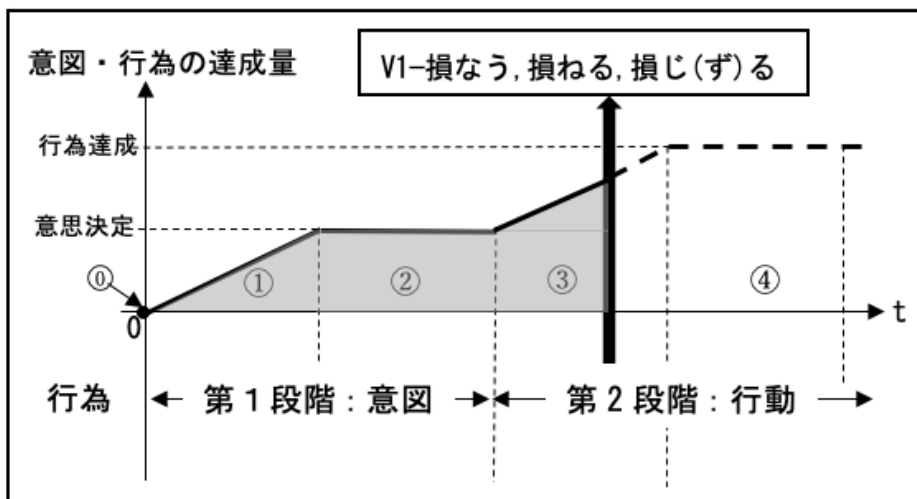


図 5-2. 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ 2

「彼を見損なった」のような「相手への評価が想定より低い」という意味の「V1-損なう」も③の部分での失敗を表すと考えられる。

また、「V1-損なう」と「V1-損ねる」には、無意志的な「死ぬ」や「溺れる」といった動詞と共起して「あやうく～するところだった」という意味を表す場合がある。その場合、図5-3のように意図段階がない図の①段階での失敗を表す。

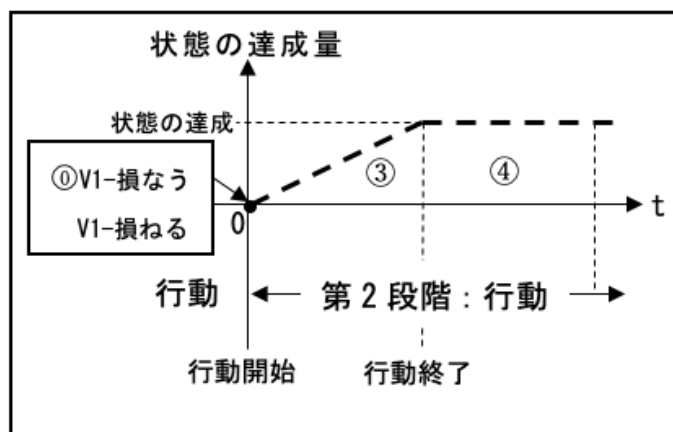


図5-3. 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」の位置づけ3

続いて5.6節では日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の表現を比較し、共起する動詞の違いによって、対応関係があることを指摘する。最後に5.7節で本章のまとめをする。

## 5.2 先行研究

本節では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」について論じられている城田(1998)、薛婧宇(2019)について概観し、本研究における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味分類を提示する。

## 5.2.1 城田 (1998)

城田 (1998) では「V1-損なう」「V1-損じ(ず)る」を「対象に現れる否定的結果に言及しながら、うごきを不完全なものとして描出する」(城田 1998:147) 不首尾相動詞<sup>2</sup>に分類し、それぞれの意味について以下のように述べている。

- ・損ナウは主体が機会を捕えられずにごきを実現しなかったり、また、失敗等の要因によりうごきのあるべき姿で実現できず、対象があるなら、それは不完全のまま実現することを示す。書キソコナウ (①書く機会を失う、②書き誤る)。
- ・損ジル (損ズル) は損ナウと殆ど同義であるが、機会ヲ失ウの意では現在あまり使われない。セイテハ事ヲ仕損ズル、書キ損ジル。

(城田 1998:147)

本研究では BCCWJ から抽出した例文をもとに、どのような V1 と共起するかという観点から、両語の違いについて考察する。また、城田 (1998) は「書き損じる」には「書き誤る」と同義である「不完全のまま実現する」という意味を示すと述べている。しかし、「書き損じる」の場合は例 (5-1) のように対象が「封筒」になっているが、「書き誤る」の場合は例 (5-2) のように対象が「字」になっている。またこれらはそれぞれ言い換えにくい。例 (5-2) は「書き損なった」「書き損ねた」であれば自然である。

(5-1) 現金書留の封筒を書き {損じた/誤った} 場合は捨てるしかないのでしょうか。

(Yahoo!知恵袋)

(5-2) 誰がみても理解できるように、くせ字や誤字・脱字、書き {損じた/誤った}  
ときの修正の仕方などに注意して…

(富田明裕/大崎広行『地域福祉・介護サービス Q&A』)

<sup>2</sup> 詳しくは 2.1.8 節で述べる。

従って、両者は同じ書くことの失敗でも「V1-損じる」は基本的に対象の破損を表すのに対し、「V1-誤る」は基本的に対象を正しいものと取り違えることを表し、どのような失敗を表すのかという視点が異なっている。そのため、本研究では「V1-損じ(ず)る」と「V1-誤る」の違いについても考察する<sup>3</sup>。

### 5.2.2 薛婧宇 (2019)

薛婧宇 (2019) は城田 (1998) の記述を受け、「V1-損なう」には次の2つの意味があり、「V1-損ねる」には2の質的未完成の意味があると述べている。

1. 未着手：動作を開始できなかった。

例：あの店に行き損なった。/今朝牛乳を飲み損なった。

2. 質的未完成：動作を実行したが、期待通りの結果が伴わない。

例：字が汚くて手紙を書き損なった。

薛婧宇 (2019) はまず、1つ目の意味について、BCCWJから「V1-損なう」を抽出し、どのような動詞と共起するかについて考察している。更に、「V1-損なう」は中国語の“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”や“没能-V”“V-失败”などと対応しているとし、どのような動詞と共起するかについて日本語と比較している。その結果をまとめると表5-1のようになる。

---

<sup>3</sup> 「V1-誤る」は第8章で考察することとする。

表 5-1. 薛婧宇 (2019) 未着手の意味を持つ「V1-損なう」と“没-V-「結果補語」”

動詞分類		V1-損なう	没-V-「結果補語」	
意志動詞	動作動詞	1. 状態・位置変化動詞	食べ損なう	没吃成(午饭)
		2. 授受・所有動詞	もらい損なう	没得到
		3. 知覚・認識動詞	見損なう	没看成
		4. 言語伝達動詞	伝え損なう	没传达成
		5. 移動動詞	乗り損なう	没坐成
	心理動詞	1. 感情動詞	*愛し損なった	*没爱成
		2. 思考・判断動詞	*考え損なう <sup>4</sup>	没考虑成
		3. 意思・決定動詞	*決め損なう	没决定成
無意志動詞	1. 変化動詞	死に損なう	没死成/差点死掉	
	2. 現象動詞	(雨が) *降り損なう	(雨) ??没下成	

薛婧宇 (2019) は「V1-損ねる」には未着手の意味がないとしているが、BCCWJ では例 (5-3) のような例が見られた。これは「食べる」という行為が行われていないことから未着手に該当する。従って、本研究では「V1-損なう」「V1-損ねる」は共に行為が始まる前の段階での失敗を表すこととする。

(5-3) うちの両親は、仕事が遅くなって夕飯を食べそこねたときなどに、そろってよく浅草までおすしを食べに行っていた。

(山本益博『食べる』)

次に薛婧宇 (2019) は 2 つ目の質的未完成の意味の場合も同様に BCCWJ からどのような動詞と共起できるかについて考察している。また、質的未完成の場合は、「V1-損ねる」にも同じ質的未完成の意味があるとし、両者を比較している。表 5-2 は質的未完成の意味を持つ「V1-損なう」と「V1-損ねる」および、それぞれ対応する中国語表現との比較を示したものである。

<sup>4</sup> 薛婧宇 (2019) は「考え損なう」は「考えが間違えている」という意味で使用されており、未着手の意味では思考・判断動詞と共起しにくいと述べている。

表 5-2. 薛婧宇 (2019) 質的未完成の意味を持つ「V1-損なう」「V1-損ねる」と“没-V-「結果補語」”

動詞分類		V1-損なう	没-V- 「結果補語」	V1-損ねる	没-V- 「結果補語」	
意志動詞	動作動詞	1. 状態・位置変化動詞	殺し損なう	没有杀掉	打ち損ねる	没打好
		2. 授受・所有動詞	(回答を) あげ損なう	(答案上传) 没成功	もらい損ねる	没得到
		3. 知覚・認識動詞	見損なう	没看对	聞き損ねる	—
		4. 言語伝達動詞	言い損なう	没说成功	読み損ねる	没读好
		5. 移動動詞 <sup>5</sup>	—	—	—	—
	心理動詞	1. 感情動詞	*愛し損なう	*没爱好	*愛し損ねる	没享受好
		2. 思考・判断動詞	考え損なう	没考虑对	考え損ねる	没考虑对
		3. 意思・決定動詞	*決め損なう	没决定好	決め損ねる	—
無意志動詞	1. 変化動詞	忘れ損なう	没忘掉	勝ち損ねる	—	
	2. 現象動詞	(雨が) *降り損なう	(雨) *没下好	(雨が) *降り損ねる	(雨) *没下好	

薛婧宇 (2019) は「V1-損なう」は状態・位置変化動詞と共起しやすいと述べているが、そのうち「消す」と「つける」とは共起しないと、例 (5-4) を挙げている。この点について、非常に単純な動作で、その動作において段階性が感じられないため、一般的に失敗が起こり得ないと考えられると述べている。

(5-4) 電気を\*消し損なった。 / \*つけ損なう。

(薛婧宇 2019 : 87 の例 (5) )

これについて本研究で実例を調べたところ、「消し損なう」は見られなかったものの、例 (5-5) のように対象が「たばこの火」など段階的に消えていくものであれば「V1-損ねる」

<sup>5</sup> 薛婧宇 (2019) では「移動動詞」について述べられていない。その他、薛婧宇 (2019) で記載がない箇所を「—」で示す。

との共起が見られた。更に、「消し損ねる」であれば、例(5-6)のように一部「テレビ」に対しても「消そうと思っていたが消していなかった」という意味での使用が見られた。

(5-5) シチュエーションは駅のホーム。たばこの煙がたちこめています。灰皿では消しそこねた吸殻が狼煙をあげています。

(<http://blog.livedoor.jp/nekosuki600/archives/51144891.html>)

2021年8月29日

(5-6) たまたまテレビ消し損ねて流れっぱなしだった

(<https://twitter.com/yosinotennin/status/1223395842796572672>)

2021年9月16日

薛婧宇(2019)では「V1-損なう」と「V1-損ねる」は基本的に同じ意味をもち、共起できる動詞は似ていると述べているが、実際の使用を見ると両者には違いが見られる。本研究ではこの点についてどのような段階が関係しているかについて考察することとする。

また、薛婧宇(2019)は知覚・認識動詞や言語・伝達動詞において、「V1-損なう」は更に次の2つの意味に分けられるとし、それぞれ例を挙げている。なお「V1-損ねる」には②の意味はないと述べている。

①動作が意図通りに進まず、結果が期待した水準に達していない。

②動作を完成したが、認知的処理に誤りがあるため期待の水準に達していない。

例：あのことを言い損なった：①言うべきことを完全に言わないでいる

②言い方或いはつかえ方が悪いため、目的に達成できない

メッセージを読み損なう：①全部を読まないでいる

②理解し間違える

彼を見損なった：②彼に対する認識が間違っている

薛婧宇(2019:88)



しかし、「言い損なう」の場合、①の意味について、「あのこと」に関しては「言う」という行為が行われていないため、薛婧宇 (2019) でいう未着手に該当すると思われる。②の意味については、行為が途中まで行われていることから質的未完了である。「読み損なう」の場合、①の意味は質的未完了であり、②の意味は、「読む」はここでは「理解する」という意味で使用されており、薛婧宇 (2019) が指摘するように認知的処理の問題であるが、「メッセージを理解する」ことが完了していないことを表すため、質的未完了だと考えられる。従って、本研究では「質的完了」に下位分類をつくるのではなく、①すべき行為が行われなかったということに対する失敗と、②行為が行われたにもかかわらず期待通りに完了しなかったという失敗の2つに分類する。しかし、「見損なう」については例 (5-7) のように人に対して使われた場合、相手への理解が想定より低いことを表している。

(5-7) わしを見損なって、油断をした罰よ。

(山田智彦『蒙古襲来』)

他にも、薛婧宇 (2019) では移動動詞については述べていないが、例 (5-8) のように「行く」などと共起できる。

(5-8) 「この間みつえ達と行きそなった大濠の店があつたでしょう？そこに行ってみましょうか？」

(白石文郎『寵児』)

また、薛婧宇 (2019) はこれら②の意味は「V1-損ねる」にはないとしているが、例 (5-9) のように「読み損ねる」での使用が見られる。

(5-9) よく知っているから、ことさらにその点を言わなかつただけで、指導精神を読み損ねた作家の方に罪はある。

(甲賀三郎『甲賀三郎探偵小説選』)

また、薛婧宇(2019)では指摘されていないが、無意志動詞である「死ぬ」や「溺れる」と共起した場合、例(5-10)のように、「危うく～ところだった」という意味を持つ。この場合、意図段階がかかわらないことから、未着手とは異なるため、本研究では未着手とは別に分類する。

(5-10) 五十歳の時に死に損うほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

(鈴木健二『自分学のすすめ』)

### 5.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味分類

以上、先行研究では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」には「機会を失う」や「未着手」の意味、「不完全なまま実現する」や「質的未完了」、「認知的処理の誤り」などの意味があることが指摘されている。これに対し、本研究では次の4つの用法があると考えられる。

1. 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」  
(例) 電車に乗り損なった。
2. 「危うく～するところだった」  
(例) 危うく死に損なった
3. 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」  
(例) 字を書き損なう。
4. 「相手への評価が想定より低い」  
(例) 彼を見損なった。

以下、これらの用法について、本動詞との関係(5.3節)、共起するV1の特徴(5.4節)、行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の各用法の位置づけ(5.5節)、中国語との比較(5.6節)を行い、それぞれの特徴を明らかにする。

### 5.3 本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」と複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の対応

本節では本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」と複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の共通点と相違点について論じる。まず、本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」の持つ意味として、『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

『明鏡国語辞典』（北原 2002 : 947, 948, 962, 963）

「損なう」：(1) 傷つけてだめにする

(例) 過って器物を損なう。

(2) 健康や気分を悪くする

(例) 過労で健康を損なう。

(3) 本来的に備わった美質や機能などを傷つけてだめにする

(例) 高層建築物が街の美観を損なう。

「損ねる」：「損なう」(2)(3)の、ややくだけた言い方。

(例) 気分[美観]を損ねる

「損ずる<sup>6</sup>」：(1) ものが傷つき壊れる、またものを傷つけ壊す、損なう

(例) 湿気のために器物が損ずる。

(2) 物事の状態が悪くなる、物事の状態などを悪くする、損なう

(例) 先方の機嫌を損ずる。

以上の記述を比較すると表 5-3 のようになる。表 5-3 のうち「一」は記載がないものを示す。

<sup>6</sup> 『明鏡国語辞典』では「『損じる』→『損ずる』」として記載されている。

表 5-3. 『明鏡国語辞典』における「損なう」「損ねる」「損じる」の違い

損なう	損ねる	損ずる
①傷つけてだめにする (例) 過って器物を <u>損なう</u>	—	①ものが傷つき壊れる (例) 湿気のために器物が <u>損ずる</u>
②健康や気分を悪くする (例) 過労で健康を <u>損なう</u>	ややくだけた言い方 (例) 気分を <u>損ねる</u>	②物事の状態などが悪くなる。また、物事の状態などを悪くする (例) 先方の機嫌を <u>損ずる</u>
③本来的に備わった美質や機能などを傷つけてだめにする (例) 高層建築物が街の美観を <u>損なう</u>	ややくだけた言い方 (例) 美観を <u>損ねる</u>	—

また、『明鏡国語辞典』の複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の記述を下記に示す。

『明鏡国語辞典』 (北原 2002 : 947-948)

- 「V1-損なう」 : (1) …することに失敗する。また、間違えて…する。…損ねる  
(例) 字を書き損なう。人を見損なっては困る。  
(2) …する機会を逃す。  
(例) 映画を見損なう。  
(3) …するはずのところをしないでしまう。危うく…しそうになる。  
(例) おぼれ損なったときの恐ろしさといったらなかった。

「V1-損ねる」 : 「損なう」の、ややくだけた言い方。  
(例) つかみ損ねる、食べ損ねる

「V1-損ずる」 : …しそこなう  
(例) 急いては事をし損ずる。

以上の『明鏡国語辞典』における複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の記述を比較すると表 5-4 のようになる。

表 5-4. 『明鏡国語辞典』における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の違い

V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じる
①～することに失敗する。 また、間違えて…する。… 損ねる (例)字を <u>書き損なう</u>	ややくだけた言い方	言い損じる 打ち損じる 急いては事を <u>し損じる</u>
②～する機会を逃す。 (例) <u>食べ損なう</u>	ややくだけた言い方 (例) <u>食べ損ねる</u>	
③～するはずのところをしないでしまう。危うく～しそうになる。 (例) <u>溺れ損なう</u>	ややくだけた言い方	

以上の『明鏡国語辞典』の記述を見ると、本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」が持つ意味と複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が持つ意味は本動詞の意味①の「傷つけてだめにする」と複合動詞の意味①「～することに失敗する」が対応しているのみで、それ以外は対応していない。ただし、『明鏡国語辞典』の複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の記述はそれぞれの語の違いについてはあまり記載されていない。一方、『基礎日本語辞典』では複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の違いを次のよう説明している。

『基礎日本語辞典』（森田 1989 : 82）

「V1-損なう」：できるはずのところ、何かの原因によって遂行に失敗する。上手にできない。または、それが不可能になる。チャンスをものできない。（原因は外的条件）

（例）会議が長引いて、夜のテレビ映画を見損なった。

「V1-損ねる」：行為にしくじってものを壊す、だめにする気持ちがある V1-そこなうとほぼ同じ。

(例) ボールを受けそこねて突き指をしてしまった。

「V1-損ずる」：「V1-そこなう」に近いが、あくまで失敗の結果、事物を台無しにする(=損ずる)という気分がある。

(例) せいては事をし損ずる。

そのうえで、「書く」を例にそれぞれの違いについて述べている。

書き誤る：違う文字を書いてしまった

書き損なう(損ねる)：字の形がまずく欠けたり、曲がって書けたりして出来栄が悪い

書き損ずる：失敗して紙を汚してしまったり、出来上がりがきたない状態などを想像する

以上の『明鏡国語辞典』および『基礎日本語辞典』の記述を本研究における意味と比較すると、表 5-5 のようになる。

表 5-5. 複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の辞書の意味と本研究での意味

『明鏡国語辞典』	『基礎日本語辞典』	本研究における意味
①～することに失敗する。また、間違えて…する。…損ねる (例)字を <u>書き損なう</u>	上手にできない。	③～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった (例)字を書き { <u>損なう/損ねる</u> <u>ねる/損じる</u> }
		④相手への評価が想定と異なる(例)彼を <u>見損</u> なった
②～する機会を逃す。 (例) <u>食べ損なう</u>	できるはずのところ、何かの原因によって遂行に失敗する。 (例)夜のテレビ映画を <u>見損</u> なった。	①～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった (例)電車に <u>乗り</u> { <u>損ねた/損</u> <u>なった</u> } ボールを <u>打ち損</u> じた
③～するはずのところをしないでしまう。危うく～しそうになる。 (例) <u>溺れ損なう</u>	—	②あやうく～するところだった (例) <u>死</u> に { <u>損</u> <u>なった/損</u> <u>ね</u> <u>た</u> }

本研究の分類が『明鏡国語辞典』および『基礎日本語辞典』と異なるのは「④相手への評価が想定と異なる」意味を別にしたところである。これは「見損なう」にしかない用法であり、人に対して評価の意味が強いためである。以上の4つの意味と「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味の対応を表5-6に示す。

表 5.6. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味の対応

意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る
1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に <u>乗り損なう</u>	電車に <u>乗り損ねる</u>	ボールを <u>打ち損じ(ず)る</u>
2. 危うく～するところだった	危うく <u>死に損なった</u>	危うく <u>死に損ねた</u>	—
3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書き損じ(ず)る</u>
4. 相手への評価が想定より低い	彼を見 <u>損なった</u> (一語化)	—	—

本研究では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」を比較して、それぞれどのようなV1と共起するのか(5.4節)、それぞれ行為の過程のどの段階の失敗か(5.5節)を考察する。

#### 5.4 共起するV1の特徴

本節では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」がどのようなV1と共起するかについて、BCCWJから中納言を使用して抽出する。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ  
 検索方法：短単位検索  
 検索条件： キー：品詞-大分類-動詞  
 後方共起条件1：語彙素読み「ソコナウ/ソコネル/ソンジル/ソズル」

以上のようにして検索した結果、「V1-損なう」の延べ語数は266語、V1の異なり語数は86語、「V1-損ねる」の延べ語数は179語、異なり語数は64語、「V1-損じ(ず)る」の延べ語数は78語、異なり語数は13語であった。表5-7～表5-9はそれぞれ「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」のV1の出現数上位20位までを示したものである。各表の割合(%)は延べ語数における出現率を表す。

**表5-7. 「V1-損なう」と共起するV1**

延べ語数：266語  
異なり語数：86語

	V1	数	%
1	見る	50	18.8
2	する	34	12.8
3	食べる	13	4.9
4	取る	11	4.1
5	やる	10	3.8
7	乗る	9	3.4
	死ぬ		
8	なる	6	2.3
	出来る		
10	聞く	4	1.5
	売る		
	見つける		
	撮る		
14	読む	3	1.1
	切る		
	殺す		
	捕らえる		
	逃げる		
	入れる		
	化ける		
	飲む		
儲ける			

**表5-8. 「V1-損ねる」と共起するV1**

延べ語数：179語  
異なり語数：64語

	V1	数	%
1	する	20	11.2
2	取る	13	7.3
	掴む		
4	食べる	11	6.2
	見る		
6	乗る	7	3.9
7	受ける	6	3.4
8	曲がる	5	2.8
	もらう		
10	撃つ	4	2.2
	聞く		
	なる		
13	儲ける	3	1.7
	買う		
	打つ		
	撮る		
	売る		
19	死ぬ	2	1.1
	作る		
	読む		
	切る		
	行く		
	殺す		
	捕らえる		
	捕まえる		
勝つ			

**表5-9. 「V1-損じ(ず)る」と共起するV1**

延べ語数：78語  
異なり語数：13語

	V1	数	%
1	書く	29	37.2
2	する(仕)	24	30.8
3	撃つ	5	6.4
4	打つ	4	5.1
	やる		
6	受ける	2	2.6
	欠ける		
	見る		
10	言う	1	1.3
	読む		
	描く		
	吹く		
	作る		



表 5-7 の「V1-損なう」の場合、「見る」「する」「取る」「食べる」などの他動詞や「乗る」「できる」などの自動詞と共起した場合、「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表し、「死ぬ」のような一般的に「～しよう」とは思わない行為を表す自動詞と共起した場合に「2. 危うく～するところだった」という意味を表し、「読む」「聞く」といった認知的な他動詞と共起する場合に「3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表し、「見る」と共起した場合に「4. 相手への評価が想定より低い」という意味を表す。

一方、表 5-8 の「V1-損ねる」の場合、「見る」「する」「取る」「食べる」「掴む」「受ける」などの他動詞や「乗る」「できる」「曲がる」「勝つ」などの自動詞と共起した場合に「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表し、「死ぬ」のような一般的に「～しよう」とは思わない行為を表す自動詞と共起した場合に「2. 危うく～するところだった」という意味を表す。

また、表 5-9 の「V1-損じ(ず)る」の場合は「打つ」「撃つ」や「受ける」のような他動詞と共起した場合に「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表し、「書く」や「する(急いては事を仕損じる)」の動詞と共起した場合に「3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表す。

全体的に「V1-損なう」と「V1-損ねる」は同じような動詞と共起しており、「見る」や「食べる」といった他動詞だけでなく、「乗る」、「行く」、「曲がる」、「勝つ」など自動詞とも共起が見られる。これらは例 (5-11) (5-12) (5-13) のように「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表している。

(5-11) 今朝、化粧をしていて朝食を食べそこなった春子さんだ。

(篠田節子『交錯する文明』)

(5-12) そしてさらに電車が結構な時間遅れたせいで、予約していた高速バスに乗り損ねる、という。

(Yahoo! ブログ)

(5-13) 十三戦六勝のG II ウィナーで、G I のミドルパーク・ステークスは勝ちそこねて二着だった。

(藤野広一郎『100円馬券師のクラシック攻略法』)

また、「聞く」は「V1-損なう」「V1-損ねる」でそれぞれ4件ずつ出現している。この場合の「聞く」は例(5-12)のように「1.～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味ではなく、例(5-14)のように「3.～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味で使用されている。このような意味の場合、「聞く」行為は受け身的な行為であり、外的要因によって行為中にうまくできない意味を表している。

(5-14) 別のやり方があるって、先生がいったのに、聞きそこなっちゃったの。

(近藤千恵(監修)『「親業」ケースブック』)

このうち、例(5-11)は「V1-忘れる」に言い換えられるが、例(5-12)(5-13)(5-14)は言い換えられない。この点について、前者は失敗の原因が「化粧をしていた」のように自身にあり、コントロールが可能であるのに対し、後者は失敗の原因が「電車が遅れる」など外的な要因にあり、コントロールが不可能であるという違いがある。つまり、「V1-忘れる」は失敗の原因が自身の失念であることを表すため、コントロールが可能である場合に使用される。一方、「V1-損なう」「V1-損ねる」はコントロールが可能な場合でも不可能な場合でも使用できる。例(5-14)も同様に、「聞く」や「受ける」のような相手からの動作を受け止めるという意味を持つ動詞の場合はコントロールが不可能であり、「V1-忘れる」とは共起できない<sup>7</sup>。なお、「聞き忘れる」の場合は「名前を聞く(訊く)ことを忘れる」という意味になる。

<sup>7</sup> このようなタイミングを逃すという意味を表す「V1-忘れる」と「V1-損なう」「V1-損ねる」の違いについては、更に同じ意味を持つ「V1-逃す」「V1-そびれる」も踏まえて6.5節で改めて論じることとする。

一方、「V1-損じ(ず)る」には「書く」「する(仕)」の2語との共起が多く見られた。また、「言う」との共起も見られたが、例(5-15)のように「言い誤る」という意味としての使用が見られた。

(5-15) 一つの正しい言葉を無数に言い損じるわけでありませう。

(下条信輔『<意識>とは何だろうか』)

また、「見る」は「V1-損なう」で50件、「V1-損じる」で11件、「V1-損じ(ず)る」で2件出現したが、例(5-16)のように人に対して、「相手への評価が想定と異なる」という意味を表すものは「V1-損なう」の50件のうち33件であった。

(5-16) 「冷たいのね、夫人には。個人主義もいいところ。見損なったわ、逃げるの？」

(三田薫子『女恋坂』)

以上のように、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」には5.3節の表5-6でも示した次の4つの用法が見られる。

1. 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」  
(例) 電車に乗り損なった。
2. 「危うく～するところだった」  
(例) 危うく死に損なった。
3. 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」  
(例) 字を書き損なう。
4. 「相手への評価が想定より低い」  
(例) 彼を見損なった。

次の5.5節では、上記の4つの意味がそれぞれどの段階における失敗を表すかについて考察する。

## 5.5 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ

本節では3章で述べた行為の過程のうち、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」がどの段階における失敗を表すのかについて考察する。本研究では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」を「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」「危うく～するところだった」「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」「相手への評価が想定より低い」の4つの用法に分類し、それぞれの用法が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかについて考察する。

### 5.5.1 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味の場合

まず、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表す場合について考察する。例えば、例(5-17)～(5-19)の場合、心の中で「曲がろう」と決めたが(①)、タイミングを逃し、「曲がる」という行動(③)まで至らなかったことを表している。実際に「曲がる」という行動まではいっていないものの、「曲がる」までの準備を行い、今まきに行おうという時にタイミングを失敗しているため、図5-4のように意図段階(②)と行動段階(③)の間の準行動段階(③')での失敗となる。「V1-損じ(ず)る」の場合、言い換えると不自然になるが、インターネット上には一部「曲がり損じる」の使用が見られた。

(5-17) 曲がるべき角で曲がりそこなった (/損ねた/?損じた)り、一方通行の出口から進入したり、とにかくてんやわんやで

(なかにし礼『道化師の楽屋』)

(5-18) フェラーリは、急カーブを曲がりそこねて (/損なって/?損じて) 崖から転落した。

(笠井潔『サイキック戦争』)

(5-19) 最初は矢岳登山口最初の右折箇所を曲がり損じ (/損ない/損ね)、先で右折してしまい

(<https://mapskeyz.com/矢岳登山口駐車場/>)

2021年9月16日閲覧

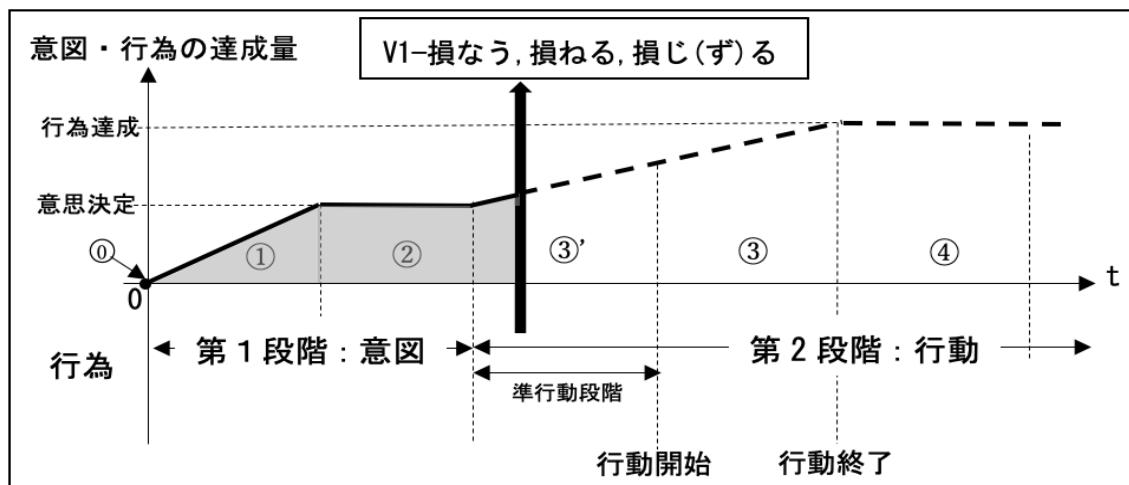


図 5-4. 行為の過程における意図段階での失敗

「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」(図 5-1 の再掲)

しかし、例 (5-20) のように行動を行う準備を行ったか曖昧で、準備と行為の間に時間差が見られる場合がある。このような場合「V1-損じ(ず)る」は不自然になる。しかし、同じ「食べる」でも例 (5-21) のように準備を行い、今まきに行おうとするときの失敗であれば「V1-損じ(ず)る」は使用できる。

(5-20) 今朝、化粧をしていて朝食を食べそこなった (/損ねた/\*損じた) 春子さんだ。

(篠田節子『交錯する文明』)

(例 5-11 の再掲)

(5-21) この釣ったライギョも七十くらいはありますが、カエルを食べ損なった (/損ねた/損じた) ライギョは、もうひと回りデカイ奴でした。

(Yahoo!ブログ)

また、例(5-22)のように実際に「撃つ」という行為を行っているものもある。これは、本研究では実際に行動を行ったため、5.5.3で述べる行動段階(③)での失敗である「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」に分類するが、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じる」は行動段階に近い意味を持つ。これは、本動詞「損なう」「損ねる」「損じる」が持つ「傷つけてだめにする」「健康や気分を悪くする」「本来的に備わった美質や機能などを傷つけてだめにする」などの完成品や理想像の程度より劣るという意味と共通している。つまり、頭の中で考えたこうすべきだという理想の行動からずれている面があるのである。その劣った部分が時間的なタイミングであれば「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味になり、対象や行為であれば「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」となる。

(5-22) もう一ピエ半の距離もなく、どんな素人でも撃ち損じるはずがなかった。

(佐藤賢一『別冊文藝春秋』)

以上のように、「V1-損じる」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は行為を行おうと準備し今まきに行おうとする場面でタイミングを逃したという、「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味を表す。しかし、準備したか曖昧な場合は「V1-損じ(ず)る」は不自然となる。

### 5.5.2 「危うく～するところだった」の意味の場合

次に「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が「危うく～するところだった」という意味を表す場合について考察する。この用法は「死ぬ」や「溺れる」といった無意志動詞と共起する。従って、例(5-23)(5-24)の場合、意図していない行為に対してその行為が行われる寸前までいったものの、行為が行われなかったという意味を表すため、図5-5のように意図段階がない図のうち行動開始直前の①段階での失敗を表す。「V1-損なう」「V1-損ねる」は言い換えができるが、「V1-損じ(ず)る」とは言い換えできない。また、「死に

損ねる」の場合、例 (5-24) のように「死に場を逃す」のように、「死にたいと思っていたが、タイミングを逃しできなかった」という1の意味を持つ場合がある。

(5-23) 五十歳の時に死に損う (/損ねる/\*損じ(ず)る) ほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

(鈴木健二『自分学のすすめ』)

(例 5-10 の再掲)

(5-24) 三島楯の会事件の前夜、女と寝ていたために蹶起に間にあわず死にそこね (/損なった/\*損じ) た青年がいる、と設定する。

(平岡正明『大革命論』)

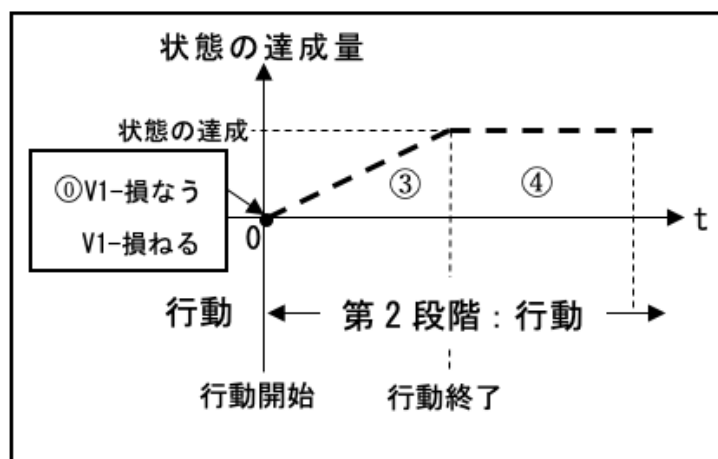


図 5-5. 行為の過程における①段階の失敗「V1-損なう」「V1-損ねる」(図 5-3 の再掲)

### 5.5.3 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」の意味の場合

次に「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表す場合について考察する。この意味は例 (5-25) のように「読もう」と思い (①)、その記憶を保持し (②)、実

際に「読む」という行為は行った(③)ものの、100%理解できなかったことを表している。行動段階(③)での失敗であるため、図5-6のようになる。

(5-25) よく知っているから、ことさらにその点を言わなかっただけで、指導精神を  
読み損ねた (/損なった/損じた) 作家の方に罪はある。

(甲賀三郎『甲賀三郎探偵小説選』)

(例5-9の再掲)

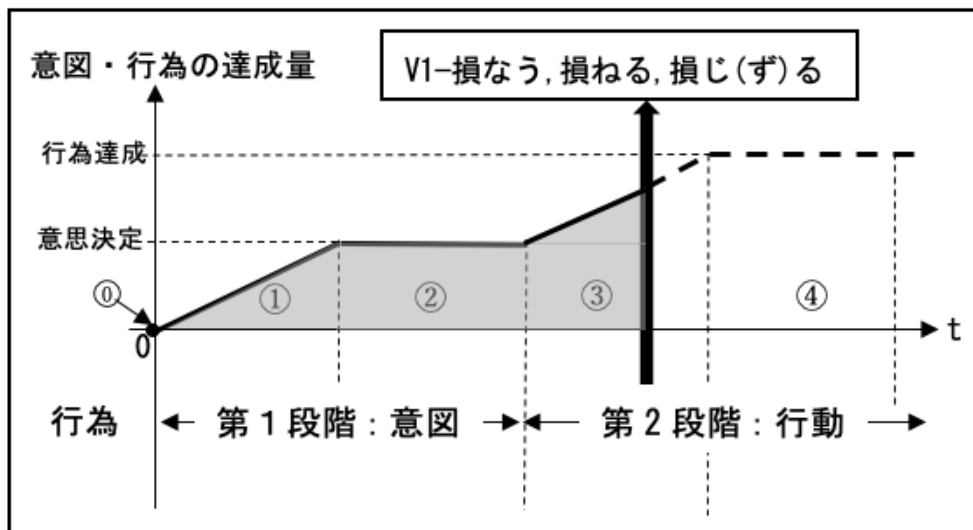


図5-6. 行為の過程における行動段階の失敗「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」

(図5-2の再掲)

この用法は「V1-損なう」「V1-損ねる」ではBCCWJでは「読む」や「聞く」といった認知的な動詞しか見られなかった。しかし、インターネット上では例(5-26)の「たばこの火を消す」のように行為が段階的に完了する動詞と共起し、「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表す用法が見られた。他にも例(5-27)のように対象の数が多くそのうちのいくつかを逃したという意味での使用も見られた。しかし、このような例は「V1-損なう」と言い換えても不自然にはならないものの、実際の使用は見られなかった。



(5-26) シチュエーションは駅のホーム。たばこの煙がたちこめています。灰皿では消しそこねた吸殻が狼煙をあげています。

(<http://blog.livedoor.jp/nekosuki600/archives/51144891.html>)

2021年8月29日閲覧

(例5-5の再掲)

(5-27) 一生懸命書類を数えている。たまに数え損ねては顔を顰め、初めから数え直していた。

(<https://novel18.syosetu.com/n4555cy/20/>)

2021年9月12日閲覧

一方、「V1-損じ(ず)る」の場合、BCCWJの出現の上位2語の「書く」と「する(仕)」がこの用法を表している。両者ともV1の行為が行われている場面での失敗である。

(5-28) 現金書留の封筒を書き損じた (/ ? 損なった / ? 損ねた) 場合は捨てるしかないのでしょうか。

(Yahoo!知恵袋)

(例5-1の再掲)

(5-29) 文字を書き損ねた (/ 損なった / 損じた) 時、どうしますか? よくあるのが修正テープを上から貼ったり、修正液を塗ったりして書き直す方法。

(<https://kagakumag.com/houseware/?id=8884>)

2021年9月21日閲覧

(5-30) 急いては事を仕損じる (/ 損なう / 損ねる) あまり急いで物事をかたづけようとすると、かえって失敗することが多い。

(作者不明『NHKおじゃる丸ことわざ辞典』)

このうち例(5-28)の「書く」は「V1-損なう」「V1-損ねる」と言い換えると少し不自然に感じる。この場合、字の失敗ではあるが、目的語として間違えた対象である「字」ではな

く、間違えた字が書かれている媒体の「封筒」と共起している。このような場合、「V1-損なう」「V1-損ねる」は使用しにくい。「年賀状の書き損じ」といった名詞からの影響だと思われる。従って、例(5-29)のように間違えた字と共起する場合は「V1-損なう」「V1-損ねる」が使用できる。また、「する(仕<sup>8</sup>)」に関しては例(5-30)のように「急いては事を仕損じる」という慣用句での使用が多く見られた。

#### 5.5.4 「相手への評価が想定より低い」の意味の場合

最後に「V1-損なう」が「相手への評価が想定より低い」という意味を表す場合について考察する。例(5-31)のように人に対する評価が想定していたものより低いことを表している。「見る」という行為は行われているため、「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」と同様に③の行為中の失敗である。この用法は「見損なう」一語のみが持つもので、一語化している。

(5-31) 「冷たいのね、夫人には。個人主義もいいところ。見損なったわ、逃げるの？」

(三田薫子『女恋坂』)

(例 5-16 の再掲)

#### 5.5.5 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の違い

5.5節では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が行為の過程のうちどの段階であるかについて考察した。その結果を、行為の過程の順に示すと表 5-10 のようになる。広い意味で行動段階での失敗だと考えられる。

<sup>8</sup> 「急いては事を仕損じる」という場合の「仕」は動詞「する」の意味として使用されているため、ここでは「する(仕)」と表記する。

表 5-10. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る
①	危うく～するところだった	危うく <u>死に損なう</u>	危うく <u>死にそこねる</u>	—
③'	～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に <u>乗り損なう</u>	電車に <u>乗り損ねる</u>	ボールを <u>打ち損じ(ず)る</u>
③	～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書損じ(ず)る</u>
	相手への評価が想定より低い	彼を <u>見損なう</u> (一語化)	—	—

5.6 日本語「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“没能-V”の対応

5.6 節では日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」がどのような中国語の表現と対応するかについて考察する。望月・申亜敏 (2016) では「V1-損なう」「V1-損ねる」は主に [IP[IP…V1…]] の形式を持つ助動詞文のうち“没能-V”と対応すると述べている。また、薛婧宇 (2019) では“没能-V”の他に“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”や“V-失敗”にも対応すると述べ、主に“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”との対応について見ている。しかし、例 (5-32) のように“没能-V”および“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の両方に対応するものや、例 (5-33) のように“没能-V”に対応するものの“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”では不自然になるものなどがある。このように、第4章で論じた「V1-忘れる」と“忘-V”に比べると対応関係が複雑になっている。

(5-32) a. 忙しくてお昼ご飯を食べ {損なった/損ねた}。

b. 我忙得 {没吃成/没能吃} 午饭。

(5-33) a. 最後まで泳ぎ {損なった/損ねた}。

b. 我 {\*没游成/没能游} 到最后。

そこで、5.6 節では日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”を中心に比較し、V1 の違いから意味の違いについて考察する。

### 5.6.1 共起する V1 の特徴

5.6.1 では中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”がそれぞれどのような動詞と共起するのかコーパスから傾向を見る。中国語のコーパスは BCC の“多領域”を選択し、検索欄に“没能 v”“没 v 成/到/掉”をそれぞれ入力して検索した。その結果、それぞれの検索結果を合わせた「V」の出現数上位 20 位までを表 5-11～5-14 に示す。各表の割合(%) は述べ語数における出現率を表す。

表 5-11. 没能 V

延べ語数：12,678 語  
異なり語数：1,722 語

	V	数	%
1	找	327	2.6
2	去	300	2.4
3	让	279	2.2
4	得到	259	2.0
5	实现	228	1.8
6	见	198	1.6
7	做	197	1.6
8	使	183	1.4
9	看到	173	1.4
10	参加	138	1.1
11	逃	135	1.1
12	解决	134	1.1
13	说	131	1.0
14	如愿	121	1.0
15	阻止	115	0.9
16	看 把握	113	0.9
18	完成	110	0.9
19	陪	105	0.8
20	达到	104	0.8

表 5-12. 没 V 成

延べ語数：3,270 語  
異なり語数：445 語

	V	数	%
1	去	533	16.3
2	能	318	9.7
3	办	187	5.7
4	吃	157	4.8
5	买	122	3.7
6	死	86	2.6
7	睡	71	2.2
8	干	69	2.1
9	走	59	1.8
10	发	54	1.7
11	谈	53	1.6
12	打	51	1.6
13	练	44	1.3
14	搞	41	1.3
15	想到	40	1.2
16	拍 弄	33	1.0
18	学	30	0.9
19	写	29	0.9
20	喝	28	0.9

表 5-13. 没V到

延べ語数：28,234 語

異なり語数：942 語

	V	数	%
1	找	5,176	18.3
2	见	4,521	16.0
3	注意	2,839	10.1
4	吃	1,341	4.7
5	买	1,261	4.5
6	做	774	2.7
7	感觉	574	2.0
8	接	558	2.0
9	拍	444	1.6
10	抢	387	1.4
11	学	337	1.2
12	抓	322	1.1
13	走	286	1.0
14	考虑	232	0.8
15	抽	210	0.7
16	察觉	198	0.7
17	轮	182	0.6
18	喝	167	0.6
19	赚	165	0.6
20	留意	157	0.6

表 5-14. 没V掉

延べ語数：660 語

異なり語数：172 語

	V	数	%
1	卖	57	8.6
2	死	45	6.8
3	脱 删	21	3.2
5	消化 疯	20	3.0
7	忽略	19	2.9
8	花 逃	18	2.7
10	跑	15	2.3
11	换	14	2.1
12	消 戒	12	1.8
14	剪 挂	11	1.7
16	喝 嫁	10	1.5
18	走	9	1.4
19	退 灭	7	1.1

表 5-11 の“没能-V”は日本語にすると「(状況的に) V することができない」に該当する。刘月华他 (1996 : 147, 157-158) では、“能”を“能愿动词 (能愿動詞)”あるいは“助动词 (助動詞)”とし、刘月华他 (1996 : 161) では「主体或いは客観的条件が揃っていること」「情理上許されること」「許可」「可能性」を表すとまとめている。特に「主体或いは客観的条件が揃っていることを表す場合、例 (5-34) のように「~しようと挑戦したが、結果としてできなかった」と判断する場面で使用される。

(5-34) 这个机器的马达坏了，不能开动了。

この機械のモーターが壊れてしまって動かない。

刘月华他 (1996 : 157)

従って、“没能-V”は「～しようと努力したにもかかわらず、できなかった」という意味を表している。「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」との対応を見ると、例(5-35)のように「ずっと」のような期間を表す副詞と共起する場合は日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」には言い換えにくい、例(5-36)のように「前回」のような個別一回的な出来事を表す場合は言い換えやすい。

(5-35) 他找了很久自己的帽子也没能找到。

彼はずっと自分の帽子さえ探し出せなかった（/?探し {損ねた/?損なった/\*損じた）。（车尔尼雪夫斯基『怎么办?』）

(5-36) 因为上次选举时候有各种原因没能投票, 明年的选举他们一定赶回韩国投票, 不把这个总统弄下来决不罢休。

前回の選挙のときは様々な理由で投票できなかった（/し損なった/し損ねた/\*し損じた）ので、来年の選挙の時は（彼らは）必ず韓国に戻り投票し、必ずこの大統領を辞任させる。（微博）

次に、“没-V-「結果補語」 {成/到/掉}”について見る。刘月华他(2019)ではこれらは形容詞や動詞が結果補語として働き、動作または変化によって生じた結果を表すと述べている。従って、“没-V-「結果補語」 {成/到/掉}”は「～しようとしたことが最後まで {成功しなかった/到達しなかった/落ちなかった}」という意味を表している<sup>9</sup>。表 5-13～

<sup>9</sup> “成”“到”“掉”の違いについては、呂叔湘他(1992: 56, 83-84, 99)では次のように述べている。

V-成: ①成功・完成・実現を表す(文章昨天才写成。)

②～になる、～変わる(小学改成五年制。)

V-到: ①動作が目的まで到達したことや、ある結果をもたらしたことを表す(好容易走到了。)

②人または物が動作とともにある場所へ到達したことを表す(他回到了家乡。)

③動作がいつまで継続するかを表す(等到明年暑假我在来看你。)

④動作や性質・状態がある程度に到達したことを表す(他坐了不到十分严重的地步。)

⑤状態が到達した程度を表す(声音高到不能再高了。)

V-掉: 動結形の結果を示す要素になる(打掉, 走掉, 死掉…)

このうち、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」に該当するのは、“成”の①、“到”の①、および“掉”である。

また、丸尾(2017: 53)では結果補語“掉”の完遂義について、「ずっと気になっていることをやってみよう」「とにかく終わらせる」のような義務的に、適当にやるというニュアンスを持つと述べている。このような「～しようと強く思う」ことが「V1-損なう」などの「～しようと思っていたが、タイミングを逃してできなかった」という意味と共通すると思われる。

なお、本研究では“V-成”“V-到”“V-掉”の違いについては考察しないこととする。

5-14を見ると、“没能-V”と共通して“找(探す)”や“去(行く)”といった動作動詞などが見られる。“没能-V”と異なる点は“睡(寝る)”や“死(死ぬ)”といった無意志動詞との共起が見られる点である。「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」との対応を見ると、例(5-37)のように単なる事実として述べる場合は言い換えにくい、例(5-38)のように結局チャンス逃したという場合には言い換えられる。

(5-37) 后来，他还是走了，没去成厂里。

その後、彼はやはり帰り、工場には行かなかった (/ \*行き損なった / \*行き損ねた / \*行き損じた)。

(科技文献)

(5-38) 也必须要解剖，做实验，结果她学也没学成。

解剖も実験もしなければならなかったが、結局彼女は学ばなかった (/ 学び損なった / 学び損ねた / \*学じ損じた)。

(科技文献)

従って、本節では5.5節で見た「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の行為の過程における以下の4つの意味別に、中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”との対応関係について見る。

1. ~しようとしたが、タイミングを逃してできなかった (5.6.2.1)
2. 危うく~するところだった (5.6.2.2)
3. ~したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待した結果にならなかった (5.6.2.3)
4. 相手への評価が想定より低い (5.6.2.4)

5.6.2 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“没能-V”の位置づけ

5.6.2.1 「~しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味の場合

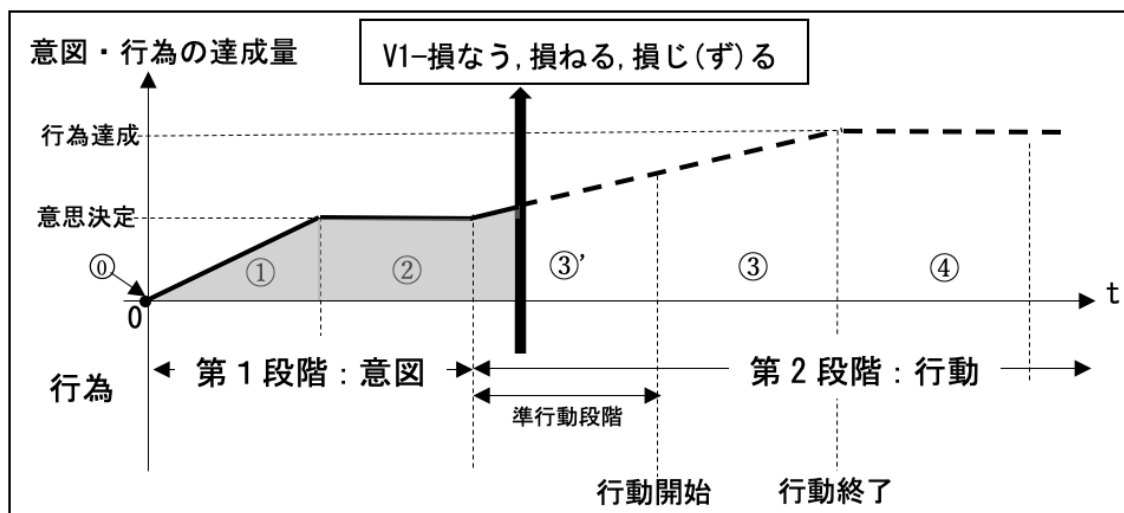


図 5-7. 行為の過程における意図段階での失敗

「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」(図 5-1, 5-4 の再掲)

一方、中国語の場合は例 (5-39b) のように“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”と対応している。例 (5-40b) のように“没能-V”しか対応しないものも見られた。

(5-39) a. 私は忙しくてお昼ご飯を食べ {損なった/損ねた/損じた}。

b. 我忙得 {没吃成/没能吃} 午饭。

(5-40) a. この釣ったライギョも七十くらいはありますが、カエルを食べ損なっ(  
損ねた/⁹損じた)ライギョは、もうひと回りデカイ奴でした。

(Yahoo! ブログ)

(例 5-21 の再掲)

b. 钓上来的这条黑鱼有七十厘米长, 没吃到 (/ \*没能吃) 青蛙的那条鱼更大一点。



5.6.2.2 「危うく～するところだった」の意味の場合

5.5.2節でも述べたように、日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」は「死に損なう」や「死に損ねる」のように「～しよう」という意志段階がなく、「危うく～するところだった」という意味で使われる場合がある。これはV1の事態が生じる前の失敗であるため、図5-8の①の段階での失敗である。一方、「V1-損じ(ず)る」はこの意味を持つものは見られない。

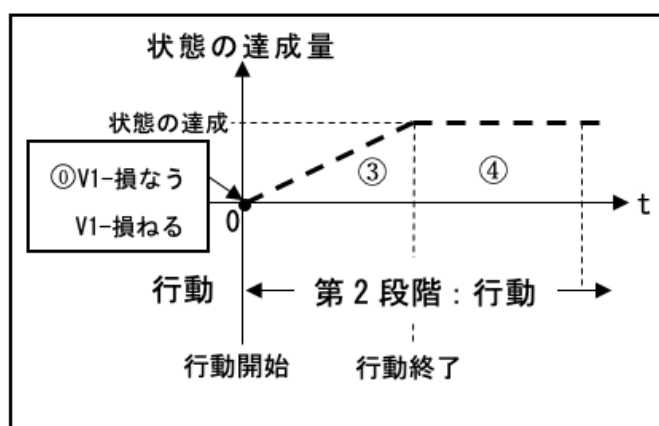


図5-8. 行為の過程における①段階の失敗「V1-損なう」「V1-損ねる」(図5-3, 5-5の再掲)

日本語の場合、例えば「死に損ねる」は「死のう」と思っていた場合には「死のうと思っていたが、タイミングを逃して死ねなかった」という意味になるが、「死のう」と思っていなかった場合には「危うく死ぬところだった」という意味になる。

一方、中国語の場合は、例(5-41)のように“差点儿[没]-V”<sup>10</sup>と対応し、“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”とは対応しない。

<sup>10</sup> “差点儿”について、呂叔湘他(1992: 52)では次の3つの意味を挙げている。  
 ① 実現を望まないことが、実現しそうになりながらも実現しなかったことを表す。助かったという気分を含む。動詞が肯定形でも否定形でも同じ意味。  
 (例) 差点儿[没]摔倒。(あやうく転ぶところだった：実際には転んでない)  
 ② 望んでいたことが、実現しそうになかったのに結局は実現したことを表す。よかった、うれしいという気分を含む。動詞は否定形を用いる。  
 (例) 差点儿没看见。(もう少しで会えないところだった：実際には会えた)  
 ③ 望んでいたことが、実現しそうになりながら結局は実現しなかったことを表す。残念だという気分を含む。動詞は否定形。動詞の前にはふつう‘就’がくる。  
 (例) 差点儿就见着了。(もうちょっとで会えるところだったのに：実際には会えなかった)  
 このうち、「V1-損なう」「V1-損ねる」の「危うく～するところだった」の意味に対応するのは②の意味だけである。

(5-41) a. 五十歳の時に死に損う (/損ねる/\*損じ(ず)る) ほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

(鈴木健二『自分学のすすめ』) (例 5-10, 23 の再掲)

b. 从五十岁的时候我得了一种差点儿致死的病，我的身体应该不是很健康。

BCC コーパスを見ると“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”には“死(死ぬ)”と共起する場合も見られるが、例(5-42)のように「死ななかった」という事実としての記述や、例(5-43)のように先の「死にたいと思っていたが、タイミングを逃して死ねなかった」という意味を表す。この場合は「V1-損ねる」と対応する。

(5-42) 梦见情敌想害死我，但没死掉，被漂流到不知明的地方，全身又脏，满身还是伤。

ライバルが私を殺したいと夢見ていたが、死ななかった (/死に損なった/\*死に損ねた/\*死に損じた)。

(微博)

(5-43) 本来死就是不应该的。既然真的没死成，还请好好活着，…

本来死ぬべきではない。死ななかった (/死に損なった/死にそこねた/\*死に損じた) 以上、しっかり生きてください…

(微博)

### 5.6.2.3 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」の意味の場合

5.5.3 節でも述べたように、日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は「(字を)書き{損なう/損ねる/損じ(ず)る}」のように「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味で使われる場合がある。これはV1の行為中の失敗であるため、図5-9の③の段階での失敗である。日本語では、「書く」や「(火を)消す」など対象や行為が質的・量的に段階的に完了する動詞と共起する。

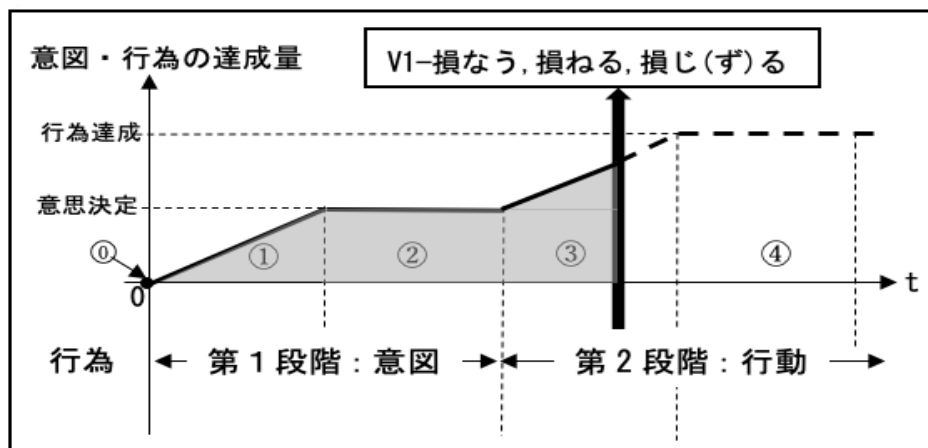


図 5-9. 行為の過程における行動段階の失敗「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」  
(図 5-2, 5-6 の再掲)

この場合、例 (5-44a) のように行為の対象である「文字」の失敗を表すため、中国語の場合は例 (5-44b) のように“V-错”<sup>11</sup>などで表現し、“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”とは対応しない。しかし、例 (5-45) の「書き損じる」の場合は、文字を書き間違えたことに焦点があるのではなく、その媒体である「はがき」がだめになることを表す。このような場合は“V-错”を使用する。

- (5-44) a. 文字を書き損ねた (/損なった/損じた) 時、どうしますか？ よくあるのが修正テープを上から貼ったり、修正液を塗ったりして書き直す方法。

(<https://kagakumag.com/houseware/?id=8884>)

2021年9月21日閲覧 (例 5-29 の再掲)

- b. 写错字的时候，(你)会怎么办？常见的修改方法是在上面贴修正带或者涂修正液。

- (5-45) a. はがきを書き損じた。

- b. 我明信片写错了。

<sup>11</sup> 中国語の“V-错”は「Vすることを間違える」という対象の失敗を表す。この点については、第8章で「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-達える」「V1-達う」「V1-誤る」との対照の観点から取り上げることとする。

#### 5.6.2.4 「相手への評価が想定より低い」の意味の場合

5.5.4節でも述べたように、日本語の「V1-損なう」は先程の図5-10の③の行動段階の失敗としての「相手への評価が想定より低い」という意味を持つ。この意味で使われるのは、日本語では「見損なう」一語のみで、一語化している。これに対応する中国語は、例(5-46)のように“看错”となる。“看”は日本語の「見る」と同様に「評価する」という意味を持ち、“V1-错”はV1の行為が間違いであったことを表す。

(5-46) 我看错了他。 (彼のことを見損なった。)

そのため、“看错”は「見誤る」とも訳されるが、「見誤る」は対象を過大評価していた場合にも過小評価していた場合にも使われるが、「見損なう」は過大評価していた場合にしか使えないという違いがある。(「V1-誤る」に関しては第8章で論じる。)

#### 5.6.3 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の違い

5.6節では行為の過程の段階ごとに、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」がどのように表現されるかについて、日本語と中国語を比較した。その結果を表5-15に示す。

表 5-15. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の表現

行為の過程	意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る	中国語表現
①	危うく～するところだった	危うく <u>死に損なう</u>	危うく <u>死にそこねる</u>	—	“差点儿[没]-V” 差点儿死了
③'	～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に <u>乗り損なう</u>	電車に <u>乗り損ねる</u>	ボールを <u>打ち損じ(ず)る</u>	“没能-V” 没能吃 “没-V-「結果補語」 {成/到/掉}” 没吃成
③	～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書損じ(ず)る</u>	“V-错” 写错
	相手への評価が想定より低い	彼を <u>見損なう</u> (一語化)	—	—	<u>看错了</u> 他

日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の共通点と相違点は次の通りである。

共通点：③' ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった 相違点：①危うく～するところだった（中国語は“差点儿[没]-V”） ③～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった（中国語は“V-错”） ③相手への評価が想定より低い（中国語は“V-错”）
---

### 5.7 本章のまとめ

第5章では日本語の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」について、まず5.3節で本動詞「損なう」「損ねる」「損じ(ず)る」との関係について考察した。その結果、表5-16に示すように「V1-損なう」「V1-損じ(ず)る」には「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味があり、加えて「V1-損なう」「V1-損ねる」には「危うく～する

ところだった」という意味があり、更に「V1-損なう」には「相手への評価が想定より低い」という意味があることを指摘した。

表 5-16. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の意味の対応 (表 5-6 の再掲)

意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る
1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車で <u>乗り損なう</u>	電車で <u>乗り損ねる</u>	ボールを打ち <u>損じ(ず)る</u>
2. 危うく～するところだった	危うく <u>死に損なった</u>	危うく <u>死に損ねた</u>	—
3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書き損じ(ず)る</u>
4. 相手への評価が想定より低い	彼を <u>見損なった</u> (一語化)	—	—

次に、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と共起する V1 の特徴を BCCWJ の出現数から比較した。その結果、「V1-損なう」「V1-損ねる」は同じような動詞と共起しており、「見る」や「食べる」といった他動詞だけでなく、「乗る」、「行く」、「曲がる」、「勝つ」など自動詞とも共起が見られた。一方、「V1-損じ(ず)る」は特に「書く」「する(仕)」<sup>12</sup>との共起が多く見られた。また、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じる」が「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表す場合、失敗の原因がコントロール可能な場合に「V1-忘れる」と言い換えられる。

更に、BCCWJ の結果をもとに、表 5-17 に示した 4 つの意味がそれぞれ行為の過程のうち、どの段階での失敗であるかについて考察した。その結果、図 5-10 に示すように、「1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」は③' に示す準行動段階での失敗、「2. 危うく～するところだった」は①に示す意図する前の意識していない段階での失敗での失敗、「3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」および「4. 相手への評価が想定より低い」は③に示す行動段階での失敗であることを指摘した。

<sup>12</sup> 「急いで仕事を仕損じる」という慣用句として使用されているものを指す。

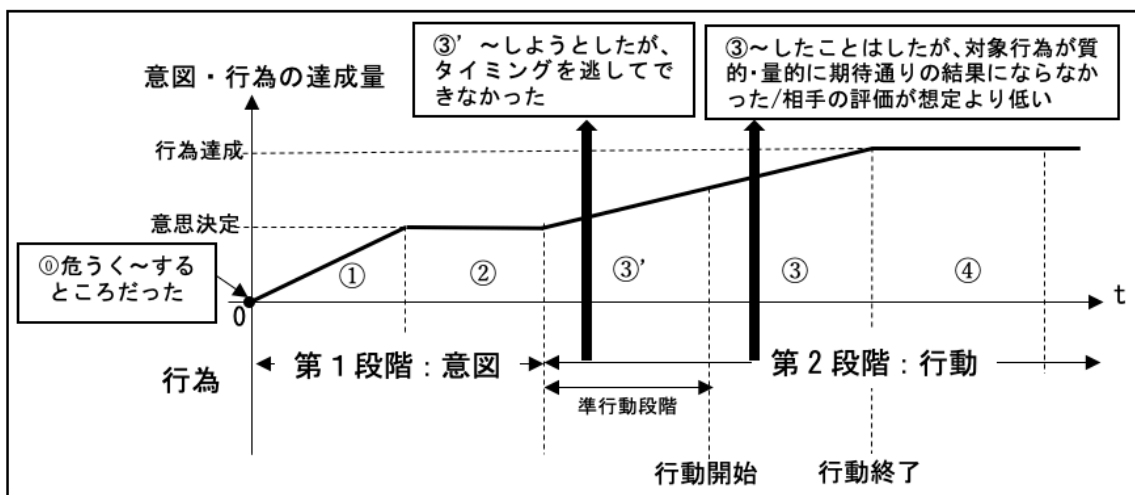


図 5-10. 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ

最後に、図 5-10 に示す行為の過程における 4 つの意味別に、中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”とどのように対応するかを考察した。その結果を表 5-17 に示す。

表 5-17. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の表現 (表 5-15 の再掲)

行為の過程	意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る	中国語表現
①	危うく～するところだった	危うく <u>死に損なう</u>	危うく <u>死にそこねる</u>	—	“差点儿[没]-V” 差点儿死了
③'	～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に <u>乗り損なう</u>	電車に <u>乗り損ねる</u>	ボールを <u>打ち損じ(ず)る</u>	“没能-V”：没能吃 “没-V-「結果補語」 {成/到/掉}” 没吃成
③	～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書損じ(ず)る</u>	“V-错” 写错
	相手への評価が想定より低い	彼を <u>見損なう</u> (一語化)	—	—	看错了他





## 第6章 「V1-逃す」「V1-そびれる」<sup>1</sup>

### 6.1 はじめに

本章では、日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味について論じる。「V1-逃す」「V1-そびれる」はいずれも「機会を逸する」という意味を持つ。また、行為を行う前の失敗という意味では、第4章で論じた「V1-忘れる」や第5章で論じた「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と共通の意味的側面を持っている。そのため、本章では「V1-逃す」「V1-そびれる」と「V1-忘れる」「V1-損なう」（「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」）との比較についても論じる。

6.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、6.2節では「V1-逃す」「V1-そびれる」の先行研究について概観する。

次いで6.3節では本動詞「逃す」「そびれる」（「そびれる」は本動詞では使わない）と複合動詞「V1-逃す」「V1-そびれる」を比較して、両者の共通点と相違点について論じる。

続く6.4節ではBCCWJの検索結果を基に、「V1-逃す」「V1-そびれる」と共起するV1の特徴を見る。

次に6.5節では行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の各用法の位置づけについて考察する。その結果、「V1-逃す」「V1-そびれる」には次のようないくつかの意味があることを論じる。まず、「V1-逃す」も「V1-そびれる」も「テレビ番組を見逃した/見そびれた」のように「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表し、「V1-逃す」は図6-1の②の部分（意図段階）での失敗を表すこと、「V1-そびれる」は図6-2の②の部分（意図段階）のうち準備としての準意図段階（②'）での失敗を表すことを指摘する。

---

<sup>1</sup> 本章は南（2021c）を元に加筆修正したものである。

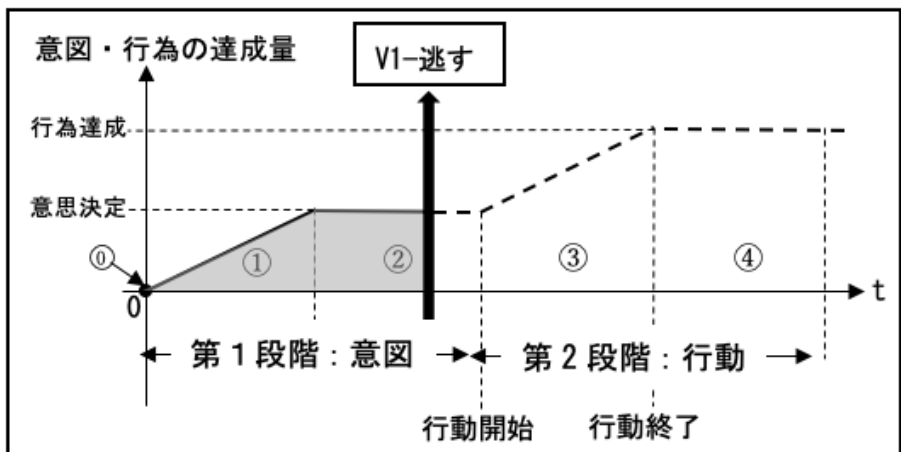


図 6-1. 行為の過程における「V1-逃す」の位置づけ 1

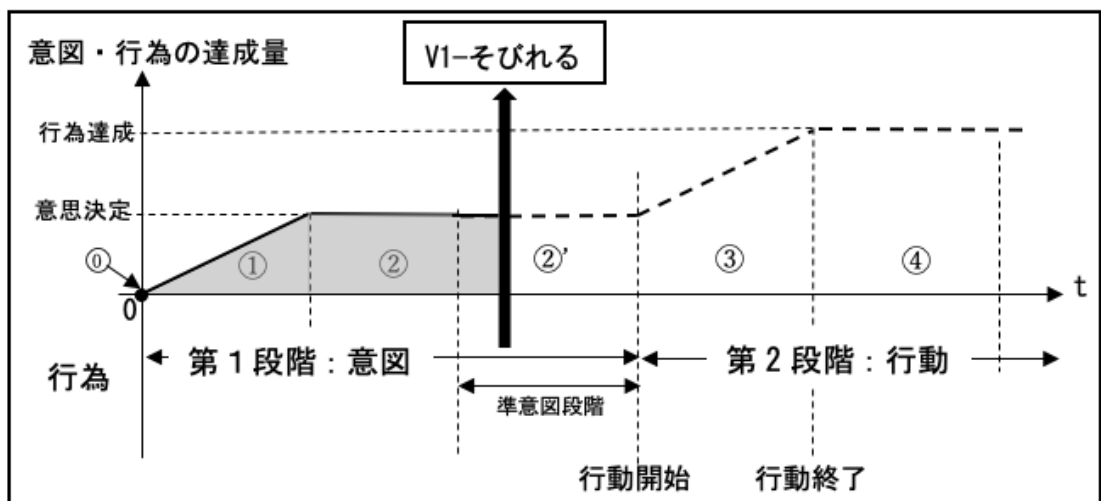


図 6-2. 行為の過程における「V1-そびれる」の位置づけ

また、「V1-逃す」には「合図を見逃す」のような用法もある。これは「～したことはしたが対象を捕らえきれず、できなかった」という意味を表し、図 6-3 の③の部分（行動段階-行為中）での失敗を表すことを指摘する。また、「犯罪を見逃す」のような「気づいていながら見ないふりをする」という意味の「V1-逃す」も③の部分での失敗を表すと考えられる。

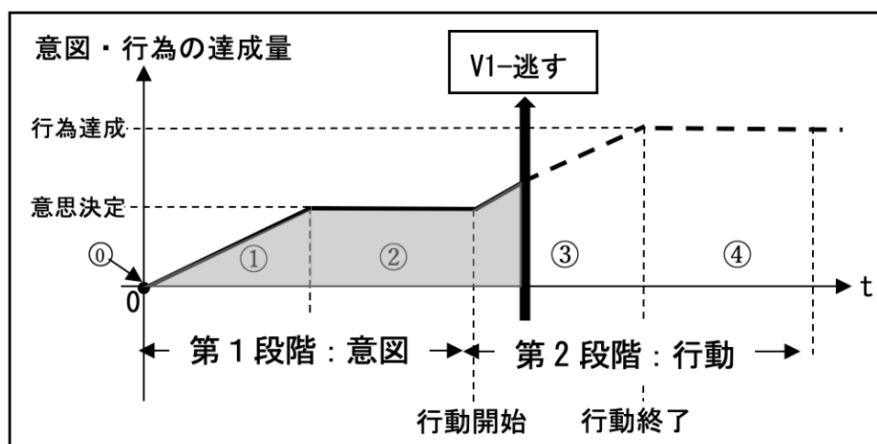


図6-3. 行為の過程における「V1-逃す」の位置づけ2

更に、「V1-忘れる」「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」も踏まえて意味の違いを考察する。その結果、行為の過程においては「V1-忘れる」は意図段階の失敗、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は準行動段階の失敗、「V1-そびれる」は準意図段階の失敗、「V1-逃す」は意図段階および行動段階での失敗であることを指摘する。また、「V1-忘れる」は失敗の原因が失念にあること、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は行為をしかけたことに対する失敗であること、「V1-そびれる」は失敗の原因が外的要因にあること、「V1-逃す」は失敗の行為が挽回できないことに、それぞれ焦点がある点で異なることを指摘する。

続いて6.6節では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語の表現を比較し、共起する動詞の違いによって、対応関係があることを指摘する。最後に6.7節で本章のまとめをする。

## 6.2 先行研究

本節では「V1-逃す」について論じられている陳奕延(2013)、「V1-そびれる」について論じられている黄其正(2013)、薛婧宇(2019)について概観し、本研究における「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味分類を提示する。

### 6.2.1 陳奕延 (2013)

陳奕延 (2013) は「～おとす」「～もらす」「～のがす」について分析している。このうち、「V1-逃す」については、「(逃げる) 獲物を撃ちのがした」と言えるのに対し、「\* (固定された) 的を撃ちのがした」とは言えないことから、「対象は捕獲者が捉えたいと思うものであり、加えて、その対象は「逃げる」もの、すなわち「捕獲できない状態になり得る」ものでなければならない、という制限が課せられる」(陳奕延 2013 : 153) と述べている。それに加え本研究では、行為の過程のうち「V1-逃す」は準備段階の失敗であり、「挽回できない失敗である」という意味があることを指摘する。

### 6.2.2 黄其正 (2013)

黄其正 (2013) では「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-あぐねる」を「未遂行」の局面を表す表現として事態の成立背景の違いを比較している。黄其正 (2013:158) は例 (6-1) を提示し、「a の [いいそびれる] は言いたいこと (おめでとう) があって、何かの事情 (気持ちの動揺) でそれを言い出すタイミングを失い、結局言い出せなかったのである。一方、b [言いそこなう] は言いたいこと (靴のこと) があってそれを言おうとしていたが、事態進行 (ほかに沢山言うことがある) の流れで結局言い出せなかったのである。両者共にはっきりと言いたいことがあって言い出せない点では同じであるが、前者はタイミング的に、後者は事態の流れ的に、結局言い出せないことになるのである」と述べている。

- (6-1) a. 最後の瞬間、不二とちらりと視線がかち合ったような気がして余計に動揺してしまう。慌てて練習メニューに集中する。結局、おめでとうをいいそびれてしまったな、と手塚は不二の後姿を見送った。

([homepage2.nifty.com/yoruno/old/day.html](http://homepage2.nifty.com/yoruno/old/day.html))

(黄其正 2013 : 157-158 の例 (19a) )

- b. 実は、レッスンの時に靴のことに気がついていたのですが、言おう、言おうと思っていたのに、他にも沢山言うことがあって、言い損なってしまったのです。

(blog. livedoor. jp/kiyo\_ballet/archives/cat\_50247513. html)

(黄其正 2013 : 157-158 の例 (19b) )

黄其正 (2013) は事態の成立背景について考察している点で評価できる。しかし、「V1-損なう」はタイミング的に、「V1-そびれる」は事態の流れ的に言えなかったことを表すと述べているが、「V1-そびれる」が持つ意味の「事態進行 (ほかに沢山言うことがある) の流れで結局言い出せなかった」ことも、言い出すタイミングを失ったとも解釈できるため、タイミングに関して再考の余地がある。本研究では意図と行動の捕らえ方の違いに注目し、どのようなタイミングなのかについても言及する。

### 6.2.3 薛婧宇 (2019)

薛婧宇 (2019) は「V1-そびれる」について、未着手の意味を持つとし、BCCWJ から用例を抽出し、どのような動詞と共起するかについて考察している。更に、「V1-損なう」は中国語の“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”や“没能-V”“V-失败”などと対応しているとし、どのような動詞と共起するかについて日本語と比較している。その結果をまとめると表 6-1 のようになる。

表 6-1. 薛婧宇 (2019) 未着手の意味を持つ「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」”

動詞分類		V1-そびれる	没-V-「結果補語」	
意志動詞	動作動詞	1. 状態・位置変化動詞	出しそびれる	没丢成
		2. 授受・所有動詞	もらいそびれる	没拿成
		3. 知覚・認識動詞	見そびれる	没看成
		4. 言語伝達動詞	言いそびれる	没说成
		5. 移動動詞	帰りそびれる	没回成
	心理動詞	1. 感情動詞	*愛しそびれる	*没爱成
		2. 思考・判断動詞	考えそびれる	没考虑成
		3. 意思・決定動詞	決めそびれる	没决定
無意志動詞	1. 変化動詞	死にそびれる	没死成	
	2. 現象動詞	(雨が) *降りそびれる	(雨) *没下成	

このうち、「5. 移動動詞」について、日本語の「来そびれる」は言えないが、同じ意味の中国語の“没来成”は言えると述べている。しかし、例 (6-2) のように、「来そびれる」も使われている。

(6-2) 1 日体験入学に来そびれてしまった方、1 日体験入学で聞きそびれたことや後で  
 気になったことがある方、是非幕張メッセの方にも足をお運び下さい。

(<https://cms1.chiba-c.ed.jp/chb-izumi-h/jo4idhbj7-508/>)

2021 年 10 月 2 日閲覧

また、薛婧宇 (2019) では無意志動詞のうち「1. 変化動詞」については「死にそびれる」と「寝そびれた」の 2 例しか見られないと指摘している。「死にそびれる」については「死からの<sup>ママ</sup>がられた」「死亡を免れた」という既定結果から逃れる意味を持ち、「寝そびれる」は「寝よう」とする意図があり、意志性が感じられる場合に、「V1-そびれる」および“没 V 成”は使用できると述べている。本研究ではこの点について、「死にそびれる」も例 (6-

3) のように「死のうと思っていた」という文脈で使用されていることから、無意志動詞には入らず、意図段階での失敗と考える。

(6-3) 死にたかったが死にそびれた。その後も手探りで生きてきた。

(<https://www6.nhk.or.jp/heart-net/mukiau/message.html?p=8881>)

2021年10月3日閲覧

また、薛婧宇 (2019) では「V1-そびれる」をすべて行為が始まる前の未着手の意味を持つと述べているが、例 (6-4) のように「読むという行為はしたものの、対象を捕らえきれなかったためできない」という行為中の失敗も見られる。

(6-4) そのために混雑した不明瞭な印象を受けるばかりで、大切な核心を読み逃してしまうであろう。

(坂口安吾『坂口安吾全集』)

#### 6.2.4 先行研究のまとめと本研究の「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味

以上、先行研究では「V1-逃す」「V1-そびれる」には「未遂行」や「未着手」の意味があることや、「V1-逃す」は「対象は捕獲者が捉えたいと思うもの」であり、「捕獲できない状態になり得るもの」であること、「V1-そびれる」は「事態の流れ的に行為ができなかった」という意味があることが指摘されている。これに対し、本研究では「V1-逃す」には行為が行われる前の失敗として1の用法、実際の行動が行われている最中の失敗として2の用法、一語化した特殊な用法として3の用法の次の1~3の3つの用法があり、「V1-そびれる」には次の1の用法があると考えられる。また、同じ1の意味でも、「V1-逃す」は「挽回できない」ということを表すことに焦点があり、「必ず~しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表すのに対し、「V1-そびれる」は失敗の原因が外的要因にあるということに焦点があり、「~しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」という意味があると考えられる。

1. ～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった

- ・必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった

(例) テレビ番組を見逃す。

- ・～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった

(例) テレビ番組を見そびれる。

2. ～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった

(例) 合図を見逃す。

3. 気づいていながら見ないふりをする

(例) 犯罪を見逃す。

以下、これらの用法について、本動詞との関係(6.3節)、共起するV1の特徴(6.4節)、行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の各用法の位置づけ(6.5節)、中国語との比較(6.6節)を行い、それぞれの特徴を明らかにする。

### 6.3 本動詞「逃す」「そびれる」と複合動詞「V1-逃す」「V1-そびれる」の対応

本節では本動詞「逃す」「そびれる」と複合動詞「V1-逃す」「V1-そびれる」の共通点と相違点について論じる。まず、本動詞「逃す」および複合動詞「V1-逃す」の持つ意味として、『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

『明鏡国語辞典』(北原 2002 : 1285)

「逃す」 : 捕らえようとしたものをつかまえそこなう、逸する

(例) 大魚(好機)を逃す。

「V1-逃す」 : ～しないでしまう、～そこなう

(例) 見逃す・聞き逃す・買い逃す

以上の記述から、本動詞「逃す」には「捕らえようとしたものを、チャンスを逃し捕まえられなかった」という意味があり、その意味がそのまま「V1-逃す」にも引き継がれていることが伺える。また、「V1-損なう」と似た意味を持つことが分かるが、その違いまでは述



べられていない。一方、「V1-そびれる」には本動詞の用法がなく、『明鏡国語辞典』では複合動詞「V1-そびれる」のみ記述が見られた。

『明鏡国語辞典』（北原 2002：955）

「V1-そびれる」：～する機会をのがす、～しそこなう

（例）返事を出しそびれる

以上の記述から、「V1-そびれる」は「V1-逃す」や「V1-そこなう」と同様に「～する機会を逸する」という意味を持つことが分かる。しかし、その違いまでは述べられていない。本研究における意味と比較すると次の表 6-2 のようになる。

表 6-2. 辞書における本動詞および複合動詞の意味と

本研究における「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味

『明鏡国語辞典』				本研究における意味
V1-逃す		V1-そびれる		
本動詞	複合動詞	本動詞	複合動詞	
捕らえようとしたものをつかまえそこなう、逸する (例) 大魚(好機)を <u>逃す</u>	～しないでしまう、～そこなう (例) <u>見逃す</u> ・ <u>聞き逃す</u> ・ <u>買い逃す</u>	—	～する機会をのがす、～しそこなう (例) 返事を <u>出しそびれる</u>	①「必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」 (例) テレビ番組を <u>見逃す</u> 「～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」 (例) テレビ番組を <u>見そびれる</u>
—	—	—	—	②「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」 (例) 合図を <u>見逃す</u>
—	—	—	—	③「気づいていながら見ないふりをする」 (例) 犯罪を <u>見逃す</u> 。

本研究では「V1-逃す」「V1-そびれる」について、それぞれどのようなV1と共起するか(6.4節)、またそれぞれ行為の過程のどの段階の失敗か(6.5節)を「V1-損なう」「V1-忘れる」と比較して考察する。

#### 6.4 共起する V1 の特徴

本節では「V1-逃す」「V1-そびれる」がどのような V1 と共起するかについて、BCCWJ から中納言を使用して抽出する。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ
検索方法：短単位検索
検索条件： キー：品詞-大分類-動詞
後方共起条件1：語彙素読み「ノガス／ソビレル」

このうち、「V1-逃す」は文字列検索で“逃”で調べたところ、次の6語が一語として検索されたため、この語に関しては、あらためて、短単位検索で、キーを語彙素読み「ミノガス」などにし、それぞれ検索した。

一語として登録されていたもの：見逃す・取り逃す・撮り逃す・売り逃す  
買い逃す・聞き逃す

以上のようにして検索した結果、「V1-逃す」の延べ語数は1,586語、V1の異なり語数は11語、「V1-そびれる」の延べ語数は142語、異なり語数は47語であった。表6-3および表6-4はそれぞれ「V1-逃す」「V1-そびれる」のV1の出現数上位20位までを示したものである。各表の割合(%)は延べ語数における出現率を表す。

表 6-3. 「V1-逃す」  
と共起する V1延べ語数：1,586 語  
異なり語数：11 語

	V1	数	%
1	見る	1,442	90.9
2	聞く	96	6.1
3	売る	17	1.1
4	取る	11	0.7
5	買う	10	0.6
6	撮る	4	0.3
7	いきむ	2	0.1
8	する	1	0.1
	読む		
	歌う		
	食う		

表 6-4. 「V1-そびれる」  
と共起する V1延べ語数：142 語  
異なり語数：47 語

	V1	数	%
1	言う	20	14.1
2	する	11	7.7
3	聞く	10	7.0
4	かける	9	6.3
5	買う	8	5.6
6	寝る	6	4.2
	帰る		
	出す		
9	乗る	5	3.5
10	行く	4	2.8
	逃げる		
12	渡す	3	2.1
	書く		
	入る		
	出る		
	聞く		
	使う		
18	もらう	2	1.4
	食べる		
	見る		
	やる		
	話す		

表 6-3 の「V1-逃す」の場合、「見る」「聞く」「取る」「買う」などの他動詞と共起した場合、「1. 必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表し、「見る」「聞く」「読む」などの他動詞と共起した場合に「2. ～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表し、「見る」と共起した場合に「3. 気づいていながら見ないふりをする」という意味を表す。

一方、表 6-4 の「V1-そびれる」の場合、「言う」「する」「聞く」「かける」といった他動詞や「寝る」「帰る」などの自動詞と共起した場合に「1. ～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」という意味を表す。

特に「V1-逃す」は「見逃す」の出現が多く、「聞く」「売る」「取る」「買う」「撮る」といった動作動詞の中でも情報や物を手に入れる意味を持つ動詞以外は出現が少なく、造語力は低いと考える。これは 6.3 節でも見たように本動詞「逃す」が捕らえようとしたものをつかまえそこなうという瞬間的な意味を持つためだと思われる。

また、「見逃す」の中には例 (6-5) のように、「見ようと思っていたが、タイミングを逸したため見るができなかった」という当該の行為全体をしなかった場合と、例 (6-6) のように「見たにもかかわらず、対象を捕らえきれずできなかった」という全体の行為の一部をしなかった場合、例 (6-7) のように「気づいていながら見ないふりをする」という慣用表現が見られる。

(6-5) 昨年最初の放映時と再放送を見逃した為、レンタルしないと観れないかと思っ  
ていたら…

(Yahoo! ブログ)

(6-6) 新妻は打ち合わせをした技術者からの合図を見逃すまいと、目を凝らした。

(前間孝則『ジェットエンジンに取り憑かれた男』)

(6-7) 「だから宝石泥棒を見逃しててあげたってわけ？ ずいぶんお優しいことね」

(加納朋子『掌の中の小鳥』)

一方、「V1-そびれる」は「V1-逃す」より延べ語数は少なかったものの、異なり語数は多く見られた。「V1-逃す」と同様に「言う」や「聞く」「買う」といった動作動詞の中でも情報や物を手に入れる意味を持つ動詞が多いが、「寝る」や「帰る」など自動詞の中でも人の意志的な変化を表す動詞との共起が見られた。どちらも「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表している。

(6-8) 佐倉の名を口にした時こそそのチャンスだったのだが、なぜか言いそびれたのである。

(高山路爛『わが愛はやまず』)

(6-9) 真夜中にふと眼醒めてそのまま寝そびれたりすることはありましたが、

(村上政彦『ニュースキャスターはこのように語った』)

以上のように、「V1-逃す」には次の3つ、「V1-そびれる」には1の用法が見られる。

1. ～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった
  - ・必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった  
(例) テレビ番組を見逃す。
  - ・～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった  
(例) テレビ番組を見そびれる。
2. ～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった  
(例) 合図を見逃す。
3. 気づいていながら見ないふりをする  
(例) 犯罪を見逃す。

次の6.5節では、上記の3つの意味がそれぞれどの段階における失敗を表すかについて考察する。

### 6.5 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の位置づけ

本節では3章で述べた行為の過程のうち、「V1-逃す」「V1-そびれる」がどの段階における失敗を表すのかについて考察する。本研究では「V1-逃す」「V1-そびれる」を「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」「気づいていながら見ないふりをする」の3つの用法に分類し、それぞれの用法が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかについて考察する。また、似た用法として「V1-損なう」とも比較する。

## 6.5.1 「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合

まず、「V1-逃す」が「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表す場合について考察する。例えば、例(6-10)の場合、心の中で「見よう」と決めたが(①)、タイミングを逃し、「見る」という行動(③)まで至らなかったことを表している。そのため、図6-4のように意図段階(②)での失敗となる。

(6-10) 昨年最初の放映時と再放送を見逃した(/見そびれた)為、レンタルしないと観れないかと思っていたら…

(Yahoo!ブログ)

(例6-5の再掲)

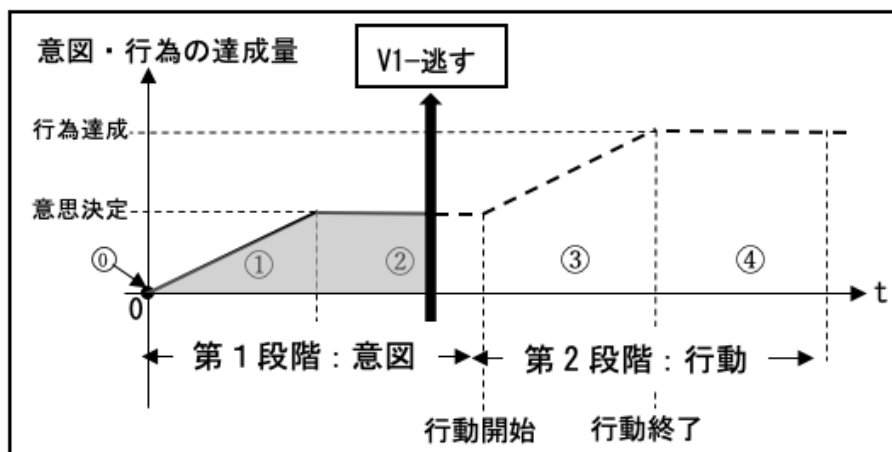


図6-4. 行為の過程における意図段階の失敗「V1-逃す」(図6-1の再掲)

一方、「V1-そびれる」も「V1-逃す」と同様に「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意図段階の失敗を表すため、例(6-10)は「V1-そびれる」と言い換えられる。「V1-逃す」と「V1-そびれる」の違いは行動に対する準備を行っているかという点である。例(6-11)の場合、「乗りそびれる」は言えるのに対し、「乗り逃す」は不自然となる。この場合、「\*電車に乗ることを逃した」のではなく「電車を逃した」の

である。このような「乗る」などの自動詞とは「V1-逃す」は共起できない。この場合「V1-損なう<sup>2</sup>」と言い換えることができる。

(6-11) 予定していた電車に乗り{\*逃した/そびれた/損なった}。

「V1-そびれる」と「V1-損なう」の違いについて、本研究では「V1-そびれる」は意図段階（準意図段階）を表すのに対し、「V1-損なう」は行動段階（準行動段階）を表すと考える。

例えば、「電車に乗る」という行為を細分化すると表 6-5 の 1~9 の段階に分けられる。このうち、日本語の「乗る」が表す範囲は 7~9 であり、それ以前の 1~6 は意図段階にあたる。この意図段階のうち、特に 2~5 は実際に「乗る」という行為を行うための行動をおこなっていることから、準備段階だと考えられる。

表 6-5. 「電車に乗る」行為における動作

「乗る」動作の詳細	行為の過程
1. 電車に乗ろうと思う	意図段階
2. 駅に行く	準備段階
3. 改札を通る	
4. 電車（ホーム）に向かう	
5. 駅の表示を見る	
6. 電車を待つ	
7. 電車に入る	行動段階
8. 電車が動く	
9. 電車が目的地につく	
10. 電車を降りる	

例 (6-12) 「乗りそびれる」、例 (6-13) 「乗り損なう」を見てみると、例 (6-12) も例 (6-13) も準備段階のうち 4 の「電車（ホーム）に向かう」段階を示している。しかし、同じ 4 「電車（ホーム）に向かう」段階でも、例 (6-12) は「乗ろうと思っていたが、乗れな

<sup>2</sup> 「V1-損なう」については第 5 章で論じた。

かった」と言い換えられることから、4「電車（ホーム）に向かう」は準意図段階であると捉えられる。一方、例（6-13）は動作主が急いでいて、5「駅の表示を見る」と6「電車を待つ」の段階が省略され、4「電車（ホーム）に向かう」行為と7「電車に入る」行為が連続した動作と見なされ、あと少しで乗れたという状況を表していることから、4「電車（ホーム）に向かう」は準行動段階であると捉えられる。すなわち、同じ準備段階中の行為でも、両者を置き換えると不自然になるのは、準意図段階での失敗だと捉えた場合に「乗りそびれる」と表現し、準行動段階での失敗だと捉えた場合に「乗り損なう」と表現しているからである。なお、「乗り損なう」は例（6-14）のように実際に「乗る」という行為を行なったにもかかわらずあと少しで乗ることができなかったという意味での使用も見られた。この場合、「乗りそびれる」は不自然になる。この点からも、「V1-そびれる」は意図段階に近く、「乗り損なう」は行動段階に近いことが分かる。

（6-12）乗り換えたものの、ホームの表示の意味がイマイチよく解らずに、特急に乗りそびれ（/?乗り損ない）ました。

（Yahoo!ブログ）

（6-13）反対側のホームに行く為の構内踏切。この踏切の為に電車に乗り損なった（/?乗りそびれた）事も多々ありますが

（[https://moonflower.at.webry.info/201704/article\\_7.html](https://moonflower.at.webry.info/201704/article_7.html)）

2021年11月25日閲覧

（6-14）生き抜いてきたたくましい兵士が、岸から二メートルと離れていない艇に乗りこなって（/?乗りそびれて）水死するとは、何とも不運な気の毒な事故である。

（上原光晴『堀内海軍大佐の生涯』）

以上のことから、「V1-そびれる」は機会を逸する意味として準意図段階（図6-5の②'）での失敗を表し、「V1-損なう」は機会を逸する意味として準行動段階およびV1の行為をおこなったものの、うまくできなかった意味として③行動段階（図6-6の③'）での失敗を表すことを明らかにした。



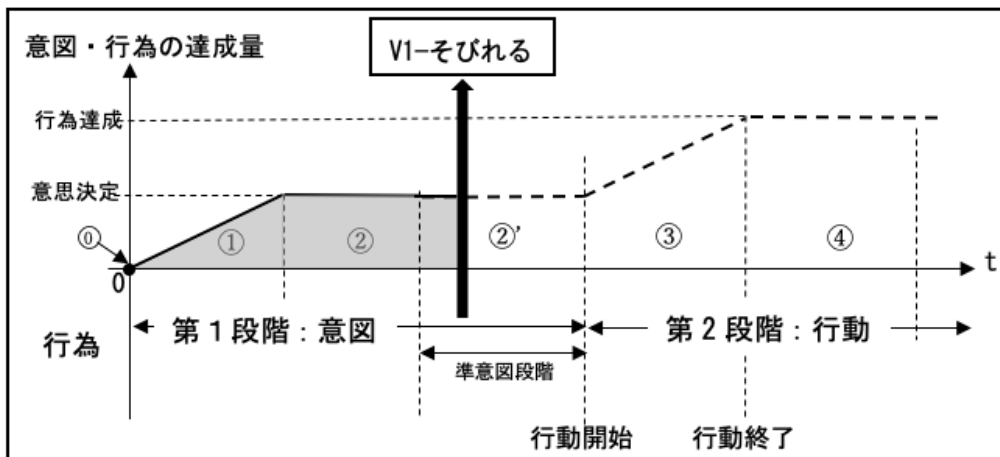


図 6-5. 行為の過程における意図段階での失敗「V1-そびれる」(図 6-2 の再掲)

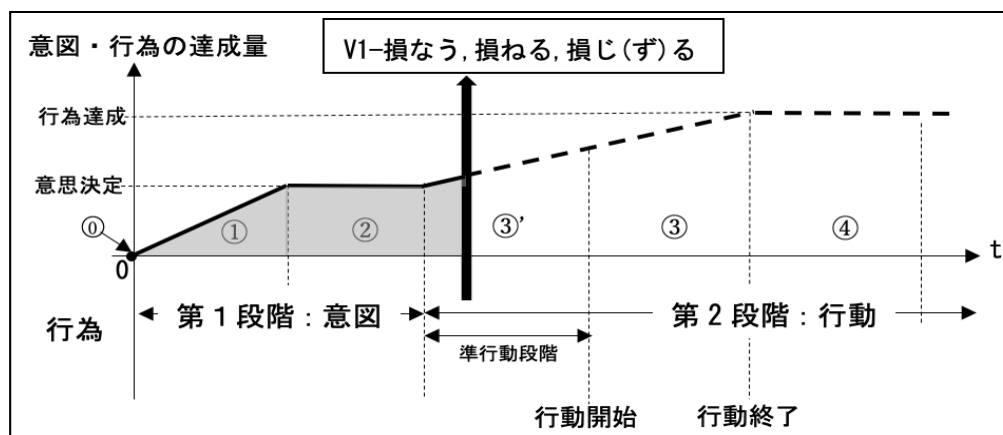


図 6-6. 行為の過程における意図段階での失敗

「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」(図 5-1, 5-4, 5-7 の再掲)

また、「V1-そびれる」は例(6-15)のように意図段階の失敗を表す「V1-忘れる」にも言い換えられる場合がある<sup>3</sup>。

(6-15) 女子のフィギアの結果はどうになりましたか？十一時からのテレビを見そびれて(/見忘れて)しまいましたので結果を知りたいと思います。

(Yahoo!知恵袋)

<sup>3</sup> 「V1-忘れる」については第4章で論じた。

両語共に意図段階で何らかの阻害要因によって行動段階に至らないことを表す点で共通しているが、「V1-そびれる」は動作主が行為をすべきことを自覚していることから準意図段階の失敗に該当するが「V1-忘れる」はV1の行為をすべきことを失念しているため準意図段階には入らず、②の意図段階の失敗を表すという違いがある。ここで「V1-忘れる」を行為の過程の図で示すと図6-7の②での失敗となる。

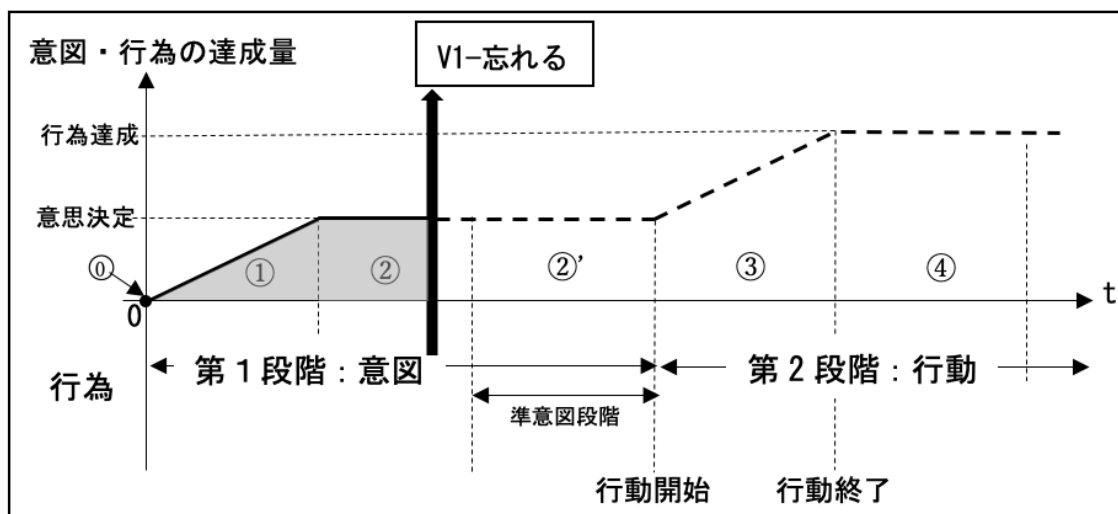


図6-7. 行為の過程における意図段階での失敗「V1-忘れる」(図4-1, 4-5, 4-9の再掲)

また、「V1-そびれる」はその阻害要因が外的なものであるのに対し、「V1-忘れる」は自身の失念という内的なものである点で異なる。例えば、「V1-そびれる」は例(6-16)「表示の意味がイマイチ解らない」のように外的な阻害要因によって機会を逸して行動できないことを表す。例(6-16)のような場合には「V1-忘れる」と言い換えができないが、例(6-17)のように阻害要因が忘却である場合には「V1-忘れる」に言い換えられる場合が多い。例(6-17)「V1-そびれる」を使うと何らかの外的な阻害要因によってできなかったから仕方ないという意味が含意されるのに対し、「V1-忘れる」を使用すると、阻害要因が自身の忘却にあり、自分の過失であるという印象になる。そのため、例(6-18)のように自身の非をみとめる場面では「V1-忘れる」が自然で、「見そびれる」は不自然な表現となる。

(6-16) 乗り換えたものの、ホームの表示の意味がイマイチよく解らずに、特急に乗りそびれました（/\*乗り忘れ）。

(Yahoo!ブログ)

(例 6-12 の再掲)

(6-17) 女子のフィギアの結果はどうになりましたか？十一時からのテレビを見そびれて（/見忘れて）しまいましたので結果を知りたいと思います。

(Yahoo!知恵袋)

(例 6-15 の再掲)

(6-18) わたなべだいすけに気を取られてあきしん見忘れた（/?見そびれた）自分に涙目。わたなべだいすけめ・・・！（やつあたり）

(Yahoo!ブログ)

### 6.5.2 「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合

次に「V1-逃す」が「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表す場合について考察する。この意味は例 (6-19) のように「読もう」と思い (①) その記憶を保持し (②)、実際に「読む」という行為は行った (③) もの、当該の対象に対してタイミングを逸したためできなかったことを表している。行動段階 (③) での失敗であるため、図 6-8 のようになる。

(6-19) そのために混雑した不明瞭な印象を受けるばかりで、大切な核心を読み逃して（/?読みそびれて/読みそこなって）しまうであろう。

(坂口安吾『坂口安吾全集』)

(例 6-4 の再掲)

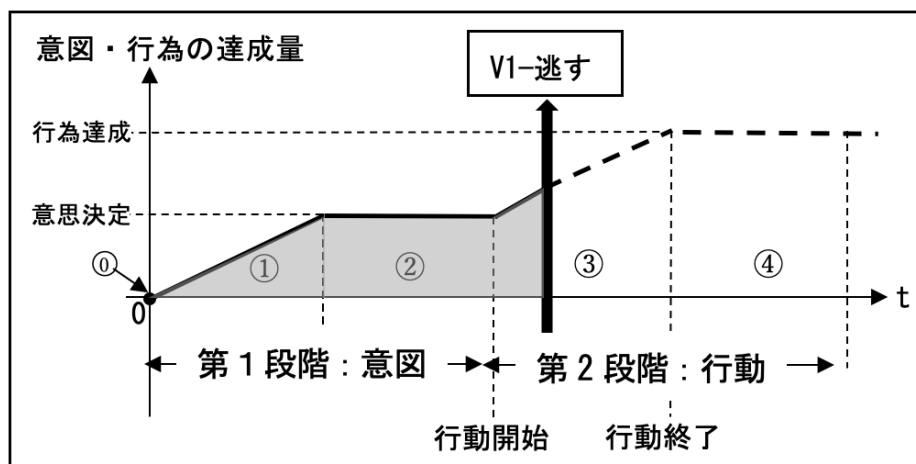


図 6-8. 行為の過程における行動段階での失敗「V1-逃す」（図 6-3 の再掲）

この場合、「読みそびれる」とすると少し不自然となるが、「V1-損なう」とは言い換えることができる。例 (6-19) のような例は「V1-損なう」にも例 (6-20) のように聞く行為自体はしたものの、期待した結果が得られないことを表す表現が見られる。このような言い方は行動段階での失敗を表しており、「V1-逃す」と置き換えやすい。

(6-20) 別のやり方があるって、先生がいったのに、聞きそこなっちゃった（/\*聞きそびれちゃった/聞き逃しちゃった）の。

（近藤千恵（監修）『「親業」ケースブック』）

このような用法での「V1-損なう」と「V1-逃す」の違いは、挽回が不可能で「絶対に逃すことができない」という強い意志を表す場合に「V1-逃す」が使用されやすい点である。例えば、例 (6-21) のように「聞き逃す」には「一字一句」や「1つも」「決して」といった強い意志を表す副詞と共起し、「絶対に聞く」というニュアンスを表す。このような場合、「V1-そこなう」とは言い換えができない。

(6-21) その震えた頼りない小さい声を、浦木は一字一句聞き逃す（/\*聞きそこなう）ことなく耳に入れていた。

（中村恵里加『ダブルブリッド』）

例(6-19)も例(6-20)も言い換えが可能であるが、例(6-19)の「読み逃す」の場合、「大切な核心を必ず読まなくてはいけないという」ニュアンスがあるが、「読みそこなう」の場合、単なる失敗を表すのみで、元の文のニュアンスが崩れてしまう。一方、例(6-20)の「聞きそこなっちゃった」場合、その失敗に対して重く捉えていないニュアンスがあるが、「聞き逃しっちゃった」場合、先生に怒られるなど重く捉えているニュアンスが感じられる。これは、陳奕延(2013)で述べられているように対象が動的なもので「捕獲できない状態になり得る」ものである。つまり、「V1-逃す」は「挽回が不可能な失敗」を表す点に特徴があると考えられる。

### 6.5.3 「気づいていながら見ないふりをする」の意味の場合

最後に「V1-逃す」が「気づいていながら見ないふりをする」という意味を表す場合について考察する。例(6-22)のように人の犯罪行為などの悪いことに気づいていながらも見ないふりをし、とがめないことを表している。「見る」という行為は行われているため、「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」と同様に③の行為中の失敗である。この用法は「見逃す」一語のみが持つ一語化した用法である。

(6-22) 「だから宝石泥棒を見逃してあげたってわけ？ずいぶんお優しいことね」

(加納朋子『掌の中の小鳥』)

(例6-7の再掲)

### 6.5.4 「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-損なう」「V1-忘れる」の違い

6.5節では「V1-逃す」「V1-そびれる」が行為の過程のうちどの段階であるかについて考察した。その結果を、行為の過程の順に示すと表6-6のようになる。

表 6-6. 「V1-逃す」「V1-そびれる」が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1-逃す	V1-そびれる
②	～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった	必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった ：テレビ番組を見逃す	—
②'		—	～しようと思っていたが、外的要因によってタイミングを逸したためできなかった ：テレビ番組を見そびれる
③	～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった	合図を見逃す	—
	気づいていながら見ないふりをする	犯罪を見逃す (一語化)	—

更に、「チャンスを逸する」という意味を表す場合、「V1-そびれる」「V1-損なう」「V1-逃す」「V1-忘れる」が言い換えられる場合がある。この場合、どのような違いや特徴があるかについても考察した。まず、それぞれの語が「チャンスを逸する」という意味を表す場合の行為の段階について違いをまとめると表 6-7 のようになる。次の表のうち、グレー部分は対象語の用法があることを表す。また、各語における①は次に提示する意味が表 6-7 のどの段階に該当するかを表したものである。

表 6-7. 行為の段階におけるチャンスを逸する意味を持つ場合の失敗表現の使い分け

	意図段階	準備段階	
		準意図段階	準行動段階
V1-そびれる		①	
V1-損なう			①
V1-逃す	①		
V1-忘れる	①		

4 語とも厳密にはどの行為の段階をどのように捉えるかで意図とし、行為とするかによって示す場面が異なることが分かった。

次に、「V1-そびれる」「V1-損なう」「V1-逃す」「V1-忘れる」の意味の違いを次のようにまとめる。

「V1-そびれる」：①～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかつた

(6-23) まあ昨夜遅くまでチャットやってたからなあ…おかげでスーパーヒーロータイムをリアルタイムで見そびれた。

(Yahoo!ブログ)

「V1-損なう」：①～しようとしたが、タイミングを逸したためできなかつた

(6-24) 家に戻ってから由緒書を見て気がついたので、見損なってしまいました。

(Yahoo!ブログ)

②～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかつた<sup>4</sup>

(6-25) 野球で、捕手が投球を捕りそこない、走者の進塁を許すこと。

(Yahoo!知恵袋)

「V1-逃す」：①必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかつた

(6-26) いくらでも手はあるじゃないか。それをどうして今まで黙って見遁してたんだ。

(羽山信樹『総統の午前零時』)

「V1-忘れる」：①原因が自身の失念によって機会を逸してできない

(6-27) 宿題に必死なあまりドラマフェスティバル見忘れた…

(Yahoo!ブログ)

## 6.6 日本語「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“没能-V”“V-漏”の対応

6.6 節では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」がどのような中国語の表現と対応するかについて考察する。望月・申(2016)では「V1-逃す」は“V-漏”と対応し、「V1-そびれる」は主に [IP<sub>IP</sub>…V1…] の形式を持つ助動詞文のうち“没能-V”と対応すると述べている。し

<sup>4</sup> 「V1-損なう」には②に示すようにチャンスを逸する以外の用法もある。この場合、「V1-忘れる」には言い換えられず、行動段階での失敗を表す。(表6-7には記載しない。)

かし、例(6-28)のように「V1-逃す」でも“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”に対応するものがある。この場合、主に「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味を表す。

- (6-28) a. 昨年最初の放映時と再放送を見逃した（/見そびれた）為、レンタルしないと観れないかと思っていたら…

(Yahoo!ブログ)

(例6-5, 10の再掲)

- b. 去年{看漏了/没看成/没能看}首映和第二次的播放,我本以为不去借的话就看不了呢。

また、薛婧宇(2019)では「V1-そびれる」は“没能-V”の他に“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”や“V-失敗”にも対応すると述べ、主に“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”との対応について見ている。“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の表現は5章で述べた「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と同様である。

そこで、6.6節では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」が持つ意味ごとにどのような中国語と対応するのかについて“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”、および“V-漏”との対照を中心に考察する。

### 6.6.1 共起するV1の特徴

6.6.1では中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”および“V-漏”がそれぞれどのような動詞と共起するのかコーパスから傾向を見る。中国語のコーパスはBCCの“多領域”を選択し、検索欄に“没能v”“没v成/到/掉”<sup>5</sup>“v漏”をそれぞれ入力して検索した。このようにして検索して出現したもののうち、“V-漏”に関しては“会漏”(漏れる)や“漏漏”(漏れた)など「V」が助動詞のものや繰り返し表現などを省いた<sup>6</sup>。その結

<sup>5</sup> “没能v”“没v成/到/掉”の検索方法および検索結果は5.6節で提示したものと同一である。

<sup>6</sup> “没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”から削除するものは見られなかった。



果、それぞれの検索結果を合わせた「V」の出現数上位20位までを表6-8～6-12に示す。各表の割合(%)は述べ語数における出現率を表す。

**表6-8. 没能V**  
(表5-11の再掲)

延べ語数：12,678語

異なり語数：1,722語

	V	数	%
1	找	327	2.6
2	去	300	2.4
3	让	279	2.2
4	得到	259	2.0
5	实现	228	1.8
6	见	198	1.6
7	做	197	1.6
8	使	183	1.4
9	看到 <sup>7</sup>	173	1.4
10	参加	138	1.1
11	逃	135	1.1
12	解决	134	1.1
13	说	131	1.0
14	如愿	121	1.0
15	阻止	115	0.9
16	看 把握	113	0.9
18	完成	110	0.9
19	陪	105	0.8
20	达到	104	0.8

**表6-9. 没V成**  
(表5-12の再掲)

延べ語数：3,270語

異なり語数：445語

	V	数	%
1	去	533	16.3
2	能	318	9.7
3	办	187	5.7
4	吃	157	4.8
5	买	122	3.7
6	死	86	2.6
7	睡	71	2.2
8	干	69	2.1
9	走	59	1.8
10	发	54	1.7
11	谈	53	1.6
12	打	51	1.6
13	练	44	1.3
14	搞	41	1.3
15	想到	40	1.2
16	拍 弄	33	1.0
18	学	30	0.9
19	写	29	0.9
20	喝	28	0.9

**表6-10. 没V到**  
(表5-13の再掲)

延べ語数：28,234語

異なり語数：942語

	V	数	%
1	找	5176	18.3
2	见	4521	16.0
3	注意	2839	10.1
4	吃	1341	4.7
5	买	1261	4.5
6	做	774	2.7
7	感觉	574	2.0
8	接	558	2.0
9	拍	444	1.6
10	抢	387	1.4
11	学	337	1.2
12	抓	322	1.1
13	走	286	1.0
14	考虑	232	0.8
15	抽	210	0.7
16	察觉	198	0.7
17	轮	182	0.6
18	喝	167	0.6
19	赚	165	0.6
20	留意	157	0.6

<sup>7</sup> “看”(見る)とは違い“看到”は「見えた」という意味があるため、“看”とは別にして表示する。

表 6-11. 没V掉  
(表 5-14 の再掲)

延べ語数：660 語

異なり語数：172 語

	V	数	%
1	卖	57	8.6
2	死	45	6.8
3	脱	21	3.2
	删		
5	消化	20	3.0
	疯		
7	忽略	19	2.9
8	花	18	2.7
	逃		
10	跑	15	2.3
11	换	14	2.1
12	消	12	1.8
	戒		
14	剪	11	1.7
	挂		
16	喝	10	1.5
	嫁		
18	走	9	1.4
19	退	7	1.1
	灭		

表 6-12. V漏

延べ語数：1,128 語

異なり語数：97 語

	V	数	%
1	说	271	24.0
2	看	159	14.1
3	打	62	5.5
4	听	49	4.3
	探		
6	缝	44	3.9
7	找	35	3.1
8	寻找	30	2.7
9	写	21	1.9
10	使用	17	1.5
	带		
12	分析	15	1.3
	穿		
14	考虑	12	1.1
	回复		
	追捕		
17	控制	11	1.0
18	消除	10	0.9
	拾		
20	测量	9	0.8
	报		

表 6-12 の“V-漏”について見ると、“说”（話す）や“看”（見る）との共起が多く、例（6-29）のように「V1-逃す」とは言い換えられず「V1-漏らす」<sup>8</sup>になる用法もあれば、例

<sup>8</sup> 「V1-漏らす」については第7章で論じる。

(6-30) のように「V1-漏らす」より「V1-逃す」に近い意味を持つ用法も見られた。全体的に行為の対象を目的語にとる自動詞との共起が多く見られた。

(6-29) “对不起，”她冷冷地说，“不小心说漏嘴了。”

「ごめんなさい」彼女は冷たく「うっかり口を滑らせて（/?言い漏らして/  
\*言い逃して）しまったの。」

(罗斯『碎梦天堂』)

(6-30) 直到这时，他们才知道他们看漏了一封“外星朋友的信”。

その時になってやっと、彼らは「宇宙人の友人の手紙」を見逃していた（/?  
見漏らしていた）ことに気づいた。

(倪匡『离魂奇遇』)

従って、本節では6.5節で見た「V1-逃す」「V1-そびれる」の行為の過程における以下の3つの意味別に、中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“V-漏”との対応関係について見る。

1. ～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった (6.6.2.1)
2. ～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった (6.2.2.2)
3. 気づいていながら見ないふりをする (6.2.2.3)

## 6.6.2 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}” “没能-V”“V-漏”の位置づけ

### 6.6.2.1 「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合

6.5.1節でも述べたように、日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」には、「(テレビ番組を)見逃す」や「(テレビ番組を)見そびれる」のように「~しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味で使われる場合がある。「V1-逃す」の場合、「~しよう」と思ってから実際に行動に移すまでの間の失敗であるため、図6-9の②の意図段階での失敗である。

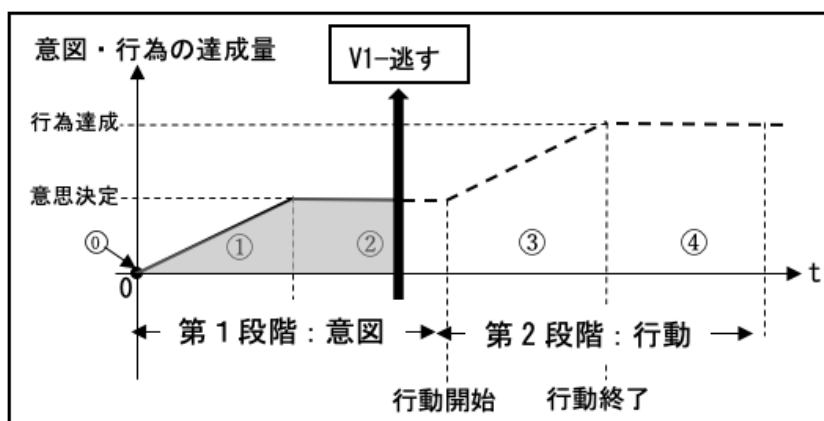


図6-9. 行為の過程における意図段階の失敗「V1-逃す」(図6-1, 6-4の再掲)

また、「V1-そびれる」の場合は同じ意図段階でも「(電車に)乗りそびれる(\*乗り逃す)」の場合、実際に「電車に乗る」ための行動を開始しているという点で、図6-10の②'の準意図段階での失敗である。

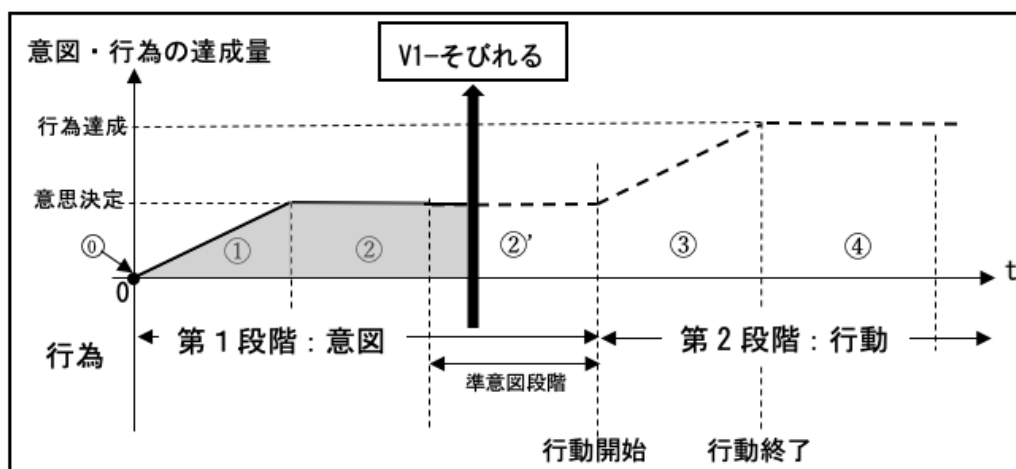


図6-10. 行為の過程における意図段階での失敗「V1-そびれる」(図6-2, 6-5の再掲)

一方、中国語の場合は例(6-31)のように“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”だけでなく、“V-漏”と対応する。“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”と“V-漏”の違いは、前者は単なる機会を逸した場合に使用できるが、“V-漏”は「連続したテレビ番組のうち一部を逃した」という意味を持つ。一方、“没能-V”は失敗の原因が明らかではないため不自然となる。また、例(6-31)のような「見逃す」でも「チャンスを逃した」という意味が強い場合は“错过”(チャンスを逃す)という表現も使用できる。

- (6-31) a. 昨年最初の放映時と再放送を見逃した(/見そびれた)為、レンタルしないと観れないかと思っていたら…

(Yahoo!ブログ)

例(6-5, 10, 27の再掲)

- b. 去年{没看成/看漏了/?没能看/错过了}首映和第二次的播放,我本以为不去借的话就看不了呢。

更に、日本語の場合、例(6-32)のように「ホームの表示が分からない」という「乗ろうと思っていたが、乗れなかった」という準意図段階の失敗の場合「V1-そびれる」が使用されやすく、例(6-33)のように「ホームに向かう」行為と「電車に入る」行為が連続した動作だとみなされる準行動段階での失敗の場合「V1-損なう」が使用されやすい。一方、中国語の場合は両者とも“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”が使用され両者の区別はない。

- (6-32) a. 乗り換えたものの、ホームの表示の意味がイマイチよく解らずに、特急に乗りそびれ(/?乗り損ない/\*乗り逃し)ました。

(Yahoo!ブログ)

(例6-12, 16の再掲)

- b. 虽然换乘了,但是因为没看懂站台的意思,所以{没坐成/\*坐漏}特急。

(6-33) a. 反対側のホームに行く為の構内踏切。この踏切の為に電車に乗り損なった  
 (/ ? 乗りそびれた) 事も多々ありますが

([https://moonflower.at.webry.info/201704/article\\_7.html](https://moonflower.at.webry.info/201704/article_7.html))

2021年11月25日閲覧

(例6-13の再掲)

b. 这是为了去对面月台的站内道口，因为这个道口 { 没坐成 / \* 坐漏 } 火车的情况时有发生。

6.6.2.2 「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」の意味の場合

6.5.2節でも述べたように、日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」は「(合図を) 見逃す」のように「～たことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味で使われる場合がある。これは「見る」という行為は行われているものの、当該の対象に対してタイミングを逸したためできなかったことを表している。V1の事態が生じている最中の失敗であるため、図6-11の③の段階での失敗である。一方、「V1-そびれる」はこの意味を持つものは見られない。

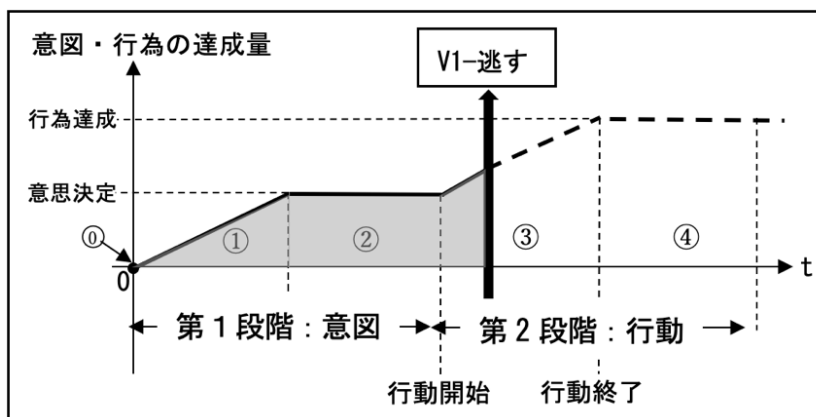


図6-11. 行為の過程における行動段階での失敗「V1-逃す」(図6-3, 6-8の再掲)

一方、中国語の場合は例(6-34)のように“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”および“V-漏”が使用できる。“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の場合は「聞く」という行為ができなかったことを表し、“V-漏”は先生の話の一部を逃したということを表す。従って、例(6-35)のように「一字一句必ず聞く」というニュアンスを表す場合は「V1-逃す」が使用でき、「V1-そこなう」が使用できないが、中国語も“V-漏”が使用でき、“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”ができない。つまり、「V1-そこなう」は“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”と、「V1-逃す」は“V-漏”と対応していると思われる。また、例(6-34)は「一字一句聞き逃さない」を「一字不漏地听着」という慣用表現がある。

- (6-34) a. 別のやり方があるって、先生がいったのに、聞きそこなっちゃった  
(/\*聞きそびれちゃった/聞き逃しちゃった)の。

(近藤千恵(監修)『「親業」ケースブック』)

(例 5-14 の再掲)

- b. 老师说还有别的办法，但是我{没听到/听漏了}。

- (6-35) a. その震えた頼りない小さい声を、浦木は一字一句聞き逃す(\*聞きそこなう)ことなく耳に入れていた。

(中村恵里加『ダブルブリッド』)

(例 6-21 の再掲)

- b. 浦木一字{\*没听到/没有听漏/不漏}地听着颤抖且微弱的声音。

### 6.6.2.3 「気づいていながら見ないふりをする」の意味の場合

6.5.3節でも述べたように、日本語の「V1-逃す」は先程の図6-11の③の行動段階の失敗としての「気づいていながら見ないふりをする」という意味を持つ。この意味で使われるのは、日本語では「見逃す」一語のみである。これに対応する中国語は、例(6-36)“放过”のように別の表現になる。

(6-36) a. 「だから宝石泥棒を見逃しててあげたってわけ？ずいぶんお優しいことね」

(加納朋子『掌の中の小鳥』)

(例 6-7, 22 の再掲)

b. “这就是为什么你放过珠宝窃贼的原因？你还真善良。”

### 6.6.3 「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“没能-V”“V-漏”

6.6 節では行為の過程の段階ごとに、「V1-逃す」「V1-そびれる」がどのように表現されるかについて、日本語と中国語を比較した。その結果を表 6-13 に示す。

表 6-13. 「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語の表現

行為の過程	意味	V1-逃す	V1-そびれる	中国語表現
②	～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった	必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった：テレビ番組を <u>見逃す</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成 “V-漏”：看漏
②'		—	～しようと思っていたが、外的要因によってタイミングを逸したためできなかった：テレビ番組を <u>見そびれる</u>	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成
③	～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった	合図を <u>見逃す</u>	—	“V-漏”：看漏 (“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成)
	気づいていながら見ないふりをする	犯罪を <u>見逃す</u> (一語化)	—	<u>放过</u> 犯罪

日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語の“没能-V”“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”“V-漏”の共通点と相違点は次の通りである。



共通点：②～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった

③～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった（特に「V1-逃す」は“V-漏”に近い）

相違点：②’～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった

（「V1-そびれる」は“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”のみ）

③気づいていながら見ないふりをする（中国語は“放过”）

## 6.7 本章のまとめ

第6章では日本語の「V1-逃す」「V1-そびれる」について、本動詞「逃す」「そびれる」との関係について考察した。その結果、「V1-逃す」および「V1-そこなう」には「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という機会を逸する意味を持つことを指摘した。更に、「V1-逃す」には「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味や「気づいていながら見ないふりをする」という意味があることを指摘した。

次に、「V1-逃す」「V1-そびれる」と共起するV1の特徴をBCCWJの出現数から比較した。その結果、「V1-逃す」「V1-そびれる」は「見る」「聞く」「買う」など、情報や物を手に入れる意味を持つ動詞との共起が見られることを指摘した。更に「V1-そびれる」は「寝る」や「帰る」といった人の意志的な変化を表す自動詞とも共起することを指摘した。

更に、BCCWJの結果をもとに、「～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」、「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」、「気づいていながら見ないふりをする」の3つの意味がそれぞれ行為の過程のうち、どの段階での失敗であるかについて考察した。その結果、図6-12に示すように、「1.～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」は②の意図段階、および②’の準意図段階での失敗、「2.～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」および「3.気づいていながら見ないふりをする」は③の行動段階での失敗であることを指摘した。このうち、「V1-そびれる」は②’の準意図段階での失敗を表す。

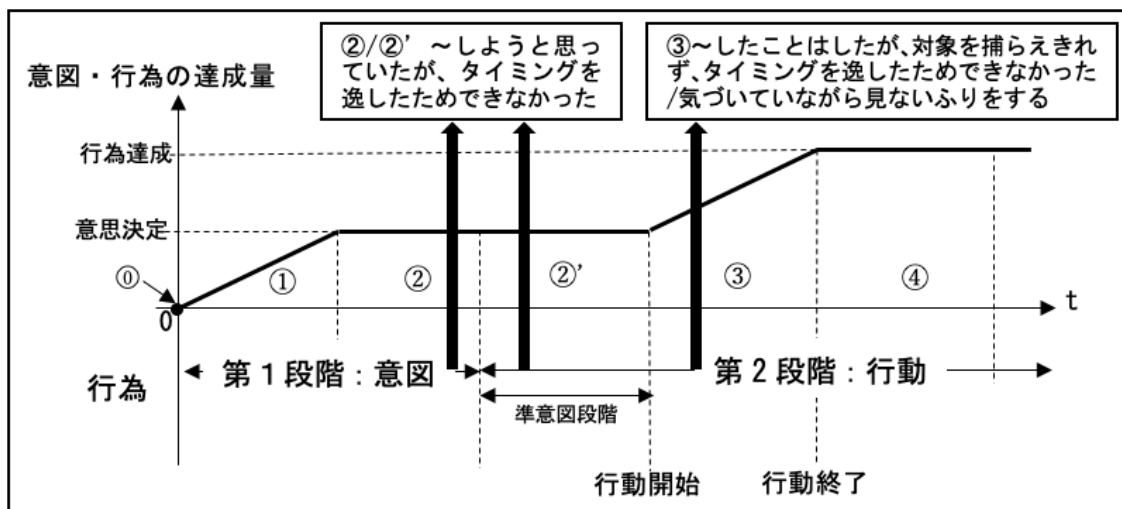


図 6-12. 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の位置づけ

更に、同じ「機会を逸する」という意味を持つ「V1-損なう」「V1-忘れる」とも比較した結果、行為の過程の観点では、表 6-14 に示すように、「V1-そびれる」は準備意図段階での失敗、「V1-損なう」は準行動段階および行動段階での失敗、「V1-逃す」は意図段階から行動段階での失敗、「V1-忘れる」は意図段階の失敗であることを指摘した。

表 6-14. 行為の段階におけるチャンスを逸する意味を持つ失敗表現の使い分け

(表 6-7 の再掲)

	意図段階	準備段階	
		準備意図段階	準行動段階
V1-そびれる		①	
V1-損なう			①
V1-逃す	①		
V1-忘れる	①		

また、意味的な観点では次に示す特徴があることを指摘した。

「V1-そびれる」：①～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したため  
 きなかつた

(6-27) まあ昨夜遅くまでチャットやってたからなあ…おかげでスーパーヒーロータイ  
 ムをリアルタイムで見そびれた。

(Yahoo!ブログ)

(例 6-23 の再掲)

「V1-損なう」：①～しようとしたが、タイミングを逸したためできなかつた

(6-28) 家に戻ってから由緒書を見て気がついたので、見損なってしまいました。

(Yahoo!ブログ)

(例 6-24 の再掲)

②～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかつた<sup>9</sup>

(6-29) 野球で、捕手が投球を捕りそこない、走者の進塁を許すこと。

(Yahoo!知恵袋)

(例 6-25 の再掲)

「V1-逃す」：①必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかつた

(6-30) いくらでも手はあるじゃないか。それをどうして今まで黙って見遁してたんだ。

(羽山信樹『総統の午前零時』)

(例 6-26 の再掲)

「V1-忘れる」：①原因が自身の失念によって機会を逸してできない

(6-31) 宿題に必死なあまりドラマフェスティバル見忘れた…

(Yahoo!ブログ)

(例 6-27 の再掲)

最後に、図 6-12 に示す行為の過程における 3つの意味別に、中国語の“没能-V” “没-V” “結果補語” {成/到/掉} “V-漏” とどのように対応するかを考察した。その結果を表 6-15 に示す。

<sup>9</sup> 「V1-損なう」には②に示すようにチャンスを逸する以外の用法もある。この場合、「V1-忘れる」には言い換えられず、行動段階での失敗を表す。(表 6-7 には記載しない。)

表 6-15. 「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語の表現 (表 6-13 の再掲)

行為の過程	意味	V1-逃す	V1-そびれる	中国語表現
②	～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった	必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった：テレビ番組を <u>見逃す</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成 “V-漏”：看漏
②'		—	～しようと思っていたが、外的要因によってタイミングを逸したためできなかった：テレビ番組を <u>見そびれる</u>	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成
③	～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった	合図を <u>見逃す</u>	—	“V-漏”：看漏 (“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成)
	気づいていながら見ないふりをする	犯罪を <u>見逃す</u> (一語化)	—	放过犯罪

## 第7章 「V1-落とす」「V1-漏らす」

### 7.1 はじめに

本章では、日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味について論じる。「V1-落とす」「V1-漏らす」はいずれも行為を行なったものの、期待された結果には至らなかったという失敗を表す。その意味では、第6章で論じた「V1-逃す」と近い意味を持つため、本章では「V1-逃す」との比較についても論じる。

以下、7.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、7.2節では「V1-落とす」「V1-漏らす」の先行研究について概観する。

次いで7.3節では本動詞「落とす」「漏らす」と複合動詞「V1-落とす」「V1-漏らす」を比較して、両者の共通点と相違点について論じる。

続く7.4節ではBCCWJの検索結果を基に、「V1-落とす」「V1-漏らす」と共起するV1の特徴を見る。

次に7.5節では行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の各用法の位置づけについて考察する。その結果、「V1-落とす」「V1-漏らす」には次のようないくつかの意味があることを論じる。まず、「V1-落とす」も「V1-漏らす」も「字を書き落とす/書き漏らす」のように「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味を表すが、「V1-落とす」は「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」という意味を表すのに対し、「V1-漏らす」は「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味を表す。そのため、「V1-落とす」と「V1-漏らす」も図7-1に示すように行動中(③)の失敗を表すことを指摘する。

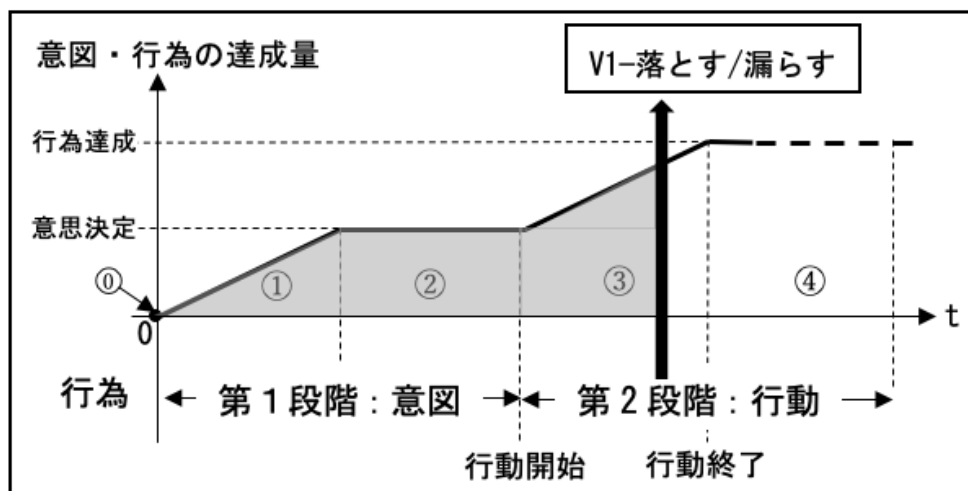


図7-1. 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の位置づけ

また、「V1-漏らす」には「大将を討ち漏らす」といった「あと少しで～することができなかった」という意味を表す用法もある。これは図7-1の③の部分（行動段階-行為中）での失敗を表す。

更に、「V1-逃す」も踏まえて意味の違いを考察する。その結果、「V1-漏らす」と「V1-逃す」は言い換えのできる場合が多く、「V1-漏らす」は「抜けがある」という点に焦点があるのに対し、「V1-逃す」は「対象を捕らえられない」という点に焦点があることを指摘した。

続いて7.6節では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語の表現を比較し、共起する動詞の違いによって、対応関係があることを指摘する。最後に7.7節で本章のまとめをする。

## 7.2 先行研究

本節では「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのような場面で使用されているかについて論じている森田（1989）、田忠魁他（1998）、「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのような対象と使用されているかについて論じている杉村（2005）、陳奕延（2013）、中国語との対照について論じられている薛婧宇（2019）について概観し、本研究における「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味分類を提示する。

## 7.2.1 「V1-落とす」と「V1-漏らす」が使用される場面について

まず、「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのような場面で使用されているかについて論じている先行研究として、森田（1989）、田忠魁他（1998）について概観する。

森田（1989）は次の例（7-1）を挙げ、「V1-落とす」「V1-漏らす」は同様の意味を持つと述べている。

（7-1）大事な話を聞き {落とす/漏らす}。

「V1-落とす」について、森田（1989）は例（7-2）、（7-3）を挙げ、「ぼんやりしていたり、不注意・うっかりなどが原因で知らぬ間にその行為を怠っているような場面によく用いる」（森田 1989:253）と述べている<sup>1</sup>。一方、「V1-漏らす」は例（7-4）、（7-5）を挙げ、「注意し努力していたにもかかわらず、その対象を捕らえることにしくじる場合」に使用されると述べている。

（7-2）うっかりして見落としていた。

（7-3）そのお話は記憶がありません。私は聞き落としていたんですね。

（7-4）一言も聞きもらすまいと神経を集中する。

（7-5）一生懸命戦ったが、敵の大將を討ちもらした。

また、田忠魁他（1998）も同様に「V1-落とす」は「うっかりぼんやりしていて、すべきことができなくなる」という意味をもち、「V1-漏らす」は「注意し努力していたのに、

<sup>1</sup> 森田（1989）は「V1-落とす」には次の3つの意味があると述べている。

- ① “物・動物・人”を対象にすえて、その動詞に「落とす」本来の“落下させる”意を加える。  
「…することによって落とす」：突き落とす、撃ち落とす、切り落とす、叩き落とす、産み落とす
  - ② “人”を対象にすえて、その動詞に“陥落させる”の意を加える。  
「…して落とす」：攻め落とす、泣き落とす、くどき落とす
  - ③ “事柄”を対象にすえて、その動詞に“漏らす”意を添える。  
「…することを漏らす」：言い落す、書き落す、聞き落す、見落とす、読み落とす
- 本研究ではこのうち③の意味について考察することとする。

何かの弾みでできなくなること」と述べている。田忠魁他（1998）は「重大なニュースを聞き落とす」は「睡眠不足かほかのことに気をとられていて、重要な部分を聞き逃すこと」という意味があるのに対し、「V1-漏らす」は「ずっと精神を集中させて聞いていたのに、重要な部分に差しかかったとき、突然人から呼ばれたりして聞き逃すこと」という意味があると述べている。

森田（1989）も田忠魁他（1998）も「V1-落とす」には「うっかり」「ぼんやり」といった不注意が原因であるのに対し、「V1-漏らす」は「注意」や「努力」していたことに対する失敗である点で共通している。しかし、例（7-6）のように「V1-漏らす」でも「うっかり」といった不注意の場面での使用や、例（7-7）のように「V1-落とす」でも「一言も」など注意していることに対しての使用が見られる。

(7-6) それがどこだったか私はうっかり聞き漏らしてしまった。

（中谷孝雄『招魂の賦』）

(7-7) 唱導師として語られたことの内容を、法然上人の御前で一言もいい落とすことなく、あきらかに語られた。

（津本陽『弥陀の橋は』）

本研究では、同じ行為中の失敗でも、無意識に行なったことに対して、その途中で失敗した場合に「V1-落とす」が使用され、「意識的に～しようと思う」場合に「V1-漏らす」が使用されることを指摘する。

### 7.2.2 「V1-落とす」と「V1-漏らす」が使用される対象について

次に「V1-落とす」と「V1-漏らす」の対象について論じられている杉村（2005）、陳奕延（2013）について概観する。

杉村（2005）は、森田（1989）や田忠魁他（1998）において「V1-落とす」はうっかりして失敗することを表し、「V1-漏らす」は注意していたのに失敗することを表すと述べ



ているという違いがあるという点に関して、日本語母語話者10人に「V1-落とす」と「V1-漏らす」は強いて言えばどちらの説明がふさわしいのか調査している。その結果、7:3の割合で「V1-落とす」と「V1-漏らす」で真逆の答えがふさわしいという回答を得ている。その結果から「『うっかりしていた』のか『注意していた』のかという違いは、両者を区別する基準としては適当ではないことが分かる」（杉村2005:73）と述べている。それを踏まえ、杉村（2005）では「V1-忘れる」「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味の違いについて、インターネットのWWWページという大規模コーパスを用い、どのような動詞と共起するかという観点から考察している<sup>2</sup>。このうち、「V1-落とす」について、「見る」や「読む」など視覚や言語生活に関する行為を表す動詞との共起が上位に来ることを指摘している。また、失敗の意味として、「うっかりして～するのに失敗する（その結果～されなかったものが取り残される）」ことを表すと述べている。一方、「V1-漏らす」については、「撃つ」、「討つ」、「打つ」といった打撃行為、「聞く」、「書く」、「言う」など言語生活に関する行為、「買う」、「取る」、「撮る」など取得に関する行為との共起に集中していることを指摘している。更に、「V1-漏らす」は次の3つの意味を持つと述べている。また、「\*不満を言い漏らす」などが言えないことから、「対象をこぼす、心情や情報を吐露する意味を表す場合には使えない」と述べている。

- ① ～するのに失敗し（、取り逃す）：「撃ち漏らす」「討ち漏らす」「打ち漏らす」
- ② うっかりしてすべき事項の一部を抜かす  
：「聞き漏らす」「書き漏らす」「買い漏らす」「言い漏らす」
- ③（意図性が希薄で、自然に耳に入ってくる場合）「～し逃す」に近い  
：ぐっすり寝ていたので、銃声を聞き漏らした

このうち、③の意味について、自然に耳に入ってくることでも、対象が「銃声」であり、「聞くべきこと」だと認識していることに対する表現である。これが「彼の声」など緊急

<sup>2</sup> 「V1-忘れる」については第4章で取り上げた。

性が低いと少し許容度は落ちる。そのため、本研究では杉村（2005）の②と③の意味を合わせて「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味に分類する。

更に杉村（2005）は、「V1-落とす」と「V1-漏らす」の違いについて、「聞き落とす」は「一言も」と共起しにくいのに対し、「V1-漏らす」は「一言も」と共起しやすいことから、「V1-落とす」は対象を固体的に捉え、行為に失敗した結果対象が外に取り残されてしまうイメージであるのに対し、「V1-漏らす」は対象を液体あるいは気体的に捉え、行為に失敗した結果それを外に逃してしまうイメージであるという違いがあると述べている。この点について、陳奕延（2013）は「ミサイルを撃ち漏らす」など固体（ミサイル）にも使える場合があると指摘している。しかし、陳奕延（2013）も「撃ち落とす」が「下方へ移動させる」という意味を表すため、「対象の一部を捉えることに失敗する」という意味を表す場合は棲み分けの結果、「V1-漏らす」を使用すると述べている。このような曖昧性が生じない場合において、陳奕延（2013）でも「V1-落とす」は固体として捉えられる具体的なものに用いられ、「V1-漏らす」は液体や気体として捉えられるものに用いられると述べている。ただし、杉村（2005）で述べているのは実際の対象の固体、液体、気体という状態のことではなく、対象を捉え逃す際のイメージのことであるため、実際にミサイルが個体であるかどうかということとは別である。本研究ではこの点について本動詞の意味と比較して考察する。

### 7.2.3 中国語との対照について

薛婧宇（2019）は「V1-落とす」と「V1-漏らす」を「すべきこと或いはその一部を抜かしてしまう」という意味を表す「量的未完成」に分類し、BCCWJから用例を抽出し、どのような動詞と共起するかについて考察している。更に、「V1-落とす」と「V1-漏らす」はそれぞれ中国語の“V-落”と“V-漏”に対応しているとし、どのような動詞と共起するかについて日本語と比較している。その結果、「V1-落とす」「V1-漏らす」は「聞く」のような知覚・認識動詞や「言う」「書く」のような言語・伝達動詞と共起しやすいと述べている。両語の違いについて、薛婧宇（2019）は例（7-8）、（7-9）を挙げ、「V1-落とす」は視点がやるべきことに置かれ、完成した部分も強調することから、責任逃れの言い訳に聞こえると述べ

ているのに対し、「V1-漏らす」は視点が失敗した部分に置かれていることから、失敗を認める意味が強いと述べている。

(7-8) 体調の異常を見落とした/\*見漏らした。

(7-9) 肝心なことを??聞き落とした/聞き漏らした。

更に、薛婧宇 (2019) は中国語 “V-落” と “V-漏” はあまり使い分けがないが、“V-落/漏” と “落/漏-V” には次のような使い分けがあるとし、“V-落/漏” は「V1-落とす」と対応し、“落/漏-V” は「V1-漏らす」と対応していると述べている。

V-落/漏 : V1 する途中でうっかりしてその一部を抜かす = 「V1-落とす」

落/漏-V : するべき項目を全部抜かす = 「V1-漏らす」

薛婧宇 (2019) は、このうち中国語の“落”は「落下する」という意味の場合は“luò”と発音し、失敗を表す意味の場合は“là”と発音し、このうち失敗を表す“落 là”を対象としている。しかし、“落 là”の場合、“这里落了两个词，应该添上（ここで2文字書き落としているため、加えたほうがいい）”のように、動詞と共起した“V-落”の形では使用されていない。薛婧宇 (2019) では“看落了两个字（他の数字は全部見たけど、一つだけ抜かしてしまった）”のような表現があると述べているが、その場合“看落 kànluò”と発音されている。また、“V-落”で「見落とす」のような失敗を表す表現は少なく、BCC コーパスから出現したのは“看落（見落とす）”“听落（聞き漏らす）”“说落（言い漏らす）”の3語のみであった。中国母語話者18人に確認したところ、全員が“V-落”ではなく、“V-漏”を使用するとの回答を得たため、本研究では主に「V1-落とす」「V1-漏らす」について、“V-漏”および“漏-V”と対照して考察することにする。

また、本研究では「V1-漏らす」にも例(7-10)のように「事柄の一部ができなかった」（「聞いたことは聞いたけど、その一部を聞くのを逸した」）という意味があり、その場合に“V-漏”と対応する。従ってどのような場合に“V-漏”と対応し、どのような場合に“漏-V”と対応するかについて、行為の過程から考察する。

(7-10) 大家都竖直了耳朵聆听，生怕听漏了一个字。

一言も聞き {<sup>?</sup>落とす/漏らす/逃す} ことのないよう、みな耳をそばだてていた。

(寄秋『忘情血狐狸』)

#### 7.2.4 先行研究のまとめと本研究の「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味

以上、先行研究では「V1-落とす」には「うっかりして～するのに失敗する」という意味があり、「うっかり」や「ぼんやり」したという不注意が原因で、対象を固体に捉えられる場合に使用されるのに対し、「V1-漏らす」は「～するのに失敗し、取り逃す」や「うっかりしてすべき事項の一部を抜かす」や意図性が希薄で、自然に耳に入ってくる場合に「～し逃す」に近い意味があり、「注意」や「努力」していたことに対し、対象が液体あるいは気体に捉えられる場合に使用されること指摘されている。これに対し、本研究では「V1-落とす」には以下の1の用法があり、「V1-漏らす」には以下の1、2の2つの用法があると考えられる。また、それぞれ1の意味に関して、「V1-落とす」と「V1-漏らす」は「事柄全体のうちの一部の失敗」ということを表すという点で共通しているが、「V1-落とす」は「気がつかない」といった失敗として、「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」という意味を持つのに対し、「V1-漏らす」は「～すべきだ」と思っていることに対する失敗として「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味を持つと考える。

1. 「必要な事柄の一部を～することができなかった」 (例) 字を書き落とす/書き漏らす。
2. 「あと少しで～することができなかった」 (例) 大将を討ち漏らす。

以下、これらの用法について、本動詞との関係(7.3節)、共起するV1の特徴(7.4節)、行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の各用法の位置づけ(7.5節)、中国語との比較(7.6節)を行い、それぞれの特徴を明らかにする。

### 7.3 本動詞「落とす」「漏らす」と複合動詞「V1-落とす」「V1-漏らす」の対応

本節では本動詞「落とす」「漏らす」と複合動詞「V1-落とす」「V1-漏らす」の共通点と相違点について論じる。まず、本動詞「落とす」および複合動詞「V1-落とす」の持つ意味として、『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

『明鏡国語辞典』(北原 2002:231-232)

「落とす」 : ①上から下へ物の重みで物を移動させる。落下させる。

(例) シャベルで屋根の雪を落とす。

②くっついているもの(特に、不要物)を取り除く。また、不要なふくらみやでっぱりを取り除いたり減らしたりする。

(例) 汚れを落とす。

③身につけていた物をなくす。紛失する。

(例) どこかで定期券を落としたらしい。

④身に備わったものをなくす。

(例) 命を落とす。

⑤光・光線などをものの上に注ぐ。また、光や光の当たった物が物の上に影や像を作る。

(例) 新聞に目を落とす。

⑥含まれているべきものをもらす。ぬかす。また、故意に除外する。

(例) 入力ミスで仮名を一字落とす。

⑦将棋で対戦するとき、強い方が駒を減らす。

(例) 飛車を落として対戦する。

⑧試験などで、不合格にする。落第にする。また、選挙で落第させる。

(例) 一次試験で半数を落とす。

⑨大切な試験を取り逃す。また、定期試験などで合格点をとれずに終わる。

(例) 第一セットを落とす。

⑩ [古い言い方で] ひそかに逃す。

(例) 若殿を紀伊山中に落とす。

⑪腰や肩などの位置を普通の高さより低くする。

(例) 腰を落として構える。

⑫物事の程度を劣った(また、低い)状態にする。

(例) 一軍から二軍に落とされる。

⑬ [やや古い言い方で] 悪く言う。おとしめる。

(例) 目薬の瓶が歩くようであろうと落とすに

⑭よくない状態に立ち至らせる。陥れる。

(例) 人を窮地に落とす。

⑮問いつめて白状させる。また、強く迫って自分の意見に従わせる。

(例) 容疑者を落とす。

⑯おちぶれて、前よりも好ましくない状態や環境などに身を置く。

(例) 苦界に身を落とす。

⑰その人の所有に帰するようになる。また、入札で落札する。

(例) オークションでゴッホの作品を落とす。

⑱物事の決まりをつける。

(例) 飲食代を経費で落とす。

⑲コンピューターで、データのある媒体からほかの媒体へ移す。

(例) ハードディスクからフロッピーにデータを落とす。

⑳城などを攻め取る。攻め落とす。陥落させる。

(例) 本丸を落とす。

②柔道などで、気を失わせる。気絶させる。

(例) 絞め技で落とす。

②落語で、落ちをつけて話をしめくくる。

(例) 下げは地口で落として笑わせる。

「V1-落とす」<sup>3</sup>: ①上から下へ物の重みで物を移動させる。落下させる。

(例) 突き落とす、蹴り落とす

②くっついているもの（特に、不要物）を取り除く。また、不要なふくらみやでっぱりを取り除いたり減らしたりする。

(例) 洗い落とす、払い落とす、そぎ落とす

⑥含まれているべきものをもらす。ぬかす。また、故意に除外する。

(例) 見落とす

⑬問いつめて白状させる。また、強く迫って自分の意見に従わせる。

(例) 泣き落とす

⑳城などを攻め取る。攻め落とす。陥落させる。

(例) 攻め落とす

以上の記述から、本動詞「落とす」には「下方への移動」を基準とし、様々な意味を表すことができる。このうち、①②⑥⑬⑳の5つの意味が複合動詞「V1-落とす」にも見られる意味であるが、失敗の意味を持つのは「⑥含まれているべきものをもらす。ぬかす。また、故意に除外する。」のみである。

次に、本動詞「漏らす」および複合動詞「V1-漏らす」の持つ意味について、『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

<sup>3</sup> 用例番号は本動詞「落とす」の用例番号に対応する。

『明鏡国語辞典』（北原 2002：1643-1644）

「漏らす」：①液体・気体・光などをすき間や穴から外へ出す。

（例）思わず涙を漏らす。

②隠している情報などをひそかに外部に知らせる。

（例）秘密を漏らす。

③隠していた本心を口に出して言う。

（例）周囲に不満を漏らす。

④感情などを思わず声や表情表す。

（例）ため息を漏らす。

⑤必要な事柄をぬかす。落とす。

（例）名簿から新入会員の名を漏らす。

「V1-漏らす」：うっかりして必要なことをしないでしまう。

（例）言い漏らす、書き漏らす、聞き漏らす

以上の記述から、「V1-漏らす」は本動詞「漏らす」の⑤の意味が対応していると思われる<sup>4</sup>。しかし、例（7-11）のように⑤の意味でもあと少しでできなかったという意味を表す場合も見られた。

（7-11）わずかに肩先に傷を負わせただけで、宿敵長蛇信玄をうちもらしたのである。

（大竹松堂『詩吟のための日本漢詩選』）

以上の記述を本研究での意味と対応させると表 7-1 のようになる。

<sup>4</sup> 「言い漏らす」には（i）に示すような本動詞「漏らす」の②「秘密を漏らす」という意味を表す場合があるが、本研究では失敗の意味を表さないため、対象外とする。

（i）小生は報告の際にうっかりいい漏らしましたが、警察の調べによると、銭亀の体に刺さっていたナイフは、背中に対してほとんど直角に突き立っていたのであって、真後ろからならともかく、とても上から投げられたものとは思えない様子でした。

（青山蘭堂『新・本格推理』）



表 7-1. 辞書における本動詞および複合動詞の意味と

## 本研究における「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味

『明鏡国語辞典』				本研究における意味
V1-落とす		V1-漏らす		
本動詞	複合動詞	本動詞	複合動詞	
⑥含まれて いるべきも のをもら す。ぬか す。また、 故意に除外 する。 (例) 入力 ミスで仮名 を一字 <u>落と</u> す。	⑥含まれて いるべきも のをもら す。ぬか す。また、 故意に除外 する。 (例) <u>見落</u> <u>とす</u>	⑤必要な事柄 をぬかす。落 とす。 (例) 名簿か ら新入会員の 名を <u>漏らす</u> 。	うっかりして 必要なこと をしないであ らう。 (例) <u>言い漏らす</u> 、 <u>書き漏らす</u> 、 <u>聞き漏らす</u>	①必要な事柄の一部を～する ことができなかつた (例) 字を <u>書き落とす</u> / <u>書き</u> <u>漏らす</u> 。 ②あと少しで～することがで きなかつた (例) 大将を <u>討ち漏らす</u> 。

本研究では「V1-落とす」「V1-漏らす」について、それぞれどのようなV1と共起するか(7.4節)、またそれぞれ行為の過程のどの段階の失敗か(7.5節)について考察する。

## 7.4 共起するV1の特徴

本節では「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのようなV1と共起するかについて、BCCWJから中納言を使用して抽出する。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ 検索方法：短単位検索 検索条件： キー：品詞-大分類-動詞 後方共起条件1：語彙素読み「オトス/モラス」
---

その結果、「V1-落とす」は「訳し落とす」の1語しか出現せず、「V1-漏らす」は一語も出現しなかつた。そのため、「V1-落とす」と「V1-漏らす」を文字列検索で“落”“漏”で調べたところ、「V1-落とす」は次の5語が、「V1-漏らす」は次の5語が一語として検索さ

れたため、この語に関しては、あらためて、短単位検索で、キーを語彙素読み「イイオトス」や「ウチモラス」などにし、それぞれ検索した。

BCCWJで一語として登録されていたもの

「V1-落とす」：言い落とす、見落とす、書き落とす、読み落とす、聞き落とす

「V1-漏らす」：撃ち漏らす、討ち漏らす、書き漏らす、聞き（聴き）漏らす、救い漏らす、言い漏らす

以上のようにして検索した結果、「V1-落とす」の延べ語数は466語、V1の異なり語数は6語、「V1-漏らす」の延べ語数は59語、異なり語数は6語であった。表7-2および表7-3はそれぞれ「V1-落とす」「V1-漏らす」のV1の出現数の多い順に示したものである。各表の割合（%）は延べ語数における出現率を表す。

表7-2. 「V1-落とす」と共起するV1

延べ語数：466語  
異なり語数：6語

	V1	数	%
1	見る	433	90.8
2	書く	13	2.7
3	読む	8	1.7
4	聞く	6	1.3
5	言う	5	1.0
6	訳す	1	0.2

表7-3. 「V1-漏らす」と共起するV1

延べ語数：59語  
異なり語数：6語

	V1	数	%
1	聞く（聴く）	43	72.9
2	書く	7	11.9
3	討つ	4	6.8
4	撃つ	3	5.1
5	救う	1	1.7
6	言う	1	1.7

「V1-落とす」も「V1-漏らす」もBCCWJの出現数は少なかった。「V1-落とす」は「見落とす」が全体の90.8%、「V1-漏らす」は「聞き漏らす」が全体の72.9%を占めており、使用に偏りがあることが分かる。「V1-落とす」「V1-漏らす」に共通して見られる語は「聞く」「書く」「言う」といった言語活動に関係する動詞である。更に「V1-落とす」には「見る」でも例(7-12)のように「目に入る」意味での使用や、「読む」「訳す」といった言語活動

に關係する動詞が見られた。「V1-落とす」のV1に言語活動を表す動詞が来やすいことは、森田(1989)で指摘されている通りである。

(7-12) まわりの人は精神面ばかりに気をとられて、身体の異常を見落とししがちになるから、気をつけなければならないという。

(磯部裕三『会社人間のボランティア奮戦記』)

一方、「V1-漏らす」には「撃つ」「討つ」といった対象に作用する他動詞との共起が見られた。その場合、例(7-13)のように全体の一部の失敗を表す場合と、例(7-14)のように対象に対してあと少しでできなかったという意味を表す場合が見られた。

(7-13) いま一度この湾内を旋回し、撃ちもらした敵艦船や敵の上陸部隊を砲撃しろという程度の作戦なら、

(高木彬光『連合艦隊ついに勝つ』)

(7-14) わずかに肩先に傷を負わせただけで、宿敵長蛇信玄をうちもらしたのである。

(大竹松堂『詩吟のための日本漢詩選』)

(例7-11の再掲)

以上のように、本研究では行為の段階の違いから「V1-落とす」には次の1つ、「V1-漏らす」には次の2つの用法が見られる。

1. 「必要な事柄の一部を～することができなかった」

(例) 字を書き落とす/書き漏らす。

2. 「あと少しで～することができなかった」 (例) 大将を討ち漏らす。

次の7.5節では、上記の2つの意味がそれぞれの段階における失敗を表すかについて考察する。

## 7.5 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の位置づけ

本節では3章で述べた行為の過程のうち、「V1-落とす」「V1-漏らす」がどの段階における失敗を表すのかについて考察する。本研究では「V1-落とす」を「必要な事柄の一部を事柄の一部を～することができなかった」、「V1-漏らす」を「必要な事柄の一部を～することができなかった」「あと少しで～することができなかった」の2つの用法に分類し、それぞれの用法が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかについて考察する。また、似た用法として「V1-逃す」とも比較する。

## 7.5.1 「必要な事柄の一部を～することができなかった」の意味の場合

まず、「V1-落とす」「V1-漏らす」が「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味を表す場合について考察する。例えば例(7-15)の場合、心の中で「書こう」と決め(①)、その記憶を保持(②)し、実際の行為に移した(③)にもかかわらず、その途中で失敗したことを示す。そのため、図7-2のように行為段階(③)での失敗となる。

(7-15) 「定形外、配達記録、ゆうパック」としました。しかし、出品時に書き漏らし  
(/?書き落とし)ていたため、後ほど以下を追加しました。

(Yahoo!知恵袋)

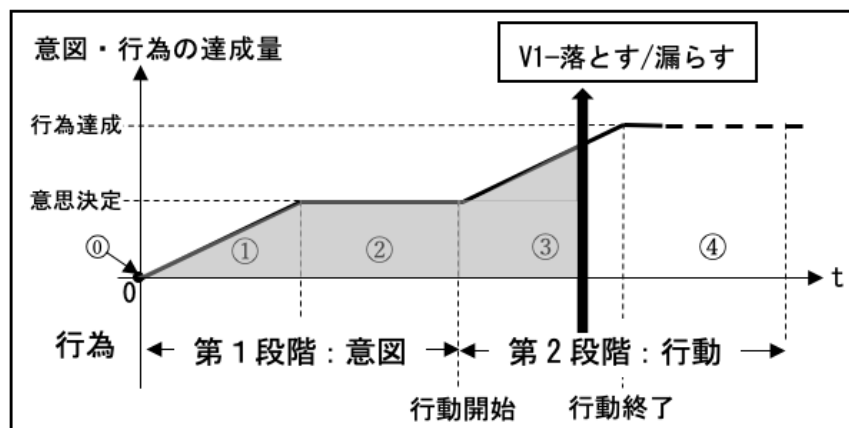


図7-2. 行為の過程における行動段階の失敗「V1-落とす」「V1-漏らす」(図7-1)の再掲

一方、「V1-落とす」の場合、例(7-15)は少し不自然となる。「V1-落とす」の場合は同じ「書く」でも例(7-16)のように「知らずに」のように「～すべきだ」と意識していない事柄に対して使用されやすい。この場合、「V1-漏らす」は不自然になる。

(7-16) 滔天が知らずに書き落とした (/ \*書き漏らした) こと、知っていてあえて書かなかったことも数多くあったに違いないが、

(上村希美雄『宮崎兄弟伝』)

「V1-落とす」が「～すべきだ」と意識していない事柄に対して使用されやすく、「V1-漏らす」が「～すべきだ」と意識していることに対して使われやすいのは「聞き落とす」と「聞き漏らす」からも分かる。「V1-漏らす」は例(7-17)のように聞くべきことをすでに理解している場合に「一語も」などといった語と共起しやすい。そのため、「聞くべきだったのに、その事柄の一部ができなかった(逃さないようにする)」という意味を表す。その点では、「V1-逃す」と近い意味を持っているが、「V1-逃す」の場合は例(7-18)のように「対象を捕らえる」ことに視点があり、「V1-漏らす」は「抜けがないように」といったニュアンスがある。この場合、「V1-落とす」は不自然となる。「V1-落とす」の場合は「V1-落とす」や「V1-逃す」のように取り逃がさないように一字一句聞くというよりは、例(7-19)のように「耳に入る」という意味で「ぼんやり」といった語と共起しやすく、「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」という意味を表している。この場合、「V1-漏らす」や「V1-逃す」とは言い換えられない。

(7-17) 辻静雄はそれを一言もききもらさない (/ ?聞き落とさない/聞き逃さない) ように注意して通訳した。

(海老沢泰久『美味礼讃』)

(7-18) その震えた頼りない小さい声を、浦木は一字一句聞き逃す (/ 聞き漏らす / ?聞き落とす) ことなく耳に入れていた。

(中村恵里加『ダブルブリッド』)

(例 6-21, 35 の再掲)

(7-19) 電波をキャッチしやすくするためにシール式のアンテナが施され、呼び出しベル音が聞き落と（/\*聞き漏ら/\*聞き逃）されないための用心に、何か所も穴が開けてあった。

（芦辺拓『時の誘拐』）

また、「見落とす」はBCCWJで433件出現したのに対し、「見漏らす」は1件も出現しなかった。「見落とす」の場合は例(7-20)のように「見漏らす」には言い換えられない。

(7-20) まわりの人は精神面ばかりに気をとられて、身体の異常を見落とし（/\*見漏らし）がちになるから、気をつけなければならないという。

（磯部裕三『会社人間のボランティア奮戦記』）

（例7-12の再掲）

また、「V1-漏らす」の場合、例(7-21)のように「うち漏らす」場合に「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味を持つ場合がある。この場合「うち落とす」は下方への移動の意味になるため使用できない。

(7-21) いま一度この湾内を旋回し、撃ちもらした（/\*撃ち落とした）敵艦船や敵の上陸部隊を砲撃しろという程度の作戦なら、

（高木彬光『連合艦隊ついに勝つ』）

（例7-13の再掲）

このように「V1-落とす」「V1-漏らす」は両語とも「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味があるが、「V1-落とす」は「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」という意味を表すのに対し、「V1-漏らす」は「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味を表す点で異なっている。

## 7.5.2 「あと少しで～することができなかった」の意味の場合

次に「V1-漏らす」が「あと少しで～することができなかった」という意味を表す場合について考察する。この意味は例(7-22)のように「敵を討とう」と思い(①)その記憶を保持し(②)、実際に「討つ」という行為は行った(③)ものの、完全にはできなかったことを表している。「必要な事柄の一部を～することができなかった」と同様に③の行為中の失敗である。「うち漏らす」にしか見られなかった。

(7-22) わずかに肩先に傷を負わせただけで、宿敵長蛇信玄をうちもらしたのである。

(大竹松堂『詩吟のための日本漢詩選』)

(例 7-11, 14 の再掲)

## 7.5.3 「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-逃す」の違い

7.5節では「V1-落とす」「V1-漏らす」が行為の過程のうちどの段階であるかについて考察した。その結果を、行為の過程の順に示すと表7-4のようになる。

表 7-4. 「V1-落とす」「V1-漏らす」が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1-落とす	V1-漏らす
③	必要な事柄の一部を～することができなかった	～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった：字を <u>書き落とす</u>	—
		—	～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった：字を <u>書き漏らす</u>
	あと少しで～することができなかった	—	大将を <u>討ち漏らす</u>

更に、同じ行動段階の失敗であり、「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」という意味を持つ「V1-逃す」とも比較した。その結果、「V1-逃す」は「V1-漏らす」の「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」

の意味に近く、両者は言い換えられる場合が多い。本研究では「V1-逃す」は「対象を捕らえる」という点に焦点があるのに対し、「V1-漏らす」は「抜けがないようにする」という点に焦点があることを指摘した。

## 7.6 日本語「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語“V-落/漏”“漏/落-V”の対応

7.6節では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのような中国語の表現と対応するかについて考察する。薛婧宇(2019)では“V-落/漏”は「V1する途中でうっかりしてその一部を抜かす」という意味を表す点で「V1-落とす」と対応し、“落/漏-V”は「するべき項目を全部抜かす」という意味で「V1-漏らす」と対応すると述べているが、「V1-漏らす」にも例(7-23)のように「一部を抜かす」という意味を持つ場合もある。

- (7-23) a. 「定形外、配達記録、ゆうパック」としました。しかし、出品時に書き漏らし(? 書き落とし)ていたため、後ほど以下を追加しました。

(Yahoo!知恵袋)

(例7-15の再掲)

- b. 非普通規格信件、配送記録、郵政包裹。但是在出货的时候漏写了上述信息，所以后来又补写了下面的信息。

また、“V-落”は失敗の意味としてあまり使用されておらず、“V-漏”と対応するため、7.6節では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」が持つ意味ごとにどのような中国語と対応するのかについて“V-漏”と“漏-V”について考察することとする。

### 7.6.1 共起するV1の特徴

7.6.1では中国語の“V-漏”および“漏-V”がそれぞれどのような動詞と共起するのかについてコーパスから傾向を見る。中国語のコーパスはBCCの“多領域”を選択し検索欄に



“v 漏”<sup>5</sup>、“漏 v”をそれぞれ入力して検索した。このようにして検索して出現したもののうち、“v 漏”からは“会漏”（漏れる）や“有漏”（漏れがある）など「V」が助動詞のものや“漏”が名詞として使用されている表現を、“漏 v”からは“漏到”（漏れた）のような結果補語と共起するものを省いた。その結果、それぞれの検索結果を合わせた「V」の出現数上位 20 位までを表 7-5～7-6 に示す。各表の割合（%）は述べ語数における出現率を表す。

表 7-5. V 漏

延べ語数：1,128 語  
異なり語数：97 語

	V	数	%
1	说	271	24.0
2	看	159	14.1
3	打	62	5.5
4	听	49	4.3
	探		
6	缝	44	3.9
7	找	35	3.1
8	寻找	30	2.7
9	写	21	1.9
10	使用	17	1.5
	带		
12	分析	15	1.3
	穿		
14	考虑	12	1.1
	回复		
	追捕		
17	控制	11	1.0
18	消除	10	0.9
	拾		
20	测量	9	0.8
	报		

表 7-6. 漏 V

延べ語数：5,508 語  
異なり語数：833

	V	数	%
1	查	213	3.7
2	入	192	3.3
3	判	144	2.5
4	服	136	2.4
5	看	126	2.2
6	处理	97	1.7
7	防	95	1.7
	缴		
9	听	94	1.6
10	治	89	1.5
11	吸	83	1.4
12	造成	82	1.4
13	发	76	1.3
14	放	72	1.3
15	收	70	1.2
16	登	67	1.2
	验		
18	引起	60	1.0
19	记	59	1.0
20	写	58	1.0

<sup>5</sup> “v 漏”の検索方法および検索結果は 6.6 節で提示したのと同じである。

表 7-5 の“V-漏”について見ると、“说”（話す）や“看”（見る）“打（打つ）”“听（聞く）”との共起が多く、「V1-落とす」や「V1-漏らす」と共通している。第6章でも見たように、例（7-24）のように「V1-落とす」は少し不自然になるものの、「V1-漏らす」「V1-逃す」と対応するものや、例（7-25）のように「V1-落とす」や「V1-逃す」には言い換えられるものの、「V1-漏らす」にすると不自然になるものがある。

(7-24) 大家都竖直了耳朵聆听，生怕听漏了一个字。

一言も聞き {<sup>?</sup>落とす/漏らす/逃す} ことのないよう、みな耳をそばだてていた。

（寄秋『忘情血狐狸』）

（例 7-10 の再掲）

(7-25) 直到这时，他们才知道他们看漏了一封“外星朋友的信”。

その時になってやっと、彼らは「宇宙人の友人の手紙」を見 {落として/<sup>?</sup>漏らして/逃していた} ことに気づいた。

（倪匡『离魂奇遇』）

（例 6-30 の再掲）

一方、表 7-6 の“漏-V”について見ると、“入（入る）”などの場合、「漏れる（漏れて、入ってくる）」の意味として使用されているものもあるが、“查（検査する）”や“看（見る）”のような対象がある場合、例（7-27）のように「見落とす」「見漏らす」「見逃す」と同様の意味を表す場合もある。

(7-26) 月光从树隙中漏入，地上有一双女性的白色绣花拖鞋，…

月明かりが木の間から漏れ、地面には女性の白い刺繍が施された靴が一足あった。

（琼瑶『菟丝花』）

(7-27) “我不相信，我不相信，她哪一句不好漏听，偏就漏听那一句！…”

信じられない。信じられない。どこを聞き {<sup>?</sup>落として/<sup>?</sup>漏らして/逃して} も構わないのに、どうしてよりによってその言葉だけ聞き {<sup>?</sup>落とす/漏らして/逃す} の！

(阿蛮『家有闲妻』)

従って、本節では7.5節で見た「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-逃す」の行為の仮定における以下の2つの意味別に、中国語の“V-漏”“漏-V”との対応関係について見る。

1. 「必要な事柄の一部を～することができなかった」 (7.6.2.1)
2. 「あと少しで～することができなかった」 (7.6.2.2)

## 7.6.2 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏”“漏-V”の位置づけ

### 7.6.2.1 「必要な事柄の一部を～することができなかった」の意味の場合

7.5.1節でも述べたように、日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」には「(字を)書き落とす」や「(字を)書き漏らす」のように「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味で使われる場合がある。両者とも「書こう」と思い、行動に移したにもかかわらず、行為中に行為対象の必要な事柄の一部を「書くことができなかった」という意味を表すため、図7-3の③の行動段階での失敗である。

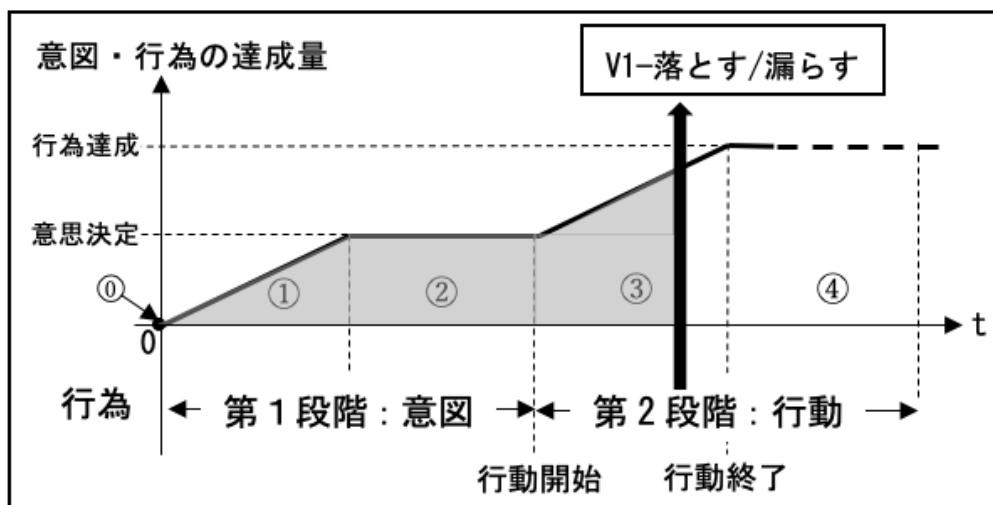


図 7-3. 行為の過程における行動段階の失敗「V1-落とす」「V1-漏らす」

(図 7-1, 7-2) の再掲

また、例 (7-28) のように「一言も」のように対象に対して「～すべきだ」と強く思っている場合に、「V1-漏らす」および「V1-逃す」が、例 (7-29) のように対象に対して「気がつかない」ような場合に「V1-落とす」が使用されやすい。なお、「V1-逃す」と「V1-漏らす」の違いについて両者とも「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味を表し、言い換えられる場合が多く、「V1-逃す」は「対象を捕らえる」という点に焦点があるのに対し、「V1-漏らす」は「抜けがないようにする」という点に焦点がある。

(7-28) a. 辻静雄はそれを一言もききもらさない (/<sup>?</sup>聞き落とさない/聞き逃さない)  
ように注意して通訳した。

(海老沢泰久『美味礼讃』)

(例 7-17 の再掲)

b. 静雄翻译的时候非常注意，深怕听漏 (/<sup>\*</sup>漏听) 了一个词。

(7-29) a. その言葉も聞き落とした (/<sup>\*</sup>聞き漏らす/<sup>\*</sup>聞き逃す) ようにぼんやり煙草を喫っている。

(連城三紀彦『隠れ菊』)

b. (他) 恍惚地抽着烟，好像也没有听到 (/<sup>\*</sup>听漏/<sup>\*</sup>漏听) 这句话。

一方、中国語の場合は、例(7-28)のように「～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった」という意味の場合、“听漏”と対応するものの、“漏听”ということができない。一方、例(7-29)の「V1-落とす」の場合、“听(聞く)”は意識的な行為であり、その行為事態が行われなかったという意味で、“听漏”や“漏听”では言えず、“没有听到”のように「最後まで聞けなかった」という表現になるのである。また、“漏听”の場合は、例(7-30)のように「聞く」という行為をすべて行わなかったという意味の場合に使用されやすい。このような場合、“听漏”とは言うことができない。つまり、“听漏”は「聞いて漏らした(できなかった)」という意味であり、“漏听”は「聞くこと自体を漏らした(しなかった)」という意味である。従って、前者は「聞き漏らす」と同様に図7-3の③行為中の失敗であるが、後者は図7-4に示すように②の意図段階の失敗であると考えられる。このような意味を表す場合、同じ②の失敗の意味を持つ「V1-逃す」と対応するのである。

(7-30) 今天上午有三节课，可是第二节课我漏听（/\*听漏）了。

今日の午前3つ授業があったが、2限目を聞き{\*落とした/\*漏らした/逃した}。

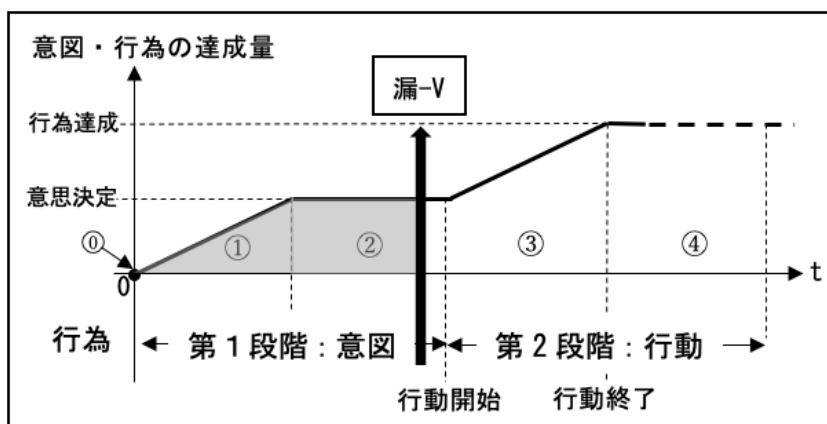


図7-4. 行為の過程における“漏-V”

つまり、例(7-31)のように、「書く」という行為が行われていないとみなされる場合には「書き漏らす」でも“漏写”が使用でき、“写漏”が使用できないことがある。日本語の場合は「全体は書いたが一部書かなかった」という意味で「書き漏らす」が使われているが、中国語の場合は「該当箇所を書かなかった」という意味で“漏写”が使われる。

- (7-31) a. 「定形外、配達記録、ゆうパック」としました。しかし、出品時に書き漏らし（/?書き落とし）ていたため、後ほど以下を追加しました。

(Yahoo!知恵袋)

(例 7-15, 23 の再掲)

- b. 选择了非普通规格、配送记录、邮政包裹。但是在出货的时候漏写（/\*写漏）了上述信息，所以后来又补写了下面的信息。

### 7.6.2.2 「あと少しで～することができなかった」の意味の場合

7.5.2 節でも述べたように、日本語の「V1-漏らす」は「大将をうち漏らす」のように「あと少しで～することができなかった」という意味で使われる場合がある。例 (7-32a) のように「討とう」と思い、行為をしたものの、怪我を負わせるなどしたにもかかわらず、最後まで討つことができなかったという意味である。「必要な事柄の一部を～することができなかった」と同様に図 7-3 の③の行動中の失敗である。「V1-落とす」にはこの意味を持つものは見られない。

- (7-32) a. わずかに肩先に傷を負わせただけで、宿敵長蛇信玄をうちもらしたのである。

(大竹松堂『詩吟のための日本漢詩選』)

(7-11, 14, 22 の再掲)

- b. 仅是肩上受了点伤，没能拿下宿敌长蛇信玄。

一方、中国語の場合は例 (7-32b) のように“没能拿下”「討つことができなかった」のような表現になり、“V-漏”や“漏-V”とは対応しない。

7.6.3 「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏”“漏-V”

7.6節では行為の過程の段階ごとに、「V1-落とす」「V1-漏らす」がどのように表現されるかについて、日本語と中国語を比較した。その結果を表7-7に示す。

表7-7. 「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語の表現

行為の過程	意味	V1-落とす	V1-漏らす	中国語表現
③	必要な事柄の一部を～することができなかった	～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった：字を <u>書き落とす</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}” 没有写到
		—	～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった：字を <u>書き漏らす</u>	“V-漏” / “漏-V” Vの行為が行われている：写漏 Vの行為が行われていない：漏写
	あと少しで～することができなかった	—	大将を <u>討ち漏らす</u>	“没能V” 没能拿下

日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語の“V-漏”“漏-V”の共通点と相違点は以下の通りである。

<p>共通点：③「～すべきであったのに、その必要な事柄の一部を～することができなかった」</p> <p>「V1-漏らす」特にVの行為が行われている場合：“V-漏”</p> <p>Vの行為が行われていないとみなされる場合：“漏-V”</p> <p>相違点：③「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった」</p> <p>「V1-落とす」“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”</p> <p>③「あと少しで～することができなかった」“没能V”</p>
--

## 7.7 本章のまとめ

第7章では日本語の「V1-落とす」「V1-漏らす」について、まず本動詞「落とす」「漏らす」との関係について考察した。その結果、「V1-落とす」および「V1-漏らす」には「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味を持つことを指摘した。更に、「V1-漏らす」には「あと少しで～することができなかった」という意味があることを指摘した。

次に、「V1-落とす」「V1-漏らす」と共起するV1の特徴をBCCWJの出現数から比較した。その結果、「V1-落とす」「V1-漏らす」は「聞く」「書く」「言う」など、言語活動に関係する動詞との共起が見られることを指摘した。更に「V1-落とす」は「見る」、「読む」といった語とも共起し、「V1-漏らす」は「うつ」とも共起することを指摘した。

また、BCCWJの結果をもとに、「必要な事柄の一部を～することができなかった」、「あと少しで～することができなかった」の2つの意味がそれぞれ行為の過程のうち、どの段階での失敗であるかについて考察した。その結果、図7-5に示すように、「1. 必要な事柄の一部を～することができなかった」および「あと少しで～することができなかった」が③の行動段階での失敗であることを指摘した。

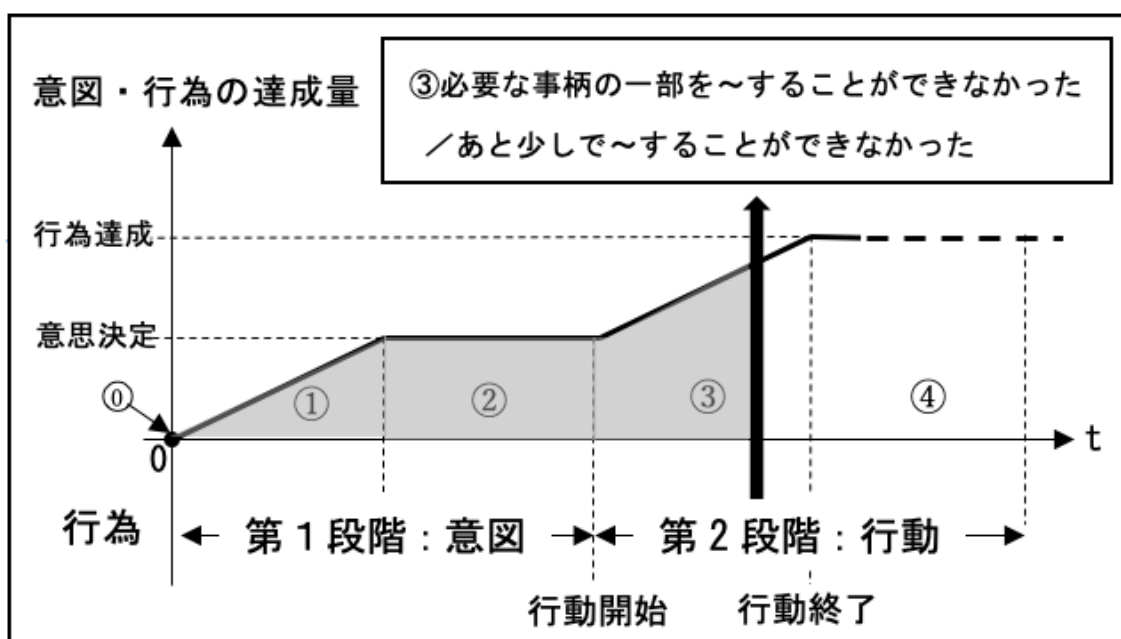


図7-5. 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の位置づけ



更に同じ「必要な事柄の一部を～することができなかつた」という意味でも、「V1-落とす」は「～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかつた」という意味を表し、「V1-漏らす」は「～すべきであったのに、その事柄の一部を～することができなかつた」という意味を表しやすいことを指摘した。その意味では、「V1-漏らす」は「V1-逃す」と似た意味を持ち、「V1-漏らす」は「抜けがないようにする」という点に焦点があるのに対し、「V1-逃す」は「対象を捕らえる」という点に焦点があることを指摘した。

最後に、図7-5に示す行為の過程における2つの意味別に、中国語の“V-漏”“漏-V”とどのように対応するかを考察した。その結果を表7-8に示す。

表7-8. 「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語の表現（表7-7の再掲）

行為の過程	意味	V1-落とす	V1-漏らす	中国語表現
③	必要な事柄の一部を～することができなかつた	～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかつた： 字を <u>書き落とす</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}” 没有写到
		—	～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかつた： 字を <u>書き漏らす</u>	“V-漏” / “漏-V” Vの行為が行われている：写漏 Vの行為が行われていない：漏写
	あと少しで～することができなかつた	—	大将を <u>討ち漏らす</u>	“没能V” 没能拿下



## 第8章 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」 「V1-誤る」<sup>1</sup>

### 8.1 はじめに

本章では、日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の意味について論じる。これらの複合動詞はいずれもAをすべきところを誤ってBをしてしまったという失敗を表す表現である。また、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」は「間違えてV」「間違えてV」「誤ってV」と副詞的に表現できる。そのため、本章では副詞的用法との比較についても論じる。

8.1節では本章の構成と主張の要点について述べ、8.2節では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の先行研究について概観する。

次いで8.3節では本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」と複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」を比較して、両者の共通点と相違点について論じる。

続く8.4節ではBCCWJの検索結果を基に、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と共起するV1の特徴を見る。

次に8.5節では行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の各用法の位置づけについて考察する。その結果、これらには次のような意味があることを論じる。まず、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には「才能を読み間違える/間違う/違える/違う/誤る」のように「正しく行うべきところを誤って別のことをした」という意味や「名前を聞き間違える/間違う/違える/？違う/？誤る」のように「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをして

<sup>1</sup> 本章は南(2021b)を元に加筆修正したものである。

しまった」という意味を表し、図8-1の③の部分（行動段階）での失敗を表すことを指摘する。

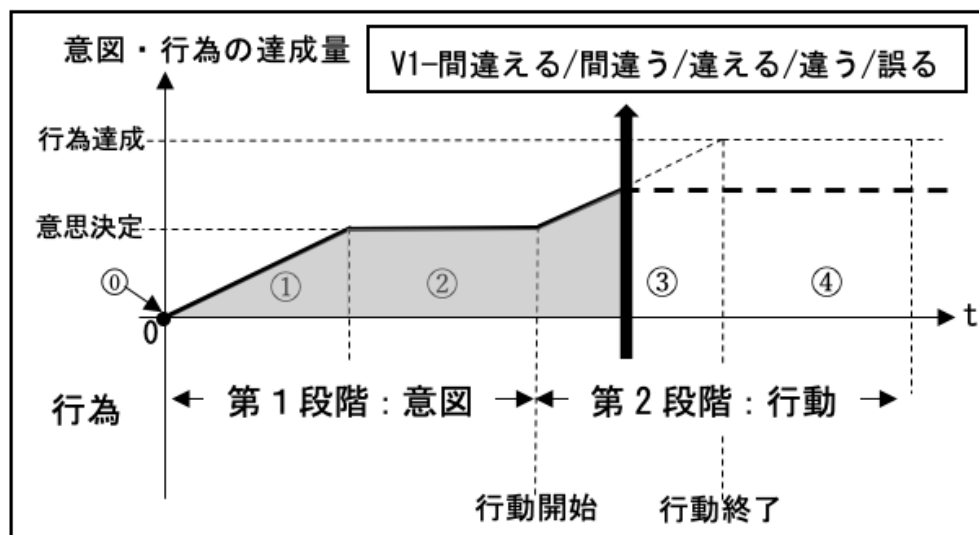


図8-1. 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」

「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の位置づけ

また、「V1-違える」「V1-違う」には「刺し違える」や「すれ違う」など「双方向からお互いに～する」という意味があること、「V1-違える」には「寝違える」のような「ねじって～してしまった」や「見違えるほど立派になった」のような「見て、以前よりいいものだと思う」という意味がある。ただし、これは失敗の意味ではないので本研究の考察の対象外とする。

更に、複合動詞の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」と副詞的用法の「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」のように副詞的用法と言い換えられる場合があることから、それぞれの意味の違いについて考察した。その結果、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」は図8-1に示すように行動段階（③）での失敗であるのに対し、「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」は図8-2に示すように意図段階（①）での失敗であることを指摘する。更に、「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」は「～するつもりでなかったのに誤ってVする」という意味や、「～すべきではなかった」という意味を表すことができる点で「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」とは異なることを指摘する。

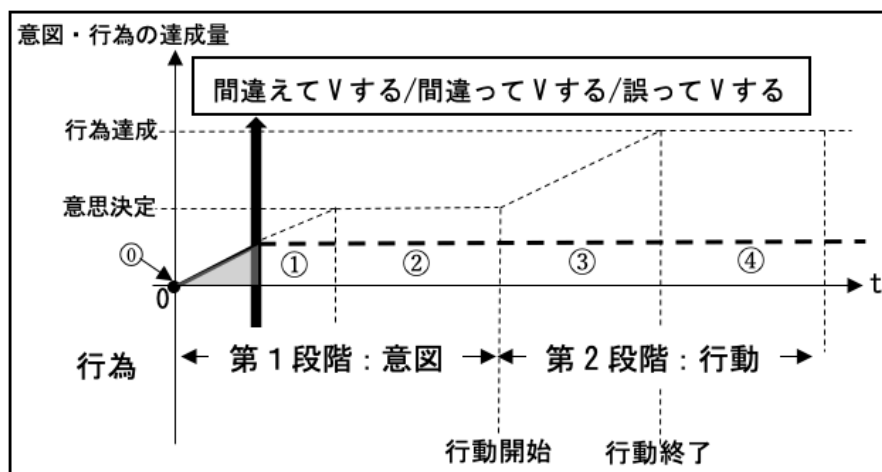


図 8-2. 行為の過程における「間違えてV」「間違ってV」「誤ってVする」の位置づけ

続いて 8.6 節では日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語の表現を比較し、共起する動詞の違いによって対応関係があることを指摘する。最後に 8.7 節で本章のまとめをする。

## 8.2 先行研究

本節では森田 (1989)、薛婧宇 (2019) について概観し、本研究における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の意味分類を提示する。

### 8.2.1 森田 (1989)

森田 (1989 : 81) では本動詞「誤る (他)」の意味について、「正しい路線に反する、または正しい道筋からそれる」という意味があり、本動詞「間違える (他) / 間違う (自、他)」を「A なら A と判断すべきところを他の B・C・D……などと取り違えること。そこから、□ある決まったやり方に反する、もしくは、□他と取り違える、の意味が出てくる」と述べている。更に「「間違える」には「つい／うっかり／不注意／不勉強」等の原因が想定されや

すく、本人の責任と判断されてしまう」と述べている。また、複合動詞「V1-誤る」「V1-違える」の違いは「誤る」と「間違える」の差に通じるとし、次のように述べている。

- (1) -あやまる：言い誤る、聞き誤る、見誤る、読み誤る

正しく行ふべきところを、行為主体がついうっかり失敗するの意。マイナス評価の語である。

- (2) -ちがえる：言い違える、聞き違える、取り違える、履き違える、見違える

間違える点では(1)と共通するが、原因はむしろ対象の側にある。他人の傘と似ているから「傘を取り違える」のであり、表現があいまいなので、「意味を取り違えてしまう」のである。A・Bの類似、酷似kら間違える場合「自由と気儘を履き違えている」「自由主義を履き違えている」など。

(森田 1989:81-82)

森田(1989)で述べられている通り、「間違える・間違う」には「友達の名前を間違えた(間違った)」のようにAとすべきところをA以外の何かと取り違えた意味がある。本研究では森田(1989)を受けて「取り違え」や「うっかり」といった意味が複合動詞や副詞的用法にも反映されているかを見る。

### 8.2.2 薛婧宇 (2019)

薛婧宇(2019)は「V1-間違える」について、「動作の誤り」の意味を持つとし、BCCWJから用例を抽出し、どのような動詞と共起するかについて考察している。更に、「V1-間違える」は中国語の“V-错”と対応しているとし、どのような動詞と共起するかについて日本語と比較している。その結果をまとめると表8-1のようになる。

表 8-1. 「V1-間違える」と“V-错”と共起できる動詞（薛婧宇（2019））

動詞分類		V1-間違える	“V-错”	
意志動詞	動作動詞	1. 状態・位置変化動詞	送り間違える	发错
		2. 授受・所有動詞	あげ間違える	给错
			買い間違える	买错
		3. 知覚・認識動詞	聞き間違える	听错
		4. 言語伝達動詞	言い間違える	说错
	5. 移動動詞	? 走り間違える	跑错	
	心理動詞	1. 感情動詞	* 愛し間違える	爱错
		2. 思考・判断動詞	考え間違える	考虑错
		3. 意思・決定動詞	* 決め間違える	决定错
	? 期待し間違える		指望错	
無意志動詞	1. 変化動詞	* 死に間違える	* 死错	
	2. 現象動詞	(雨が) * 降り間違える	* 下错 (雨)	

薛婧宇 (2019) は「V1-間違える」について無意志動詞と共起しにくいとしている。また、例 (8-1) 「走り間違える」は不自然になるが、例 (8-2) のように選択肢が想定できる場合であれば使用できると述べている。

(8-1) ??道を走り間違えた。

(8-2) 方向を走り間違えた。

しかし、「あの人と彼を愛する」のように選択肢があったとしても「\*あの人と彼を愛し間違える」は不自然になる。薛婧宇 (2019) で述べられている選択肢が明確ではない。この点について、本研究では、どの段階で失敗したかという観点から考察する。

また、中国語の“错”には“V-错”以外にも“错-V”という言い方があるとし、その違いについて次の例 (8-3) を提示している。

(8-3) 吃错了药：違う薬を飲んでしまった。飲む薬の選択をを間違えた。

错吃了药：薬を飲むべきではなかった。動作そのものが間違いであった。

薛婧宇 (2019) は「V1-間違える」は“錯-V”には対応しないと述べている。本研究でもこの点について、行為の過程からどのような場合に“V-錯”“錯-V”が使用されるのかという観点から日本語の表現と対応させて考察する。

更に、薛婧宇 (2019) は BCCWJ を利用して、「間違えて V」や「間違って V」が「V1-間違える」に言い換えられるかどうかを検討している。その結果、次の 1~2 の場合には言い換えができないのに対し、3 の場合は言い換えられると述べている。

[言い換え不可]

1. 原因：「間違える」が V1 の発生する原因となる場合

(8-4) 連敗が多いのでしょうか。勝っているのは、間違って勝ってしまったのです。(\*  
勝ち間違える)

(Yahoo!知恵袋、薛婧宇 2019 の例文 (44) )

2. 動作の順番：動作が順番に起き、V1 と「間違える」が時間的に切れている場合

(8-5) ちなみに私がプレゼントしたスーツのジャケットを誰かのと間違って着て来た  
みたいなので、放置してやろうかともおもっていますが… (\*着間違える)

(Yahoo!知恵袋、薛婧宇 2019 の例文 (45) )

[言い換え可]

3. 付帯状況：「V1 しながら間違えた」に言い換えられる場合

(8-6) 字を {間違えて書いて/書き間違えて} しまった。

(本研究の作例、薛婧宇 2019 には例文が無かった)

(薛婧宇 2019 : 76 の記述を整理し直した)

確かに、「1. 原因」の場合、例 (8-4) は何かの間違いが起きて勝ったという「原因—結果」の解釈ができなくもない。しかし、ここで言いたいのは「運命のいたずらのように、勝



つことが奇跡的で、まるで間違いであったかのような意味であり、「勝つ」という事態の成立が予想外のことであったことを表している。これに対し、後述するように「V1-間違える」は対象の取り違えを表す表現であるため、「勝つ」のような自動詞には着きにくいのである。そもそも例(8-5)の「間違って着る」も例(8-6)の「間違えて書く」も間違えることが原因でV1が発生すると言えなくもないため、薛婧宇(2019)の「原因」による説明は成り立たないと考えられる。

次に「2. 動作の順番」の「時間的に切れている」ということについて、薛婧宇(2019:76)は「「V1-間違える」のV1と「間違える」は、目的語が同じでなければならず、更に、二つの動作が同時でない場合は共起できないと考えられる」と述べている。どのような場合に「時間的に切れているか」あるいは「二つの動作が同時でない場合」なのかについては詳しく説明されていない。薛婧宇(2019)は例(8-5)で服を間違えて選ぶことと実際に着ることの間に時間的な差があることを言っているように思われる。しかし、この「着る」は服を選ぶことも含めて言っているので、必ずしも時間的に切れているとは言えない。もしこれが時間的に切れているのであれば、例(8-4)と例(8-6)も「何かの間違いがあつて、その結果、勝つた」、「思い違いや運筆の間違いがあつて、その結果字を間違えた」と言えなくもない。また、例(8-5)の「?(服を)着間違える」は確かに不自然であるが、次の例(8-7)のように「前後ろ」を間違えた場合は「着間違えた」でも問題ないように思われる。

(8-7) 服の前後ろを着間違えた (/間違えて着た)。

最後の「付帯状況」という説明も、基本的に「間違えてV」や「間違ってV」が「V1-間違える」は全て付帯状況を表すため、有効な説明とは言えない。ただし、これらの副詞的用法と複合動詞形の間置き換え可能なものとそうでないものがあることが指摘されている点は重要である。本研究では「字を書き間違える」のように対象の取り違えを表す場合には「V1-間違える」が使えるが、「\*勝ち間違える」のように対象の取り違えを表さない場合には使えないことを主張する。

また、薛婧宇(2019)では「V1-間違える」、「間違えてV」、「間違ってV」の3語を対象としており「V1-間違う」は対象としていない。しかし例(8-8)のように「見間違える」

と「見間違う」にも違いがあるため、「V1-間違う」についても考察する必要があると思われる。

(8-8) 一見、真跡かと見間違う（/\*見間違える）ほどの精巧な模本で、奈良時代に我が国に伝来したと考えられています。

（栗原蘆水ほか『書道Ⅲ』）

そこで本研究ではまず複合動詞用法の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の相違点について考察した後、副詞的用法の「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」の相違点についても考察する<sup>2</sup>。

### 8.2.3 先行研究のまとめと本研究の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の意味

以上、先行研究では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には「行為主体の失敗」や「動作の誤り」の意味があることや、「V1-誤る」は「正しく行ふべきところを、行為主体がついっかり失敗する」の意味があるのに対し、「V1-間違える」には「AとすべきところをA以外の何かと取り違えた」という意味があることが指摘されている。これに対し、本研究では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には次の1、2の2つの用法があると考ええる。

1. 「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」  
 (例) 才能を読み {間違える/間違う/違える/違う/誤る}。
2. 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」  
 (例) 名前を聞き {間違える/間違う/違える/<sup>?</sup>違う/<sup>?</sup>誤る}。

<sup>2</sup> 「V1-違える」「V1-違う」は「違ってV」「違えてV」のような副詞的用法の言い方は見られない。

以下、これらの用法について、本動詞との関係(8.3節)、共起するV1の特徴(8.4節)、行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」および「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」の各用法の位置づけ(8.5節)、中国語との比較(8.6節)を行い、それぞれの特徴を明らかにする。

### 8.3 本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」と複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の対応

本節では本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」と複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の共通点と相違点について論じる。まず、本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」の持つ意味として、『明鏡国語辞典』の記述を参考とする。

『明鏡国語辞典』(北原2002:55,1034,1554-1555)

「間違える」:①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。しくじる。

失敗する。

(例) お釣りを間違えて渡してしまった。

②正しいものとそうでないものを取り違える。

(例) 花子が道を間違えた。

「間違う」: [自] ①正しくない状態にある。

(例) 君はやり方が間違っている。

②たとえどんなことがあっても。決して。

(例) 間違っても振り返ってはいけない。

[他] ①「間違える」の新しい言い方。

(例) こんな優しい問題を間違うはずがありません。

「違える」: ①違ったようにする。同じにならないようにする。

(例) これまでと方法を違える。

②間違える。誤る。

(例) 時間を違えて遅刻してしまう。

③契約などをたがえる。～にそむく。

(例) 約束を違える。

④ねじるなどして、筋・筋肉などを炒める。

(例) 首の筋を違える。

「違う」 : ①二つのものの間に差違が認められる。同じではない。

(例) 兄は弟とは性格が違う。

②上下、優劣などの点で大いに差違が認められる。

(例) 格が違う。

③基準とするものと異なる。特に、正しいものと一致しない。

(例) 答えが違っている。

④自分の意見を(遠慮がちに)提示する。…ではないか。

(例) ああいう訊き方はまずかったのと違いますか？

⑤骨・筋肉・精神状態などが正常の状態からずれる。

(例) 足の関節が違って痛い。

「誤る」 : [自] ①物事が本来あるべきものと食い違っている。間違っている。正しくない。

(例) 君の判断は誤っている。

[他] ①判断ややり方を間違う。また、人生でなすべきことや進むべき方向を間違う。やりそこなう。失敗する。過つ。

(例) 判断を誤る。

②人を間違った方向に導く。道を誤らせる。過つ。

(例) 君の考え方は人を誤る恐れがある。

以上の記述を比較すると表8-2のようになる。

表 8-2. 『明鏡国語辞典』における「間違える」「間違う」「違える」「違う」の違い

間違える	間違う	違える	違う	誤る
①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。 (例) お釣りを間違えて渡してしまった。	[他]①「間違える」の新しい言い方。 (例) こんな優しい問題を間違うはずがありません。	②間違える。誤る。 (例) 時間を <u>違</u> えて遅刻してしまう。	③基準とするものと異なる。特に、正しいものと一致しない。 (例) 答えが <u>違</u> っている。	[他] ①判断ややり方を間違う。また、人生でなすべきことや進むべき方向を間違う。やりそこなう。失敗する。過つ。(例) 判断を <u>誤</u> る。
②正しいものとそうでないものを取り違える。(例) 花子が道を <u>間違</u> えた。	(例) 花子が道を <u>間違</u> う。	—	—	—
—	[自] ①正しくない状態にある。 (例) 君はやり方が <u>間違</u> っている。	—	—	[自] ①物事が本来あるべきものと食い違っている。間違っている。正しくない。(例) 君の判断は <u>誤</u> っている。
—	②たとえどんなことがあっても。決して。(例) <u>間違</u> っても振り返ってはいけない。	—	—	—
—	—	①違ったようにする。同じにならないようにする。 (例) これまでと方法を <u>違</u> える。	—	—
—	—	③契約などをたがえる。～にそむく。 (例) 約束を <u>違</u> える。	—	—
—	—	④ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める。(例) 首の筋を <u>違</u> える。	⑤骨・筋肉・精神状態などが正常の状態からずれる。 (例) 足の関節が <u>違</u> って痛い。	—
—	—	—	①二つのものの間に差違が認められる。同じではない。(例) 兄は弟とは性格が <u>違</u> う。	—

—	—	—	②上下、優劣などの点で大いに差違が認められる。 (例) 格が <u>違う</u> 。	—
—	—	—	④自分の意見を(遠慮がちに)提示する。…ではないか。(例) ああいう訊き方はまず <u>違ったのと違いま</u> すか?	—
—	—	—	—	[他] ②人を間違った方向に導く。道を誤らせる。過つ。 (例) 君の考え方は人を <u>誤る</u> 恐れがある。

次に複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の持つ意味について見る。

『明鏡国語辞典』(北原 2002 : 55, 1034, 1554-1555)

「V1-間違える」 : 記述なし

「V1-間違う」 : 記述なし

「V1-違える」 : 間違える。誤る。

(例) 軍配を差し違える。取り違える。読み違える。

ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める。

(例) 寝違える。

双方から互いに…する意を表す。

(例) 刺し違えて死ぬ。

「V1-違う」 : 交差する意を表す。

(例) 行き違い、すれ違い、入れ違い

「V1-誤る」 : ①判断ややり方を間違う。また、人生でなすべきことや進むべき方向を間違う。やりそこなう。失敗する。過つ。

(例) 言い誤る。見誤る。

以上の記述を本動詞の意味と比較すると表 8-3 のようになる。

表 8-3. 『明鏡国語辞典』における本動詞と複合動詞の違い

意味	本動詞	V1-違える	V1-違う	V1-誤る
①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。	間違える	間違える。誤る。 (例) 軍配を差し違える、取り違える、読み違える	—	(例) <u>言い誤る</u> 、 <u>見誤る</u>
	間違う			
	違える			
	違う			
	誤る			
ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める。	違える	(例) <u>寝違える</u>	—	—
—	—	双方から互いに…する意を表す。 (例) <u>刺し違えて死ぬ</u>	—	—
—	—	—	交差する意を表す。 (例) <u>行き違い</u> 、 <u>すれ違い</u> 、 <u>入れ違い</u>	—

以上の記述を見ると、本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」が持つ意味と複合動詞「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」が持つ意味は本動詞の意味のうち、主に「方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう」と対応し、「V1-違える」のみ本動詞「違える」の「ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める」の意味として、「寝違える」が対応している。「V1-違える」が持つ「双方から互いに…する意を表す」と「V1-違う」が持つ「交差する意を表す」のような双方向の行為の意味は本動詞には見られない。『明鏡国語辞典』には「V1-間違える」「V1-間違う」の記述は見られなかったが、『類義語使い分け辞典』には「V1-間違える」について「『言い間違える・聞き間違える』など、自他動詞の『間違う』という意味を添え、『違って・間違えて～する』」と使用があることは記載されているが具体的な意味や意味の違いについては書かれていない。従って、本研究では「V1-間違える」「V1-間違う」には本動詞「間違える」および「間違う」の他動詞用法が持つ「①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。しくじる。失敗する」の意味（例えば、「才能を読み間違える・読み間違う」）と「②正しいものとそうでないものを取り違

える」（例えば、「言い間違える・言い間違う」）という意味があるとする。従って、本研究における意味と比較すると、表8-4のようになる。

表8-4. 複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」

## の辞書的意味と本研究での意味

V1-間違える	V1-間違う	V1-違える	V1-違う	V1-誤る	本研究での意味
①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。しくじる。失敗する。 (例) お釣りを <u>間違えて渡して</u> しまった。	[他]①「間違える」の新しい言い方。 (例) こんな優しい問題を <u>間違う</u> はずがありません。	間違える。誤る。 (例) 軍配を <u>差し違える</u> 。 <u>取り違える</u> 。 <u>読み違える</u> 。	—	判断ややり方を間違う。また、人生でなすべきことや進むべき方向を間違う。やりそこなう。失敗する。過つ。(例) <u>言い誤る</u> 。 <u>見誤る</u> 。	正しく行くべきところを誤って別のことをした (例) 才能を <u>読み</u> { <u>間違える/間違う/違える/誤る</u> }
②正しいものとそうでないものを取り違える。 (例) 花子が道を <u>間違えた</u> 。	(例) 花子が道を <u>間違う</u> 。	—	—	—	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった (例) 名前を <u>聞き</u> { <u>間違える/間違う/違える/？違う/？誤る</u> }
—	—	双方から互いに…する意を表す。 (例) <u>刺し違えて死ぬ</u> 。	—	—	— <sup>3</sup>
—	—	—	交差する意を表す。 (例) <u>行き違い</u> 、 <u>すれ違い</u> 、 <u>入れ違い</u>	—	—
—	—	ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める。 (例) <u>寝違える</u> 。	—	—	—

<sup>3</sup> 失敗を表す表現ではないため、「双方から互いに…する意を表す」「交差する意を表す」「ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める」を表すものは本研究では対象外とする。



本研究では、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」について、それぞれどのようなV1と共起するのか(8.4節)、またそれぞれ行為の過程のどの段階の失敗か(8.5節)を副詞的用法「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」と比較して考察する。

#### 8.4 共起するV1の特徴

本節では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」がどのようなV1と共起するかについて、BCCWJから中納言を使用して抽出する。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ

検索方法：短単位検索

検索条件： キー：品詞-大分類-動詞

後方共起条件1：語彙素読み「マチガエル／マチガウ／チガエル／チガウ／アヤマル」

このうち、「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」は文字列検索でそれぞれ“違”“誤”で調べたところ、次の語が一語として検索されたため、この語に関しては、あらためて、短単位検索で、キーを語彙素読み「ミマチガエル」などにし、それぞれ検索した。

「V1-違える」：見る、とる、履く、刺す、読む、聞く、寝る、思う、差す、言う、踏む、かける、乗る、入れる、打つ

「V1-違う」：すれる、喰う、行く、かける、入れる、駆ける、(ボタンを)かける、飛ぶ、読む、染める、する

「V1-誤る」：見る、読む、踏む、書く、聞く

以上のようにして検索した結果、「V1-間違える」の延べ語数は182語、V1の異なり語数は28語、「V1-間違う」の延べ語数は76語、異なり語数は16語、「V1-違える」の延べ語

数は432語、V1の異なり語数は18語、「V1-違う」の延べ語数は834語、異なり語数は14語、「V1-誤る」の延べ語数は89語、異なり語数は5語であった。表8-5から表8-9はそれぞれ「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」のV1の出現数上位20位までを示したものである。各表の割合(%)は延べ語数における出現率を表す。

**表 8-5. 「V1-間違える」と共起するV1**

延べ語数：182語  
異なり語数：28語

	V1	数	%
1	見る	53	29.1
2	聞く	20	11.0
3	買う	15	8.2
4	言う	14	7.7
5	かける	12	6.6
	まかる		
7	読む	9	4.9
8	押す	7	3.8
9	乗る	5	2.7
10	打つ	4	2.2
	踏む		
12	する	3	1.6
13	つける	2	1.1
	とる		
	計る		
	呼ぶ		
	使う		
	乗せる		
	数える		
送る			

**表 8-6. 「V1-間違う」と共起するV1**

延べ語数：76語  
異なり語数：16語

	V1	数	%
1	まかる	28	36.8
2	見る	26	34.2
3	聞く(聴く)	6	7.9
4	数える	2	2.6
	読む		
	する		
7	言う	1	1.3
	入る		
	思う		
	打つ		
	押す		
	育てる		
	乗る		
食べる			
	繋がる		
	写す		

表 8-7. 「V1-違える」  
と共起する V1

延べ語数：432 語  
異なり語数：18 語

	V1	数	%
1	見る	160	37.0
2	とる	117	27.1
3	履く	40	9.3
4	刺す	26	6.0
5	読む	24	5.6
6	聞く	19	4.4
	寝る		
8	思う	5	1.2
	差す		
10	言い	4	0.9
	踏む		
12	かける	2	0.5
	乗る		
14	入れる	1	0.2
	打つ		
	開く		
	置く		
	押す		

表 8-8. 「V1-違う」  
と共起する V1

延べ語数：834 語  
異なり語数：14 語

	V1	数	%
1	ずれる	597	71.2
2	喰う	183	21.8
3	行く	23	2.7
4	聞く	10	1.2
5	かける	7	0.8
6	入れる	5	0.6
7	駆ける	3	0.4
8	(ボタンを) かける	2	0.2
	飛ぶ		
	読む		
11	染める	1	0.1
	する		
	出る		
	馳せる		

表 8-9. 「V1-誤る」  
と共起する V1

延べ語数：89 語  
異なり語数：5 語

	V1	数	%
1	見る	72	80.9
2	読む	11	12.4
3	踏む	3	3.4
4	書く	2	2.2
5	聞く	1	1.1

上記の表 8-5～8-9 で上位に来ているのは「見る」「聞く」「読む」「言う」といった言語活動に関係する語である。特に「見る」は表 8-8 の「V1-違う」以外で上位に来ている。特に例 (8-9) のように「見る」が「見なす」の意味で使われ、「誤って真跡だと見なして(判断して)しまった」といった「正しく行うべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合や、例 (8-10) のように「風車と巨人を取り違えて、巨人だと見なした」のように「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す場合がある。例 (8-9) は「模写」と「真跡」を取り違えたことに焦点がある

のではなく、主体が判断ミスを犯す（ほど精巧だ）ということに焦点がある。この点については8.5.1で詳しく説明する。

(8-9) 一見、真跡かと見間違う（/\*見間違える/\*見違えた/?見違った/見誤った）ほどの精巧な模本で、奈良時代に我が国に伝来したと考えられています。

（栗原蘆水ほか『書道Ⅲ』）

（例8-8の再掲）

(8-10) ご存知のとおり、ドン・キホーテが風車を巨人と見間違えた（/見間違った/?見違えた/?見違った/?見誤った）のだ。

（木村浩嗣『情熱のアンダルシアを旅するスペイン』）

「V1-間違える」「V1-間違う」には「まかる」との共起も多く見られた。「まかり間違う」の「まかり」は古語の「退き去る、行く、来る」<sup>4</sup>の謙譲の意味を持つ「まかる」が接辞化したもので、現代では意味を強める意味を表している。『旺文社国語辞典』では「まかり間違う」は「「まちがう」を強調した言い方。万一まちがう」という意味を表すとしている。

以上のように、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には次の1、2の2つの用法がそれぞれ見られる。

1. 「正しく行うべきところを誤って別のことをした」  
 （例）才能を読み {間違える/間違う/違える/誤る}。
2. 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」  
 （例）名前を聞き {間違える/間違う/違える/?違う/?誤る}。

次の8.5節では、上記の5つの意味がそれぞれの段階における失敗を表すかについて考察する。

<sup>4</sup> 『新明解古語辞典』参照。

## 8.5 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の位置づけ

本節では3章で述べた行為の過程のうち、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」がどの段階における失敗を表すのかについて考察する。本研究では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」を「正しく行うべきところを誤って別のことをした」「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の2つの用法に分類し、それぞれの用法が行為の過程のうちどの段階における失敗を表すのかについて考察する。また、副詞的用法として「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」とも比較する。

### 8.5.1 「正しく行うべきところを誤って別のことをした」の意味の場合

まず、「正しく行うべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合について考察する。例えば、例(8-11)の場合、心の中で「読もう」と決め(①)、「読む」という行動(③)の最中でまで至らなかったことを表している。そのため、図8-3のように意図段階(②)での失敗となる。

(8-11) かえすがえすも山広は、時流と自分の才能を読み間違えた(/間違った/違えた  
/違った/誤った) としか言えない。

(鈴木智彦『親分』)

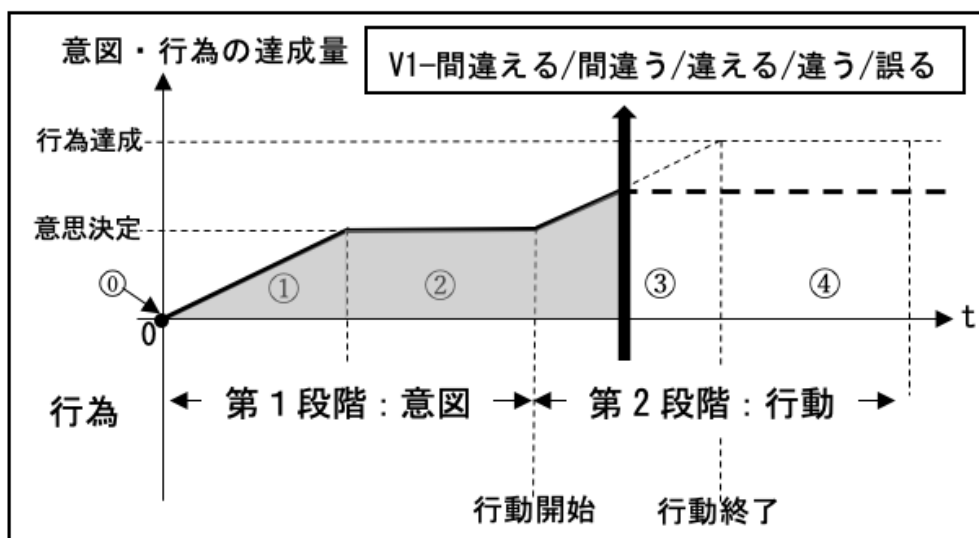


図 8-3. 行為の過程における行動段階の失敗

「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」(図 8-1 の再掲)

この用法は例 (8-11) のような「理解する」という意味での「読む」や「見なす」という意味での「見る」など認知的な動詞と共起する。しかし、例 (8-12) の場合「見間違える」「見違える」とは言い換えられず、「見違う」の場合は少し不自然になる。

(8-12) 一見、真跡かと見間違う (/\*見間違える/\*見違える/?見違う/見誤る) ほどの精巧な模本で、奈良時代に我が国に伝来したと考えられています。

(栗原蘆水ほか『書道Ⅲ』)

(例 8-8, 9 の再掲)

まず、「見間違える」の場合について見る。例 (8-13) や例 (8-14) のように「V1-間違える」と「V1-間違う」で言い換え可能な場合がある。

(8-13) ご存知のとおり、ドン・キホーテが風車を巨人と見間違えた (/見間違った) のだ。

(木村浩嗣『情熱のアンダルシアを旅するスペイン』)

(例 8-10 の再掲)

(8-14) 私専用のテーブル上にあったブラウンの手鏡を大麻と見間違った (/ 見間違えた) のだと思います。

(小林潔『ガサ!』)

このように「風車」と「巨人」、「手鏡」と「大麻」のように「正しい対象 (A) 」と「正しくない対象 (B) 」を取り違える意味を表す場合は「V1-間違える」と「V1-間違う」の言い換えが可能である。本研究ではこの用法を 2. 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の意味を持つとし、8.5.2 で取り扱う。

一方、例 (8-15) の「V1-間違う」は「V1-間違える」で言い換えることができない。例 (8-15) は「模写」と「真跡」を取り違えたことを表すことに焦点があるのではなく、主体が判断ミスを犯す (ほど精巧だ) ということに焦点がある文である。例 (8-16) も同様である。

(8-15) 一見、真跡かと見間違う (/ \* 見間違える) ほどの精巧な模本で、奈良時代に我が国に伝来したと考えられています。

(栗原蘆水ほか『書道Ⅲ』)

(例 8-8, 9, 12 の再掲)

(8-16) ズボンが目に入らなければ、一見すると女の子と見間違う (/ \* 見間違える) ほどかわいらしい。

(白川佳代子『子どものスキィグル』)

両者の相違点は例 (8-13) と例 (8-14) の「ト」は並列助詞で、例 (8-15) と例 (8-16) の「ト」は「～と見なす」の「ト」と同じ引用を表す助詞である点にある。その証拠に、前者は例 (8-17) 例 (8-18) のように「A ヲ B ト」を「A ト B ヲ」に言い換えても表面的な意味は変わらないのに対し、後者は例 (8-19) 例 (8-20) のように「A ヲ B ト」を「A ト B ヲ」に言い換えると話の焦点が「ヲ」格のものになってしまう。

- (8-17) a. 風車を巨人と {見間違える/見間違う}。  
 b. 風車と巨人を {見間違える/見間違う}。  
 (8-18) a. 手鏡を大麻と {見間違える/見間違う}。  
 b. 手鏡と大麻を {見間違える/見間違う}。  
 (8-19) a. 模写を真跡と {\*見間違える/見間違う} (模写の話)。  
 b. 真跡を模写と {\*見間違える/見間違う} (真跡の話)。  
 (8-20) a. (彼を) 女の子と {\*見間違える/見間違う} (彼の話)。  
 b. 女の子を (彼と) {\*見間違える/見間違う} (女の子の話)。

また、1件ずつではあるものの、「V1-間違う」には「思う」や「入る」といったV1に自動詞が来るものも見られる。これらは例(8-21)例(8-22)のように「V1-間違える」とは言い換えられない。この場合も「見間違う」と同様に主体の判断ミスを表している。

- (8-21) わたしたちは、心の外に、心を離れてあたかも存在するがごとくに思いまちが  
って (/ \*間違えて) いるのだと仏教は主張します。

(横山紘一『十牛図・自己発見への旅』)

- (8-22) 専門用語を理解しないと、入り間違う (/ \*間違える) 危険があります。

(高橋伸子『誰にでもわかる保険の本』)

以上の考察から、「V1-間違える」は「読み間違える」など判断ミスを表す場合があるものの、「見間違える」などは「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という対象Aと対象Bを取り違える意味を表す場合が多い。

次に「見違える」「見違う」について見る。「見違える」には例(8-23)のように「見て、以前よりいいものだと思う」という意味があり、その意味に引っ張られ、「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味の場合は不自然になると思われる。



(8-23) ふるびたいすは、みちがえるほどきれいになりました。

(鬼塚りつ子『おばあさんとあかいいす』)

「見違う」は例(8-24)のように「正しく行すべきところを誤って別のことをした」という意味を表す例がインターネット上で見られた。

(8-24) まるで本物と見違うような佇まい。

([https://eat.afcicreators.top/index.php?main\\_page=product\\_info&cPath=195\\_196\\_257&products\\_id=25536](https://eat.afcicreators.top/index.php?main_page=product_info&cPath=195_196_257&products_id=25536))

2021年10月12日閲覧

「見違える」と「見違う」が以上のように「正しく行すべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合、「ほど」や「ような」といった後続表現と共起しており、一語化した表現だと思われる。

以上のように、「読む」や「見る」など認知的な意味を表す動詞と共起する場合、「正しく行すべきところを誤って別のことをした」という判断の失敗を表すが、「見間違える」は「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」に、「見違える」は「～して以前よりいいものだと思う」という意味に使われる点で異なる。

### 8.5.2 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の意味の場合

次に「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」が「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す場合について考察する。この意味は8.5.1でも述べたように、例(8-25)の場合、「見よう」と思い(①)その記憶を保持し(②)、実際に「見る」という行為は行った(③)ものの、正しい対象A(手鏡)と正しくない対象B(大麻)を混同したためできなかったことを表して

いる。対象Aと対象Bは常に提示されるわけではないが、例(8-26)のように想定されるものである。「正しく行くべきところを誤って別のことをした」と同様に行動段階(③)での失敗である。「見る」の場合は、「見違える」や「見違う」は「～して以前よりいいものだと思う」という意味になるため言い換えられないが、例(8-26)「言い違える」や例(8-27)「聞き違う」のように対象の取り違えを表す場合がある。

(8-25) 私専用のテーブル上にあったブラウンの手鏡を大麻と見間違った(/見間違えた)のだと思います。

(小林潔『ガサ!』)

(例8-14の再掲)

(8-26) アクセントを言い違えれば意味はまったく通じなくなってしまう。

(実作者不明『辞書にない「ことばと漢字」3000』)

(8-27) 毎日家事と検査の生活で、それを退屈だって感じる私が間違ってるんだと思ってた。

(山本文緒『紙婚式』)

「V1-誤る」の場合、例(8-28)のように「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味で使用されている例はあったものの、多くが「正しく行くべきところを誤って別のことをした」という意味での使用が多く見られた。

(8-28) 塗ってあるバターをこれチーズ?と見誤るくらい、なぜかハムよりぶ厚くベツトリと塗られていた日本のサンドイッチとはえらい違い。

(木ノ葉のこ『私を救ってくれた小っちゃな幸せパワー』)

以上、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」が「正しく行くべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合と「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す場合について見た。このうち「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」は例(8-29)～(8-31)のように

副詞的用法に言い換えられる場合と例(8-32)～(8-34)のように言い換えられない場合がある。

(8-29) うっかり両者のボタンを押しまちがえる(/間違えて押す) ことのないような工夫を期待します。

(岩崎かつ代『くらしの安全徹底ガイド』)

(8-30) 一瞬、ベルを押しまちがった(/間違って押した)のかと思ったほど美弥子の声は変わっていた。

(高嶋哲夫『トルーマン・レター』)

(8-31) 誰がみても理解できるように、くせ字や誤字・脱字、書き誤った(/誤って書いた)ときの修正の仕方などに注意して、

(富田明裕/大崎広行『地域福祉・介護サービス Q&A』)

(例 5-2 の再掲)

(8-32) かえすがえすも山広は、時流と自分の才能を読み間違えた(/\*間違えて読んだ)としか言えない。

(鈴木智彦『親分』)

(例 8-11 の再掲)

(8-33) 下を向いて彼の話の聞いていると、BBCのアナウンサーの声かと聞き間違う(/\*間違って聞く)ほどだ。

(井形慶子『イギリス式お金をかけず楽しく生きる!』)

(8-34) 時期を見誤る(/\*誤って見る)と、次は一年先になる。

(星野亮『異界の森の夢追い人』)

次にどのような場合に言い換えられ、どのような場合に言い換えられないかについて考察する。本研究ではまず、「間違えて V」「間違って V」「誤って V」を BCCWJ から中納言を使用して検索した。検索条件は次の通りである。

検索対象：全データ
検索方法：長単位検索
検索条件：「間違えて／まちがえて」
「間違っ／まちがっ」
「誤って／あやまって」

これによって出現したものから、「V する」の形式を目視で抽出した。なお、例 (8-35) のように「間違えて」とVの間に語や文が入るものも、「V1-間違える」に言い換えができることから、本稿では考察の対象とする。

(8-35) 中濃ソースをかけようとして間違えてウスターソースをかけてしまい、から  
っと揚がったはずのエピフライが湿ってしまう。

(和泉桂『シークレット・レッスン』)

その結果、「間違えてV」のVの延べ語数は264語、異なり語数は154語、「間違っV」のVの延べ語数は339語、異なり語数は188語、「誤ってV」の延べ語数は392語、異なり語数は212語であった。表8-10、8-11、8-12は「間違えてV」「間違っV」「誤ってV」のVの出現数上位20位までの例を示したものである。各表の割合(%)は延べ語数における出現率を表す。

表 8-10. 「間違えてV」と共起するV

延べ語数：264 語  
異なり語数：154 語

	V1	数	%
1	する	11	4.2
2	書く	10	3.8
3	入る	9	3.4
4	覚える	8	3.0
5	買う	7	2.7
6	出る	6	2.3
	押す		
	入札する		
9	クリックする	5	1.9
	乗る		
	入れる		
12	飲む	4	1.5
	入力する		
	使う		
15	言う	3	1.1
	呼ぶ		
	持ってくる		
	食べる		
	教える		
	声をかける		
	付ける		
	持っていく		
	出品する		

表 8-11. 「間違ってV」と共起するV

延べ語数：339 語  
異なり語数：188 語

	V1	数	%
1	使う	13	3.8
2	する	10	2.9
3	入れる	9	2.7
4	入札する	8	2.4
	押す		
	入る		
	殺す		
8	食べる	7	2.1
	削除する		
	買う		
11	クリックする	6	1.8
	書く		
13	消す	5	1.5
	落札する		
	出す		
16	入り込む	3	0.9
	購入する		
	捨てる		
	飲み込む		
	飲む		
	振り込む		
	覚える		
	生まれる		
	行く		
	接続する		
	評価する		
	選ぶ		
	送る		
	理解する		

表 8-12. 「誤ってV」と共起するV

延べ語数：392 語  
異なり語数：212 語

	V1	数	%
1	削除する	17	4.3
2	落とす	16	4.1
3	落ちる	11	2.8
4	解釈する	9	2.3
	殺す		
	食べる		
7	伝える	8	2.0
	理解する		
9	教示する	7	1.8
10	入れる	6	1.5
	用いる		
	使う		
13	考える	5	1.3
	刺す		
	する		
16	転落する	4	1.0
	入る		
	読む		
	飲み込む		
	行う		
	消す		

まず、「間違えてV」と「間違っ<sup>て</sup>V」の違いについて述べる。両者はいずれも意志的な動作動詞が多く見られる。しかし、「間違っ<sup>て</sup>V」は「間違っ<sup>て</sup>生まれる」のように無意志の動詞に付く例もある。例(8-36)の場合、「武門」と別の場所を間違えたという意味ではなく、「(武門に)生まれる」という事態そのものが誤りであったという、予想外に当該自体が成立することを運命のいたずらのように述べる表現である。ここで「間違えて武門に生まれた」と言うと、本当は別の場所に生まれるべきであったのに誤って武門に生まれてしまったという意味になる。そのため、このような場合には対象(この場合は場所)の取り違いを表す「間違えてV」には言い換えられない。

- (8-36) 聞いた頼朝は、「おだやかでお心根のやさしき方であった。間違っ<sup>て</sup>(/\*間違えて)武門に生れたが如きお方であった故、さぞ生き難かったことであろう  
(宮尾登美子『宮尾本平家物語』)

また、「飲む」は「間違えてV」、「間違っ<sup>て</sup>V」の両方に出現しているが、それぞれ表す意味が異なっている。「間違えて飲む」は例(8-37)のように「コーヒーと紅茶のうち誤った対象(紅茶)を選択して飲んだ」という対象の失敗を表す時に使用されやすい。一方、「間違っ<sup>て</sup>飲む」は例(8-38)のように「飲むつもりはなかったのに飲んでしまった」という行為の失敗を表している。

- (8-37) 単にコーヒーと間違えて(/?間違っ<sup>て</sup>)紅茶を飲んだだけで、衝撃的な味覚体験になってしまうとは。  
(中野純『闇を歩く』)

- (8-38) 赤ちゃんが間違っ<sup>て</sup>(/?間違えて)飲めば、亡くなる危険性が高いのだ。  
(平岩正樹『医者 of 私 が がん に 罹 っ た ら 』)

これらは言い換えると不自然に感じられる。それは、「間違える」は「2つのものを取り違える」という意味を表すのに対し、「間違<sup>う</sup>」は「正しい行為」からの逸脱という本動詞の意味が強く影響しているためであると思われる。しかし、例(8-39)の「Aのバス停とB

のバス停のうち誤った対象を選択して降りた」や例(8-40)の「油性ペンと別のペンのうち誤った対象を選択して書いた」のように行為の対象に対する選択の失敗を表す場合でも「間違ってV」に言い換えられるものもある。例(8-39)は「Aのバス停とBのバス停のうち誤った対象を選択して降りた」ことで「正しい行為(正しい駅で降りる)から逸脱した」という意味でも解釈でき、例(8-40)は「油性ペンと別のペンのうち誤った対象を選択して書いた」ことで「正しい行為(別のペンで書く)から逸脱した」という意味でも解釈できる。このように「AとBの取り違い」を「AとBのうち誤った対象を選択してVすることで正しい行為から逸脱する」だと解釈できる場合には言い換えが可能である<sup>5</sup>。

(8-39) 間違えて(/間違って) 目ざすホテルの手前でバスを降りてしまった私たちを、  
二人の中学生が二十分ほどもある道のりをいやがりもせず案内してくれた。

(中島暢太郎『パタゴニア氷河紀行』)

(8-40) 油性ペンで間違えて(/間違って) 書いてしまった文字や子どもの落書き。

(不明『伊東家の食卓裏ワザ大全集』)

一方例(8-41)や例(8-42)のような行為の失敗を表す「間違ってVする」は「間違えてV」には言い換えられない。例(8-41)の「間違えて殺す」であれば「殺す相手を間違えた(別の人を殺す)」という意味になり、例(8-42)の「間違えて飲み込む」であれば「飲む薬を間違えた(別の薬を飲む)」のように「AとBの取り違い」の意味を持つためである。

(8-41) 間違って(/\*間違えて) 人を殺したら、どういう罪名になって幾らの処罰になりますか。

(国会会議録)

<sup>5</sup> NHK放送文化研究所(メディア研究部・放送用語 塩田雄大)によると、「間違う」は「人として間違った道を歩む」の場合、「道徳的に正しい生き方」を歩んでいないという意味を表し、「人として間違えた道を歩む」とはいえないことから、「間違う」は「正しい(あるべき)状態から外れていること」を意味すると述べている。一方、「間違える」は「ブーツの左右を間違えて履いてしまった」だと「AとBとを取り違える」という意味があると述べている。また、「右用は右足に、左用は左足に履くのが正しい」と解釈した場合は「間違う」とも言えるとしている。

(参考URL: <https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/057.html>) 2021年3月28日検索

(8-42) この麻酔薬がなんともまずくて気持ちが悪い。閉口した。おそらくまちがって (/\*間違えて) 飲みこんだりしないようにという配慮なのだろう。

(佐藤宏明『精神病棟の中で』)

以上の考察から、「間違えてV」は「AとBのうち誤った対象を選択してVした」という対象の取り違えを表しており、「間違ってV」は「～するつもりはなかったのに～してしまった」という行為の失敗を表す点で異なっていることが分かった。このうち、「間違えてVする」は「AとBのうち誤った対象を選択して～することで正しい行為から逸脱する」と解釈できる場合には言い換えが可能である。一方、行為の失敗を意味する「間違ってVする」は「間違えてV」に言い換えられない。また、「間違えてVする」は無意志の動詞に付き自体そのものが誤っていたことを表すことができる点で「間違ってVする」と異なっている。

次に、「V1-間違える」、「V1-間違う」、「間違えてV」、「間違ってV」の4つの形式の相違点について考察する。表8-13は今回BCCWJから抽出した動詞のうち、いずれかの表現で5語以上出現したものの出現数を比較したものである。これを「V1-間違える」の出現数が多いもの、次に「間違えてV」の出現数が多いものの順に並べた。( )内の数字は4つの形式はそれぞれの総出現数に占める出現率である。

これを見ると、先にも述べたように複合動詞「V1-間違える」と「V1-間違う」で共通して多いのは「見る」「聞く」のような視聴覚を表す動詞と接辞化した「まかる」<sup>6</sup>であることが分かる。また、「V1-間違える」も「V1-間違う」もV1に他動詞を取るが、「V1-間違える」の方が出現数が多く、相対的に広く使われていることが分かる。このうち、「まかる」や「読む」は「間違えてVした」や「間違ってVした」に言い換えられない。「まかり間違う(間違える)」は「まかる」が接辞化して意味を強調する意味であり、「読み間違う」は例(8-43)のようにV1の「読む」が読書の意味ではなく、「理解する」という意味である。このようにV1の意味が希薄化したり別の意味になったりしている場合、「間違えてV」や「間違ってV」には言い換えられない。

<sup>6</sup> 「まかり間違う」の「まかり」は古語の「退き去る、行く、来る」<sup>6</sup>の謙讓の意味を持つ「まかる」が接辞化したもの(『新明解古語辞典』参照)で、現代では意味を強める意味を表している。



(8-43) かえすがえすも山広は、時流と自分の才能を読み間違えた（/\*間違えて読んだ）としか言えない。

（鈴木智彦『親分』）

（例 8-11, 32 の再掲）

表 8-13. 4つの形式の動詞の出現数の比較

	V1-間違える	V1-間違う	間違えてVする	間違ってVする
見る	53 (29.12%)	26 (34.21%)	0 (0%)	0 (0%)
聞く	20 (10.99%)	6 (7.89%)	0 (0%)	0 (0%)
まかる	12 (6.59%)	28 (36.84%)	0 (0%)	0 (0%)
かける	12 (6.59%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
言う	14 (7.69%)	1 (1.32%)	3 (1.14%)	0 (0%)
書く	15 (8.24%)	0 (0%)	10 (3.79%)	6 (1.77%)
読む	9 (4.95%)	2 (2.63%)	0 (0%)	0 (0%)
押す	7 (3.85%)	1 (1.32%)	6 (2.27%)	8 (2.36%)
する	3 (1.65%)	2 (2.63%)	14 (5.30%)	10 (2.95%)
入る	0 (0%)	1 (1.32%)	9 (3.41%)	8 (2.36%)
覚える	0 (0%)	0 (0%)	8 (3.03%)	3 (0.88%)
買う	0 (0%)	0 (0%)	7 (2.65%)	7 (2.06%)
出る	0 (0%)	0 (0%)	6 (2.27%)	0 (0%)
入札する	0 (0%)	0 (0%)	6 (2.27%)	8 (2.36%)
入れる	0 (0%)	0 (0%)	5 (1.89%)	9 (2.65%)
使う	0 (0%)	0 (0%)	4 (1.52%)	13 (3.83%)
食べる	0 (0%)	1 (1.32%)	3 (1.14%)	7 (2.06%)
殺す	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (2.36%)
削除する	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (2.06%)
合計	182 (100%)	76 (100%)	264 (100%)	188 (100%)

また、「見る」「聞く」のような視聴覚を表す動詞は例（8-44）のように「間違えてV」や「間違ってV」に言い換えにくい。

(8-44) a. はるか彼方から、せわしげな足音が聞こえたからである。断じて聞き間違えたりしない。

(宮本輝『春の夢』)

b. はるか彼方から、せわしげな足音が聞こえたからである。断じて{\*間違えて/\*間違って}聞いたりしない。

「V1-間違える」、「V1-間違う」は「AとBを取り違える」という意味を持つが、「間違えてV」、「間違ってV」は「AとBのうち誤った対象を選択してVする」という意味を持つ。つまり、副詞的用法は「選択を間違える」という行為が行われてから、Vの行為が行われるのである。これは「V1てV2」の順序に起因していると思われる。例えば、「毎日7時に起きて、運動します」は「起きる」という行為のあとに「運動する」という行為が続くことを表す。同様に「間違えてV」も「間違える」という行為が行われてから「V」の行為が行われることを意味している。例(8-44)の場合、「(足音を)聞く→間違える」という順序で事態が発生するため、その順序を逆にした「間違えて(足音を)聞く」という言い方はできないのである。例(8-44)は「間違える」という行為と「聞く」という行為が同時に行われている。「足音か別の音か選択」する以前にもう「聞こえている」のであり、行為をするかしないかの選択ができないのである。「見る」も同様である。そのため、行為の過程の図で表すと「V1-間違える」が図8-4のように行動段階での失敗であるのに対し、「間違えてV」は図8-5のように意図段階での失敗である。

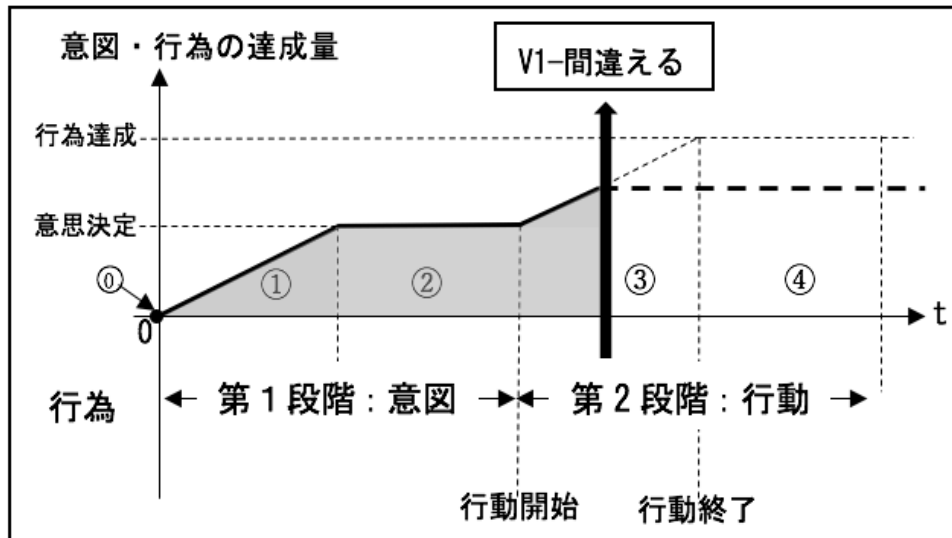


図 8-4. 行為の過程における「V1-間違える」の位置づけ

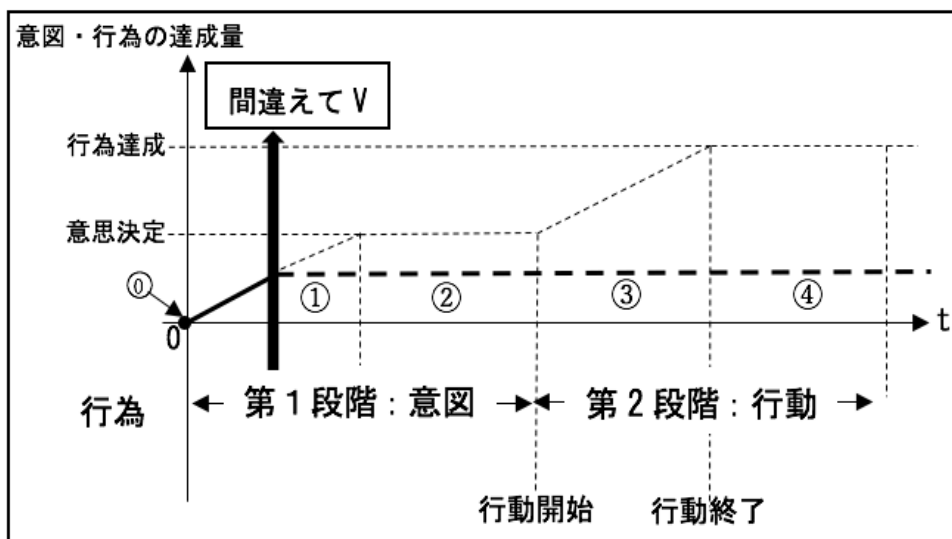


図 8-5. 行為の過程における「間違えてV」の位置づけ

一方、「入る」、「入れる」、「食べる」、「使う」、「覚える」、「買う」などは「間違えてV」、「間違ってV」に共通して出現している。これらは「間違ってV」と共起するとそれぞれ「入るつもりはないのに入った」、「入れるつもりはないのに入れた」、「食べるつもりはないのに食べた」、「使うつもりはないのに使った」、「覚えるつもりはないのに覚えた」、「買うつもりがないのに買った」のように行為の選択を誤ったことを表すことができるという点で共通しており、例 (8-45) のように「V1-間違える」や「V1-間違う」に

言い換えにくい<sup>7</sup>。例(8-45)は対象の選択を誤ったことを表すのではなく、行為自体の選択を誤ったということを表す文脈であるため、複合動詞では言い換えられないと考えられる。

(8-45) システム的に間違って使え (/ \*使い間違え / \*使い間違わ) ないようになって  
いるだけでなく、カートリッジの形状も変えられている。

(河村正行『MDのすべて』)

しかし、例(8-46)のように「使う」対象が「言葉」にすると比較的「V1-間違える」でも言いやすくなる。これは行為自体の選択を誤った意味ではなく、対象の選択を誤った意味であるためだと考えられる。

(8-46) 肝心な言葉を使い間違えて (/ 間違えて使って) しまった。

また、「間違っ

て生まれた」のように無意志の動詞に付く例もある。これは例(8-47)のように「(武門に)生まれた」ことが間違いであったという行為自体の間違いを表す。

(8-47) 聞いた頼朝は、「おだやかでお心根のやさしき方であった。間違っ

て (/ \*間違えて) 武門に生れたが如きお方であった故、さぞ生き難かったことであるう。

(宮尾登美子『宮尾本平家物語』)

(例 8-36 の再掲)

<sup>7</sup> 複合動詞と共起する「覚える」、「聞く」、「言う」などは「覚え間違い」、「書き間違い」、「言い間違い」、「見間違い」のように名詞用法があるが、副詞的用法と共起する「使う」「食べる」「買う」などは「使い間違い」、「食べ間違い」、「買い間違い」は不自然になる。複合名詞との関係は今後の課題とする。

次に複合動詞と副詞用法の両方に共通して出現したVに「書く」、「押す」、「する」などが挙げられる。このうち例(8-48)～(8-51)の「押す」の例を使って、4つの形式の意味の違いを見る。

(8-48) うっかり両者のボタンを押しまちがえることのないような工夫を期待します。

(岩崎かつ代『くらしの安全徹底ガイド』)

(例8-29の再掲)

(8-49) 一瞬、ベルを押しまちがったのかと思ったほど美弥子の声は変わっていた。

(高嶋哲夫『トルーマン・レター』)

(例8-30の再掲)

(8-50) エレベーターがゆっくり次の階へ向かう。間違えて、ボタンを幾つかまとめて押してしまったからだ。

(平井和正『ウルフガイ魔界天使』)

(8-51) 手順3の画面で、間違って停止ボタンを押してしまったときは、手順2の画面に戻ります。

(小寺信良『できるCD & DVD作成』)

例(8-48)の「押し間違える」は複数あるボタンのうち押すべきボタンを取り違えて押すことを表している。次の例(8-49)の「押し間違う」は正しいベルではなく誤ったベルを押したことを表している。次の例(8-50)の「間違えて押す」は誤ったエレベーターの階数ボタンを選択して押したことを表している。最後の例(8-51)の「間違っ

て押す」は(インターネットの)画面上の停止ボタンを押すつもりはないのに誤って押したことを表している。本稿で考察した4つの形式は、典型的にはこのような意味の異なりを示しながら、互いに重なり合っているのである。

次に「V1-誤る」と「誤ってV」の違いについて見る。「V1-誤る」は先に見たように、例(8-52)のように「正しく行すべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合と、例(8-53)のように「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す場合がある。

(8-52) しかし、この考え方は成果主義の「問題の本質」を見誤って（/\*誤って見て）います。

（加藤昌男『超・成果主義』）

(8-53) 誰がみても理解できるように、くせ字や誤字・脱字、書き誤った（/誤って書いた）ときの修正の仕方などに注意して、

（富田明裕/大崎広行『地域福祉・介護サービス Q&A』）

（例 5-2, 8-31 の再掲）

前者の場合は「誤ってV」に言い換えられないが、後者の場合は言い換えられる。前者の例 (8-52) のような「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の意味の場合、「見誤る」の「見る」は「見なす」という意味である。このようにV1の意味が希薄化したり別の意味になったりしている場合は、「誤ってV」には言い換えられない。後者の「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の場合も「V1-間違える」と「間違ってV」と同様に、「V1-誤る」は行動段階の失敗であるため、「書こうと思い、書いたにもかかわらず、正しいものと正しくないものを取り違えて、正しく書くことができなかった」という意味を表す。一方、「誤ってV」は意図段階での失敗であるため、「書こうと思った時点で正しいものと正しくないものを取り違えて、正しく書くことができなかった」という解釈になる。なお、例 (8-54) のように「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味でも、V1が「見る」のような「目に入る」という意味で「見よう」と思って行動していない場合は、「見るか見ないか」と意図する段階がないため、「誤って見る」ということができない。その場合、「誤って、見る」という例 (8-55) 「行為事態をすべきではなかった」という意味になる。このような場合は「V1-誤る」とは言い換えられない。また、表 8-12 の「誤ってV」と共起するVからも分かるように、「誤ってV」の場合、「削除する」や「落とす」「落ちる」などマイナスの語と共起し、「～すべきではなかった」という意味を表すことが多い。

(8-54) 塗ってあるバターをこれチーズ?と見誤る (/\*誤って見る) くらい、なぜか  
ハムよりぶ厚くベツトリと塗られていた日本のサンドイッチとはえらい違い。

(木ノ葉のこ『私を救ってくれた小っちゃな幸せパワー』)

(例 8-28 の再掲)

(8-55) Cavitar Welding Camera で使用されている溶接可視化用レーザー照明は 645nm  
(赤色) の可視光で、照射位置がわかりやすいだけでなく、作業者が誤って  
見ってしまう (/\*見誤る) ことを防ぐことができます。

(<https://www.nobby-tech.co.jp/welding/weldingcamera.html>)

2021 年 10 月 12 日閲覧

### 8.5.3 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の違い

8.5 節では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」が行為の過程のうちどの段階であるかについて考察した。その結果を、行為の過程の順に示すと表 8-14 のようになる。

表 8-14. 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」

が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1-間違える	V1-間違う	V1-違える	V1-違う	V1-誤る
③	正しく行うべきところを誤って別のことをした	才能を <u>読み間違える</u>	才能を <u>読み間違う</u>	才能を <u>読み違える</u>	才能を <u>読み違う</u>	才能を <u>読み誤る</u>
		—	女の子だと <u>見間違う</u>	—	女の子だと <u>見違う</u>	女の子だと <u>見誤る</u>
	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった	名前を <u>聞き間違える</u>	名前を <u>聞き間違う</u>	名前を <u>聞き違える</u>	(名前を <u>聞き違う</u> )	(名前を <u>聞き誤る</u> )

更に、同じ「正しく行うべきところを誤って別のことをした」や「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を持つ「間違えてV」「間

違ってV」「誤ってV」とも比較した。その結果、副詞的用法は「～しようと思う」という意図段階(①)での失敗であることを指摘した。また、「間違ってV」と「誤ってV」には「～するつもりでなかったのに誤ってVする」という意味や、「～すべきではなかった」という判断の失敗を表す場合がある。特に、「誤ってV」の場合、「削除する」や「落とす」「落ちる」などマイナスの語と共起し、「～すべきではなかった」という意味を表すことが多い。このような意味は「V1-間違う」「V1-誤る」には見られない。

### 8.6 日本語「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語“V-错”と“错-V”の対応

8.6節では日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語の“V-错”“错-V”の対応について考察する。これらの語は「正しく行うべきところを誤って別のことをした」あるいは「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す点で共通している。望月・申(2016)では「V1-誤る」「V1-間違える」を“-错”あるいは「～が正しい」という意味で“-对”と対応すると述べている。また、薛婧宇(2019)では「V1-間違える」と“V-错”および“错-V”を比較している。

中国語の“V-错”と“错-V”の違いについて考察したものに許(2020)がある。許(2020)は“V-错”と“错-V”の違いについて、“V-错”は例(8-56a)のように「花の種類」の間違いになるのに対し、“错-V”は例(8-56b)のように「別の商品」の間違いになると指摘している。

(8-56) a. 买错了花 (花(の種類)を買い間違えた)

b. 错买了花 ((他の物を買うべきだったのに) 間違って花を買った)

(許 2020:73 の例(4)(5))

これだけ見ると、“V-错”は「V1-間違える」と対応し、“错-V”は「間違えてV」と対応しているように見える。しかし、「間違えて買う」の場合は、花の種類を間違えたという意



味でも解釈できるし、他の物を買うべきところ花を買ったという意味でも解釈できる。そこで本研究では表 8-15 のように“V-錯”と“錯-V”が日本語の「V1-間違える」「間違えてVする」に対応することを指摘する。

表 8-15. 意味の違いから見た日本語と中国語の表現の違い

意味	日本語	中国語
買う花の種類を間違えた	花を買い間違えた 間違えて花を買った	我买错了花
他の物を買うべきところ花を買った	間違えて花を買った	我错买了花

以下、日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語の“V-錯”“錯-V”の違いを考察する。

### 8.6.1 共起する V1 の特徴

8.6.1 ではコーパスを利用して中国語の“V-錯”と“錯-V”がどのような動詞と共起するのを見る。日本語のコーパスは先と同じように BCCWJ を利用した。中国語のコーパスは BCC の“多領域”を選択し、検索欄に“v 错”“错 v”をそれぞれ入力して検索した。このようにして検索して出現したもののうち、“会错”（失敗する）や“有错”（ミスがある）など「V」が助動詞のものや名詞として使用されているものなどを省いた。その結果、それぞれの検索結果を合わせた「V」の出現数上位 20 位までを表 8-16、8-17 に示す。各表の割合（%）は述べ語数における出現率を表す。

表 8-16 . V-错

延べ語数：75,883 語  
異なり語数：885 語

	V	数	%
1	做	8,844	11.7
2	看	6,326	8.3
3	说	5,558	7.3
4	记	3,336	4.4
5	打	3,251	4.3
6	听	2,907	3.8
7	走	2,772	3.7
8	写	1,991	2.6
9	知	1,713	2.3
10	猜	1,491	2.0
11	找	1,294	1.7
12	想	1,242	1.6
13	吃	1,163	1.5
14	选	1,144	1.5
15	发	1,043	1.4
16	爱	800	1.1
17	算	763	1.0
18	坐	640	0.8
19	拿	603	0.8
20	出现	584	0.8

表 8-17. 错-V

延べ語数：15,767 語  
異なり語数：913 語

	V	数	%
1	看	723	4.6
2	判	495	3.1
3	认	435	2.8
4	杀	291	1.8
5	配	286	1.8
6	回复	285	1.8
7	吃	218	1.4
8	划	212	1.3
9	估	207	1.3
10	听	191	1.2
11	说	188	1.2
12	造成	167	1.1
13	站	165	1.0
14	上班	160	1.0
	追究		
16	喜欢	159	1.0
17	用	148	0.9
18	拉	140	0.9
19	排列	135	0.9
20	想	121	0.8

表 8-16 の“V-错”について見ると、上位には“做”（する）以外に、“看”（見る）“说”（話す）“听”（聞く）など言語活動に関係するものがきている。“V-错”は例（8-57）のように、日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」に対応し、「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表している。

(8-57) 最近一次数学考试他因看错一个数字而丢了分，在班里排名第11。

最近の数学のテストで彼は一つの数字を見 {間違えた/間違った/違えた/違えた/誤った} ため、点数を失い、クラスの11位になってしまった。

(人民日报)

一方、表8-17の“错-V”は“看”（見る）“说”（話す）“听”（聞く）と共に起して、「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味で使われる場合もあれば、“判”（判断する）や“杀”（殺す）のようにその行為をすること自体が誤りであったという「～すべきではなかった」という意味を表す場合もある。例(8-58)は前者の例、例(8-59)は後者の例である。日本語の場合、例(8-58)は複合動詞の用法と対応し、例(8-59)は副詞的用法と対応する。

(8-58) 不自觉的将瘦弱的妻子拥得更紧，以身覆住她大半的身子。是他错听了吗？竟然由远而近传来了铁链之声。

無意識に細い妻の身体を強く抱きしめ、身体で覆った。彼は聞き {間違えた/間違った/違えた/違った/誤った} (\*{間違えて/間違って/誤って} 聞いた) のか。鉄の鎖の音が遠くから近づいてきました。

(于晴『宿命』)

(8-59) 就算皇上错杀了你爹，他现在已经变了！

皇帝があなたのお父さんを {間違えて/間違って/誤って} 殺した (\*殺し {間違えた/間違った/違えた/違った/誤った}) としても、今彼は変わったの！

(琼瑶『还珠格格续集』)

また、“V-错”と“错-V”は例(8-60)のように“爱”（愛する）のような心理動詞や“嫁”（嫁ぐ）などとも共起する。その場合は「間違えてV」「間違ってV」や「誤ってV」のように副詞的用法と対応している。

(8-60) 有些人啊，先是爱错了人，爱错后又不懂得止损，然后嫁错人，嫁错人后还生了孩子…

ある人はねまず愛する人を間違えて、間違えて愛したあともまだ止まるべきことを理解せずに間違った人に嫁ぎ、嫁ぐことを間違えた後もまだ子どもを生んで…

(微博, BCC)

以上のように“V-錯”と“錯-V”は「V1-間違える」のような複合動詞用法や「間違えてV」のような副詞的用法との対応が見られる。そこで本節では8.5節で見た行為の過程における以下の2つの意味別に、中国語の“V-錯”“錯-V”との対応関係について見る。

1. 正しく行ふべきところを誤って別のことをした (8.6.2.1)
2. 正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった (8.6.2.2)

## 8.6.2 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と“V-錯”“錯-V”の位置づけ

### 8.6.2.1 「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」の意味の場合

8.5.1節でも述べたように、日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には、「(才能を)読み{間違える/間違う/違える/違う/誤る}」のように「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」という意味で使われる場合がある。それぞれ、「～しよう」と思ってから実際に行動に移したにもかかわらず、行為中に失敗したため、図8-6の③の行動段階での失敗を表す。

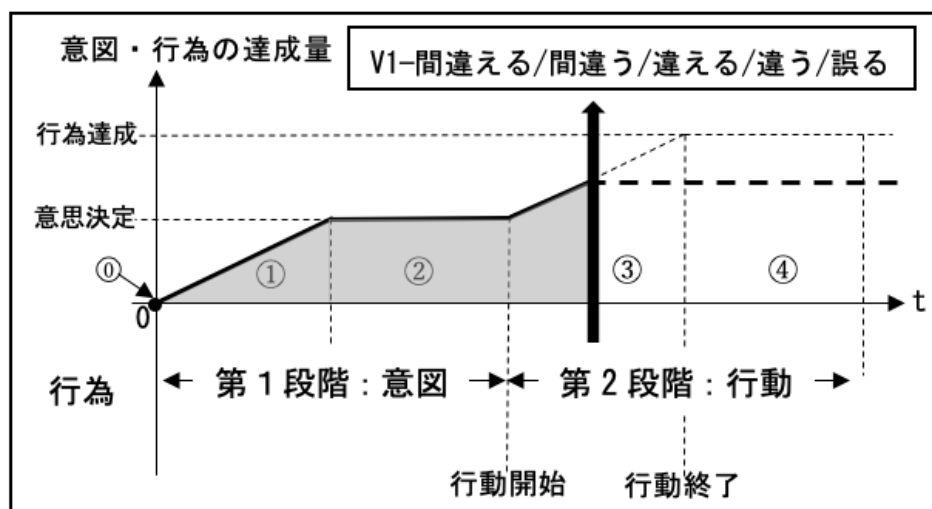


図 8-6. 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」

「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の位置づけ(図 8-1 の再掲)

一方、「正しく行うべきところを誤って別のことをした」という意味を表す場合、中国語では例(8-61)のように“V-错”と対応する。また、「見間違う」には「真跡だと見間違えた」のように「判断を間違えた」という意味を表す場合がある。この場合も例(8-62)のように“V-错”と対応する<sup>8</sup>。

(8-61) a. かえすがえすも山広は、時流と自分の才能を読み間違えた(/間違った/違えた/違った/誤った)としか言えない。

(鈴木智彦『親分』)

(例 8-11, 32, 43 の再掲)

b. 不得不说，山广曾多次对时代的潮流和自己的能力判断错(/\*错判断)过。

<sup>8</sup> なお、例(8-62)は“错看”とは言い換えられないが、“错误判断为～”のように「間違えて～と判断した」という“错-V”の言い方も見られる。この場合、日本語も「間違って判断した」のように言い換えられる点で共通している。

- (8-62) a. 一見、真跡かと見間違う（/\*見間違える）ほどの精巧な模本で、奈良時代に我が国に伝来したと考えられています。

（栗原蘆水ほか『書道Ⅲ』）

（例 8-8, 9, 12, 15 の再掲）

- b. 这本乍一看甚至会被看错（/\*错看）是真迹的临摹帖子非常精美，据说是奈良时期传到我国的。

#### 8.6.2.2 「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の意味の場合

8.5.2 節でも述べたように、日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には、「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を表す場合がある。この用法は「正しく行ふべきところを誤って別のことをした」と同様に、行為中の失敗であるため、図 8-6 の③での失敗を表す。

一方、この意味を表す場合、中国語では例 (8-63) のように“把～V 错～”や例 (8-64) のように“V-错”を使い、“错-V”は使わない。

- (8-63) a. ご存知のとおり、ドン・キホーテが風車を巨人と見間違えた（/見間違った/見違えた/\*見違った/見誤った）のだ。

（木村浩嗣『情熱のアンダルシアを旅するスペイン』）

（例 8-10, 13 の再掲）

- b. 正如您所知，堂吉诃德把风车看错（/\*错看）成了巨人。

- (8-64) a. アクセントを言い違えれば意味はまったく通じなくなってしまう。

（実作者不明『辞書にない「ことばと漢字」3000』）

（例 8-26 の再掲）

- b. 如果说错（/\*错说）了音调，意思就会完全不一样。

また、複合動詞「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」はそれぞれ副詞的用法の「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」に言い換えられることがあるため、両者の違いについても考察した。「V1-間違える」のような複合動詞の場合は例(8-65a)のように書いている最中に書こうと思っていた名前とは別の名前を書いたという失敗を表す。そのため、図8-7に示すように「書く」という行為が行われている最中(③)の失敗を表す。一方、「間違えてV」のような副詞的用法の場合は例(8-65a)の「名前を間違えて書く」以外に、例(8-65b)のような書く方法や、例(8-65c)のような書く場所や、例(8-65d)のような書く場所という行為自体をすべきではなかったという失敗を表すこともできる。そのため、複合動詞用法は図8-7の③行動段階の失敗であるのに対し、副詞的用法は図8-8の②意図段階の失敗を表す。

- (8-65) a. 名前を間違えて書いて (/書き間違えて) しまった。
- b. ペンで名前を間違えて書いて (/書き間違えて) しまった。
- c. 住所を書くべきところに名前を間違えて書いて (/書き間違えて) しまった。
- d. 名前を書くべきではなかったのに間違えて書いて (/書き間違えて) しまった。

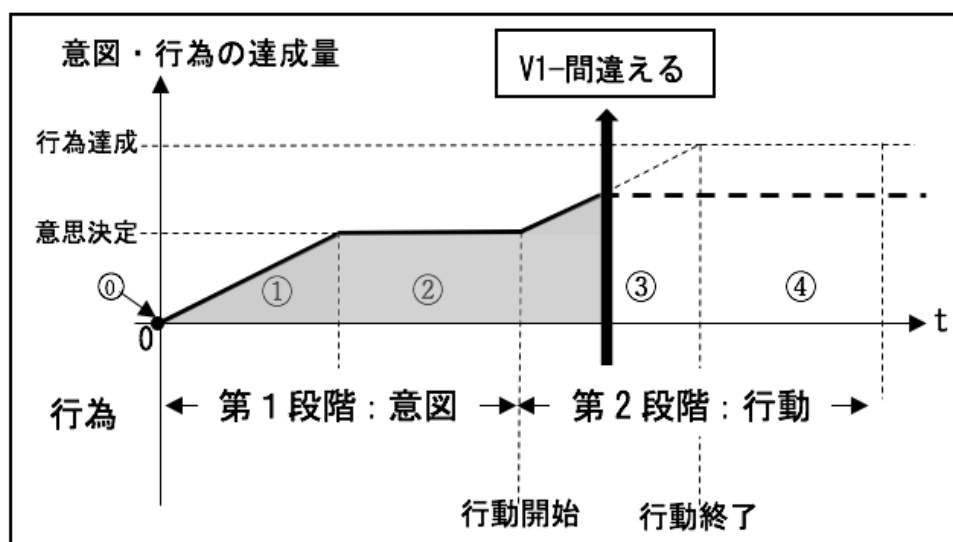


表 8-7. 行為の過程における「V1-間違える」の位置づけ

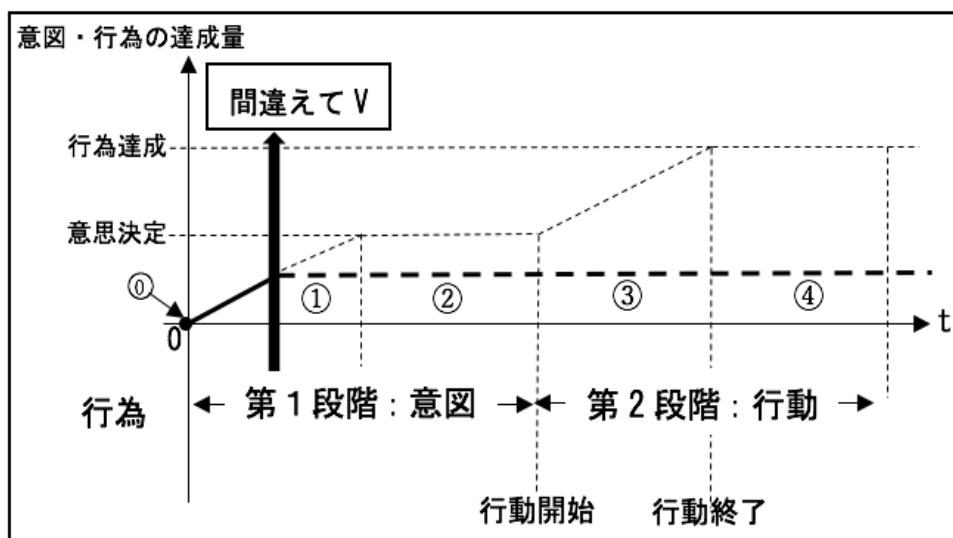


表 8-8. 行為の過程における「間違えて V する」の位置づけ

一方、例 (8-65) の日本語は中国語では例 (8-66) のように対応する。

(8-66) a. 我写错了名字。(対象の誤り)

[名前を間違えて書いて (/書き間違えて) しまった。]

b. 我写名字用错了笔。 / 我错用圆珠笔写了名字。

[ペンで名前を間違えて書いて (/ \*書き間違えて) しまった。]

c. 我把名字写错了地方。 / 我在住址栏错写了名字。

[住所を書くべきところに名前を間違えて書いて (/ \*書き間違えて) しまった]

d. 我错写了名字。(行為の有無に対する判断の誤り)

[名前を書くべきではなかったのに間違えて書いて (/ \*書き間違えて) しまった]

例 (8-66a) は名前を書いたことは書いたけれど、字を間違えたり他人の名前を書いたりするなど、書くべき対象 (この場合は「名前」) を間違えたという意味である。この場合、日本語では「V1-間違える」と「間違えて V」の両方の言い方ができるが、中国語では“V-错”の言い方しかできない。これに対し、例 (8-66b) は字自体の間違いではなく、書きた



めの筆記用具を間違えたという意味である。この場合、日本語では「V1-間違える」とは言えず「間違ってV」の言い方になる。中国語では別の動詞“用”（使う）ではあるが、“V-错”と“错-V”の両方の言い方ができる。また、例（8-66c）は字を書く場所を間違えたという意味である。この場合、例（8-66b）と同様に日本語では「V1-間違える」とは言えず、「間違ってV」の言い方になり、中国語では“V-错”と“错-V”の両方の言い方ができる。例（8-66d）は「書くべきではなかった」という行為の有無に対する判断を間違えたという意味である。この場合、日本語では「V1-間違える」とは言えず、「間違えてV」の言い方になるが、中国語では“V-错”と“错-V”の両方の言い方ができる。以上の日本語と中国語の表現の違いを表8-18に示す。日本語は行為の過程のどの段階の失敗なのかで表現が変わるが、中国語の場合は対象の失敗は“V-错”、行為をすべきではなかったという行為の有無に対する失敗は“错-V”という傾向はあるものの、日本語ほどしつかり分類できない<sup>9</sup>。

表8-18. 行為の過程における「V1-間違える」「間違えてV」と“V-错”“错-V”の示す範囲

実際の行為 言語	Vすると決める	Vする方法／場所／対象などを決める (行為のための準備)	Vした対象物
日本語	意図段階： 間違えてV		行為段階 V1-間違える
中国語	意図段階 “错-V”	行動段階 “V-错”	

### 8.6.3 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と“V-错”“错-V”

8.6節では行為の過程の段階ごとに、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」がどのように表現されるかについて、日本語と中国語を比較した。その結果を表8-19に示す。

<sup>9</sup> 今回は日本語の「V1-間違える」と「間違えてV」の意味の観点から見た中国語の“V-错”と“错-V”の違いについてのみ述べた。中国語の“V-错”“错-V”の違いについては今後の課題としたい。

表 8-19. 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と

## 中国語の表現

行為の過程	意味	V1-間違える	V1-間違う	V1-違える	V1-違う	V1-誤る	中国語表現
③	正しく行くべきところを誤って別のことをした	才能を <u>読み間違える</u>	才能を <u>読み間違う</u>	才能を <u>読み違える</u>	才能を <u>読み違う</u>	才能を <u>読み誤る</u>	“V-错” 判断错
		—	女の子だと <u>見間違う</u>	—	女の子だと <u>見違う</u>	女の子だと <u>見誤る</u>	“V-错” 看错
	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった	名前を <u>聞き間違える</u>	名前を <u>聞き間違う</u>	名前を <u>聞き違える</u>	(名前を <u>聞き違う</u> )	(名前を <u>聞き誤る</u> )	“V-错” 听错

日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語の“V-错”“错-V”の共通点と相違点は以下の通りである。

共通点：③「正しく行くべきところを誤って別のことをした」

“V-错”と対応

③「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」

“V-错”と対応

相違点：「～すべきだった」

日本語は副詞的用法「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」

中国語は“V-错”“错-V”

## 8.7 本章のまとめ

第8章では日本語の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」について考察した。まず、本動詞との関係を踏まえて「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」には「正しく行くべきところを誤って別のことをした」と

「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味を持つことを指摘した。

次に、共起する V1 の特徴を BCCWJ の出現数から比較した。その結果、「見る」「聞く」「読む」「言う」といった言語活動に関する動詞との共起が見られることを指摘した。

更に BCCWJ の結果をもとに、「正しく行うべきところを誤って別のことをした」と「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」の2つの意味がそれぞれ行為の過程のうち、どの段階での失敗であるかについて考察した。その結果、図 8-9 に示すように、「正しく行うべきところを誤って別のことをした」および「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」が③の行動段階での失敗であることを指摘した。

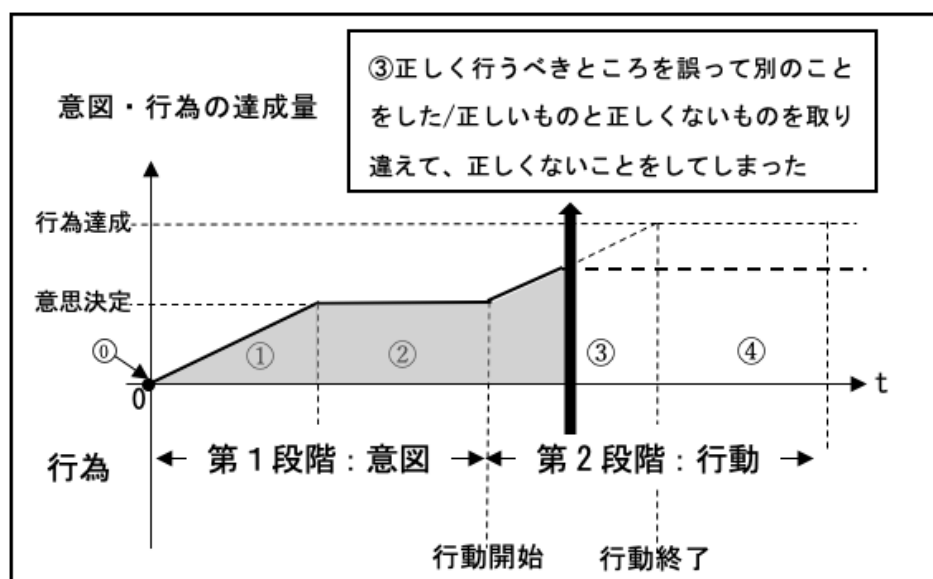


図 8-9. 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」

「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の位置づけ

また、副詞的用法「間違ってV」「間違えてV」「誤ってV」は図 8-10 に示すように①の意図段階の失敗であることから、複合動詞用法より表現できる範囲が広く、「～すべきではなかった」という判断の失敗を表すことができる点で異なることを指摘した。

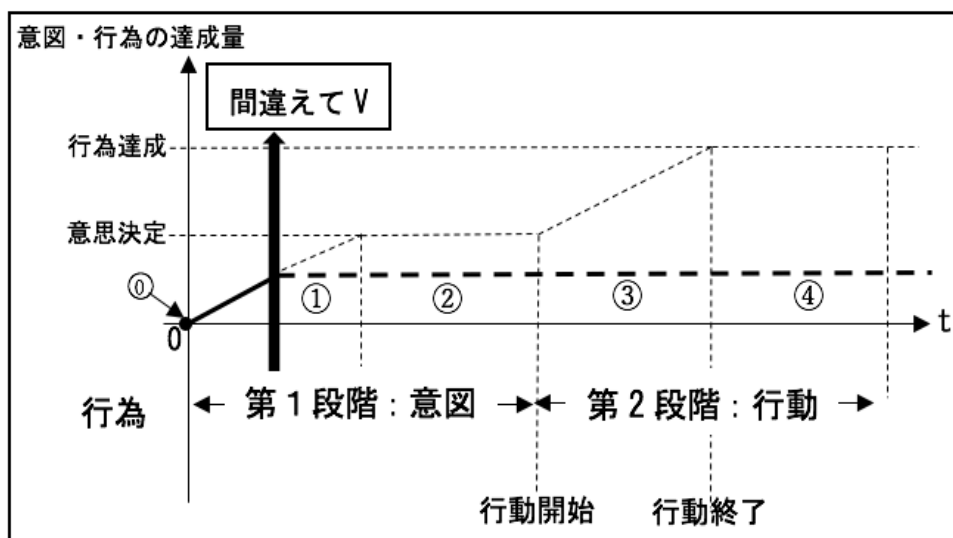


表 8-10. 行為の過程における「間違えてVする」の位置づけ (表 8-8 の再掲)

最後に、図 8-9 に示す行為の過程における 2 つの意味別に、中国語の“V-錯” “錯-V” とどのように対応するかを考察した。その結果を表 8-20 に示す。

表 8-20. 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-達える」「V1-達う」「V1-誤る」と中国語の表現 (表 8-19 の再掲)

行為の過程	意味	V1-間違える	V1-間違う	V1-達える	V1-達う	V1-誤る	中国語表現
③	正しく行おうべきところを誤って別のことをした	才能を <u>読み間違える</u>	才能を <u>読み間違う</u>	才能を <u>読み達える</u>	才能を <u>読み達う</u>	才能を <u>読み誤る</u>	“V-錯” 判断错
		—	女の子だと <u>見間違う</u>	—	女の子だと? <u>見達う</u>	女の子だと <u>見誤る</u>	“V-錯” 看错
	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった	名前を <u>聞き間違える</u>	名前を <u>聞き間違う</u>	名前を <u>聞き達える</u>	(名前を <u>聞き達う</u> )	(名前を <u>聞き誤る</u> )	“V-錯” 听错

## 第9章 結論

### 9.1 失敗を表す日本語の複合動詞

本稿の最後にこれまでの考察を整理し、残された課題について考える。本研究では失敗を表す複合動詞「V1-忘れる」「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」「V1-逃す」「V1-そびれる」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」について、①本動詞との対応、②共起するV1の特徴、③行為の過程の3つの観点からそれぞれの語の特徴について考察した。その結果を次に述べる。

#### 9.1.1 本動詞との対応

まず、①本動詞との対応についてまとめておく。本稿では失敗を表す複合動詞「V1-V2」と、そのV2に当たる本動詞との意味の対応について見た。その結果、本動詞の意味が引き継がれているものもあれば、複合動詞になったことで新たな意味を表すものもあることを指摘した。この対応について、「V1-忘れる」は表9-1、「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」は表9-2、「V1-逃す」「V1-そびれる」は表9-3、「V1-落とす」「V1-漏らす」は表9-4、「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」は表9-5に示す。

表 9-1. 本動詞「忘れる」と複合動詞「V1-忘れる」の意味

辞書における本動詞「忘れる」の意味		本研究における複合動詞「V1-忘れる」の意味
『基礎日本語辞典』	『明鏡国語辞典』	
① “思い出せない” “覚えていない” “記憶から抜ける” (例) 子供のころのことはすっかり <u>忘れて</u> しまった。	①前に覚えていたことが思い出せなくなる。記憶がなくなる。 (例) 電話番号を <u>忘れる</u> 。	①～したのを覚えていない (例) 彼の顔を見 <u>忘れる</u>
②うっかりして気が付かない。 (=失念する) (例) 途中で手紙を出すのを <u>忘れて</u> いた。  時の経つのも <u>忘れて</u> 話し込む。	②うっかりしてしなくてはならないことをしないでいる。し忘れる。 (例) 宿題を <u>忘れる</u> 。 礼状を <u>出し忘れる</u> 。	②～することを失念する (例) 友達と写真を <u>撮り忘れる</u>
④うっかりしてそのまま置いてくる (=置き忘れる) (例) 教室に傘を <u>忘れた</u> 。	④他のことに気をとられてしばらくそのことを意識しなくなる。 (例) 楽しさに時の経つのも <u>忘れる</u> 。	— (例) *時が <u>経ち忘れて</u> 話し込む。
④うっかりしてそのまま置いてくる (=置き忘れる) (例) 教室に傘を <u>忘れた</u> 。	④うっかりして物を置いたままにする。 (例) 電車の中に傘を <u>忘れる</u> 。	④～したことを失念する (例) 家に携帯を <u>置き忘れる</u>
⑤必要ないとして意識から除外する。(比喩的用法) (例) <u>忘れた</u> ように痛みが取れる。	—	—
—	⑥意識して思い出さないようにする。 (例) 酒を飲んで憂さを <u>忘れる</u> 。	—
—	⑦しなくてはならないことをおろそかにする。 (例) 恩(感謝の心)を <u>忘れる</u> 。	—
—	—	⑧～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった (例) <u>死に忘れて</u> 今まで生きてしまった(特殊な例)

表9-2. 複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の

辞書的意味と本研究での意味

『明鏡国語辞典』				『基礎日本語辞典』	本研究における意味
損なう	損ねる	損ずる	複合動詞	複合動詞	
①傷つけてだめにする (例) 過って器物を <u>損なう</u>	—	①ものが傷つき壊れる (例) 湿気のために器物が <u>損ずる</u>	①～することに失敗する。また、間違えて…する。… <u>損ねる</u> (例) 字を <u>書き損ねる</u>	上手にできない。	①～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった(例) 字を <u>書き損ねる</u> 相手への評価が想定と異なる(例) 彼を <u>見損なった</u>
②健康や気分を悪くする (例) 過労で健康を <u>損なう</u>	ややだけた言い方	②物事の状態などが悪くなる。また、物事の状態などを悪くする (例) 先方の機嫌を <u>損ずる</u>	—	—	—
③本来的に備わった美質や機能などを傷つけてだめにする (例) 高層建築物が街の美観を <u>損なう</u>	ややだけた言い方	—	—	—	—
—	—	—	②～する機会を逃す。 (例) <u>食べ損なう</u>	できるはずのところ、何かの原因によって遂行に失敗する。 (例) 夜のテレビ映画を <u>見損なった</u> 。	②～しようしたが、タイミングを逃してできなかった(例) ボールを <u>打ち損ねた</u>
—	—	—	③～するはずのところをしないでしまう。危うく～しそうになる。 (例) <u>溺れ損なう</u>	—	③あやうく～するところだった(例) <u>死に損なった</u>

表 9-3. 辞書における本動詞および複合動詞の意味と

## 本研究における「V1-逃す」「V1-そびれる」の意味

『明鏡国語辞典』				本研究における意味
V1-逃す		V1-そびれる		
本動詞	複合動詞	本動詞	複合動詞	
捕らえようとしたものをつかまえそこなう、逸する (例) 大魚(好機)を <u>逃す</u>	～しないで しまう、～ そこなう (例) <u>見逃す</u> ・ <u>聞き逃す</u> ・ <u>買い逃す</u>	—	～する機会をのがす、～そこなう(例) 返事を <u>出しそびれる</u>	①「必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」 (例) テレビ番組を <u>見逃す</u> 「～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」 (例) テレビ番組を <u>見そびれる</u> ②「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった」 (例) 合図を <u>見逃す</u>
—	—	—	—	③「気づいていながら見ないふりをする」(例) 犯罪を <u>見逃す</u> 。

表 9-4. 辞書における本動詞および複合動詞の意味と

## 本研究における「V1-落とす」「V1-漏らす」の意味

『明鏡国語辞典』				本研究における意味
V1-落とす		V1-漏らす		
本動詞	複合動詞	本動詞	複合動詞	
⑥含まれているべきものをもらす。ぬかす。また、故意に除外する。 (例) 入力ミスで仮名を一字 <u>落とす</u> 。	⑥含まれているべきものをもらす。ぬかす。また、故意に除外する。 (例) <u>見落とす</u>	⑤必要な事柄をぬかす。落とす。  (例) 名簿から新入会員の名を <u>漏らす</u> 。	うっかりして必要なことをしないでしまう。  (例) <u>言い漏らす</u> 、 <u>書き漏らす</u> 、 <u>聞き漏らす</u>	①必要な事柄の一部を～することができなかった (例) 字を <u>書き落とす</u> / <u>書き漏らす</u> 。  ②あと少しで～することができなかった (例) 大将を <u>討ち漏らす</u> 。



表9-5. 本動詞「間違える」「間違う」「違える」「違う」「誤る」

の辞書的意味と本研究での意味

『明鏡国語辞典』					本研究での意味
間違える	間違う	違える	違う	誤る	
①方法や手順などを誤って正しくないことをしてしまう。しくじる。失敗する。 (例) お釣りを <u>間違えて</u> 渡してしまった。	[他]①「間違える」の新しい言い方。 (例) こんな優しい問題を <u>間違う</u> はずがありません。 [自]①正しくない状態にある。 (例) 君はやり方が <u>間違っている</u> 。	間違える。誤る。 (例) 時間を <u>違えて</u> 遅刻してしまう。	③基準とするものと異なる。特に、正しいものと一致しない。 (例) 答えが <u>違っている</u> 。	[他]①判断ややり方を間違う。また、人生でなすべきことや進むべき方向を間違う。やりそこなう。失敗する。過つ。 (例) 判断を <u>誤る</u> 。 [自]①物事が本来あるべきものと食い違っている。間違っている。正しくない。 (例) 君の判断は <u>誤っている</u> 。	正しく行くべきところを誤って別のことをした (例) 才能を <u>読み</u> { <u>間違える</u> / <u>間違う</u> / <u>違える</u> / <u>誤る</u> }
②正しいものとそうでないものを取り違える。 (例) 花子が道を <u>間違えた</u> 。	(例) 花子が道を <u>間違う</u> 。	①違ったようにする。同じにならないようにする。 (例) これまでと方法を <u>違える</u> 。	①二つのものの間に差違が認められる。同じではない。 (例) 兄は弟とは性格が <u>違う</u> 。	—	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった (例) 名前を <u>聞き</u> { <u>間違える</u> / <u>間違う</u> / <u>違える</u> / <u>？違う</u> / <u>？誤る</u> }
—	②たとえどんなことがあっても。決して。 (例) <u>間違っても</u> 振り返ってはいけない。	—	—	—	— <sup>1</sup>
—	—	③契約などをたがえる。～にそむく。 (例) 約束を <u>違える</u> 。	—	—	—

<sup>1</sup> 失敗を表す表現ではないため、「双方から互いに…する意を表す」「交差する意を表す」「ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める」を表すものは本研究では対象外とする。

—	—	④ねじるなどして、筋・筋肉などを痛める。 (例) 首の筋を <u>違える</u> 。	⑤骨・筋肉・精神状態などが正常の状態からずれる。 (例) 足の関節が <u>違って</u> 痛い。	—	—
—	—	—	②上下、優劣などの点で大いに差違が認められる。 (例) 格が <u>違う</u> 。	—	—
—	—	—	④自分の意見を(遠慮がちに)提示する。…ではないか。 (例) ああいう訊き方はま <u>ず</u> かったのと <u>違</u> いますか?	—	—
—	—	—	—	[他] ②人を間違った方向に導く。道を誤らせる。過つ。 (例) 君の考え方は人を <u>誤</u> る恐れがある。	—

### 9.1.2 共起する動詞の特徴

次に②共起する動詞の特徴についてまとめておく。それぞれの複合動詞が共起しやすい動詞の傾向を表9-6に示す。全体的に「見る」「聞く」「書く」「言う」といった言語活動に関する語との共起が見られたが、「V1-損じ(ず)る」「V1-落とす」「V1-漏らす」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」などは使用に偏りが見られた。

表 9-6. 共起する動詞の特徴

複合動詞	共起する動詞の特徴
V1-忘れる	「言う」「撮る」「書く」といった動作動詞
V1-損なう	「見る」「食べる」といった他動詞
V1-損ねる	「乗る」、「行く」、「曲がる」、「勝つ」など自動詞
V1-損じ(ず)る	主に「書く」「する(仕) <sup>2</sup> 」
V1-逃す	「見る」が最も多い。その他、「聞く」「売る」「取る」「買う」「撮る」といった情報や物を手に入れる意味をもつ動作動詞
V1-そびれる	「言う」「聞く」「買う」といった情報や物を手に入れる意味をもつ動作動詞 「寝る」や「帰る」など自動詞の中でも人の意志的な変化を表す動詞
V1-落とす	主に「見る」、他に「聞く」「書く」「言う」といった言語活動に関する動詞
V1-漏らす	主に「聞く」、他に「聞く」「書く」「言う」といった言語活動に関する動詞
V1-間違える	「見る」「聞く」「読む」「言う」といった言語活動に関する語
V1-間違う	主に「見る」「まかる」(「聞く」)
V1-違える	主に「見る」「とる」
V1-違う	主に「ずれる」「喰う」
V1-誤る	主に「見る」

### 9.1.3 行為の過程における位置づけ

最後に③行為の過程における位置づけについてまとめておく。先行研究では失敗を表す複合動詞が、行為のどの段階での失敗であるかという点についてはほとんど考察されていなかった。この点について本研究では新たな提言を示すことができた。本研究は何も行為が始まっていない時点を①とし、そこから行為をしようと思い(①)、その気持ちを保持し(②)、実際の行動に移し(③)、行為の結果が保持される(④)という4つに分け、①②を意図段階、③④を行動段階とした。この行為の過程のうち、対象語がそれぞれどの段階の

<sup>2</sup> 「仕損じる」を指す。

失敗を表すことができるかという観点から違いについて考察した。その結果、以下のことを明らかにした。

まず、第4章の「V1-忘れる」の場合を図9-1に示す。このうち「言い忘れる」のような「～することを失念する」という意味の場合は、V1の行為をしようと思っていたものの、実行するのを失念したことを表すため②の段階の失敗である。一方、「置き忘れる」のような「～して、それを失念する」という意味の場合は、行為が行われた後にその行為をしたことを失念し、対象を放置したままにすることを表すため④の段階での失敗である。同様に「見忘れる」のような「～したのを覚えていない」という意味の場合も、見たことに対して覚えていないということを表すため④の段階での失敗である。なお、数は少ないものの「死に忘れた」のような「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という①段階の失敗のあることも指摘した。

また、本研究では複合動詞形式の「V1-忘れる」と補文形式の「V {の/こと} を忘れる」を比較し、「V {の/こと} を忘れる」は「V1-忘れる」と同じ②と④の段階の失敗を表す以外にも、「悲しむのを忘れる」のような「～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった」という①段階での失敗と「時間が経つのを忘れる」のような「～していることに気づかない」という③段階での失敗を表すことができることを指摘した。

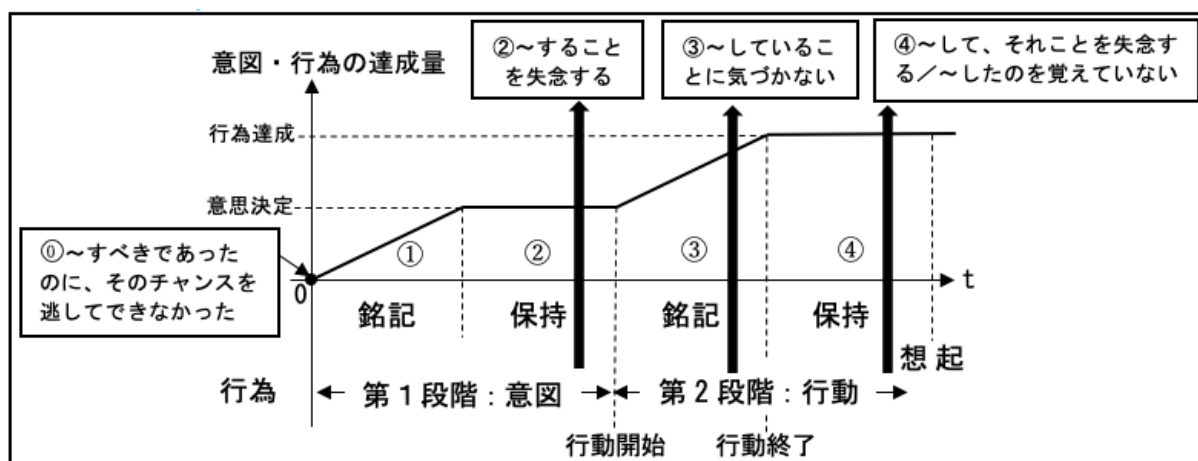


図9-1. 行為の過程における「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」の位置づけ (図4-13の再掲)

次に第5章の「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の場合を図9-2に示す。このうち、「電車に乗り損なう/損ねる」「ボールを打ち損じ(ず)る」のような「~しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味の場合は、行為をするための準備をしたにもかかわらず行動に移すことができなかったということを表すため、③'の準行動段階での失敗である。また、「字を書き損なう/損ねる」「はがきを書き損じ(ず)る」のような「~したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味の場合は、字を書こうと思い、実際に行動に移したものの、書く最中にその対象を間違えたことを表すため、③段階の失敗である。一方、「彼を見損なう」のような「相手への評価が想定より低い」という意味を表す場合も同様に、行為をしている最中にその対象が想定より低いと判断するという意味を表すため、③段階の失敗を表す。また、「死に損なう/損ねる」のような「危うく~するところだった」という意味の場合は、V1の行為をしようとする意志がないことに対する失敗を表すため、①の段階の失敗であることを指摘した。

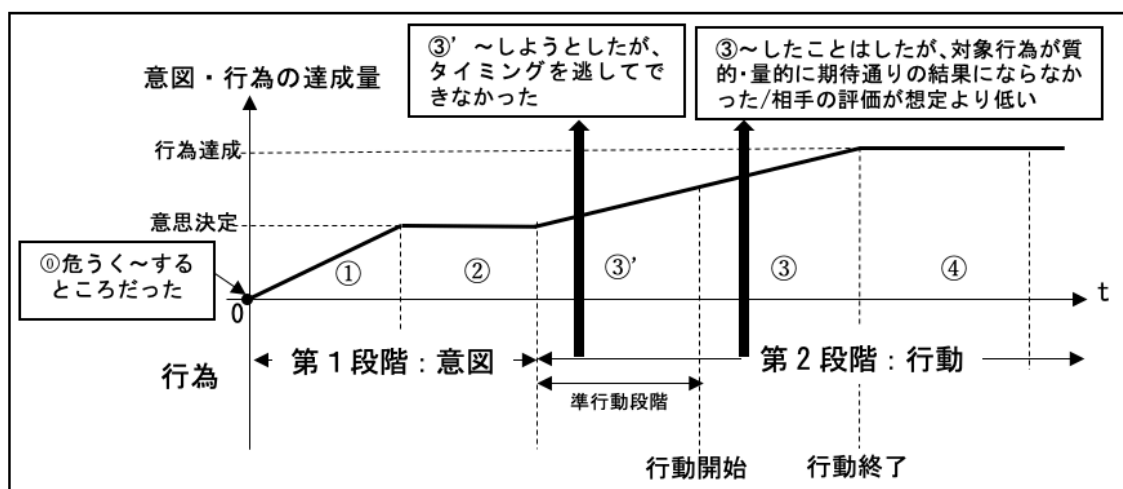


図9-2. 行為の過程における「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」の位置づけ (図5-10の再掲)

次に第6章「V1-逃す」「V1-そびれる」の場合を図9-3に示す。まず、「V1-逃す」について、「テレビ番組を見逃す」のような「必ず~しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった」という意味の場合は、V1の行為をしようと思ったにもかかわらず、タイミングを逸したためV1の行為ができなかったという意味を表すため②の段階での失敗

である。また、「合図を見逃す」のような「～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミング逸したためできなかった」という意味の場合は、V1の行為をしたにもかかわらず、対象を最後まで捕らえることができなかったという意味を表すため、③の段階の失敗である。また、「犯罪を見逃す」のような「気づいていながら見ないふりをする」という意味を表す場合も同様に、V1の行為を行なっているにもかかわらず、その行為がなかったことにするという意味を表すため、③の段階の失敗を表す。

一方、「V1-そびれる」は「テレビを見そびれる」のような「～しようと思っていたが、外的要因によりタイミングを逸したためできなかった」という意味の場合、V1の行為をしようと思っていたにもかかわらず、行為に移らず、V1するための準備も特に行なっていないことに対して使用できることから、準備段階にあたる②'段階での失敗であることを指摘した。

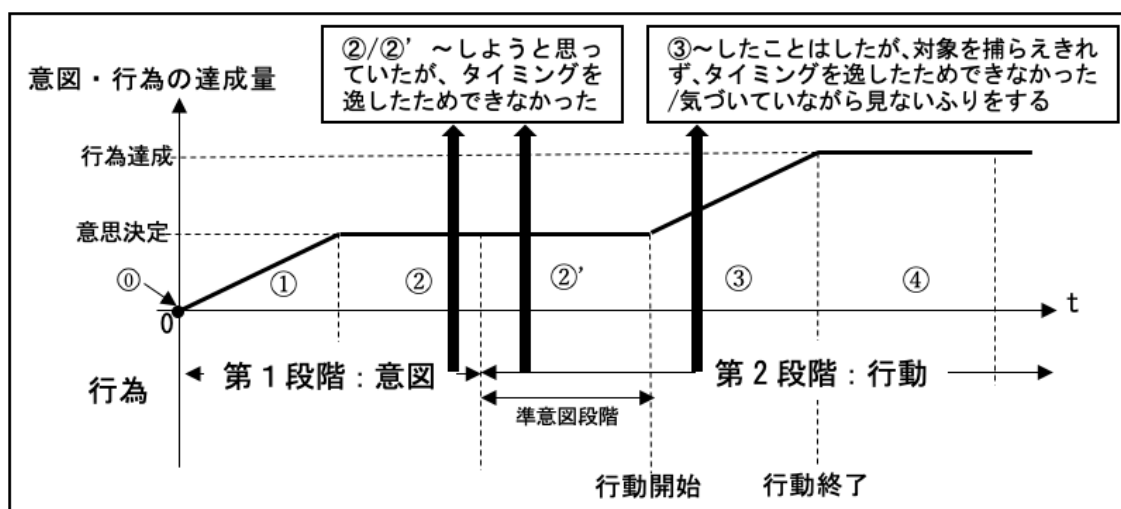


図9-3. 行為の過程における「V1-逃す」「V1-そびれる」の位置づけ(図6-12の再掲)

次に第7章の「V1-落とす」と「V1-漏らす」の場合を図9-4に示す。このうち、「字を書き落とす」や「字を書き漏らす」のような「必要な事柄の一部を～することができなかった」という意味を表す場合は、V1の行為を行なったものの、行なっている最中に事柄の一部ができなかったことを表すため、③の段階での失敗である。これに対し、「V1-漏らす」は「大将を討ち漏らす」のような「あと少しで～することができなかった」という意味を表す場合、

V1 の行為は行なったものの、あと少しのところまで最後までできなかったことをため、③段階での失敗も表すことができることを指摘した。

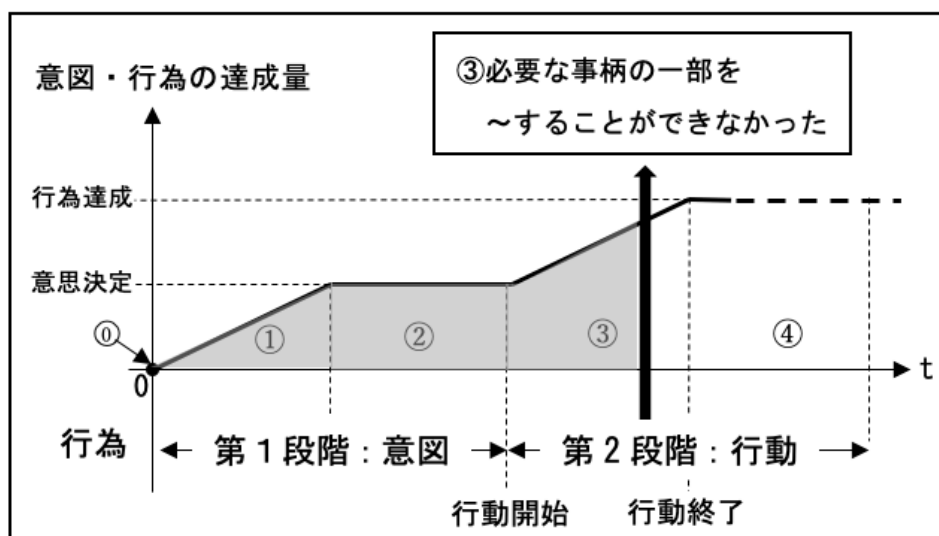


図9-4. 行為の過程における「V1-落とす」「V1-漏らす」の位置づけ(図7-5の再掲)

最後に第8章の「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の場合を図9-5に示す。このうち、「才能を読み {間違える/間違う/違える/違う/誤る}」のような「正しく行すべきところを誤って別のことをした」という意味の場合は、V1の行為をしたにもかかわらず正しく行うことができず、誤って別のことをしたという意味を表すため、③の段階の失敗である。また、「名前を書き {間違える/間違う/?違える/?違う/誤る}」のような「正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった」という意味の場合も、V1の行為をしたものの、正しいものと正しくないものを取り違えたという失敗を表すため、③の段階の失敗を表すことを指摘した。

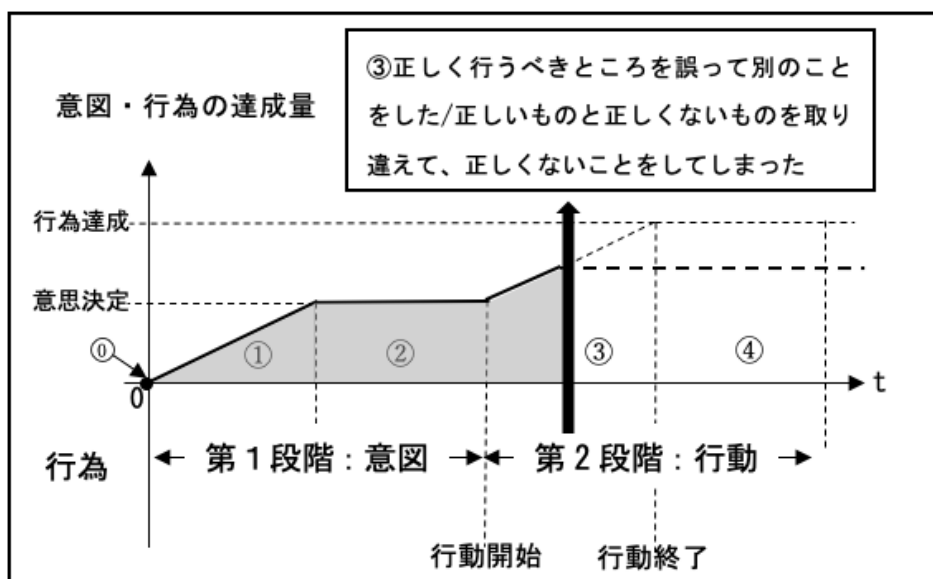


図 9-5. 行為の過程における「V1-間違える」「V1-間違う」

「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」の位置づけ (図 8-9 の再掲)

更に「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-誤る」は「間違えてV」「間違ってV」「誤ってV」のような副詞的用法に言い換えられることから、その違いについても考察した。その結果、複合動詞用法は図 9-5 に示すように③段階での失敗であるのに対し、副詞的用法は図 9-6 に示すように①意図段階の失敗であることを指摘した。

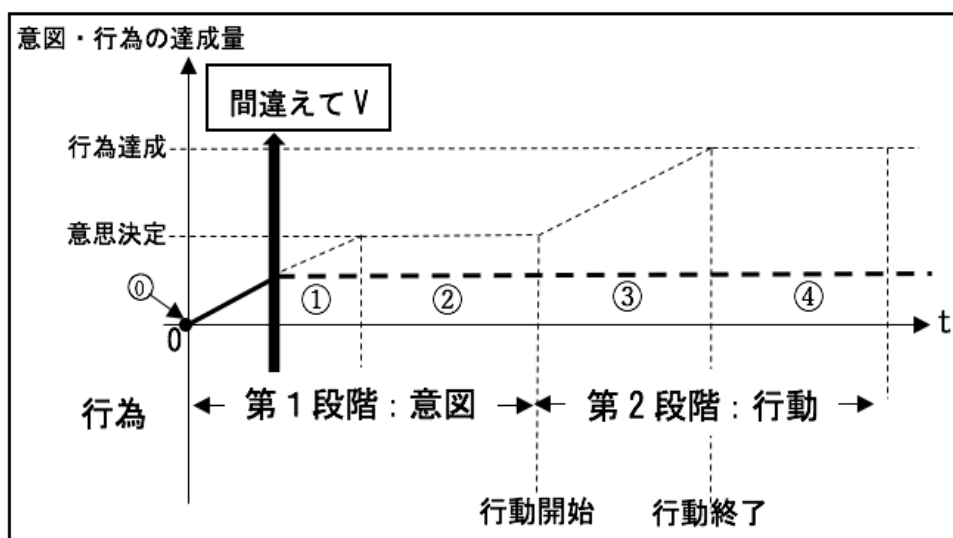


図 9-6. 行為の過程における「間違えてVする」の位置づけ (表 8-8, 8-10 の再掲)



以上の行為の過程から見る失敗を表す複合動詞の違いをまとめると図9-7のようになる。

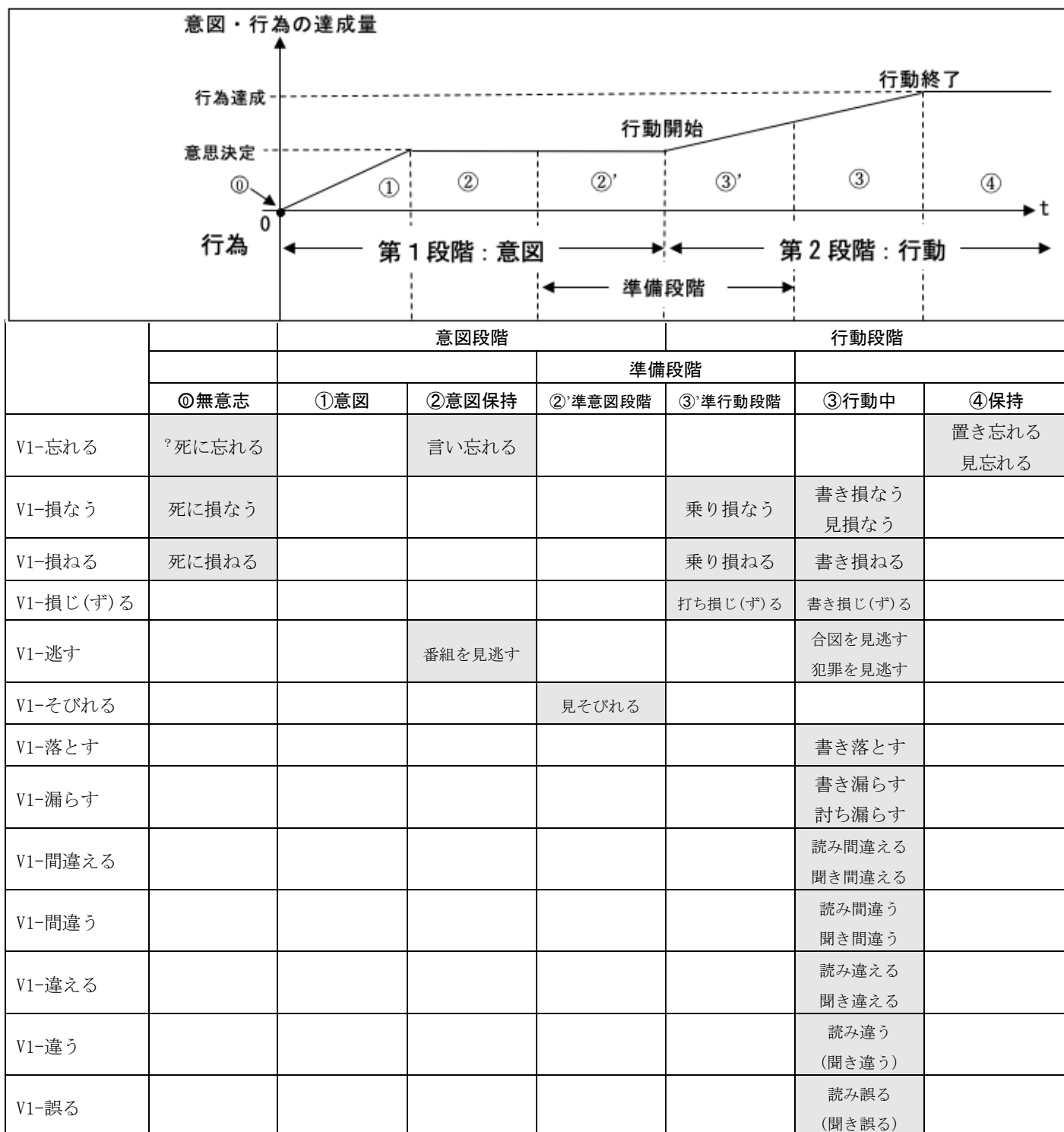


図9-7. 行為の過程から見る日本語の失敗を表す複合動詞 (図1-1, 3-6の再掲)

## 9.2 日本語と中国語の対照について

また、第4章～第8章の各7節では、どのような中国語表現に対応するかについて考察した。中国語と対照することにより、行為の過程において行為をしようと思ひ、実際の行為に移るまでに、行為をするための準備の段階があるということが明らかとなった。つまり、宮島(1989)は「千里の馬を買う」の場合、「千里馬のいる場所を探す→持ち主がわかる→持ち主のところへいく」といった行為は「買う」で表すことができないのに対し、中国語では“买”で表現できることから、中国語の動詞が示す動作の範囲は日本語より広いと述べている。これを踏まえ、本研究では「千里馬のいる場所を探す→持ち主がわかる→持ち主のところへいく」という段階を意図段階と行動段階の間の準備段階と捉え、日本語は意図段階の一部であるのに対し、中国語では行動段階の一部であることを主張し、図9-8を提示した。

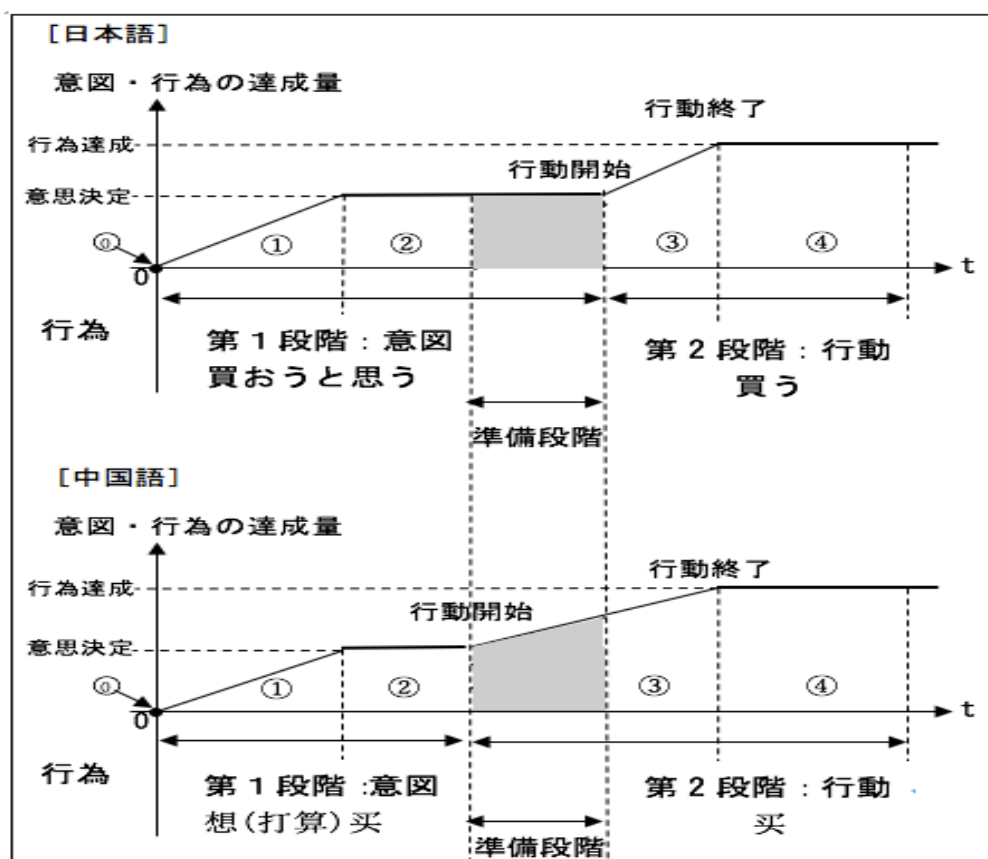


図9-8. 日本語の「買う」と中国語の“买”の表す範囲

日本語の「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-忘れる」は、「～しよう」と思っているがまだ実際の行為を行っていないという②意図段階での失敗を表すのに対し、中国語では③の行動段階での失敗とみなされるという違いがある。日本語では意図段階の失敗を表すのに「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-忘れる」を使い、行動段階の失敗を表すのに「V1-間違える」「V1-誤る」「V1-落とす」などを使う。一方、中国語ではどちらも行動段階として捉えられ、“没能-V1”や“没-V1-成”などの失敗を表す表現を使用する。そのため、辞書では「V1-そびれる」などは“没能-V1”や“没-V1-成”と訳されている。しかし、例(9-1a)は意図段階の失敗しか表せないが、(9-1b)は意図段階だけではなく行動段階での失敗も表せるため、意味にずれが生じている。

(9-1) a. 期間限定のアイスを買ひ {そびれ/損なっ/逃し/忘れ} た。

b. 我 {买不到/不能买} 限时特价的冰激淋。

(私は期間限定のアイスを買えなかった。)

(例 3-2 の再掲)

また、この準備段階の設定により、「V1-そびれる」「V1-損なう」の違いが説明できるようになる。例えば、例(9-2)の「乗りそびれる」は「乗ろうと思っていたが、乗れなかった」という意図寄りの失敗であるため、準意図段階であると捉えられる。一方、例(9-3)の「乗り損なう」は「すんでの所で」といった乗る行為の直前の行動寄りの失敗であるため、準行動段階であると捉えられる。

(9-2) 乗り換えたものの、ホームの表示の意味がイマイチよく解らずに、特急に乗りそびれ (/ ? 乗り損ない) ました。

(Yahoo!ブログ)

(6-12, 16, 31 の再掲)

(9-3) 反対側のホームに行く為の構内踏切。この踏切の為に電車に乗り損なった (/?  
乗りそびれた) 事も多々ありますが

([https://moonflower.at.webry.info/201704/article\\_7.html](https://moonflower.at.webry.info/201704/article_7.html))

2021年11月25日閲覧 (例6-13, 33の再掲)

まず、第4章では「V1-忘れる」および「V {の/こと} を忘れる」と“忘了-V”との対応について考察した。その結果を表9-7に示す。

表9-7. 「V1-忘れる」「V {の/こと} を忘れる」と“忘了-V”のもつ意味

(表4-12, 4-14の再掲)

行為の過程	意味	V1-忘れる	V {の/こと} を忘れる	忘了-V
①	～すべきであったのに、そのチャンスを逃してできなかった	無意志自動詞 : 死に忘れる (特殊な例)	無意志自動詞 : 悲しむ {の/こと} を忘れる	意志動詞 : 忘了回家
②	～することを失念する	動作動詞 : 言い忘れる	動作動詞/ル形 : 言う {の/こと} を忘れる	動作動詞 : 忘了说
③	～していることに気づかない	—	自動詞 (主に時間) : 経つ {の/こと} を忘れる	忘了+N : 忘了时间的流逝
④	～して、それを失念する	設置動詞 : 置き忘れる	—	—
	～したのを失念する	—	他動詞自動詞/タ形 : 置いた {の/こと} を忘れる	復文構造 : 忘了我已经买过
	～したのを覚えていない	: 見忘れる (古い用法、一語化)	—	忘了+N : 忘了他

次に第5章では「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と“没能-V” “没-V-「結果補語」 {成/到/掉} ”の対応について考察した。その結果を表9-8に示す。

表 9-8. 「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じ(ず)る」と中国語の表現

(表 5-15, 5-17 の再掲)

行為の過程	意味	V1-損なう	V1-損ねる	V1-損じ(ず)る	中国語表現
①	危うく～するところだった	危うく <u>死に損なう</u>	危うく <u>死にそこねる</u>	—	“差点儿[没]-V” 差点儿死了
③'	～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に <u>乗り損なう</u>	電車に <u>乗り損ねる</u>	ボールを <u>打ち損じ(ず)る</u>	“没能-V” 没能吃 “没-V-「結果補語」 {成/到/掉}” 没吃成
③	～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を <u>書き損なう</u>	字を <u>書き損ねる</u>	はがきを <u>書損じ(ず)る</u>	“V-錯” 写错
	相手への評価が想定より低い	彼を <u>見損なう</u> (一語化)	—	—	看错了他

次に、第6章では「V1-逃す」「V1-そびれる」と“没能-V” “没-V-「結果補語」{成/到/掉}” “V-漏”の対応について考察した。その結果を表9-9に示す。

表 9-9. 「V1-逃す」「V1-そびれる」と中国語の表現 (表 6-13, 6-15 の再掲)

行為の過程	意味	V1-逃す	V1-そびれる	中国語表現
②	～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった	必ず～しようと思っていたが、タイミングを逸したためできなかった： <u>テレビ番組を見逃す</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成 “V-漏”：看漏
②'		—	～しようと思っていたが、外的要因によってタイミングを逸したためできなかった： <u>テレビ番組を見そびれる</u>	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成
③	～したことはしたが、対象を捕らえきれず、タイミングを逸したためできなかった	合図を <u>見逃す</u>	—	“V-漏”：看漏 (“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”：没看成)
	気づいていながら見ないふりをする	犯罪を <u>見逃す</u> (一語化)	—	放过犯罪

次に、第7章では「V1-落とす」「V1-漏らす」と“V-漏”“漏-V”の対応について考察した。その結果を表9-10に示す。

表9-10. 「V1-落とす」「V1-漏らす」と中国語の表現（表7-6, 7-8の再掲）

行為の過程	意味	V1-落とす	V1-漏らす	中国語表現
③	必要な事柄の一部を～することができなかった	～すべき事柄の一部に気がつかず、～することができなかった： <u>字を書き落とす</u>	—	“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”  没有写到
		—	～すべきであったのに、その事柄の一部ができなかった： <u>字を書き漏らす</u>	“V-漏”/“漏-V” Vの行為が行われている：写漏 Vの行為が行われていない：漏写
	あと少しで～することができなかった	—	大将を <u>討ち漏らす</u>	“没能V” 没能拿下

次に、第8章では「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と“V-错”“错-V”の対応について考察した。その結果を表9-11に示す。

表9-11. 「V1-間違える」「V1-間違う」「V1-違える」「V1-違う」「V1-誤る」と中国語の表現（表8-19, 8-20の再掲）

行為の過程	意味	V1-間違える	V1-間違う	V1-違える	V1-違う	V1-誤る	中国語表現
③	正しく行ふべきところを誤って別のことをした	<u>才能を讀み間違える</u>	<u>才能を讀み間違う</u>	<u>才能を讀み違える</u>	<u>才能を讀み違う</u>	<u>才能を讀み誤る</u>	“V-错” 判断错
		—	女の子だと <u>見間違う</u>	—	女の子だと？ <u>見違う</u>	女の子だと <u>見誤る</u>	“V-错” 看错
	正しいものと正しくないものを取り違えて、正しくないことをしてしまった	<u>名前を聞き間違える</u>	<u>名前を聞き間違う</u>	<u>名前を聞き違える</u>	(名前を聞き <u>違う</u> )	(名前を聞き <u>誤る</u> )	“V-错” 听错

最後に行為の過程から中国語の表現をまとめると図9-9のようになる。

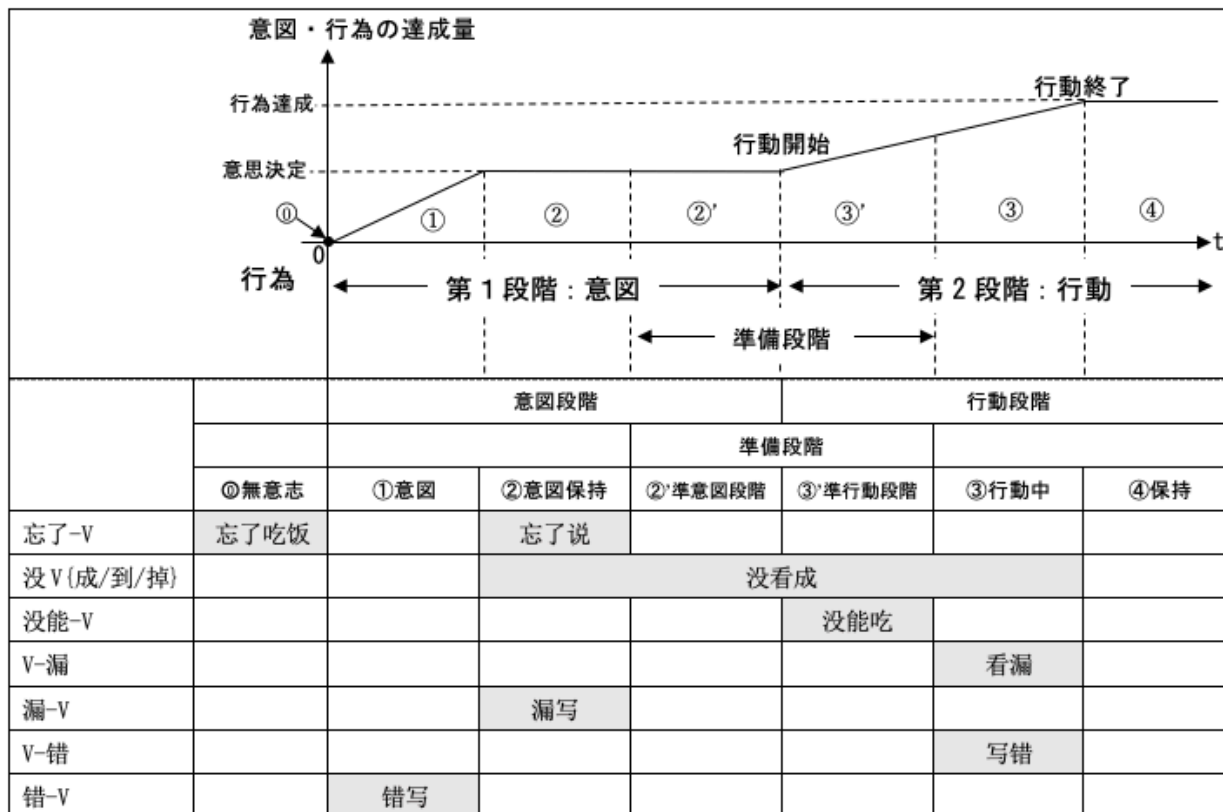


図9-9. 行為の過程から見る中国語の失敗表現(図3-8の再掲)

### 9.3 残された課題

本研究では失敗を表す複合動詞について、失敗を表す複合動詞がそれぞれ行為の過程におけるどの段階の失敗に相当するかについて考察した。しかし、これらの表現が実際にどのような場面で使用されるかまでは考察できなかった。

また、それぞれの語の意味記述について、行為の段階の違いに注目して意味分類を行なったが、「彼を見損なった」「見違えるようにきれいになった」のような一語化した語の個別的な意味やそれらが他の意味からどのように派生していったのかまでは詳しく述べることができなかった。また、本研究の意味分類の基準は主に行為の過程の違いという観点からおこなったが、一語化した語なども多いことから、より詳しい記述が必要だと思われる。その

ため、「V1-損なう」「V1-そびれる」「V1-逃す」「V1-忘れる」などの違いについて行為の過程の違いについては考察したものの、それぞれの語が表すことができる語の意味の違いについては考察しきれなかったため、日本語教育という観点からより分かりやすい意味記述を目指していきたい。

また、本研究では、どのようなV1と共起できるかという観点から複合動詞の意味について考察したが、それぞれの意味でどのような後続表現が来やすいかといった構造的条件については考察しきれなかった。例えば、例(9-4)のように「V {の/こと} を忘れる」が「経つ」や「更ける」といった場合に、「～したことに気づかない」という意味を表すことがある。この場合、「Vも忘れて」という構造を取りやすい。

(9-4) 大人たちは時間の経つのも忘れて楽しめます。

(佐藤よし子『英国スタイルの家事整理術』)

(例 4-9, 35, 59 の再掲)

このような後続表現の違いについては南(2020a)で「V1-忘れる」のみ考察したが、「見違える」は「ほど」や「ような」といった表現を取りやすいなど意味に影響している場合も見られるため、構造的条件について更に考察する必要がある。この観点から考察することで、発話者の失敗に対する態度(自身の失敗として認めているのか、いないのか、後悔しているのか、仕方ないと思っているのか)などによってどの表現が使用されやすいかが分かると思われる。この点に関しては、どのような場面で使用されるかという課題の手がかりとして、今後の課題としたい。

また、今回は複合動詞を中心に考察したが、「書き損なう」には「書き損じ」という名詞用法がある。また、「V1-間違える」も「覚える」、「聞く」、「言う」などは「覚え間違い」、「書き間違い」、「言い間違い」、「見間違い」のように名詞用法があるが、副詞的用法と共起する「使う」「食べる」「買う」などは「使い間違い」、「食べ間違い」、「買い間違い」は不自然になる。このような複合名詞との関係については今後の課題としたい。



最後に中国語との対照について、今回は日本語の用法から見て、どのように対応するかという観点から考察したが、中国語の方から見た対照は不十分である。例えば、“V-错”と“错-V”の違いは行為の過程の違いだけでは説明できない。8.6.2.2 で見たように、例(9-5)は日本語では「書く」という行為が行われる以前の意図段階で「字を書く場所」の判断を間違えたという意味を表すため、「間違えてV」は正しいが、行為中の対象の失敗を表す「V1-間違える」は誤用となる。しかし、中国語では“V-错”と“错-V”の両方使用することができる。そのため、中国語の“V-错”と“错-V”の違いについて見る場合には、行為の過程という観点だけでは説明できない。

(9-5) 我把名字写错了地方。／我在住址栏错写了名字。

[住所を書くべきところに名前を間違えて書いて(/\*書き間違えて)しまった]

(例(8-66c)の再掲)

また、“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”の表現でもどのような結果補語が来るかでも意味が変わってくる。例えば、例(9-6) (9-7)は本研究では「～しようと思っていたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表しているが、例(9-6)の場合は行動を行うための準備を行なったかが曖昧なのに対し、例(9-7)は今まきに行おうとするときの失敗であり、後者は「V1-損じる」が不自然であると述べた。この場合、中国語ではどちらも“没-V-「結果補語」{成/到/掉}”が使用できるが、例(9-6)は“没-V-成”が、例(9-7)は“没-V-到”が対応する。

(9-6) a. 私は忙しくてお昼ご飯を食べ{損なった/損ねた/損じた}。

b. 我忙得{没吃成/没能吃}午饭。

(9-7) a. この釣ったライギョも七十くらいはありますが、カエルを食べ損なっ(損ねた/損じた)ライギョは、もうひと回りデカイ奴でした。

(Yahoo!ブログ)

b. 钓上来的这条黑鱼有七十厘米长,没吃到(/\*没能吃)青蛙的那条鱼更大一点。

このように、行為の過程が表す段階によって、中国語では更に表現が細かく分かれているため、この点に関しても今後の課題としたい。

## 参考文献

- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 苧阪満里子(2014)『もの忘れの脳科学—最新の認知心理学が解き明かす記憶の不思議』講談社
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎(1999)「複合動詞と句動詞」『日英語対照による英語学演習シリーズ2 形態論と意味』pp.187-218, くろしお出版
- 影山太郎(2013)「語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い—」『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて』pp.3-46, ひつじ書房
- 菊田千春(2008)「複合動詞「Vかかる」「Vかける」の文法化:構文の成立とその拡張」『同志社大学英語英文学研究』81-82号, pp.115-165
- 北原保雄(編)(2002)『明鏡 国語辞典』大修館書店
- 許賢科(2020)「中国語の“錯V”と“V錯”の用法について—目的語に見られる「有界性」の観点から—」, 『日中言語対照研究論集』第22号, pp.72-86, 日中対照言語学会
- 黄其正(2013)「未達成事象における「未遂行」の一研究」『育達人文社會學報』第9期, pp.145-162
- 斎藤倫明(1992)『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味—』ひつじ書房
- 城田俊(1998)『日本語形態論』ひつじ書房
- 申亜敏(2007)「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」『レキシコンフォーラム』(3), pp.195-229, ひつじ書房
- 杉村泰(2005)「コーパスを利用した複合動詞「一忘れる」、「一落とす」、「一漏らす」の意味分析」『日語教育』第三十四輯, pp.63-79(韓国日本語教育学会)
- 杉村泰(2006)「複合動詞「一忘れる」、「一落とす」、「一漏らす」の用法」『日語学習与研究』2006年第4期(総第127期), pp.1-6(中国日語教学研究会、对外經濟貿易大学)

- 杉村泰 (2016) 「日本語の「V1-忘れた」と中国語の“忘了 V1”の V1 の特徴について」『中朝韓日文化比較研究叢書 日本語言文化研究』第四輯 (下), pp. 52-58, 延辺大学出版社
- 薛婧宇 (2019) 『日本語の失敗を表す複合動詞と中国語との対照研究』名古屋大学修士学位論文
- 陳奕廷 (2013) 「複合動詞における結合制限: 「～おとす」「～もらす」「～のがす」を中心に」『関西言語学会第 37 回大会 (於: 甲南女子大学) 発表論文』 pp. 145-156
- 陳奕廷、松本曜 (2018) 『日本語語彙的複合動詞の意味と体系-コンストラクション形態論とフレーム意味論-』ひつじ書房
- 寺村秀夫 (1969) 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト—その一—」『日本語・日本文化』第 1 号, pp. 32-48, 大阪外国語大学研究留学生別科
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシタクスト意味 II』くろしお出版
- 田忠魁、金相順、泉原省二 (1998) 『類義語使い分け辞典』, 研究社出版
- 湯廷池 (1989) 《漢語詞法句法續集》臺灣學生書局
- 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」『日本語講座第四卷 日本語の語彙と表現』 pp. 63-104, 大修館書店
- 芳賀繁 (2003) 『失敗のメカニズム—忘れ物から巨た事故まで—』角川ソフィア文庫
- 姫野昌子 (2018) 『複合動詞の構造と意味用法 (新版)』研究社
- 松本曜 (1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』第 114 号, pp. 37-83, 日本言語学会
- 丸尾誠 (2017) 「中国語の結果補語“掉”の用法について—完遂義を中心に—」『言語文化論集』38 (2), pp. 47-60, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 南明世 (2020a) 「失敗を表す複合動詞「V1-忘れる」の特徴—「V1-のを忘れる」「V1-ことを忘れる」と比較して—」『ことばの科学』第 34 号, pp. 133-147, 名古屋大学言語文化研究会
- 南明世 (2020b) 〈關於表示失敗的複合動詞的漢日對比研究—“忘了-V”和「V1-忘れる」→〉《第一屆名古屋大學／屏東大學文學交流暨論文發表會論文集》 pp. 95-103

- 南明世 (2021a) 「V1-忘れる」「V1-のを忘れる」「V1-ことを忘れる」の使い分けについて『東アジア日本学研究』第5号, pp. 3-11, 東アジア日本学研究学会
- 南明世 (2021b) 「共起する動詞の違いからみた複合動詞「V1-間違える(間違う)」と副詞的用法「間違えて(間違って)Vする」の意味分析」『東アジア日本学研究』第5号, pp. 53-68, 東アジア日本学研究学会
- 南明世 (2021c) 「行為の過程から見る失敗を表す複合動詞「V1-そびれる」「V1-そこなう」「V1-逃す」「V1-忘れる」の違いについて」『中国語話者のための日本語教育研究』第12号, pp. 64-78, 日中言語文化出版社
- 南明世 (2021d) 「逸機を表す複合動詞「V1-損なう」「V1-損ねる」「V1-損じる」の意味分析」『ことばの科学』第35号, 印刷中, 名古屋大学言語文化研究会
- 宮島達夫 (1989) 「動詞の意味範囲の日中比較」『ことばの科学2』pp. 179-198, むぎ書房
- 望月圭子・申亜敏 (2016) 「英語・中国語からみた日本語の無界性: 複合動詞と空間認知」『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究』No. 2, pp. 43-66, 東京外国語大学国際日本研究センター出版
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川出版
- 森田良行 (1990) 『日本語学と日本語教育』凡人社
- 山田尚子 (2007) 『失敗に関する心理学的研究—個人要因と状況要因の検討—』風間書店
- 山本清隆 (1983) 「複合語の構造とシンタクス」『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—5—計算機用レキシコンのために—』pp. 316-380, 情報処理振興事業協会
- 山本清隆 (1984) 「複合動詞の格支配」『都大論究』21号 pp. 32-49, 東京都立大学国語国文学会
- 刘月华・潘文娉・故鞞 (2019) 《实用现代汉语语法》[第3版] 商务印书馆
- 刘月华・潘文娉・故鞞 (1996) 『現代中国語文法総覧』, 相原茂、片山博美、守屋宏規、平井和之 (訳), くろしお出版
- 廖秋紅 (2009) 「日本語の統語的な複合動詞と中国語の動詞補語に関する一考察」『語彙研究』7号, pp. 30-39, 語彙研究会
- 呂叔湘主編 (1999) 《现代汉语八百词〈增订本〉》, 商务印书馆

呂叔湘・牛島徳次・菱沼透（1992）『中国語文法用例辞典』，東方書店

〈引用辞典〉

『新明解古語辞典 補注版〈第2版〉』（1974）三省堂

## 謝 辞

本研究の執筆にあたり、多くの方々にご支援いただきました。まず、修士の時から始終熱心に指導していただいた杉村泰教授には深く感謝いたします。内容だけでなく、研究のテーマや構成に至るまで丁寧にご指導していただき、暖かく見守っていただきました。また、丸尾誠教授には特に中国語との対照について、志波彩子准教授には特に語の意味や構文について、適切なお助言をいただきました。同じ日本語教育学講座の林誠教授、鷺見幸美准教授、玉岡賀津雄名誉教授には様々な面でご支援いただきました。心より感謝いたします。最後に研究室の皆様、家族には温かい目で見守っていただき、常に励まされてきました。この場をお借りしてご支援いただいた皆様に心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。